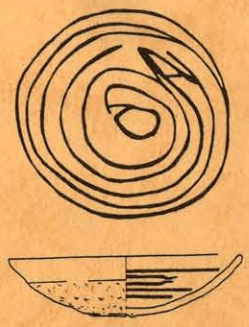
(財)八尾市文化財調査研究会報告 24

# 福 万 寺 遺 跡

## ― 上之島町北3丁目22―1の調査 ―



1990.6

財団法人 八尾市文化財調査研究会

# 福万寺遺跡正誤表

本書作成に当たり下記正誤表のとおり、誤記が生じましたのでお詫びいたします。

| 頁 | 行 | 誤 | 正 |
|---|---|---|---|
| 6 | 27 | 東西の柱間は約2.0 ～1.8 _ | 東西の柱間は約2.0 ～1.8 m |
| 9 | 2 | 北調査区東南側で検出し | 北調査区西南側で検出し |
| 61 | 10 | 出土した。試掘抗の位置を検討 | 出土した。試掘坑の位置を検討 |
| 61 | 図77 | 照寧元宝 | 熙寧元宝 |
| 79 | 4 | 河内群条里と高安群条里との | 河内郡条里と高安郡条里との |
| 79 | 5 | の群界に一致している。 | の郡界に一致している。 |
| 79 | 23 | 12世紀代の経塚に伴例が古くよ | 12世紀代の経塚に伴う例が古くよ |
| 79 | 25 | 龍泉窯系青磁椀Ⅲ類が見当たら | 龍泉窯系青磁椀Ⅲ類が見当たら |
| 80 | 4 | その後玉櫛の荘は摂関家として | その後玉櫛の荘は摂関家領として |
| 80 | 27 | 達であったことを掘状の施設や | 達であったことを堀状の施設や |
| 81 | 21 | 佐藤昭嗣「大山裕司「草戸千軒 | 佐藤昭嗣_大山裕司「草戸千軒 |
| 81 | 24 | 早くも７年の歳月か経過した。 | 早くも７年の歳月が経過した。 |

(財)八尾市文化財調査研究会報告 24

# 福 万 寺 遺 跡

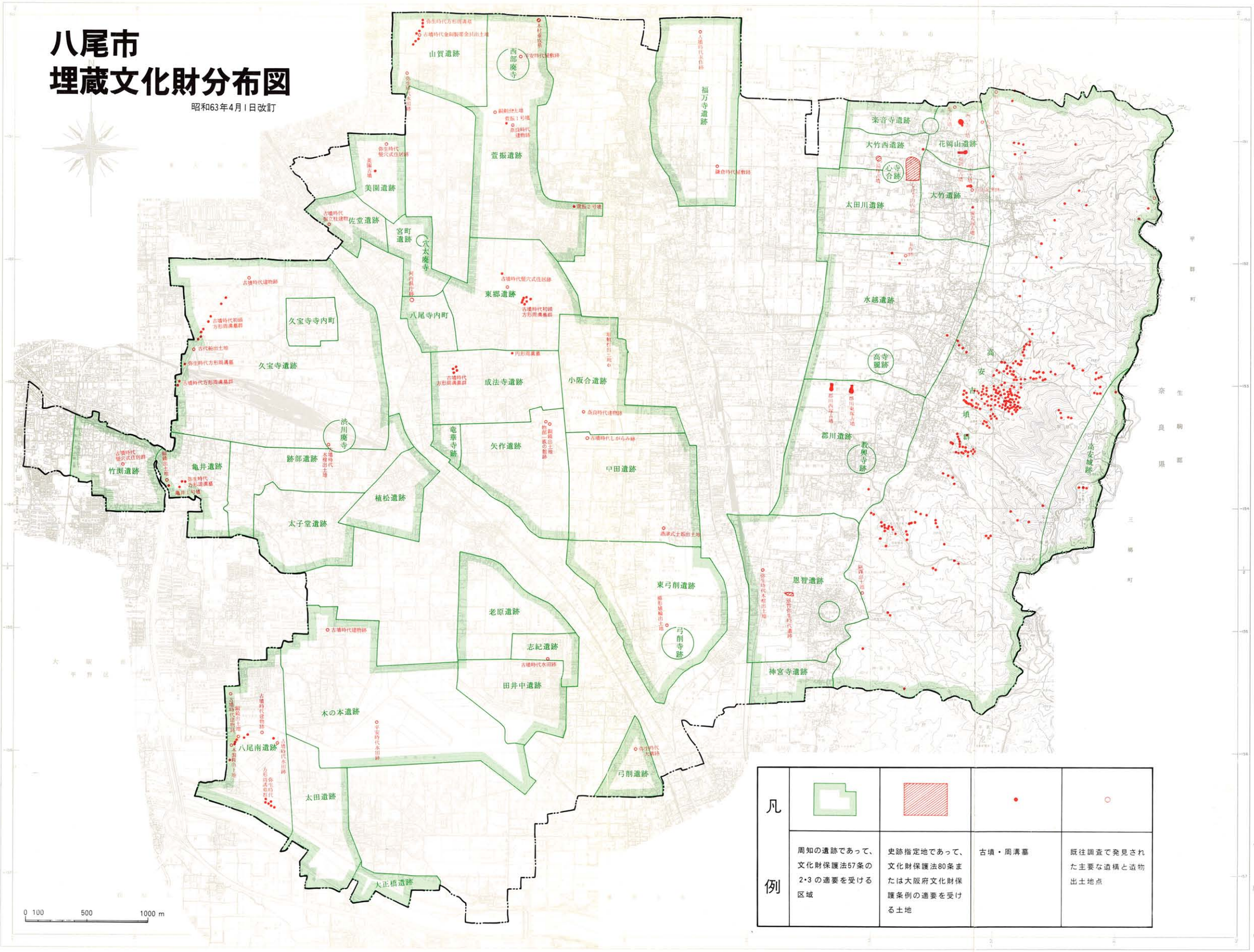
## ― 上之島町北3丁目22―1の調査 ―

1990.6

財団法人 八尾市文化財調査研究会

# 八尾市
# 埋蔵文化財分布図

昭和63年4月1日改訂




| 凡例 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 周知の遺跡であって、文化財保護法57条の2・3の適要を受ける区域 | 史跡指定地であって、文化財保護法80条または大阪府文化財保護条例の適要を受ける土地 | 古墳・周溝墓 | 既往調査で発見された主要な遺構と遺物出土地点 |

# はじめに

八尾市は、古来より難波と大和を結ぶ水陸交通の要地として発展した歴史と伝統の町であり、近年においては、大都市大阪に隣接して、著しく都市化が進んでいるところであります。

このような中で、本市では、埋蔵文化財をはじめとする古くからの文化遺産の保全をはかり、調査研究を行なう為に、（財）八尾市文化財調査研究会が昭和57年に発足し、今日まで市域の開発に伴う発掘調査等にあたってまいりました。しかし発足当初の調査体制では、学術報告書の刊行が遅れざるを得ない状況でありました。

遅ればせながら、ここに福万寺遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなった次第であります。

願わくば、本書が今後の考古学の発展と地域解明の資料として活用されることを切に希望します。

平成２年６月３０日

（財）八尾市文化財調査研究会

理事長　福　島　　孝

# 例　　言

1．本書は八尾市上之島北３丁目22－１所在、市立上之島小学校建設に伴う福万寺遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査に当たっては、八尾市長、八尾市教育委員会、（財）八尾市文化財調査研究会が三者で協定を締結した後、（財）八尾市文化財調査研究会が主体となって実施した。

3．現地調査は（財）八尾市文化財調査研究会調査員（当時）米田敏幸を担当者として、昭和57年11月４日から12月30日までの期間で実施した。

4．調査の実施については、駒沢敦　穐山譲二　山中慎　菊田成　池田まゆみ他調査補助員諸君の参加を得た。

5．出土遺物、調査図面の整理作業は、調査終了後直ちに実施する予定であったが諸般の事情で実施が不可能となった為昭和63年度と平成元年度の２年にまたがり整理作業を行なうこととなった。

6．整理作業は徳谷尚子、岡田清一、横山妙子、松浦明美が補助をして実施した。

7．本書の編集、執筆は米田、徳谷が分担し、図面レイアウト、トレースは徳谷が、遺物写真撮影は岡田が行った。

8．調査及び本書の編集については、下記の諸氏の御指導、御助言を受けた。


大阪府教育委員会　　大野薫、岸本道昭、小山田宏一、阪田育功

奈良女子大学　　坪之内徹

八尾市歴史民俗資料館　小谷利明

樟蔭東短期大学　　森田康夫　　（敬称略）

# 凡　　例

☆遺構名には次の分類記号を用いた。

ＳＢ建物　ＳＤ溝　ＳＥ井戸　ＳＧ池状遺構　ＳＫ土坑　ＳＲ道路状遺構

☆遺物実測図には通し番号を用い、１／４スケールを原則とし、大型小型の遺物は縮尺を変更して掲載した。

☆調査座標は大阪府教育委員会が実施した池島遺跡の調査との関連により国土座標を用い、方位は真北を示す。

☆土色、遺物の色調は観察者の主観による。

☆中国磁器については観察表に太宰府の分類を記した。　横田賢次郎・森田勉「太宰府出土の輸入陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』４　1978参照

# 本　文　目　次

第１章　　地理的歴史的環境……1
第２章　　調査の経過……2
第３章　　調査の概要……5
Ⅰ　層位と調査方法……5
Ⅱ　遺構の概要……5
１．建物遺構……5
２．井戸状遺構……8
３．溝状遺構……26
４．土坑……38
５．池状遺構……43
６．道路状遺構……46
Ⅲ　出土遺物……51
１．瓦器椀……51
２．瓦器皿……54
３．土師器皿……54
４．羽釜……54
５．東播系須恵器……55
６．中国磁器……55
７．木製品……58
８．石製品……61
９．金属製品……61
第４章　　まとめ……83

# 挿　図　目　次

図１　埋蔵文化財分布図……表紙裏
図２　調査位置図……1
図３　試掘調査出土遺物……2
図４　調査区配置図……4
図５　基本層序図……5
図６　ＳＢ１遺構平面図……5
図７　ＳＢ２遺構平面図……6
図８　ＳＢ４遺構平面図……6
図９　ＳＢ３遺構平面図……7
図10　ＳＢ５遺構平面図……8
図11　ＳＥ１遺構平面断面図……8
図12　ＳＥ２遺構平面断面図……8
図13　ＳＥ３遺構平面断面図……9
図14　ＳＥ３出土遺物実測図……9
図15　ＳＥ４遺構平面断面図……9
図16　ＳＥ５遺構平面断面図……10
図17　ＳＥ６遺構平面断面図……10
図18　ＳＥ６出土遺物実測図１……10
図19　ＳＥ６出土遺物実測図２……11
図20　ＳＥ７遺構平面断面図……11
図21　ＳＥ８遺構平面断面図……11
図22　ＳＥ９遺構平面断面図……12
図23　ＳＥ９出土遺物実測図……12
図24　ＳＥ10遺構平面断面図……13
図25　ＳＥ10出土遺物実測図……13

図26　ＳＥ11遺構平面断面図……14
図27　ＳＥ12遺構平面断面図……14
図28　ＳＥ11出土遺物実測図１……15
図29　ＳＥ11出土遺物実測図２……16
図30　ＳＥ13遺構平面断面図……17
図31　ＳＥ14遺構平面断面図……17
図32　ＳＥ14出土遺物実測図……17
図33　ＳＥ13出土遺物実測図１……18
図34　ＳＥ13出土遺物実測図２……19
図35　ＳＥ15遺構平面断面図……20
図36　ＳＥ16遺構平面断面図……20
図37　ＳＥ16出土遺物実測図１……21
図38　ＳＥ16出土遺物実測図２……22
図39　ＳＥ16出土遺物実測図３……23
図40　ＳＥ16出土遺物実測図４……24
図41　ＳＥ16出土遺物実測図５……25
図42　ＳＥ17遺構平面断面図……25
図43　ＳＥ17出土遺物実測図……25
図44　ＳＤ１出土遺物実測図……27
図45　ＳＤ２出土遺物実測図……28
図46　ＳＤ８出土遺物実測図……28
図47　ＳＤ４出土遺物実測図……29
図48　ＳＤ12出土遺物実測図……29
図49　ＳＤ９出土遺物実測図１……30
図50　ＳＤ９出土遺物実測図２……31
図51　ＳＤ９出土遺物実測図３……32
図52　ＳＤ11出土遺物実測図……33

図53　ＳＤ15出土遺物実測図１……34
図54　ＳＤ15出土遺物実測図２……35
図55　ＳＤ15出土遺物実測図３……36
図56　ＳＤ16出土遺物実測図……37
図57　ＳＤ18出土遺物実測図……37
図58　ＳＫ２出土遺物実測図……38
図59　ＳＫ２遺構平面断面図……39
図60　ＳＫ３出土遺物実測図……39
図61　ＳＫ６遺構平面断面図……40
図62　ＳＫ６出土遺物実測図……41
図63　ＳＫ７遺構平面断面図……42
図64　ＳＫ７出土遺物実測図……42
図65　ＳＫ８出土遺物実測図……43
図66　ＳＧ２遺構平面断面図……43
図67　ＳＧ１出土遺物実測図１……44
図68　ＳＧ１出土遺物実測図２……45
図69　ＳＧ２出土遺物実測図……45
図70　北調査区検出遺構配置図……47～48
図71　南調査区検出遺構配置図……49～50
図72　中国磁器実測図１……56
図73　中国磁器実測図２……57
図74　木製品実測図１……58
図75　木製品実測図２……59
図76　木製品実測図３……60
図77　中国銭拓影……61
図78　金属製品実測図……62
図79　福万寺遺跡屋敷地田畠復元図……81

# 表　目　次

表１　瓦器椀形式分類表……52
表２　主要遺構出土瓦器椀形式組成表……53
表３　羽釜の形式分類表……54
表４　検出遺構出土遺物一覧表……63
表５　遺物観察表１……64
表６　遺物観察表２……65
表７　遺物観察表３……66
表８　遺物観察表４……67
表９　遺物観察表５……68
表10　遺物観察表６……69
表11　遺物観察表７……70
表12　遺物観察表８……71
表13　遺物観察表９……72
表14　遺物観察表10……73
表15　遺物観察表11……74
表16　遺物観察表12……75
表17　遺物観察表13……76
表18　遺物観察表14……77
表19　遺物観察表15……78
表20　福万寺遺跡関係編年表……82

# 図　版　目　次

図版１　北調査区西側全景・北調査区東側全景

図版２　北調査区建物（ＳＢ１．ＳＢ２）・北調査区土坑（ＳＫ２）

図版３　北調査区井戸（ＳＥ５）・北調査区井戸（ＳＥ６）

図版４　北調査区井戸（ＳＥ９）・北調査区井戸（ＳＥ10）

図版５　南調査区全景・南調査区建物（ＳＢ３．４）

図版６　南調査区井戸（ＳＥ11）・南調査区井戸（ＳＥ12）

図版７　南調査区井戸（ＳＥ13）・南調査区井戸（ＳＥ13井筒内）

図版８　南調査区井戸（ＳＥ16）・南調査区井戸（ＳＥ16井筒内）

図版９　北調査区里道（ＳＲ１）・南調査区里道（ＳＲ１）

図版10　ＳＥ３瓦器皿・ＳＥ６瓦器皿、瓦器椀、砥石、曲物

図版11　ＳＥ９羽釜・ＳＥ10瓦器椀、砥石

図版12　ＳＥ10土師器皿

図版13　ＳＥ11土師器皿

図版14　ＳＥ11瓦器皿、瓦器椀、砥石

図版15　ＳＥ11瓦器椀

図版16　ＳＥ13土師器皿、瓦器椀

図版17　ＳＥ13瓦器椀

図版18　ＳＥ13曲物

図版19　ＳＥ16瓦器椀

図版20　ＳＥ８瓦器椀・ＳＥ16瓦器椀、土師器椀

図版21　ＳＥ16片口鉢、砥石、三足釜

図版22　ＳＤ１瓦器椀

図版23　ＳＤ１瓦器皿、土師器皿・ＳＥ１土師器皿、瓦器椀

図版24　ＳＤ２土師器皿、瓦器椀

図版25　ＳＤ４土師器皿、瓦器椀、砥石・ＳＤ12瓦器椀

図版26　ＳＤ８土師器皿

図版27　ＳＤ９瓦器椀

図版28　ＳＤ９瓦器椀

図版29　ＳＤ９瓦器椀、土師器皿

図版30　ＳＤ９土師器皿

図版31　ＳＤ11土師器皿、瓦器椀

図版32　ＳＤ15瓦器椀

図版33　ＳＤ15瓦器椀

図版34　ＳＤ15瓦器椀、土師器皿

図版35　ＳＤ16土師器皿、瓦器椀・ＳＤ18瓦器椀

図版36　ＳＫ２瓦器椀、ＳＫ３土師器皿・ＳＫ８土師器皿、瓦器椀、ミニチュア足釜

図版37　ＳＫ７瓦器皿、土師器皿

図版38　ＳＫ７土師器皿

図版39　ＳＧ１瓦器椀

図版40　ＳＧ１土師器皿、瓦器椀、砥石

図版41　中国磁器

図版42　中国磁器

図版43　中国磁器

図版44　硯、漆器、櫛

図版45　下駄

図版46　下駄

図版47　下駄

図版48　宋銭、包丁

図版49　金属製品

# 第１章　歴史的、地理的環境

福万寺遺跡は、河内平野の東側、八尾市の東北部を南北に流れる玉串川と恩智川の間の低湿地に位置し、福万寺町、福万寺町北、福万寺町南、上之島町北に所在する弥生時代から中世に至る複合遺跡である。北東側は東大阪市の池島遺跡に接しており、近年までは、条里制がこの地域において良好に残存していたことで知られている。当該地は旧国郡制でいうと、河内国河内郡美野郷に属しているが、「河」「矢」「味」「走」の条里名が残る河内郡条里が福万寺で終わっており、また上之島は、高安郡条里の延長線上にあるという。このことから条里の上での郡界が福万寺町南と上之島町北との間に当たることから本来はここに郡境があったとする説もある。また河内郡条里の南端は、一町分少なくなっており、高安郡条里に切られた恰好になっている。さらに上之島に所在する御野県主神社は、延喜式では、若江郡となっていることから、河川の氾濫の度に郡界の複雑な変遷がかつてあったことが想起される。また、中世においては、玉櫛庄が平安時代（初見は長和４年小右記に見える。）から室町時代に至るまでの間、摂関家領としてこの付近に展開していたと思われる。

古代においては、福万寺町北４丁目で、恩智川治水緑地建設に伴い古墳時代の玉作り跡が大阪府教育委員会によって調査され、子持ち勾玉や滑石製品が多量に出土していることから玉串の由来とも関連する興味深い発見があった。この一連の調査では、弥生時代のしがらみや小区画水田跡、河川跡が検出され、弥生時代、古墳時代、中世、各時代の土器、石器や木製品等が出土し、各時代の遺構が検出されている。なお大阪府教育委員会では、事業の関連から池島遺跡福万寺地区という呼称を当遺跡に充てているが、調査地が八尾市域に所在することや遺跡の発見の経過から八尾市では、福万寺遺跡の呼称を使用することにした。

今回の調査地は、当遺跡の南部分に位置し、条里制でいう河内郡と高安郡条里の境界である福万寺南５丁

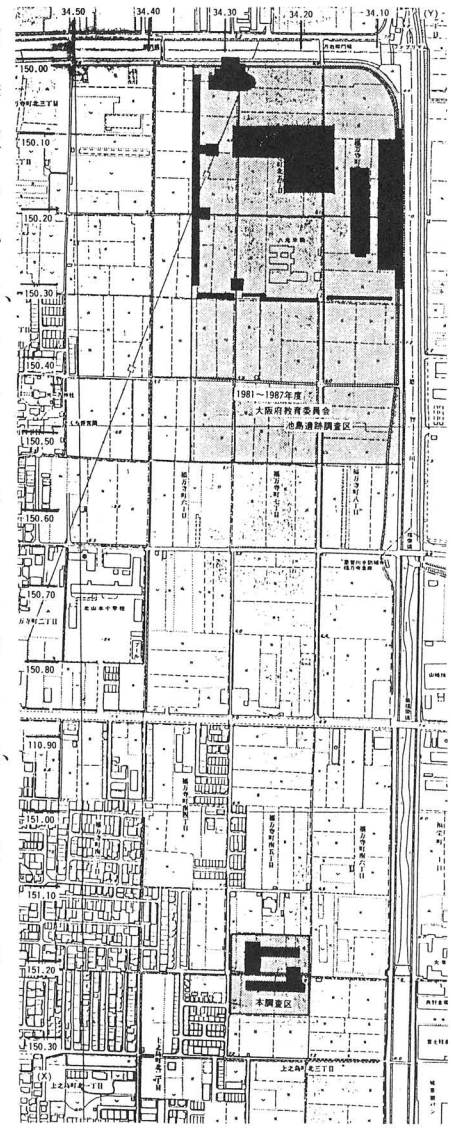



図２　調査位置図

目と上之島北３丁目の境界を挟んだ南北の土地2800㎡である。調査地北側の福万寺南５丁目は、河内郡条里の味11坪に当たる。

註　1　東大阪市遺跡保護調査会「池島町の条里制遺構」1973　由井喜太郎「河内国の条里制について」ヒストリアー13　1956　天坊幸彦「上代浪華の歴史地理的研究」1947　山本　博「中河内の条里制について」考古学雑誌32－６　1942

2　棚橋利光「八尾の条里制」八尾市史紀要第６号　八尾市史編纂室　1976

3　森田康夫編「八尾編年史古代中世編」八尾市民文化叢書No１　八尾市立図書館1980

4　大野薫、積山洋「池島遺跡試掘調査概要Ⅰ」大阪府教育委員会　1982　大野薫、阪田育功「池島遺跡試掘調査概要Ⅱ」大阪府教育委員会　1983　阪田育功「池島遺跡発掘調査概要Ⅰ」大阪府教育委員会　1986　岸本道昭「池島遺跡発掘調査概要Ⅱ」大阪府教育委員会　1986

# 第２章　調査の経過

昭和57年４月に、福万寺町５丁目及び上之島３丁目において、昭和57年度事業として、上之島小学校［第３山本小学校］新設を計画している旨の事前協議が八尾市教育委員会施設課を通じてあった。当該地については従来、遺跡として認識されていなかったが、開発規模が大規模であることにより、昭和57年９月30日に八尾市教育委員会文化財室によって遺構確認調査が実施されることとなった。その結果地表下2.5ｍ付近に終末期の瓦器を多量に含む遺物包含層が計画地全域にわたって存在していることを確認した。そのため、昭和57年10月６日付けで遺跡発見届を文化庁宛に提出するとともに、文化財保護法57条の３による手続をとって、発掘調査実施の協議に入った。全面発掘を前提として(財)八尾市文化財調査研究会が実施することで協議を行ったが、工期的な都合により調査範囲を遺構の破壊される校舎、体育館の建設予定地部分

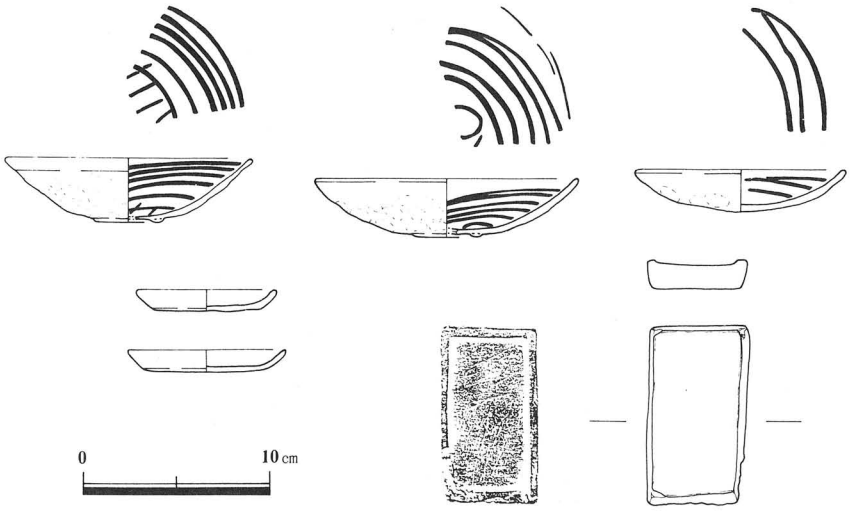



図３　試掘調査出土遺物

に留めるとともに、調査期間を実働60日に限定して12月末までに調査を終了することで協議が成立し、協定を締結して昭和57年11月４日より発掘調査に入った。調査の結果多数の遺構を検出したが、時間的に不充分な調査にならざるを得なかったことは否めない。調査は、昭和57年12月30日をもって終了した。なお遺物整理は、昭和63年度から平成元年７月まで実施し、本報告書を作成した。

調査日誌抄

11／４～10　調査準備工、府教委に支援依頼
11／11～　北区機械掘削開始　基準測量
11／15　排水溝及び包含層掘削開始
11／16　地区割設定
11／17　排水溝掘削
11／18～22　包含層掘削及び精査
11／23　里道遺構検出漆器出土　包含層掘削
11／24～26　建物、井戸検出実測 包含層掘削
11／27　南区機械掘削開始
11／28　北区全体写真撮影
11／29　北区西部分写真撮影
11／30～12／２　平面実測　包含層掘削
12／２　府教委大野氏の視察教示を受ける。
12／３～５　北区東側の調査、井戸等検出
12／６　南区包含層掘削開始、北区部分実測
12／７　北区東側遺構掘り、部分実測
12／８　北区遺構掘り終了、東側全体写真撮影
　　高安城を探る会北山本小ＰＴＡ見学
12／９～13　北区東側の実測
12／14　本格的に南側の調査に移る。
12／15　基準測量　溝、土坑検出
12／16～18　井戸検出、溝の写真実測
12／19～22　南区遺構掘削と西側包含層掘削
　　里道の延長を確認
12／23　プレス発表
12／22～24　平面実測　西側包含層掘削
12／25　南区全体写真撮影、現地説明会
12／26～12／28 井戸等部分実測、遺物取上げ
12／29　さらに井戸検出
12／30　遺構掘削、実測、写真
１／６～10　器材撤収と調査地の測量

現地説明会風景

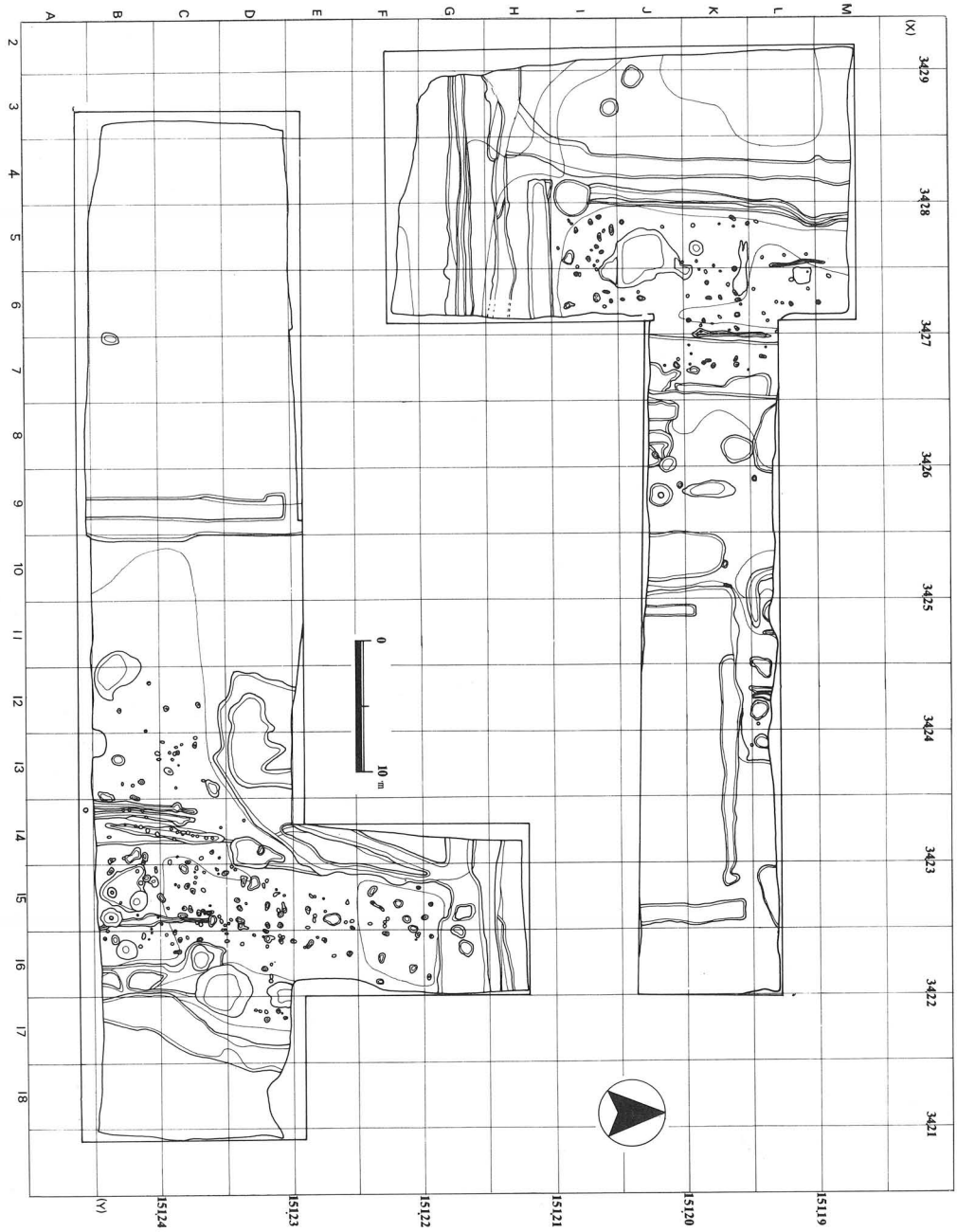

M
L
K
J
I
H
G
F
E
D
C
B
A
(X)
3429
3428
3427
3426
3425
3424
3423
3422
3421
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
(Y)
151,24
151,23
151,22
151,21
151,20
151,19
0
10 m

図４　調査区配置図

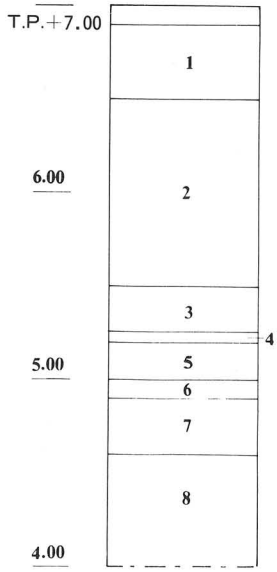
# 第３章　調査の概要

## Ⅰ　層位と調査方法

当遺跡の調査時の原地表は、海抜7.00ｍ前後で、現況は水田であった。この地表より0.4～0.5ｍの砂まじりの水田耕土層を除去すると約1.0ｍの淡青灰色の砂層が厚く堆積する。この砂層には、中世の磨滅した土器が含まれ、中世以後の河川の氾濫によって堆積した土層であることがわかる。その底は青灰色粘土が堆積し、この粘土層を0.3ｍ除去すると遺物を多量に包含する暗灰色の砂まじりの粘質土層に達する。遺構はこの層の下層である暗灰色粘質微砂及び灰色微砂層をベースとして掘り込まれており、海抜5ｍ前後を遺構面としている。その下層は灰色粘土が厚く堆積する。

調査の方法は、建築工事により破壊が予測される校舎の建設予定部分と体育館の建設予定部分を対象として、南と北の調査区に分け、遺物包含層直上まで約1.7ｍを機械により掘削した後、0.3ｍの遺物包含層及び遺構面を対象として手掘りによる精査を実施した。

なお遺構の実測には国土座標を用いた。また遺物の取り上げには遺構番号を付けたものの他は座標Ｘ＝34.300、Ｙ＝151.250を基準に５ｍ方画の区割りを行い東西線に数字、南北線にアルファベットを用いて地区名を付して実施した。




1．耕土
2．淡青灰色砂
3．青灰色粘土
4．灰黄色粘質土
5．暗灰色粘質土(包含層)
6．暗灰色粘質微砂(遺構面)
7．灰色微砂
8．灰色粘土

図５　基本層序図

## Ⅱ　遺構の概要

本調査で検出した遺構は、建物跡・井戸・溝・土坑・池状遺構･道状遺構等で、北と南の各調査区でこれらの遺構によって構成される屋敷跡と思われるものをそれぞれ検出した。以下に遺構の詳細について記述する。

### １．建物遺構

#### ＳＢ１

北調査区西側屋敷地の中央で検出した東西２間×南北３間の建物で、東西3.6ｍ～3.8ｍ南北3.3～3.6ｍを測る。東西の柱間は約1.8ｍ～2.0ｍと広く、南北の柱

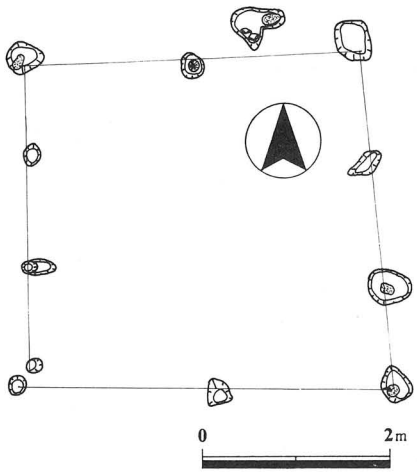



図６　ＳＢ１遺構平面図

間は１ｍ～1.2ｍと狭くなっている。柱穴の掘り方は径0.2～0.4㎝、深さは0.2～0.5ｍを測る。

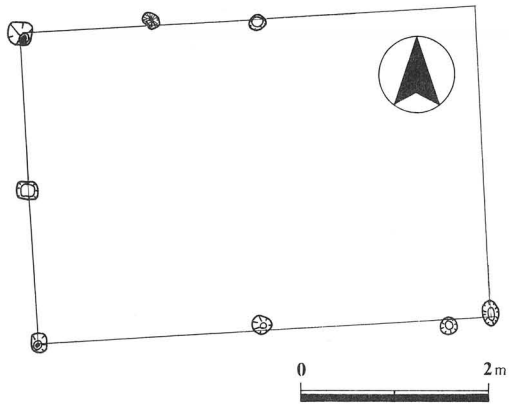



図７　ＳＢ２遺構平面図

ＳＢ２

北調査区西側屋敷地の北付近で検出した東西２間×南北２間の東西方向の建物で、東西4.8ｍ、南北3.2ｍを測る。東西の柱間は約2.4ｍと広く、南北の柱間は1.6ｍと狭くなっている。柱穴の掘り方は径0.2ｍ以下で、深さは0.2～0.3ｍを測る。

ＳＢ３

南調査区東側屋敷地の北部分で検出した東西３間×南北３間～４間の南北方向の建物で、主軸はやや東に振っている。柱穴の重なりから３回以上の建て替えが考えられ、当初は総柱の建物であった可能性がある。規模は最大で東西7.7ｍ、南北11ｍを測る。東西の柱間は約2.0～1.8ｍであるが、南北の柱間は2.5～３ｍと広くなっている。柱穴の掘り方は径0.4ｍ前後で、礎盤を持つものがあり、深さは0.2～0.4ｍを測る。

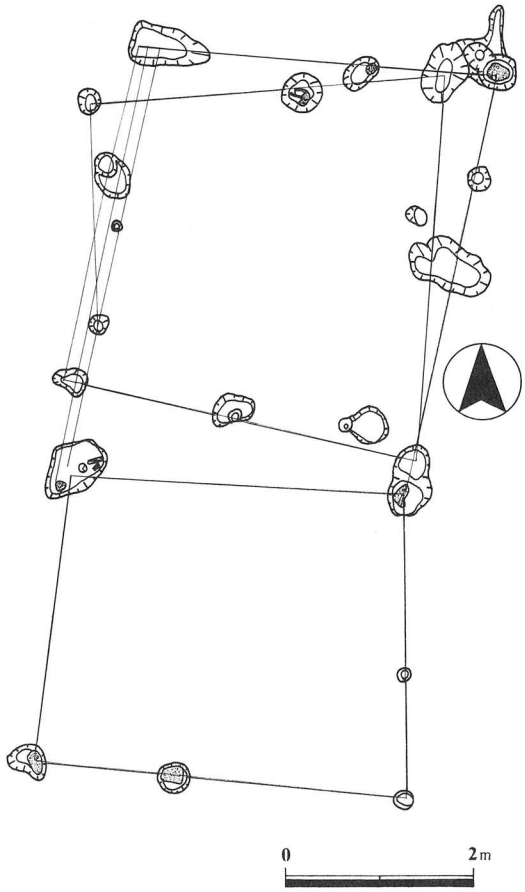



図８　ＳＢ４遺構平面図

ＳＢ４

南調査区東側屋敷地の南部分で検出した東西１～２間×南北２～３間の南北方向の建物で、主軸はやや東に振っている。柱穴の重なりから３回以上の建て替えが考えられる。規模は最大で東西４ｍ、南北7.5ｍを測る。東西の柱間は約2.0～1.8であるが、南北の柱間は２～３ｍとなっている。柱穴の掘り方は径0.2ｍ～0.4ｍ

前後で、深さは0.2m前後を測る。

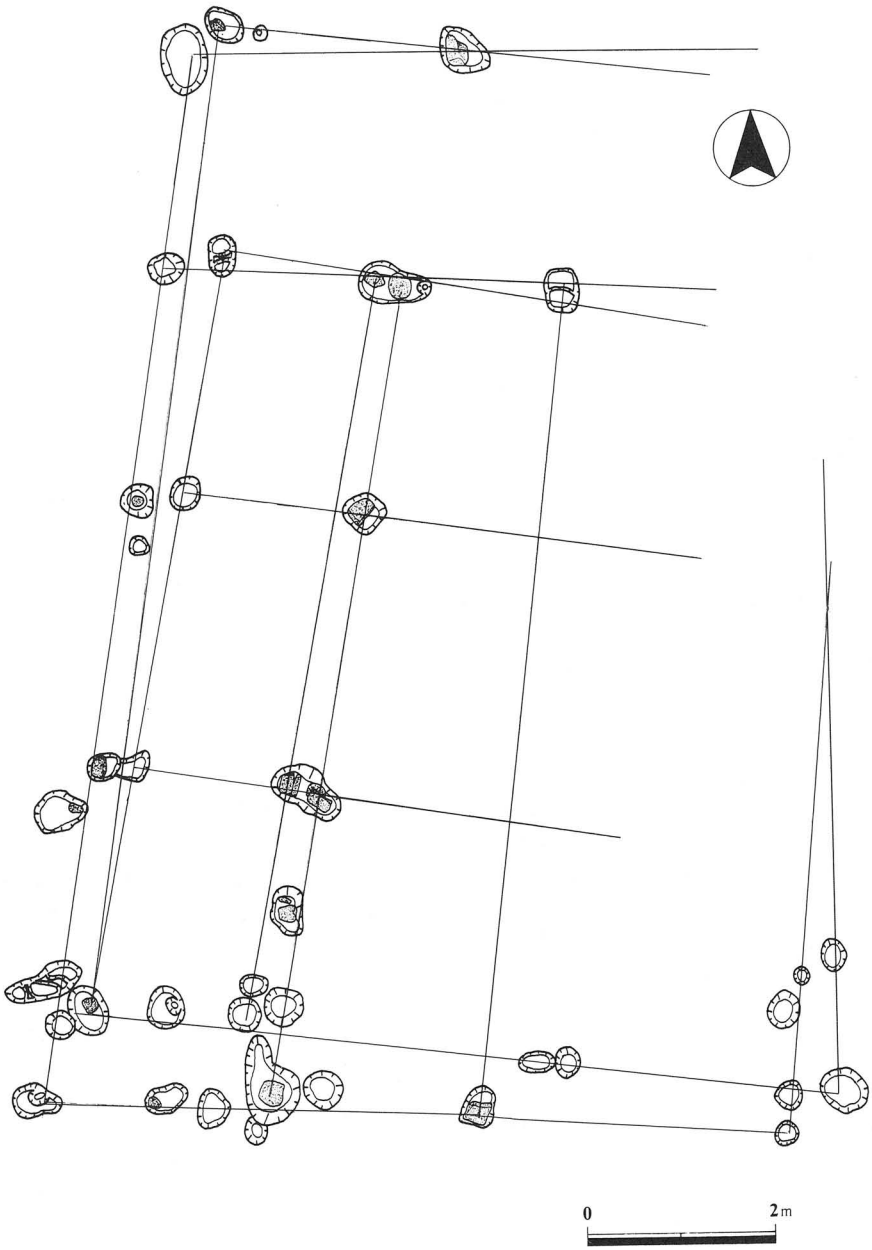



図9　ＳＢ３遺構平面図

ＳＢ５

南調査区東側屋敷地の西部分で検出した東西２間×南北２間の矩形の建物である。規模は東西5.6ｍ、南北5.8ｍを測る。東西の柱間は約2.5ｍ～3.5ｍであるが、南北の柱間は2.5～３ｍとなっている。柱穴の掘り方は径0.2m～0.4m前後で、深さは0.2ｍ前後を測る。

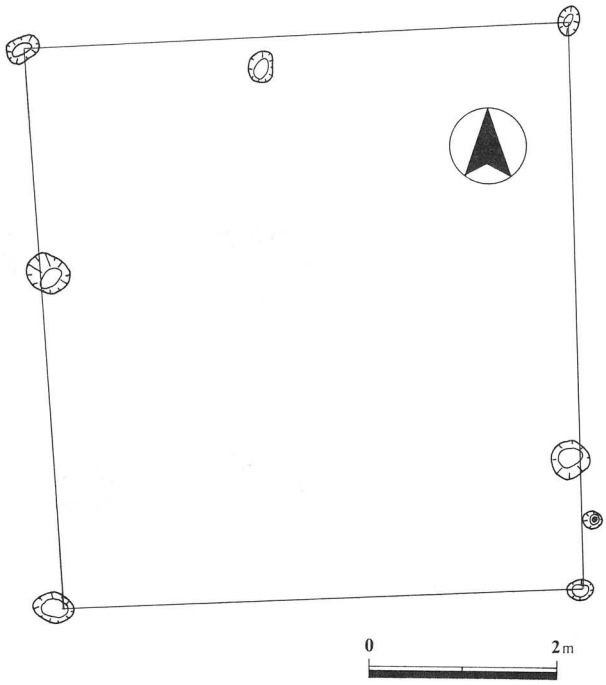
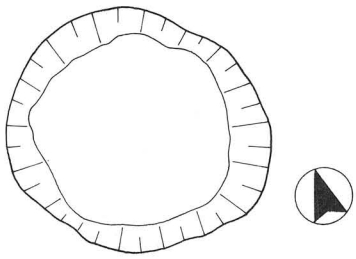



図10　ＳＢ５遺構平面図

## ２．井戸遺構

ＳＥ１

北調査区西側で検出した素掘の井戸で、掘り方の大きさは、南北1.3ｍ東西1.4ｍの円形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.35ｍを測り、逆台形の断面を呈する。埋土は灰青色のシルト～細砂である。



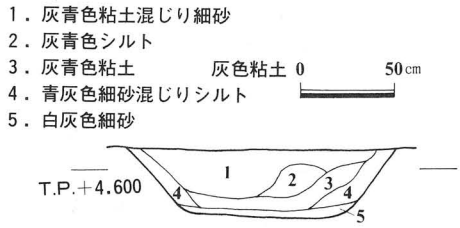
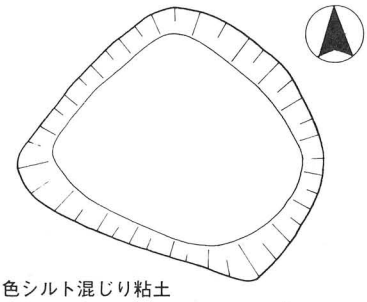



図11　ＳＥ１遺構平面断面図



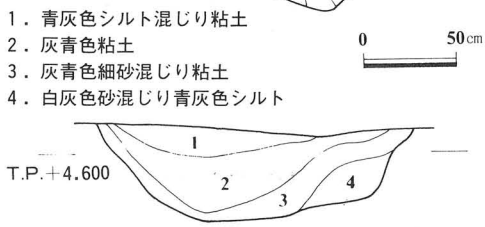



図12　ＳＥ２遺構平面断面図

ＳＥ２

北調査区西側で検出した素掘の井戸で、掘り方の大きさは、南北1.4ｍ東西1.6ｍで、方形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.47ｍを測り、椀状の断面形を呈する。埋土は灰青色のシルト～粘土である。

## ＳＥ３

北調査区東南側で検出した素掘の井戸で、掘り方の大きさは、南北2.9ｍ東西2.7ｍで、円形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.6ｍを測り、皿状の断面形を呈する。遺構の埋土からは、土師器皿、刀子（388）が出土している。

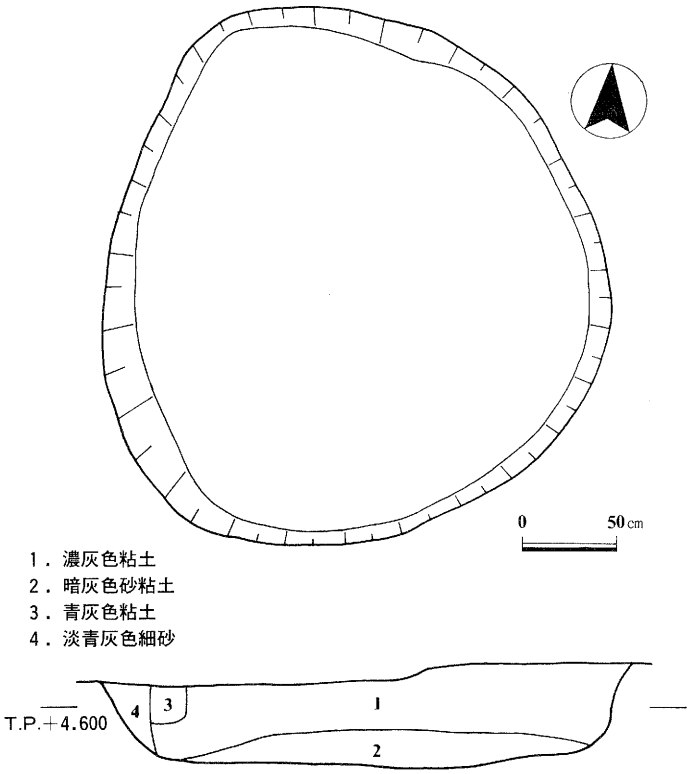



図13　ＳＥ３遺構平面断面図

図14　ＳＥ３出土遺物実測図

## ＳＥ４

北調査区西側中央付近で検出した素掘の井戸で、掘り方の大きさは、南北1.0ｍ東西1.1ｍで、円形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.6ｍを測り、すり鉢状の断面形を呈する。

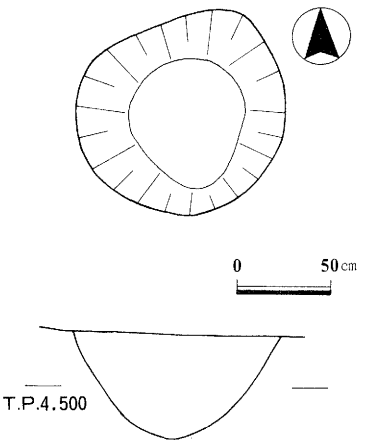
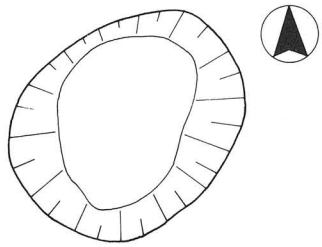
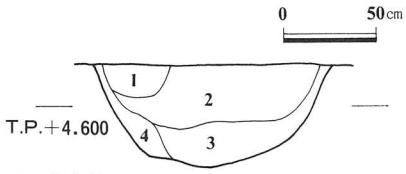



図15　ＳＥ４遺構平面断面図

ＳＥ５

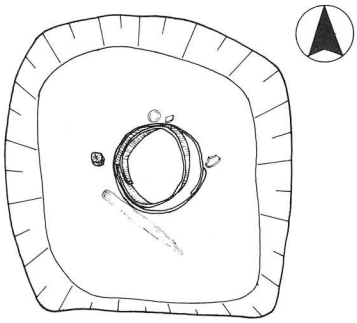
北調査区東側で検出した素掘の井戸で、掘り方の大きさは、南北0.7ｍ東西0.7ｍで、円形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.55ｍを測り、Ｕ字形の断面形を呈する。遺構の埋土は、灰色～暗灰色の粘土である。






1．灰色粘土
2．暗灰色砂質粘土
3．暗灰色シルト質粘土
3．暗灰色シルト質粘土
4．淡灰色微砂

図16　ＳＥ５遺構平面断面図



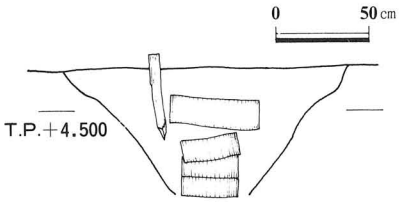
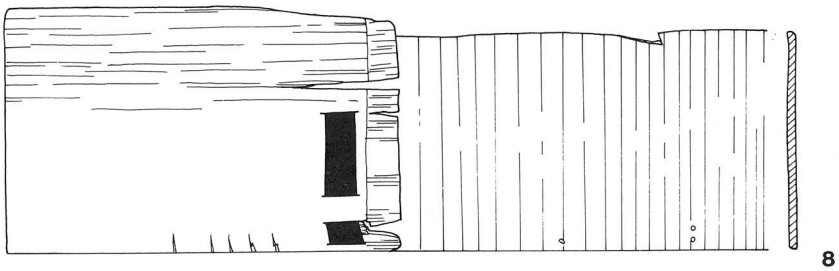



図17　ＳＥ６遺構平面断面図

ＳＥ６

北調査区東側で検出した井戸で、掘り方の大きさは、南北1.6ｍ東西1.5ｍで、方形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.7ｍを測り、すり鉢状の断面形を呈する。掘方の中央に径50㎝の曲物を重ねて井筒をつくる。遺構の埋土からは瓦器椀、瓦器皿、陶器壷、砥石が出土している。



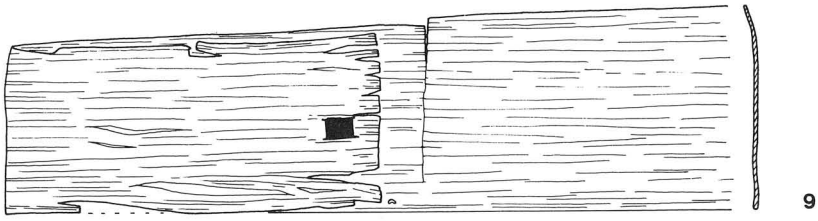



図18　ＳＥ６出土遺物実測図１

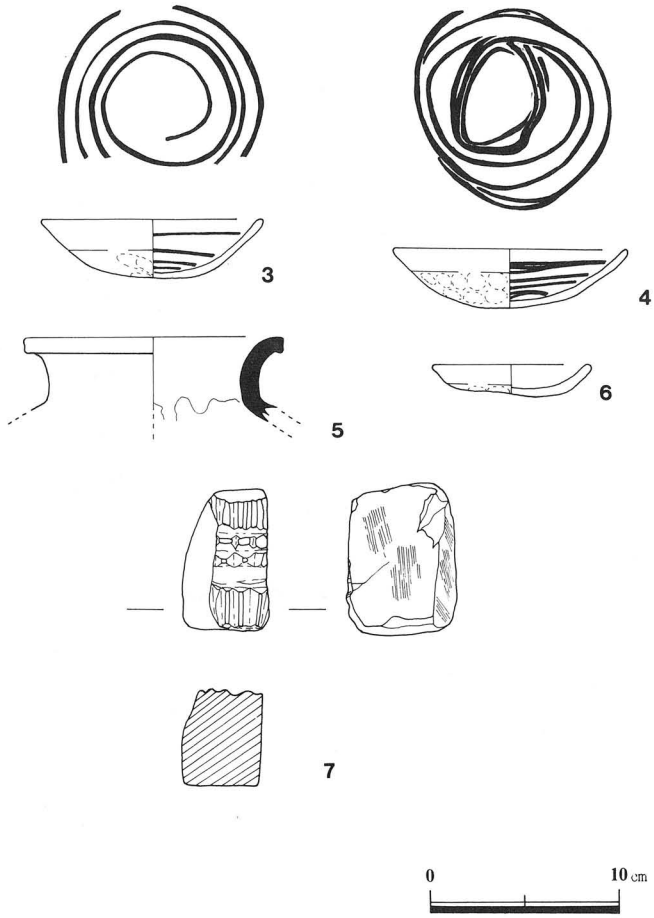
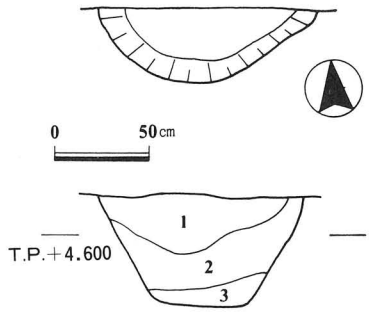



図19　ＳＥ６出土遺物実測図２

## ＳＥ７

北調査区東側で検出した素掘の井戸で、掘り方の大きさは、北側は調査区外に至り、東西1.1ｍ以上の平面形を呈する。検出面からの深さは0.6ｍを測り、逆台形の断面を呈する。遺構の埋土からは、暗灰色の砂粘土～シルト粘土が堆積している。




1．暗灰色砂混じり粘土
2．淡灰色粘土混じり微砂
3．暗灰色シルト粘土

図20　ＳＥ７遺構平面断面図

## ＳＥ８

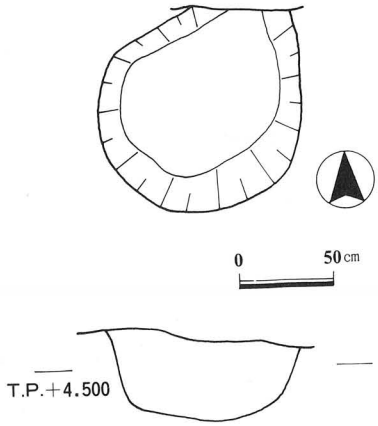



図21　ＳＥ８遺構平面断面図

北調査区東側で検出した素掘りの井戸で、掘り方の大きさは、南北1.1ｍ東西1.1ｍで、円形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.5ｍを測る。遺構の埋土からは、刀子(386) が出土している。

ＳＥ９

北調査区東側で検出した井戸で、掘り方の大きさは、東西2.0ｍで北は調査区外に至り、方形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.65ｍを測る。井筒は、掘方の中央東側にあり、径30㎝の曲物を２段に設置し、上に羽釜を乗せたものである。上層より下駄(378) が出土している。

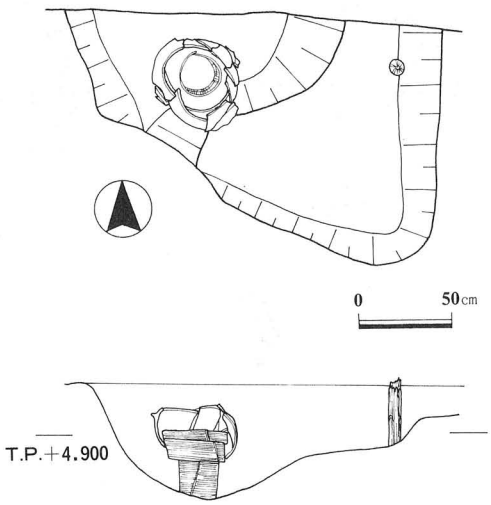



図22　ＳＥ９遺構平面断面図

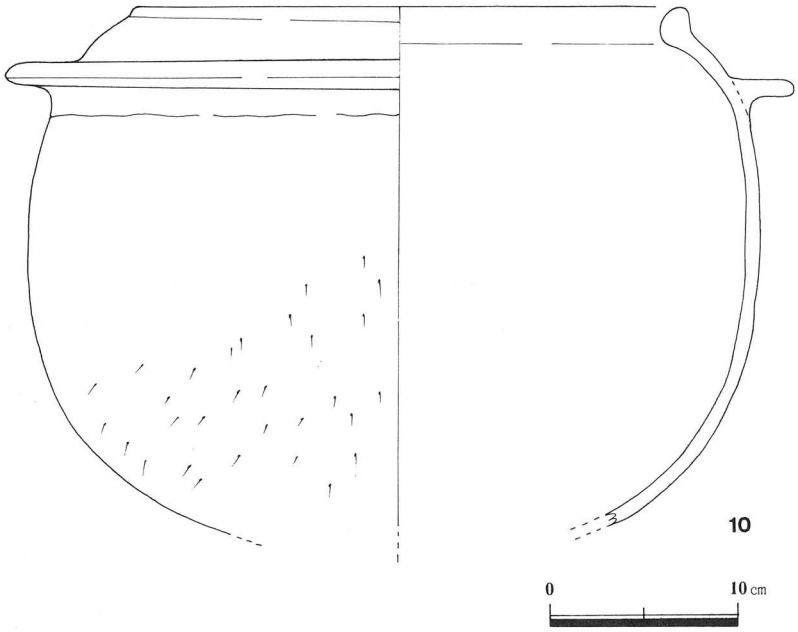
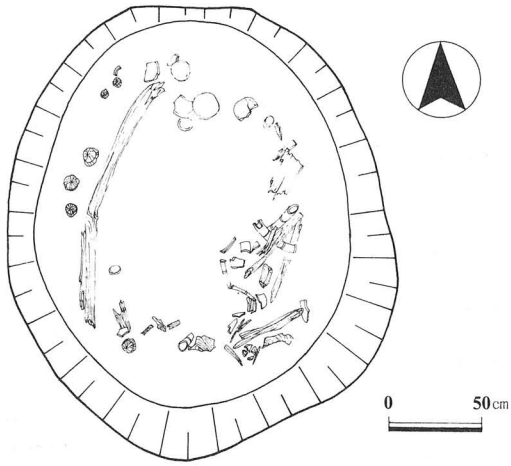
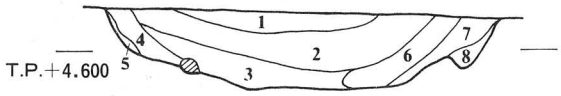



図23　ＳＥ９出土遺物実測図

ＳＥ10

北調査区東側で検出した井戸で、掘り方の大きさは、南北1.2ｍ東西1.0ｍの円形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.4ｍを測り、椀状の断面形を呈する。掘方内に竹を縦にさし、板材を用いた施設が存在したようである。遺構の埋土からは、瓦器椀、土師器皿、中国磁器片、砥石が出土している。




1．青灰色砂質粘土
2．暗青灰色砂質粘土
3．濃灰色砂質粘土
4．暗灰色砂質粘土
5．緑灰色砂質粘土
6．淡灰色微砂.暗青灰色砂質土混じり
7．灰色砂質土
8．淡青灰色微砂

図24　ＳＥ10遺構平面断面図

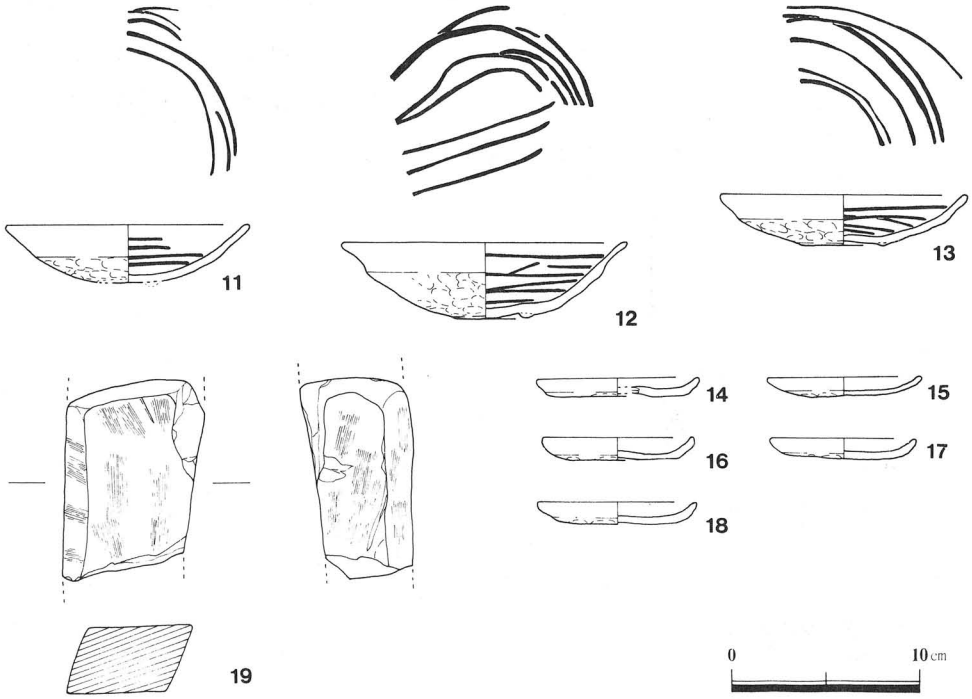



図25　ＳＥ10出土遺物実測図

ＳＥ11

南調査区東側で検出した素掘りの井戸で、掘り方の大きさは、南北1.8ｍ東西1.95ｍで、円形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.8ｍを測り、「U」字状の断面形を呈する。遺構の埋土には暗褐色から暗灰色の粘質土が堆積し、２層には植物遺体を多量に包含している。これらの埋土からは、練り鉢、三足瓦質釜、土師器皿、砥石が出土している。

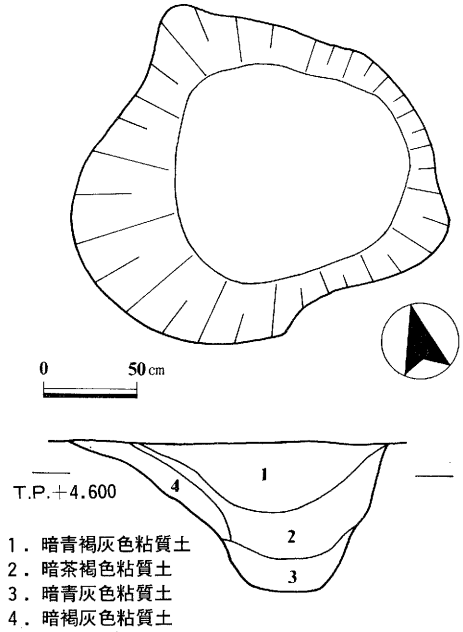



図26　ＳＥ11遺構平面断面図

ＳＥ12

南調査区東側で検出した素掘りの井戸で、掘り方の大きさは、南北1.55ｍ東西1.5ｍで、円形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.5ｍを測り、摺り鉢状の断面を呈する。遺構の埋土には暗褐灰色の砂質土が堆積しているが遺物はほとんど出土しなかった。

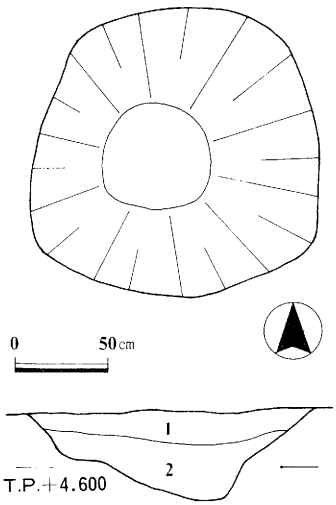



図27　ＳＥ12遺構平面断面図

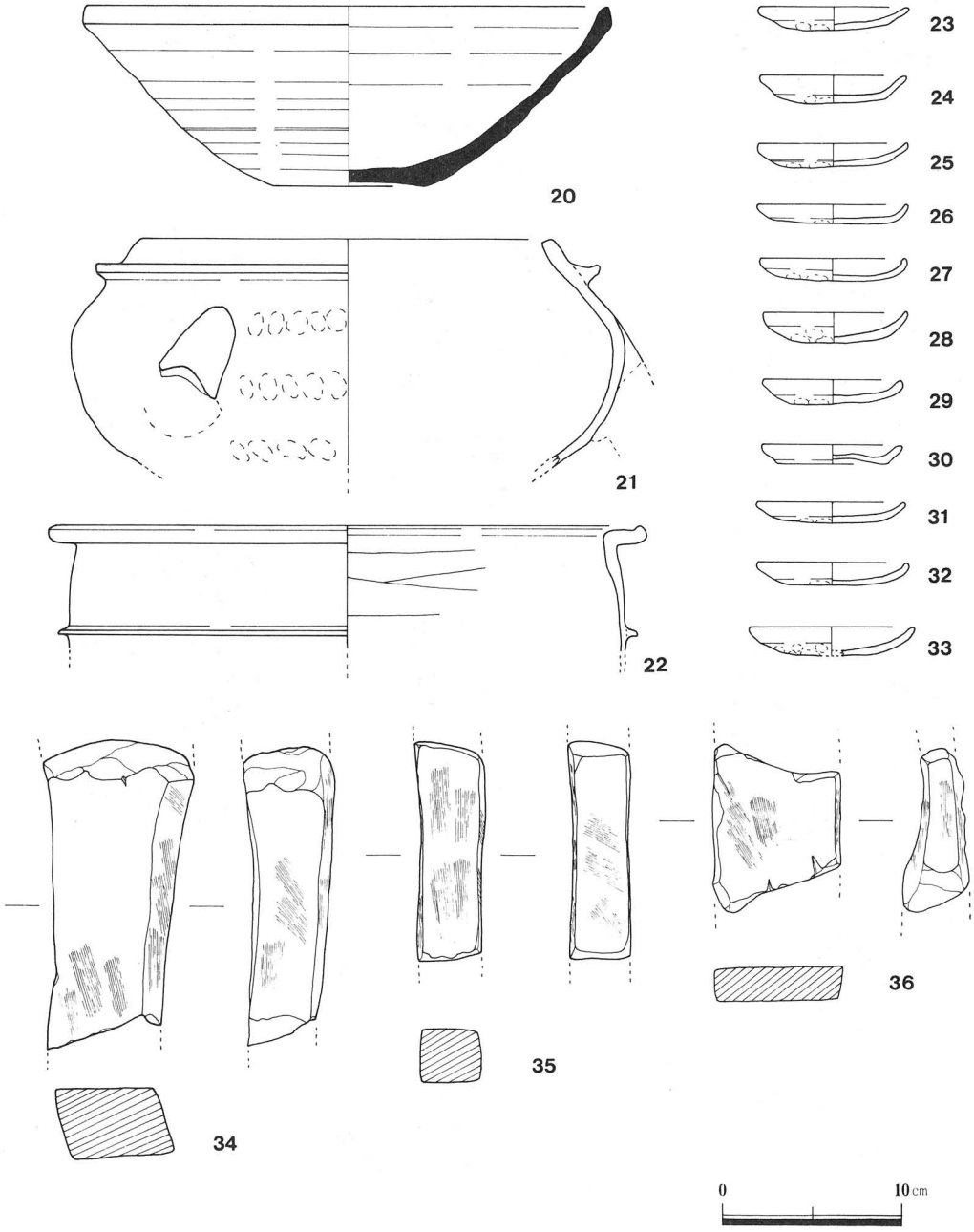



図28　ＳＥ11出土遺物実測図１

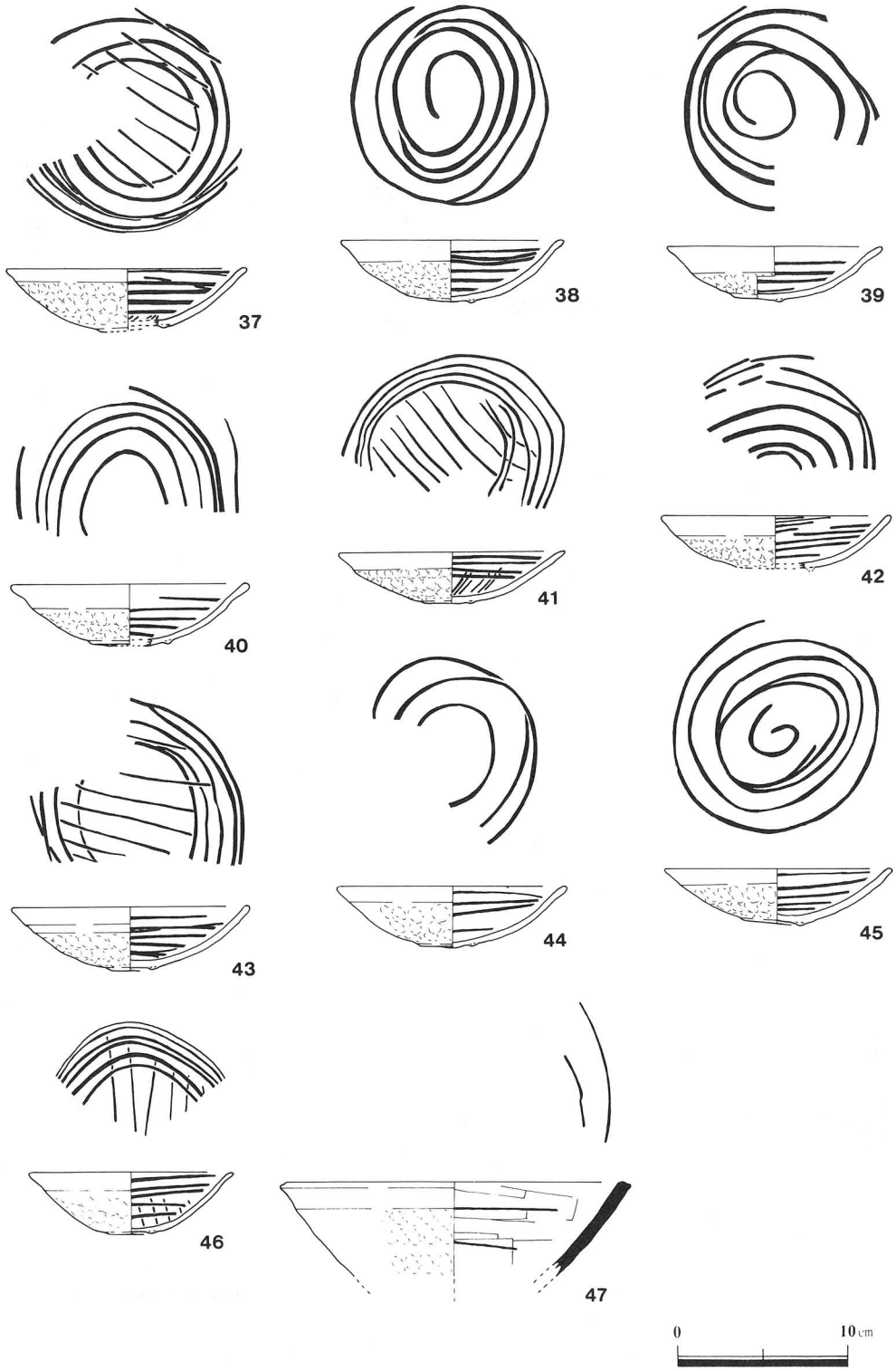



図29　ＳＥ11出土遺物実測図２

ＳＥ13

南調査区東側で検出した井戸で、掘り方の大きさは、南北1.6ｍ、東西1.5ｍの円形の平面形を呈する。掘方の中央検出面より0.4ｍのところから径0.5ｍの曲物の井筒が２段分残存しているのを検出した。井戸の底は、検出面からの深さ約１ｍを測る。井筒の埋土は砂質土、掘り方の埋土は灰色系のシルトまたは粘土で、井筒内からは、青白磁合子、瓦器、土師器皿、包丁（384）、針（380）が出土している。

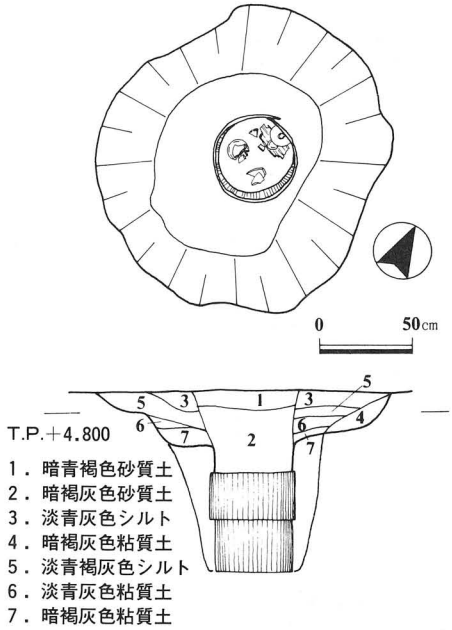



図30　ＳＥ13遺構平面断面図

ＳＥ14

南調査区東側で検出した素掘の井戸で、掘り方の大きさは、南北1.2ｍ東西1.5ｍの楕円形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.55ｍを測り摺り鉢状の断面形を呈する。遺構の埋土からは出土遺物がほとんど検出できなかったが瓦器椀と土釜片が各１点出土している。

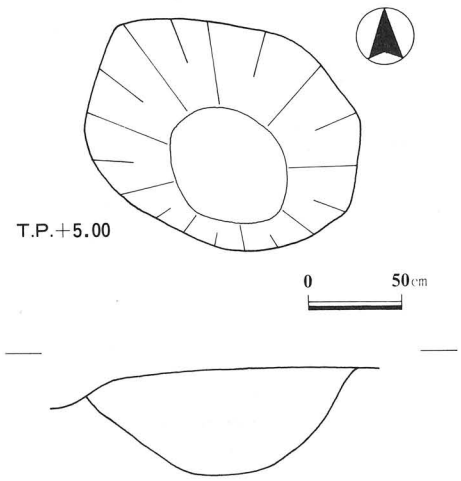



図31　ＳＥ14遺構平面断面図

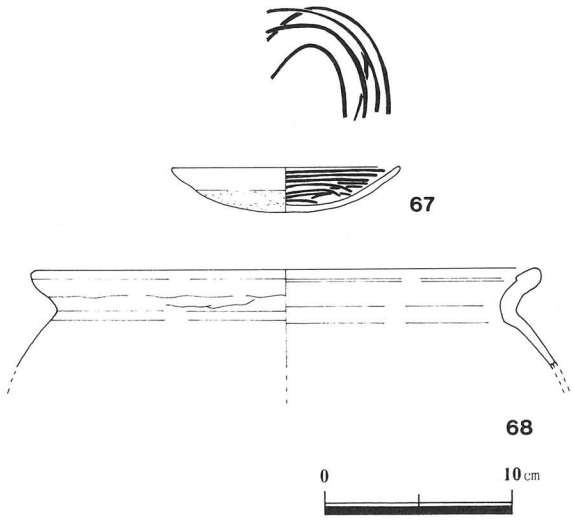



図32　ＳＥ14出土遺物実測図

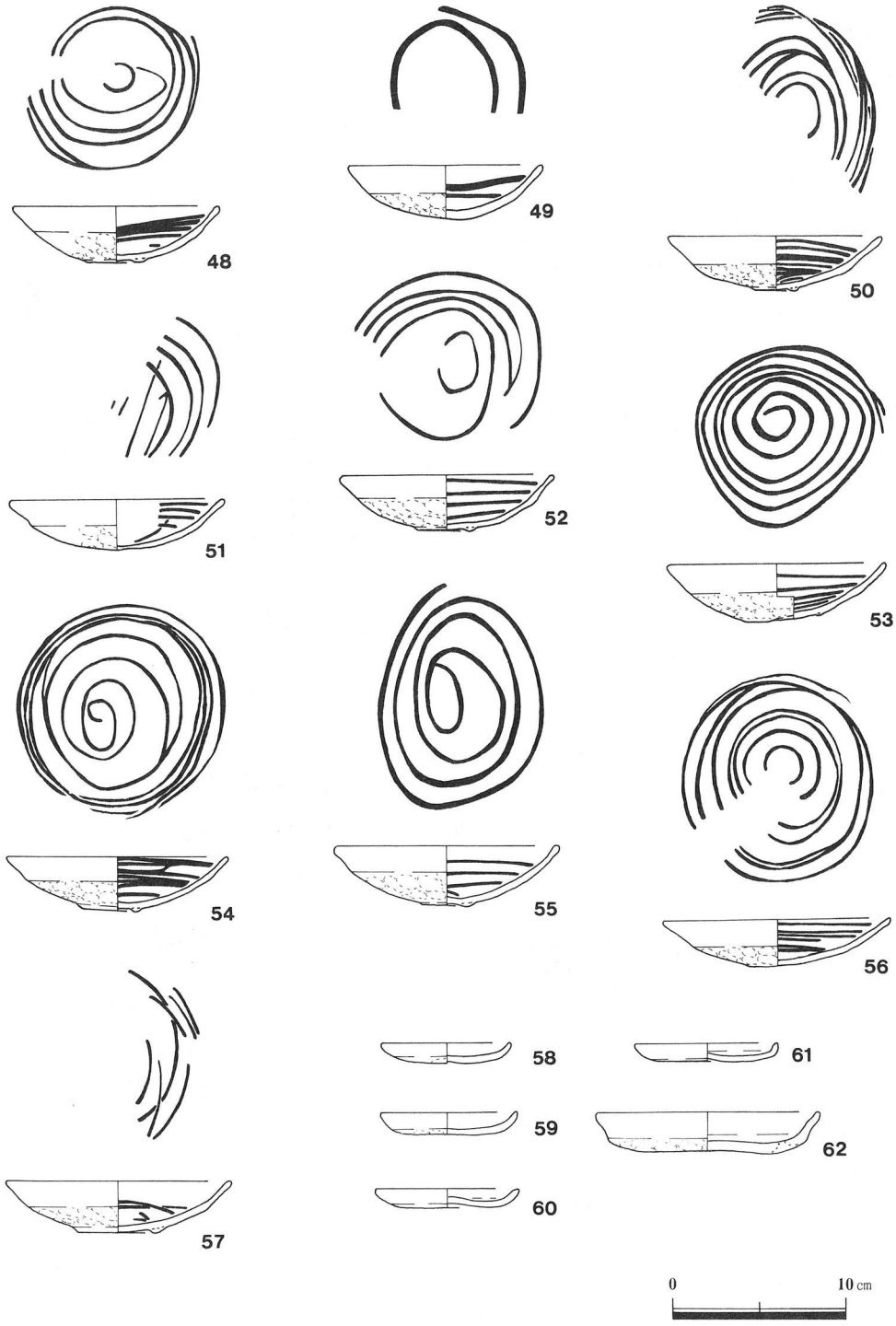



図33　ＳＥ13出土遺物実測図１

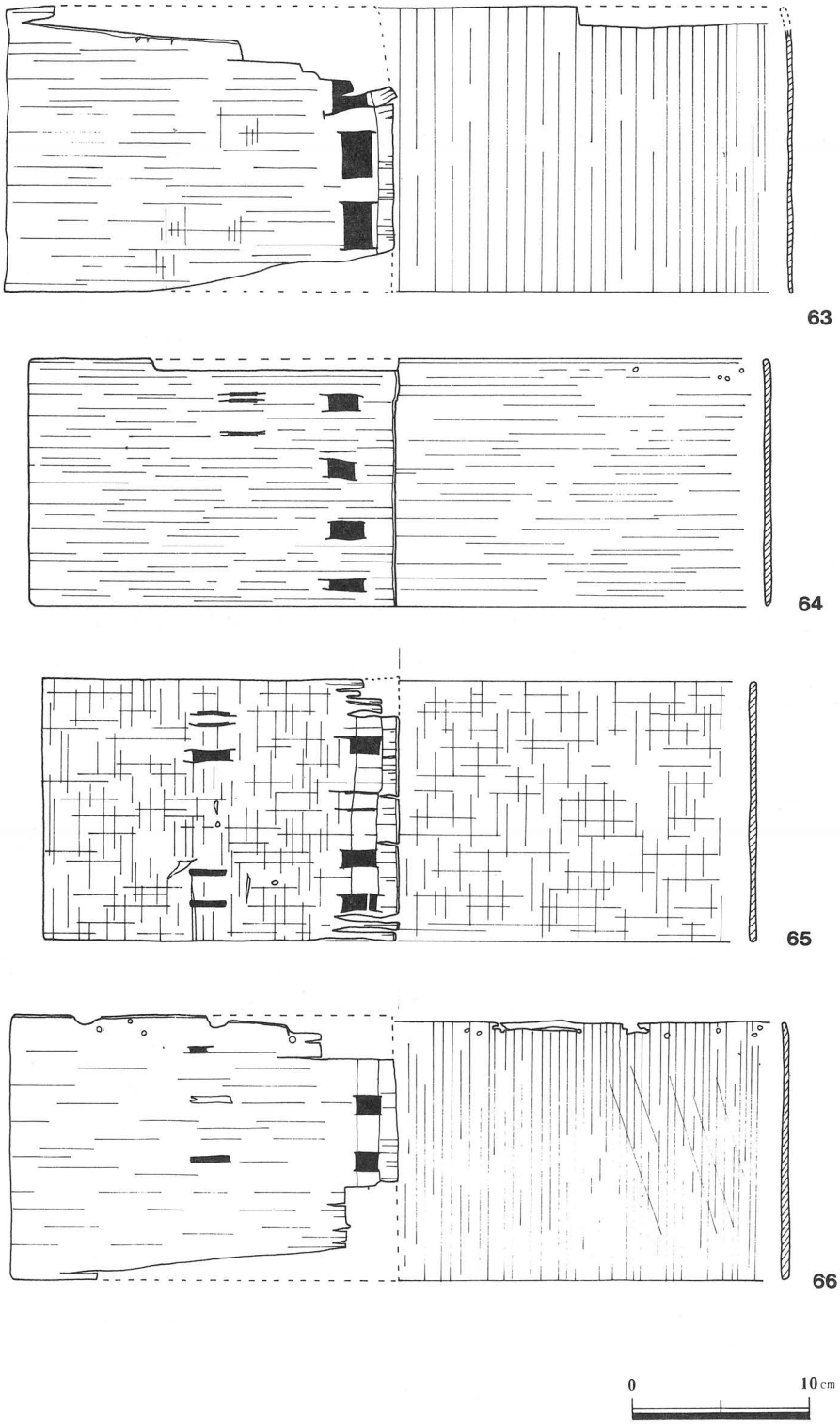



図34　ＳＥ13出土遺物実測図２

ＳＥ15

南調査区東側で検出した素掘りの井戸で、掘り方の大きさは、南北１ｍ、東西1.1ｍの不整円形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.4ｍを測る。遺構の埋土からの出土遺物はほとんど検出できなかった。

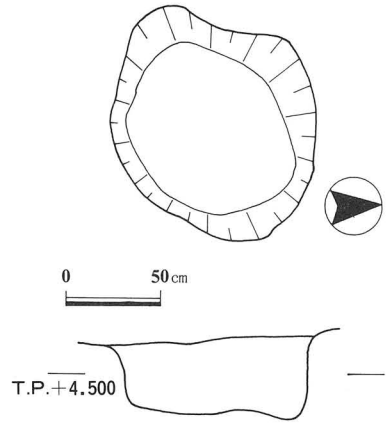



図35　ＳＥ15遺構平面断面図

ＳＥ16

南調査区東側で検出した井戸で、掘り方の大きさは、南北１ｍ東西１ｍの円形の平面形を呈する。検出面から深さは1.4ｍを測る。掘り方の中央の検出面より0.4ｍ以下で径0.5ｍの曲げ物の井筒を２段積んだ状況で検出した。井筒の埋土からは瓦器椀、瓦器皿、櫛(368)が出土している。また、井戸の上層には瓦器や土釜類摺鉢、砥石等が壊れた状況で集積して出土した。井戸を埋めた後に投棄したものであろう。

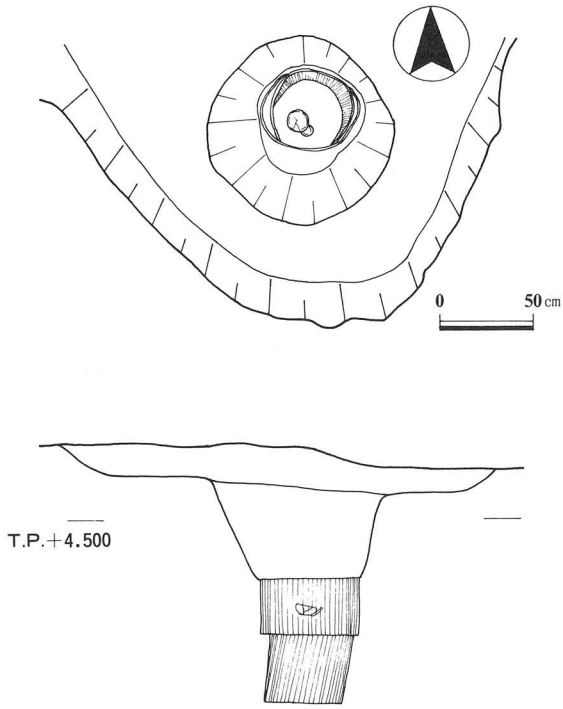



図36　ＳＥ16遺構平面断面図

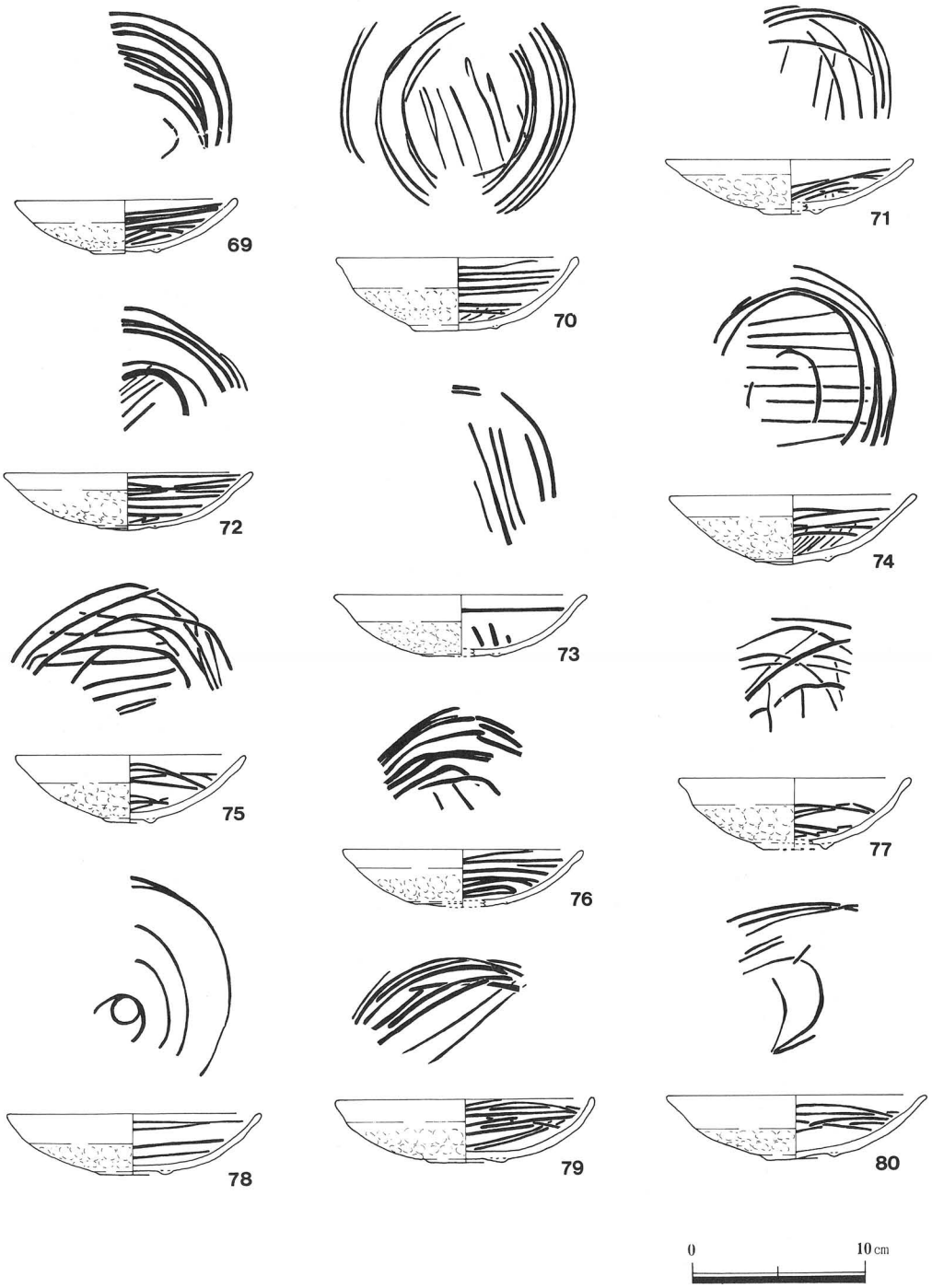



図37　ＳＥ16出土遺物実測図１

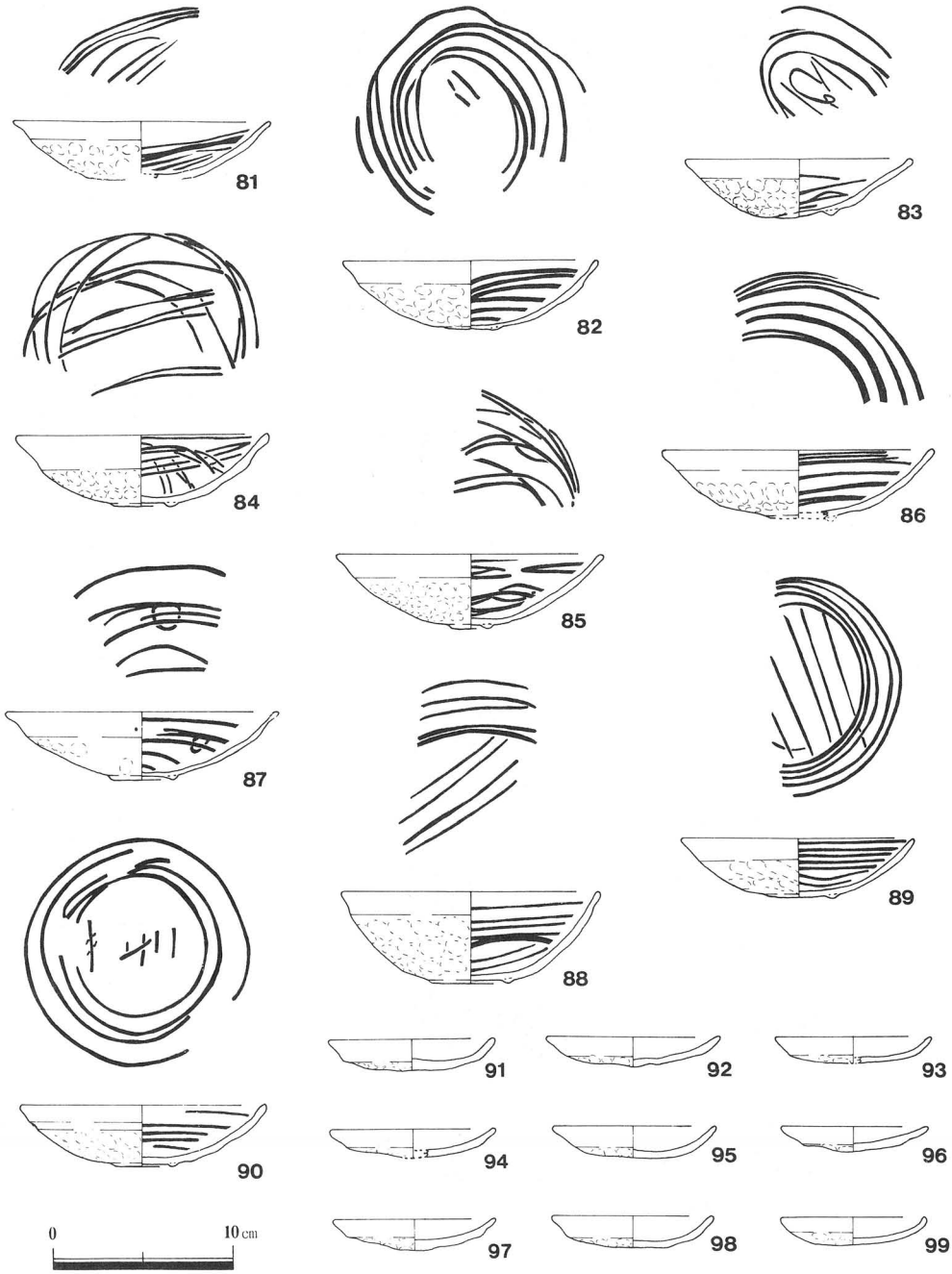



図38　ＳＥ16出土遺物実測図２

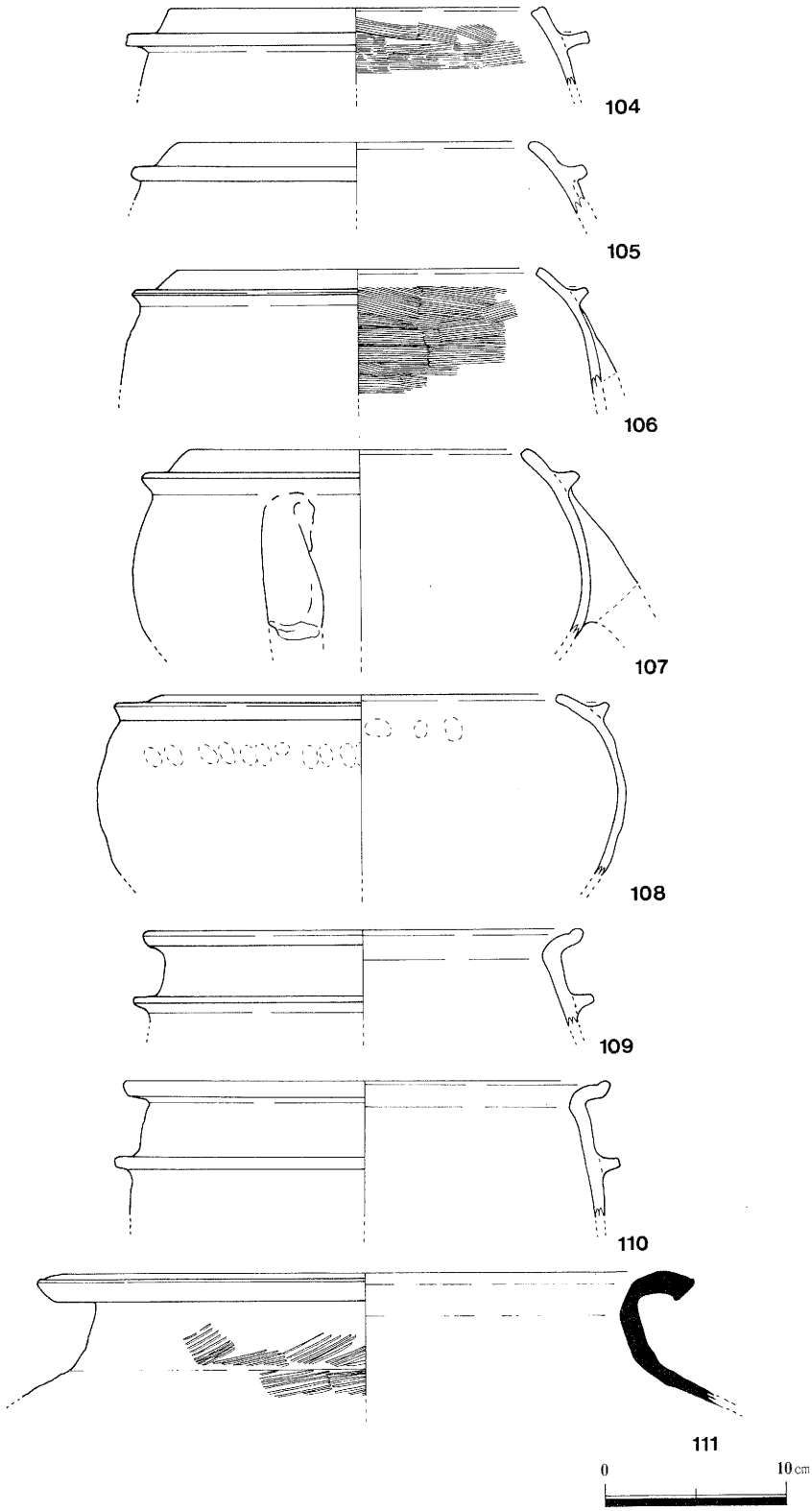



図39　ＳＥ16出土遺物実測図３

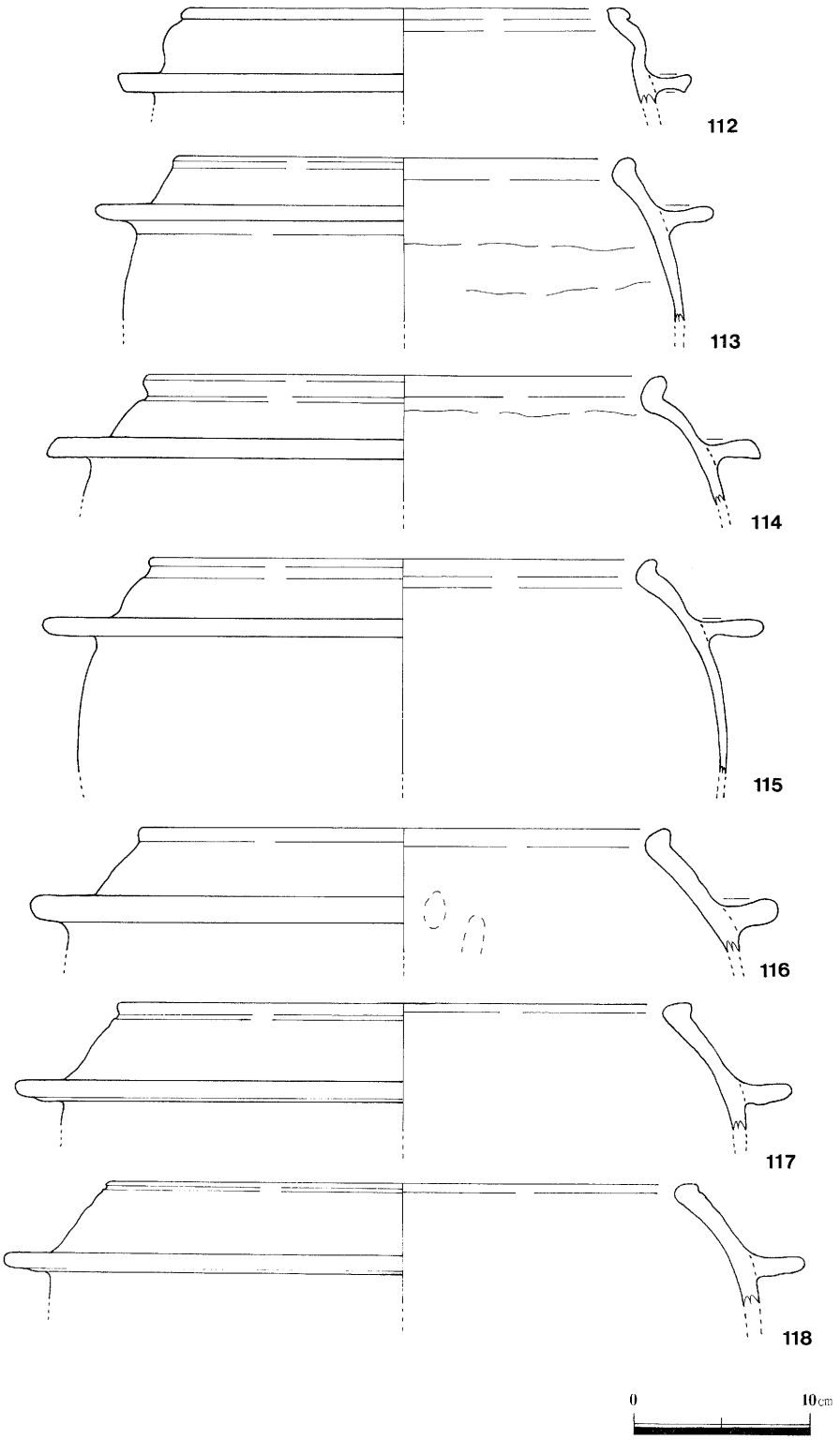



図40　ＳＥ16出土遺物実測図４

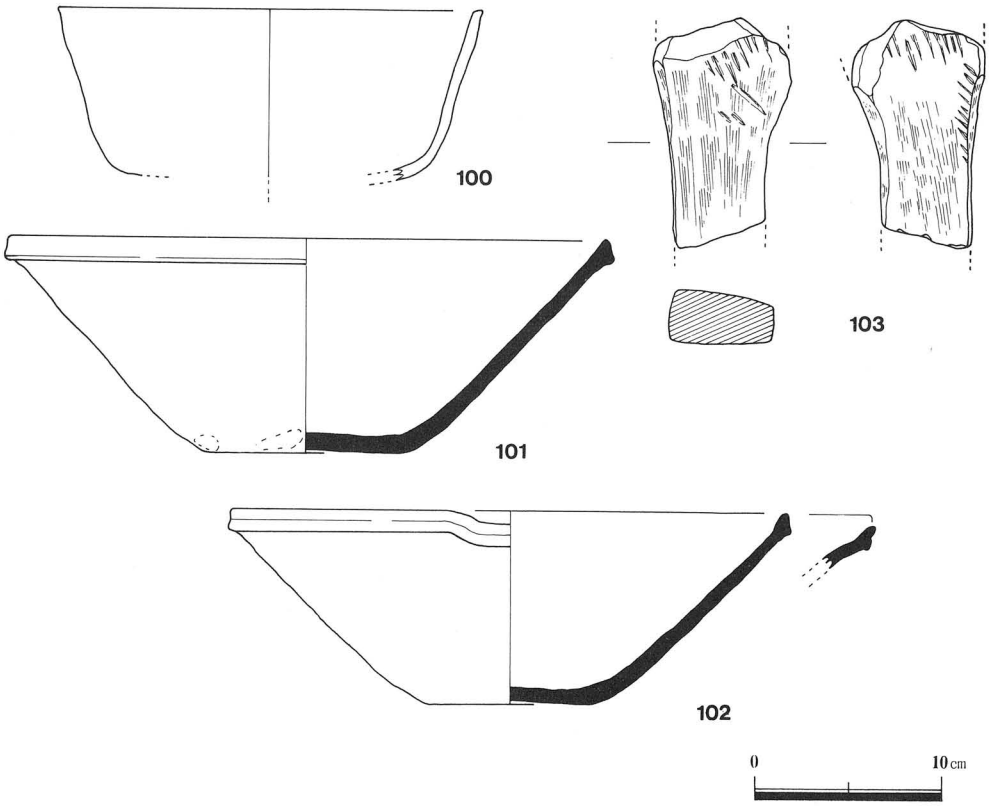



図41　ＳＥ16出土遺物実測図５

ＳＥ17

南調査区東側の南端で排水溝を掘削していた際に検出した井戸で、排水溝での掘り方の大きさは、南北0.5ｍ、東西0.5ｍの平面形を呈する。掘方内には、曲物を用いた径0.4ｍの井筒を検出した。遺構面から推定される深さは0.6ｍを測る。遺構の埋土からは、瓦器椀、土師皿が出土している。

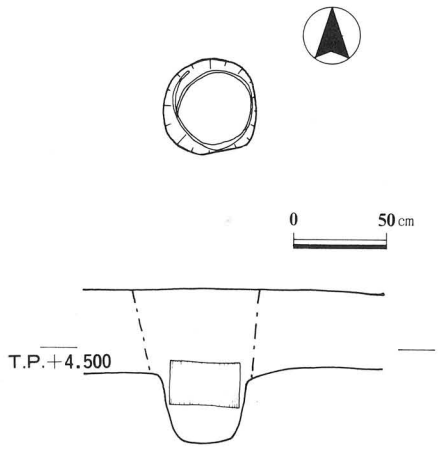



図42　ＳＥ17遺構平面断面図

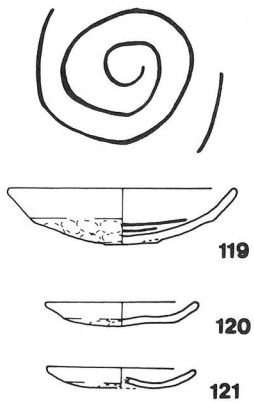



図43　ＳＥ17出土遺物実測図

## ３．溝状遺構

### ＳＤ１

北調査区西側の南端と北調査区東側の北端付近で検出した東西方向の溝で、里道の南側の側溝で、最大幅２ｍである。検出面からの深さ15㎝で段を有し、さらにそこから里道に沿って0.7ｍの幅で掘りこまれている。最深部の深さは遺構面より0.35ｍを測る。遺構の埋土からは、瓦器椀、瓦皿、土師器皿、中国磁器椀、下駄（369･375）、漆器、石鍋片が出土している。

### ＳＤ２

北調査区西側の南端付近と北調査区東側の北端で検出した東西方向の溝で、里道の北側の側溝である。最大幅２ｍで、西端でＳＤ４と合流し、さらに広くなっている。検出面からの深さは最深部で0.4ｍを測る。遺構の埋土からは、瓦器椀、土師器皿、下駄（372）、が出土している。

### ＳＤ３

北調査区西側で検出した南北方向の溝で、幅0.8ｍ、東側の遺構面からの深さは0.2ｍを測る。遺構の埋土からは、棒状の木材片を検出しているが、用途は判らない。

### ＳＤ４

北調査区西側で検出したＳＤ３の西側を平行して走る南北方向の溝で、幅0.8ｍ、遺構面からの深さは0.2ｍを測る。遺構の埋土からは、瓦器椀、土師器皿、砥石が出土している。

### ＳＤ５

北調査区東側で検出した南北方向の溝で、幅1.2ｍ、長さ４ｍ、検出面からの深さは0.1ｍを測る。出土遺物は認められない。

### ＳＤ６

北調査区中央付近で検出した南北方向の溝で、幅0.2ｍ、検出面からの深さは0.1ｍを測る。ＳＢ１の雨落ちまたは排水溝と考えられる。出土遺物は認められない。

### ＳＤ７

北調査区西側の北端付近で検出した南北方向の溝で、幅0.2ｍ、長さ４ｍ、検出面からの深

さは0.1mを測る。ＳＢ３の雨落ちまたは排水溝と考えられる。出土遺物は認められない。

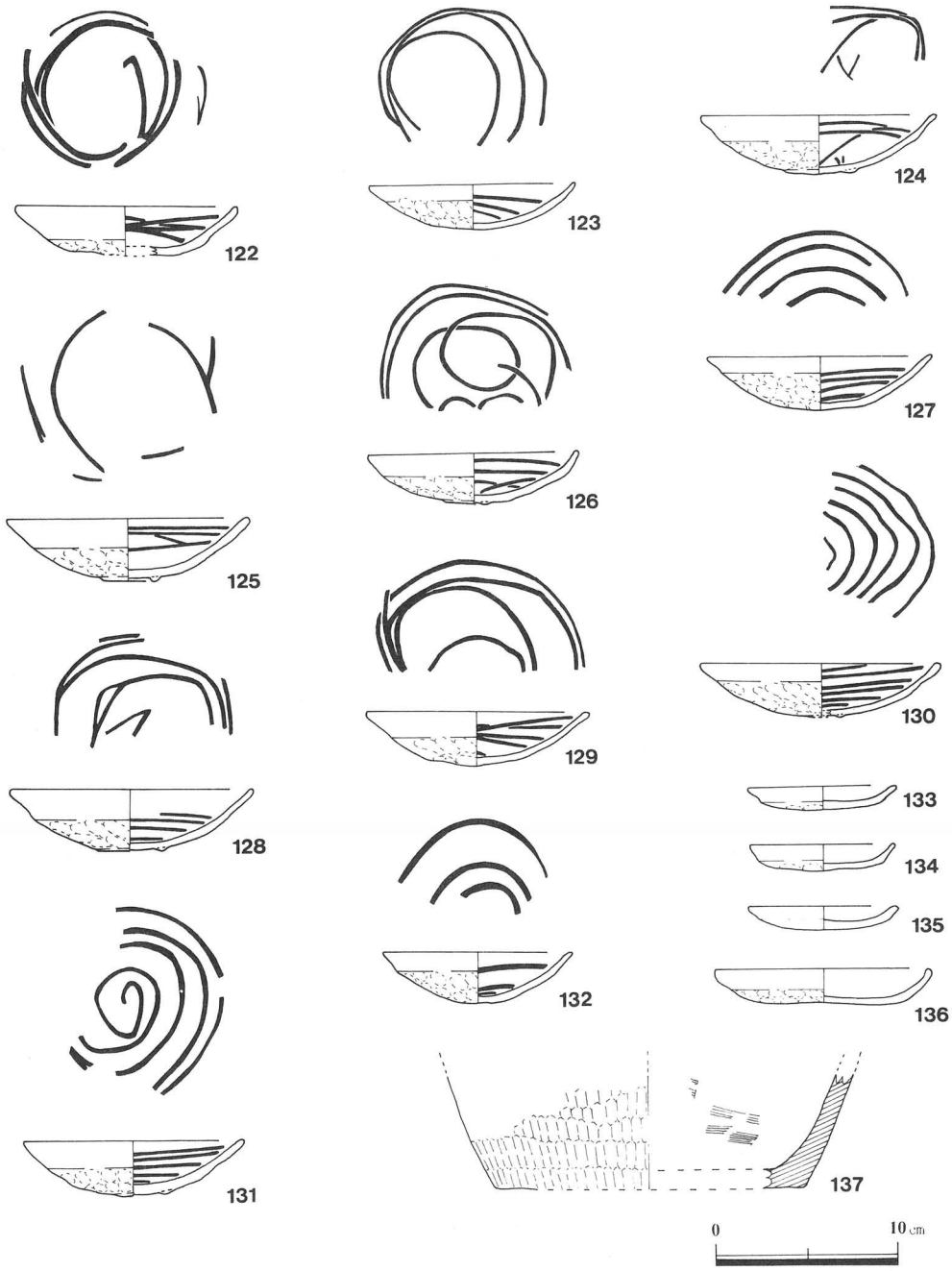



図44　ＳＤ１出土遺物実測図

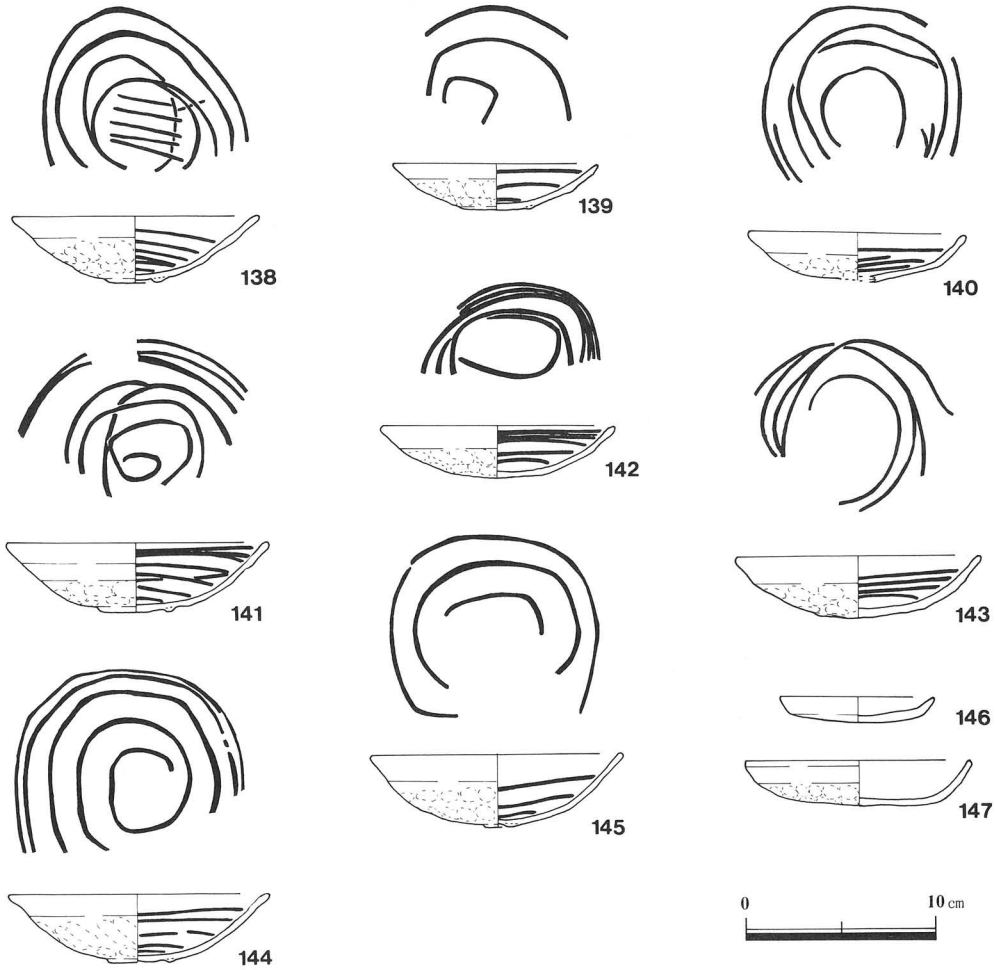



図45　ＳＤ２出土遺物実測図

ＳＤ８

北調査区西側の里道の北で検出した東西方向の溝で、幅1.6ｍ、検出面からの深さは0.5ｍを測る。西側はコの字状に途切れる。遺構の埋土からは、土師器皿が出土している。

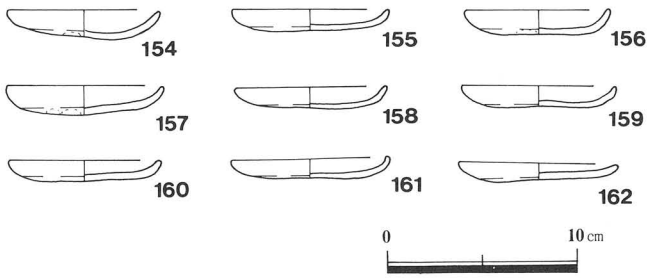



図46　ＳＤ８出土遺物実測図

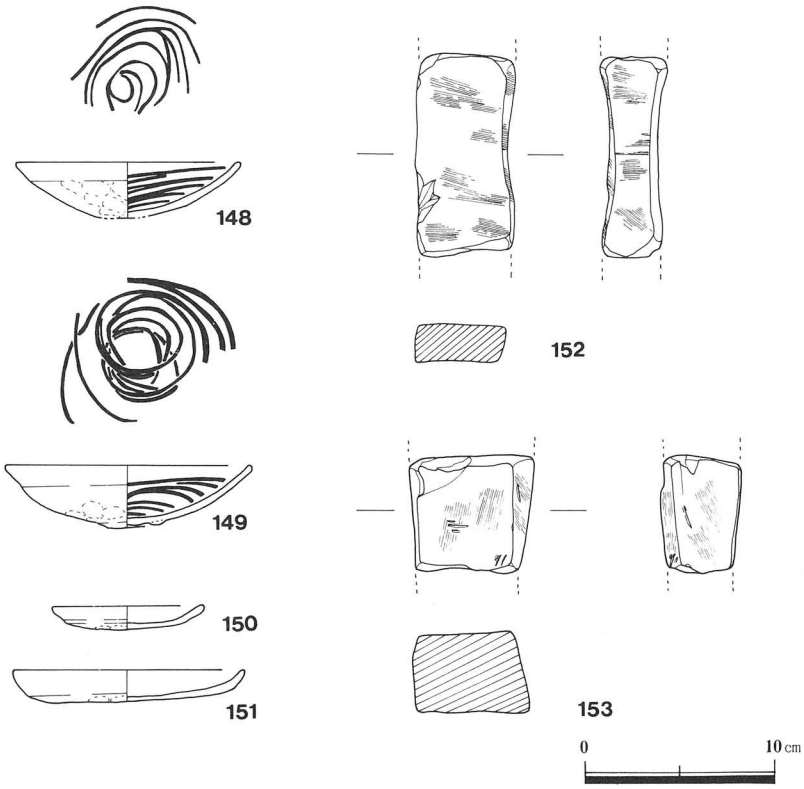



図47　ＳＤ４出土遺物実測図

ＳＤ９

北調査区東側で検出した南北方向の溝で、幅3.5ｍ、検出面からの深さは0.2ｍを測る。調査区の中央でＵ字状に途切れ、南へ続く。遺構の埋土からは、瓦器椀、瓦器皿、土師器皿、土釜、すり鉢、下駄（374）が出土している。

ＳＤ10

北調査区東端で検出した南北方向の溝で、幅1.4ｍ、検出面からの深さは最深で0.2ｍを測る。遺構からの出土遺物は、ほとんど認められない。

ＳＤ11

北調査区中央付近で検出した南北方向の溝で、幅4.5ｍ、検出面からの深さは最深で0.4ｍを測る。遺構の埋土からは、瓦器椀、土師器皿、中国磁器が出土している。

ＳＤ12

北調査区東側で検出した東西方向の溝で、幅1.4ｍ、検出長17ｍ、遺構面からの深さは最深で0.1ｍを測る。遺構からは瓦皿が１点出土した。

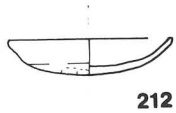



図48　ＳＤ12出土遺物実測図

ＳＤ13

北調査区東側で検出した南北方向の溝で、北端は四角く終わり南は調査区外に至る。幅0.8ｍ、遺構面からの深さは0.1ｍ以下を測る。

ＳＤ14

南調査区東側で検出した南北方向の溝で、ＳＥ13に切られている。北端は調査区中央で終わり南は調査区外に至る。幅0.6～0.2ｍ、遺構面からの深さは0.1ｍ以下を測る。

ＳＤ15

南調査区東端で検出した南北方向の溝で、南側屋敷地の東端を区別している。南は調査区外から延び、調査区南よりで北北東方向に屈曲し、北は調査区外に延びる。幅３～1.8ｍ、遺構面からの深さは0.1ｍ～0.2ｍを測る。遺構内からは、瓦器椀、瓦器皿、土師器皿、土釜、すり鉢等が出土している。また、試掘時に出土した硯（図３）もこの遺構に伴うものであろう。

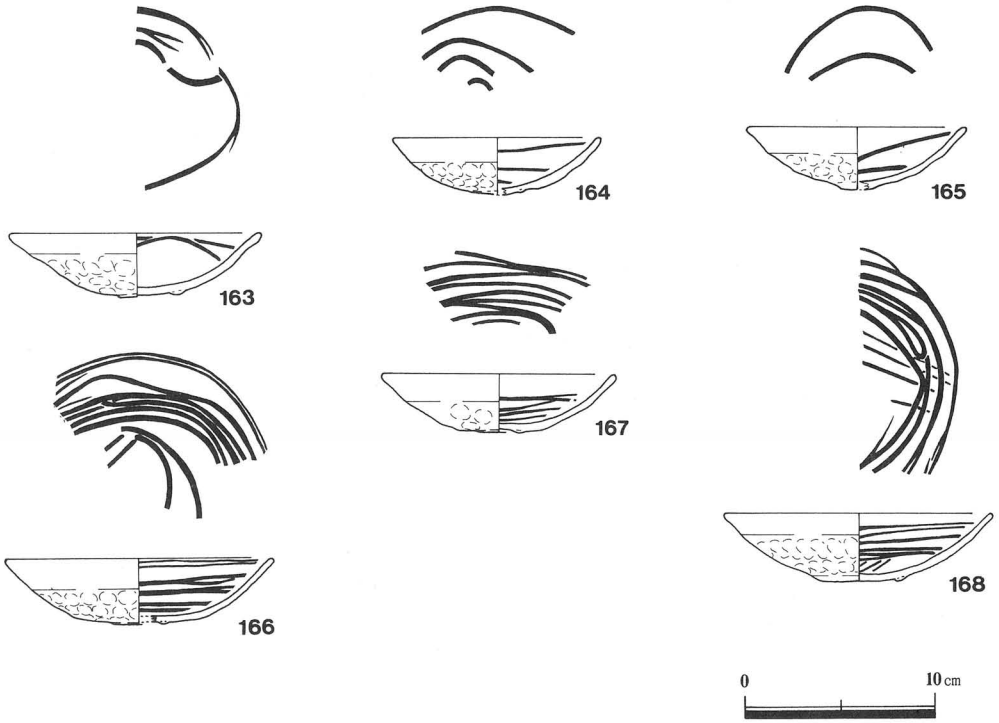



図49　ＳＤ９出土遺物実測図１

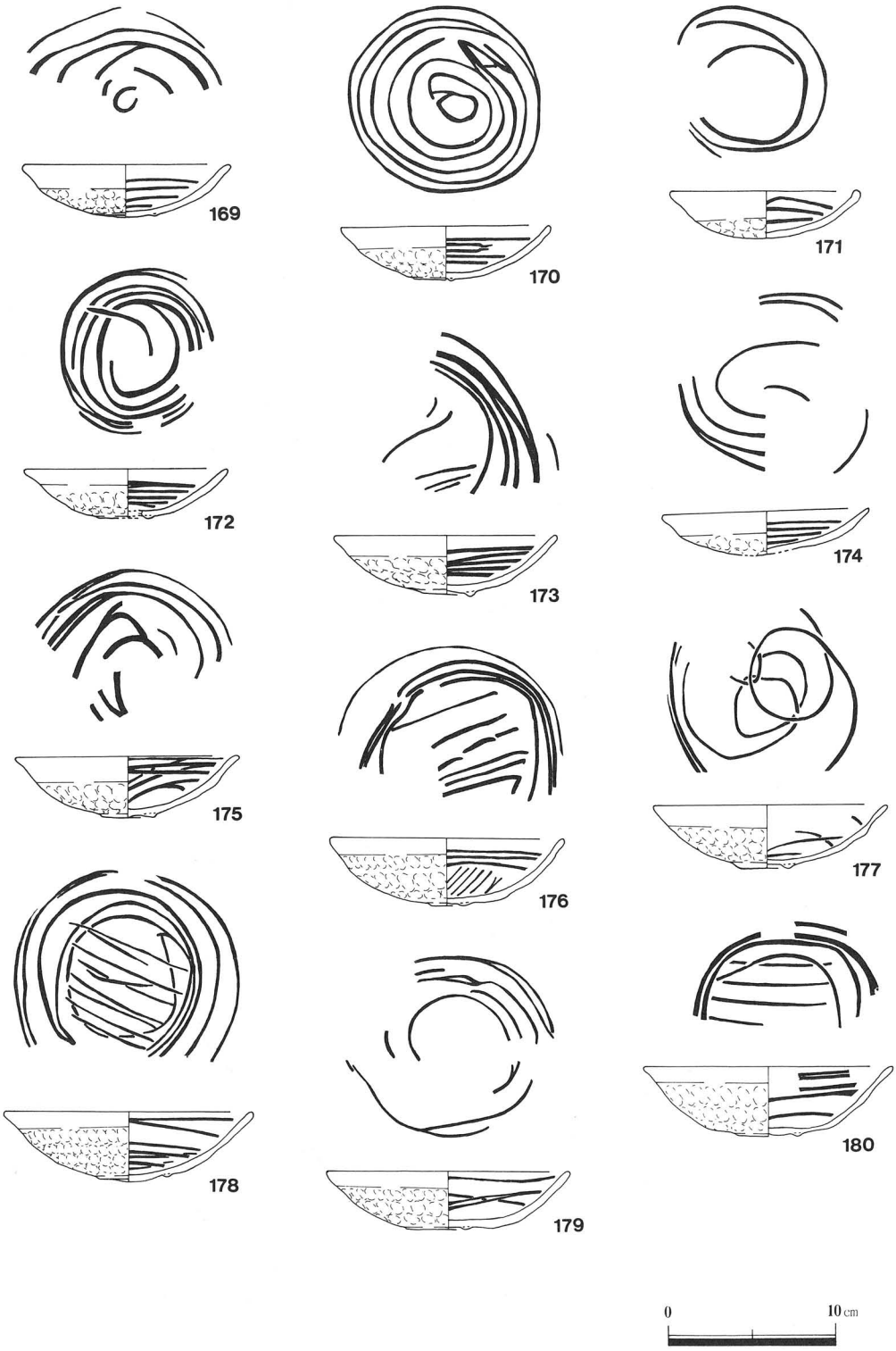



図50　ＳＤ９出土遺物実測図２

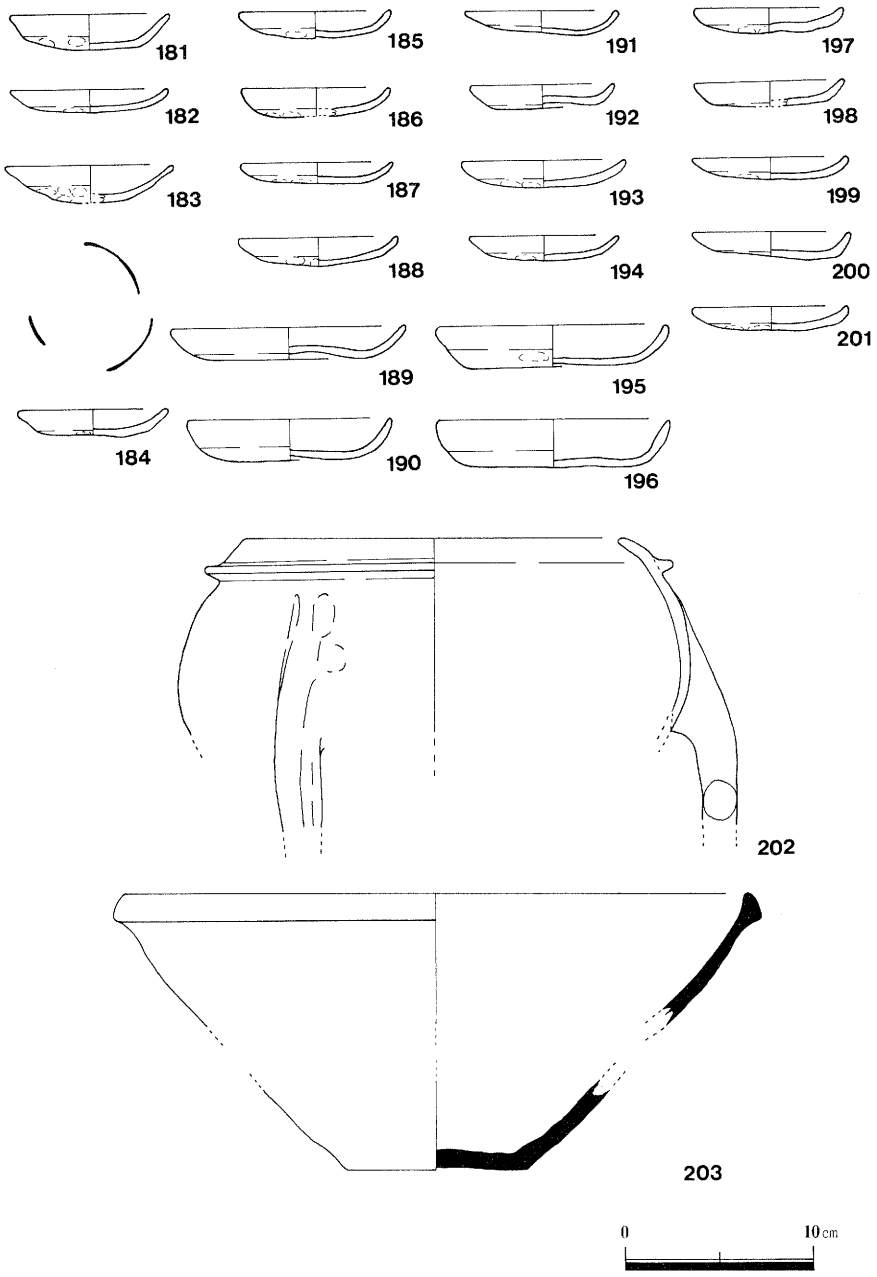



図51　ＳＤ９出土遺物実測図３

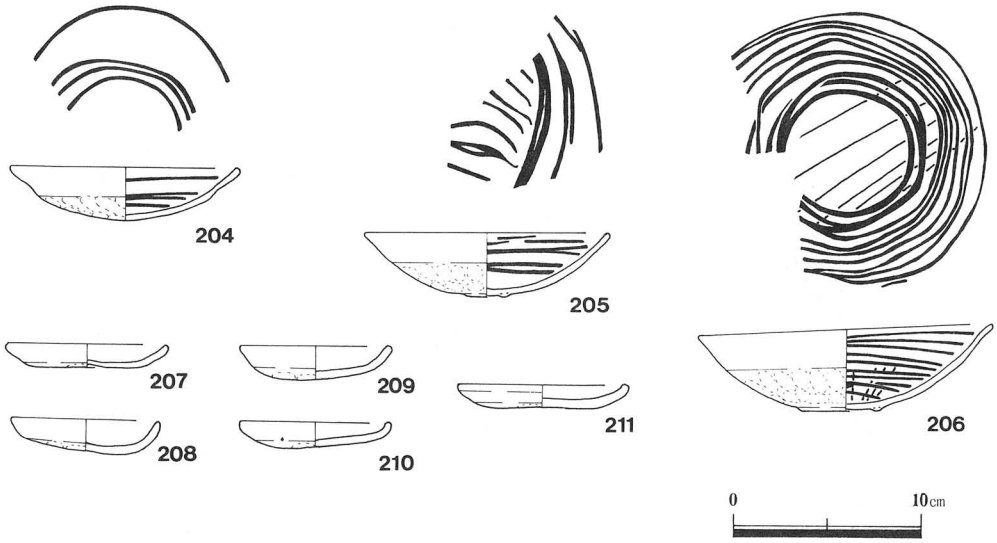



図52　ＳＤ11出土遺物実測図

ＳＤ16

南調査区の屋敷地の東側で検出した南北方向の溝で、幅0.6ｍ、検出面からの深さは0.2ｍを測る。遺構の埋土からは、瓦器椀と下駄（376）が出土している。

ＳＤ17

南調査区北拡張部で検出したＳＧ１とＳＤ１をつなぐ２本の南北方向の溝の東の溝で、幅1ｍ～0.7ｍ、検出面からの深さは0.2ｍを測る。

ＳＤ18

南調査区北拡張部で検出したＳＧ１とＳＤ１をつなぐ２本の南北方向の溝の西の溝で、幅1ｍ～0.8m、検出面からの深さは0.3mを測る。遺構の埋土からは瓦器椀、刀子（387）が出土している。

ＳＤ19

南調査区西側で検出した南側の屋敷地の西を区画する南北方向の溝で、幅1.2ｍ～1.8ｍ、検出面からの深さは0.4ｍを測る。

ＳＤ20

南調査区中央東よりで検出した３本の南北方向の小溝のうち東側の溝で、幅0.8ｍ、検出面からの深さは0.1ｍを測る。

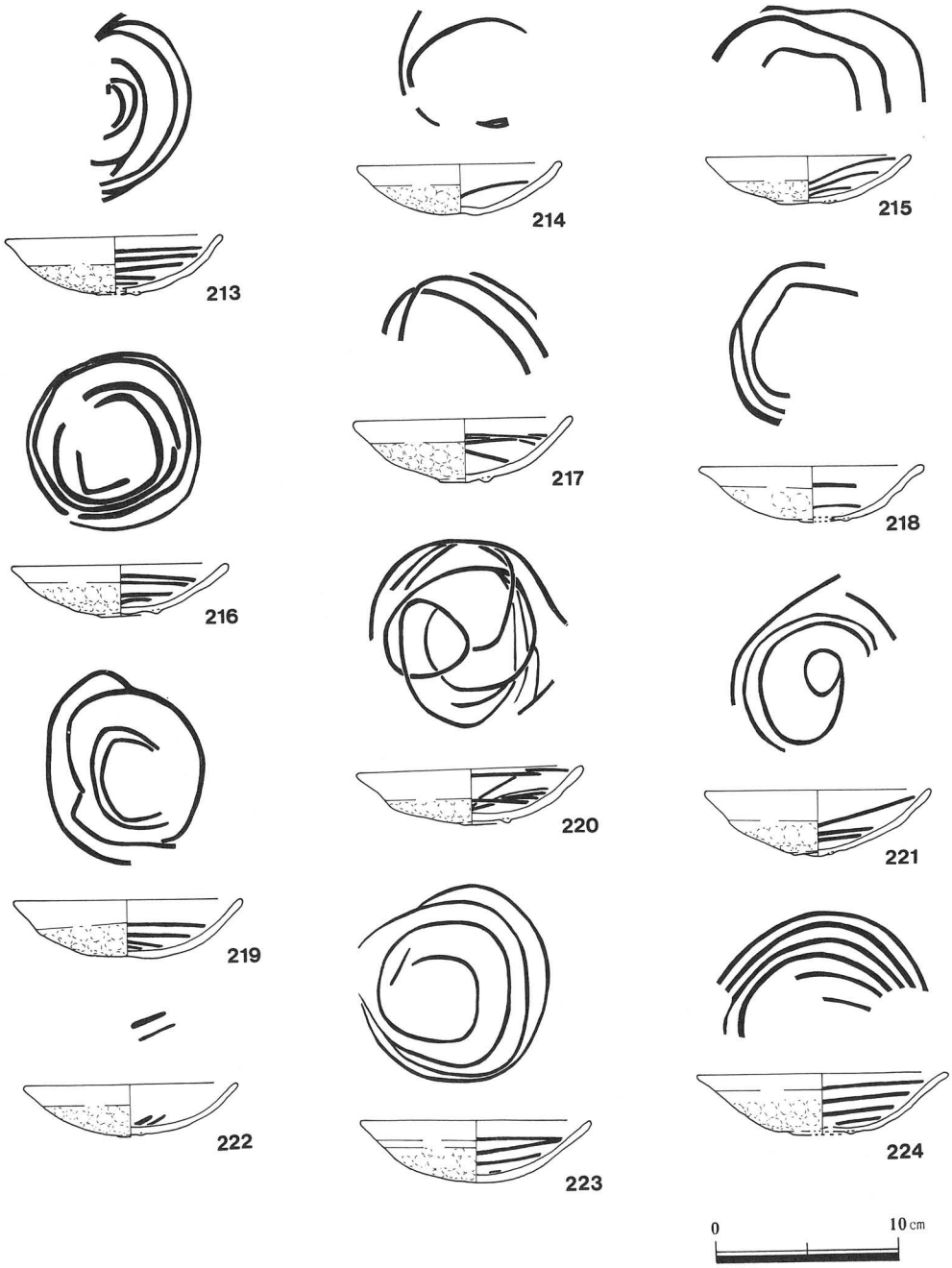



図53　ＳＤ15出土遺物実測図１

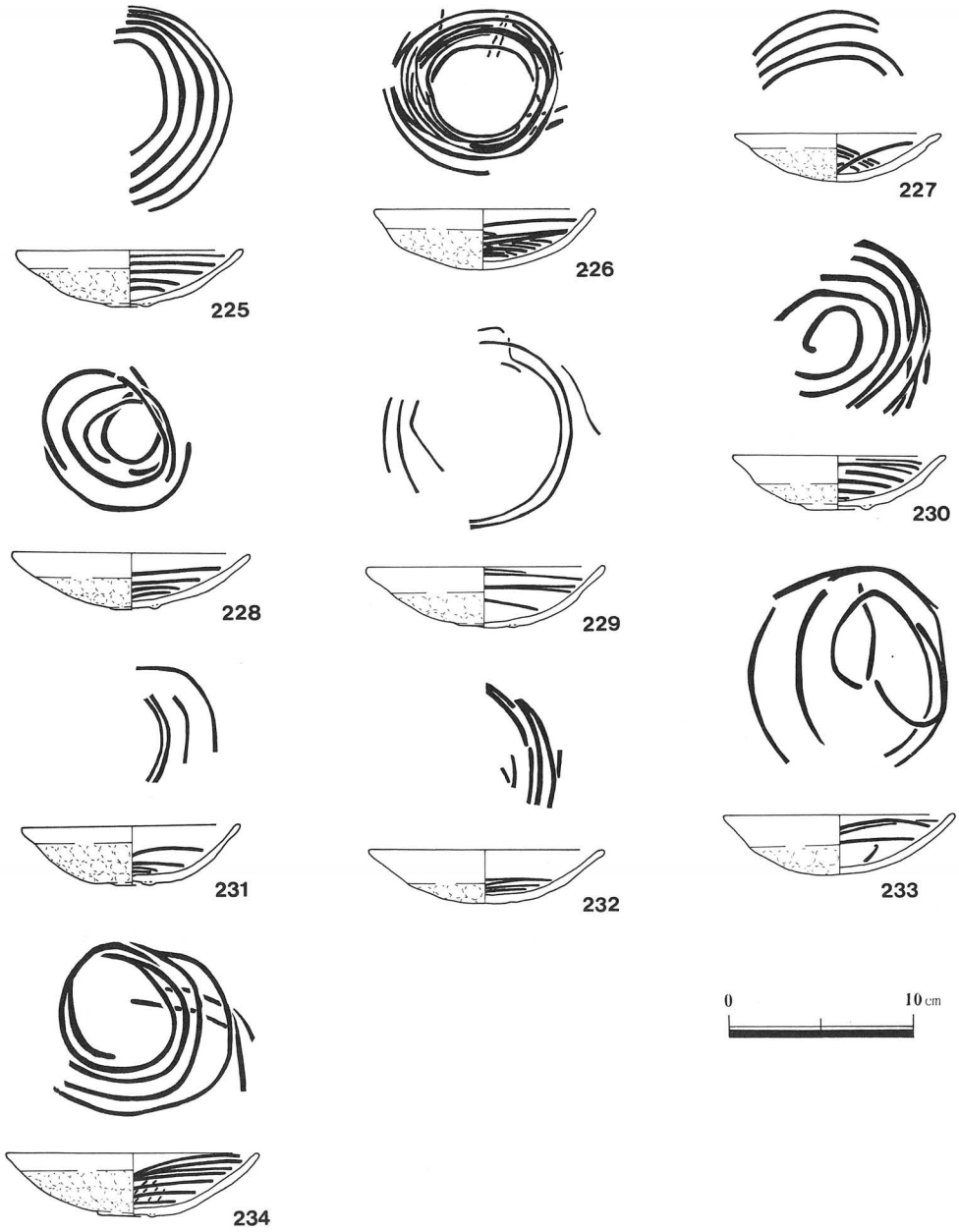



図54　ＳＤ15出土遺物実測図２

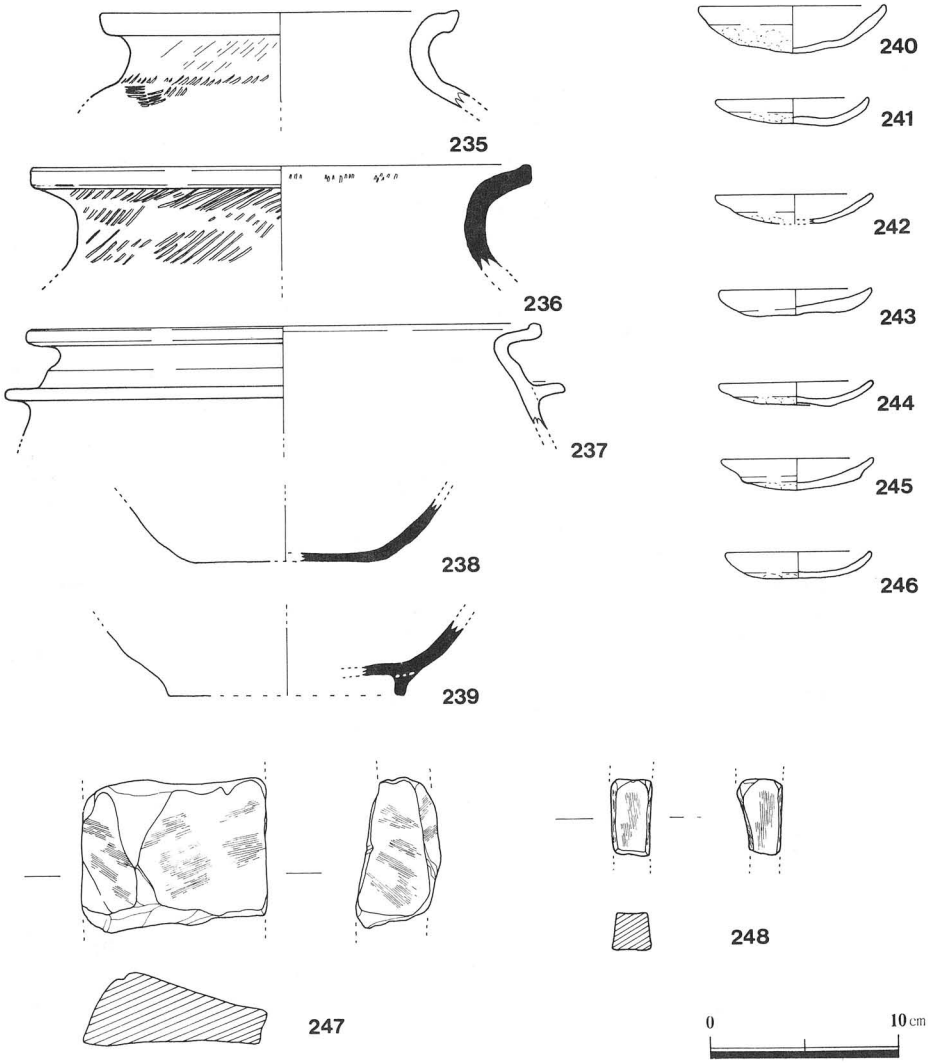



図55　ＳＤ15出土遺物実測図３

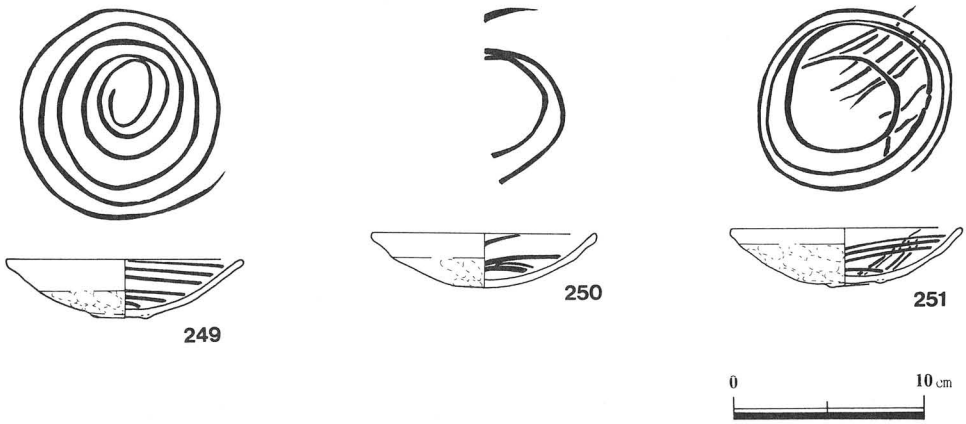



図56　ＳＤ16出土遺物実測図

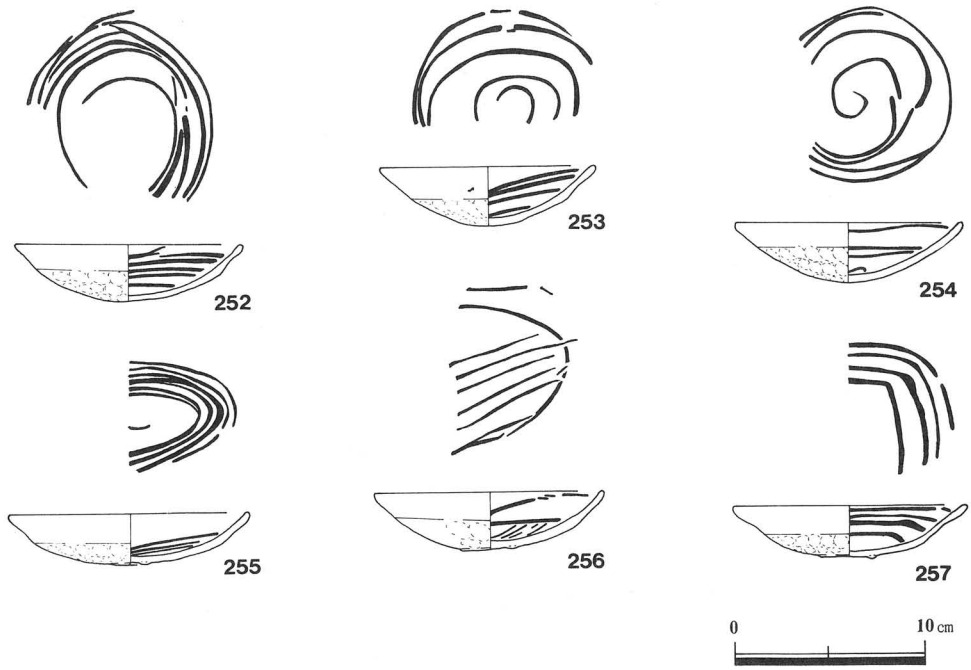



図57　ＳＤ18出土遺物実測図

ＳＤ21

南調査区中央東よりで検出した３本の南北方向の小溝のうち中央の溝で、幅0.6ｍ、検出面からの深さは0.2ｍを測る。

ＳＤ22

南調査区中央東よりで検出した３本の南北方向の小溝のうち西側の溝で、幅0.4ｍ、検出面からの深さは0.1ｍを測る。

## 4．土坑

### ＳＫ１

北調査区西側の北よりで検出した土坑で、南北1.4ｍ、東西1.3ｍの方形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.2ｍを測る。

### ＳＫ２

北調査区西側の中央付近で検出した土坑で、南北4.4ｍ、東西4.4ｍの方形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.6ｍを測る。遺構内には、長さ1.6ｍと1.9ｍの２枚の板材を杭を打って平行に立てて用いた木枠を検出した。埋土からは、瓦器椀、土釜、瓦質鉢が出土している。

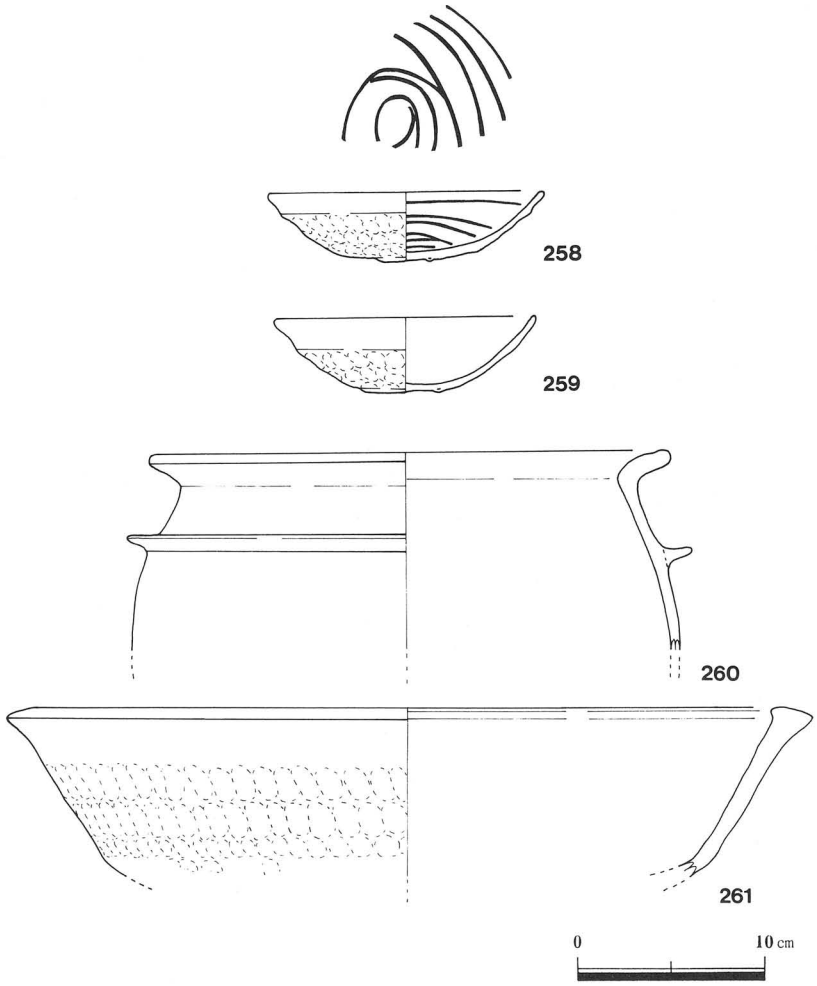



図58　ＳＫ２出土遺物実測図

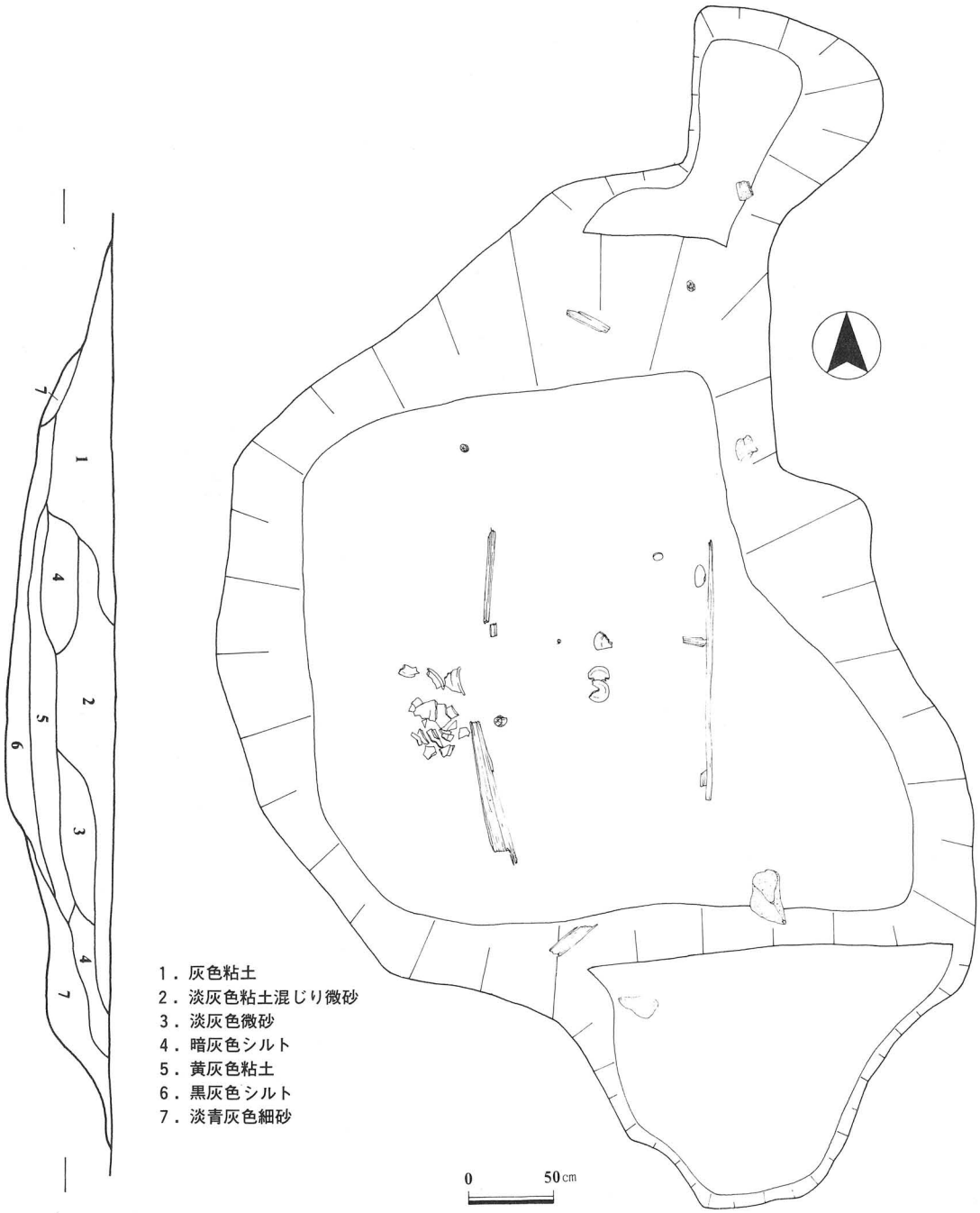



図59　ＳＫ２遺構平面断面図

ＳＫ３

北調査区東側で検出した土坑で、北側は調査区外に至る。東西4.5m以上で平面形は明確にすることができなかった。検出面からの深さは

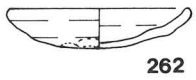



図60　ＳＫ３出土遺物実測図

0.2mを測る。遺構の埋土からは、土師器の皿が出土している。

ＳＫ４

北調査区東側で検出した土坑で、南北1.3m、東西1.5mの不整円形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.4mを測る。出土遺物はほとんどない。

ＳＫ５

北調査区中央付近で検出した土坑で、南北２m以上で南側は調査区外に至る。東西は1.4mで長方形の平面形を呈するものと思われる。検出面からの深さは0.3mを測る。遺構の埋土か

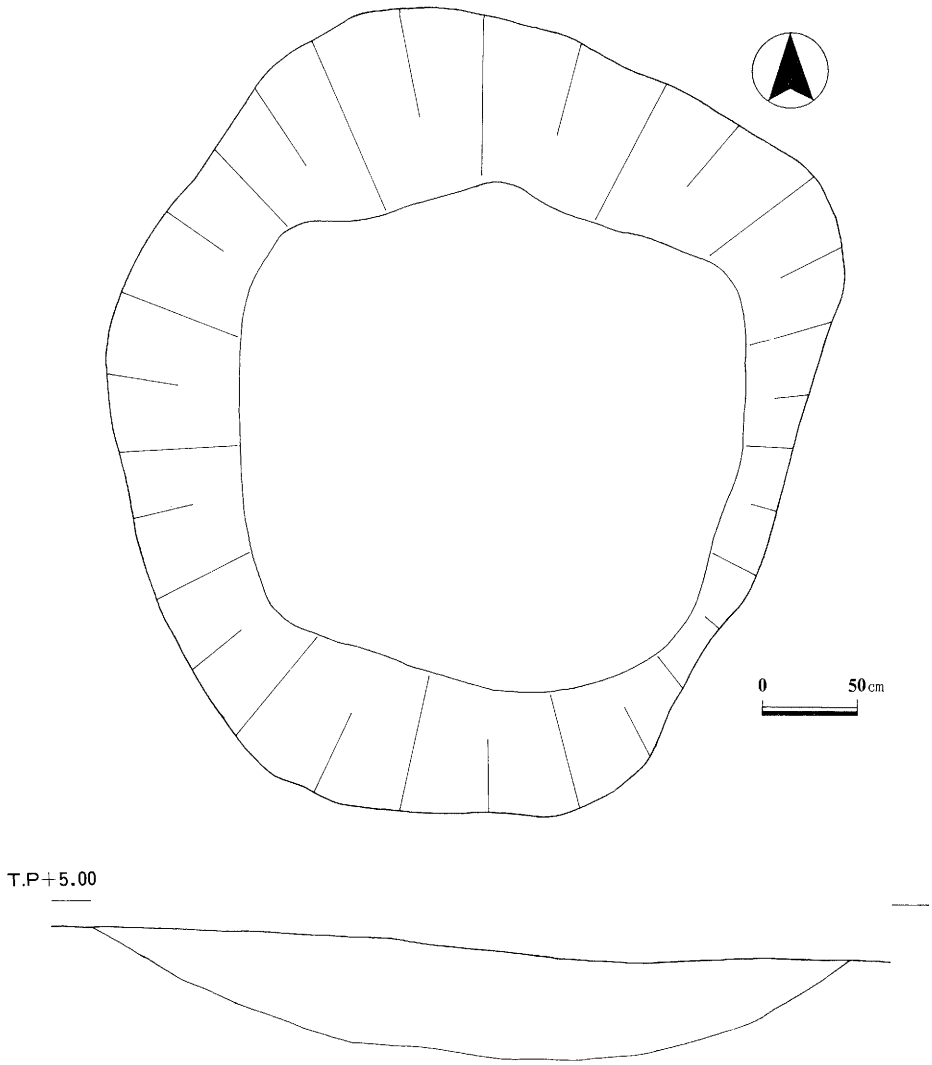



図61　ＳＫ６遺構平面断面図

らは、板状の木材を検出している。

ＳＫ６

南調査区東側で検出した土坑で、南北4.2ｍ、東西3.8ｍの円形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.6ｍを測る。遺構の埋土からは、瓦器椀や土釜が出土している。掘り込みは大きいが井戸であった可能性も考えることができる。

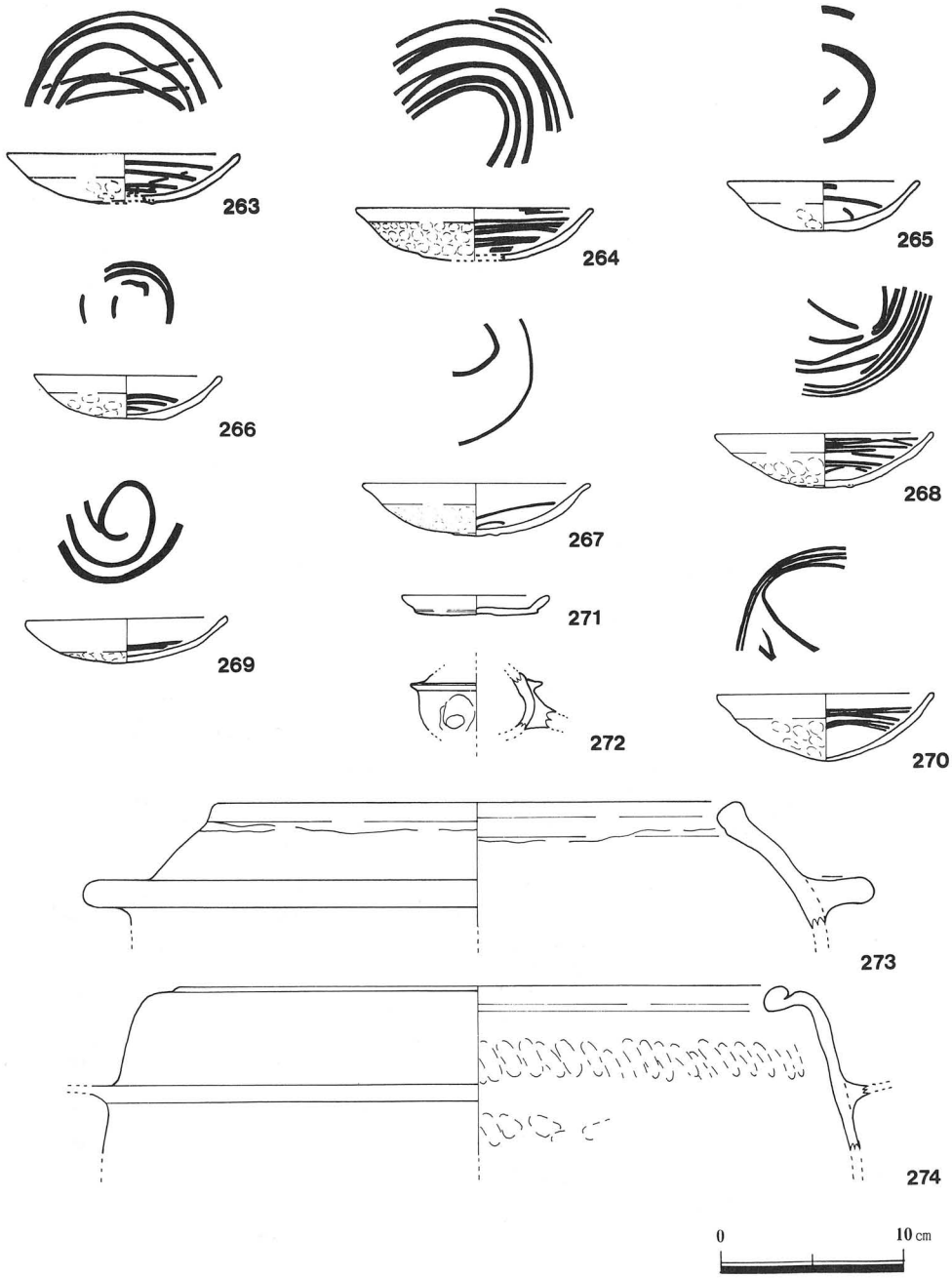
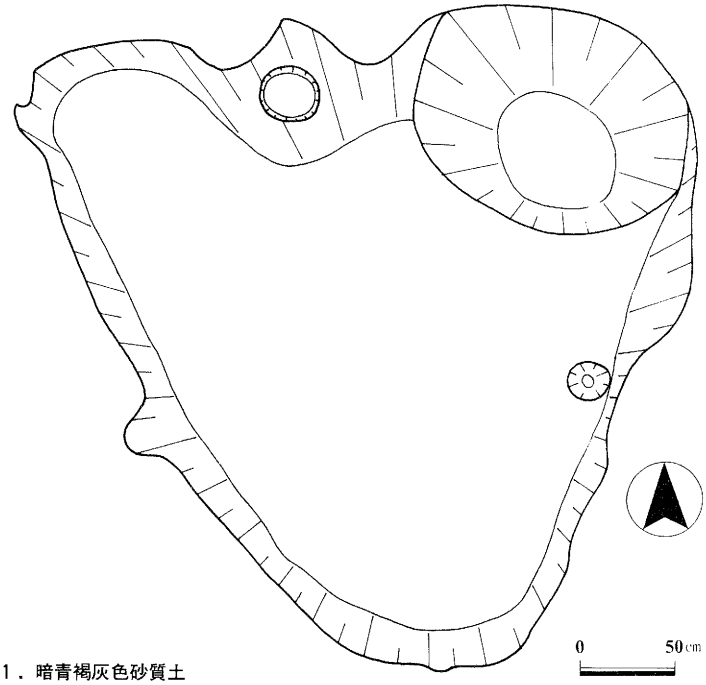



図62　ＳＫ６出土遺物実測図

ＳＫ７

南調査区東側南端で検出した土坑で、南北3.5ｍ、東西3.4ｍの三角形状の平面形を呈する。検出面からの深さは0.2ｍを測る。ＳＥ14に切られており、遺構の底からは、ＳＥ16を検出している。埋土からは、瓦器皿や土師器皿が出土している。




1．暗青褐灰色砂質土
2．淡青灰色細砂と黄灰色細砂の互層
3．淡褐灰色砂質土

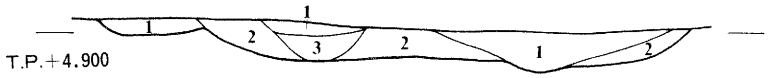



図63　ＳＫ７遺構平面断面図

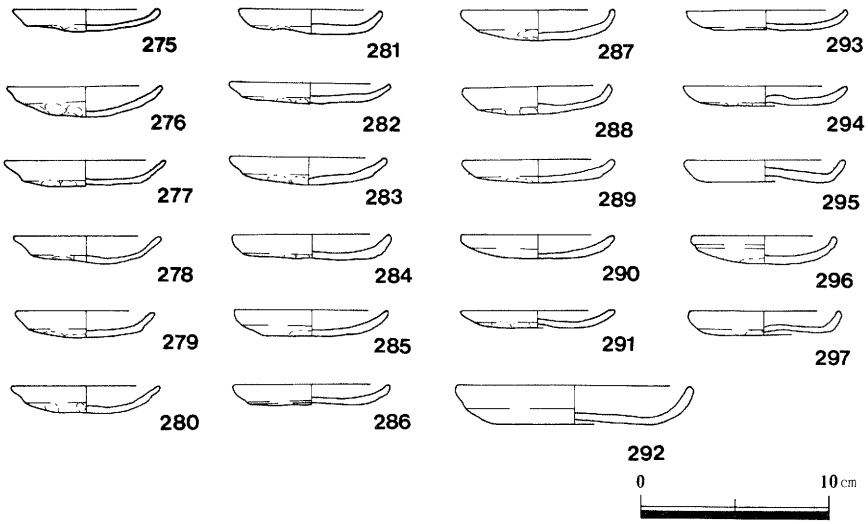



図64　ＳＫ７出土遺物実測図

ＳＫ８

南調査区東側で検出した土坑で、北は調査区外に至る。南北1.8ｍ以上、東西1.9ｍの方形に近い平面形を呈する。検出面からの深さは0.1ｍを測る。遺構埋土からは、土師器皿が１点出土している。

298

図65　ＳＫ８出土遺物実測図

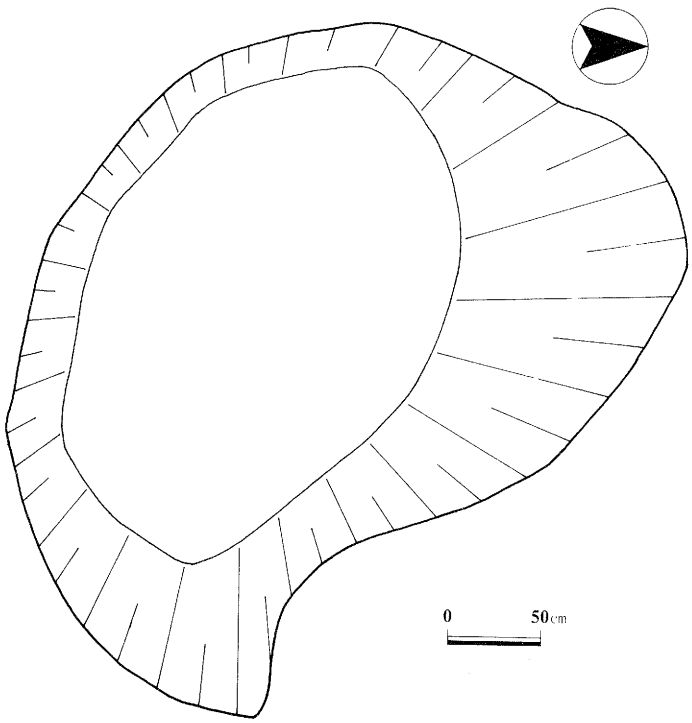
## ５．池状遺構

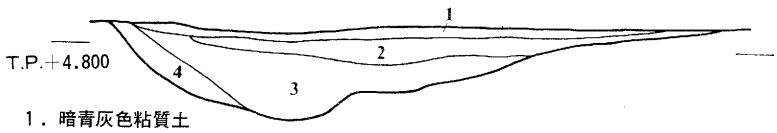
ＳＧ１（ＳＫ９）

南調査区中央北側で検出した池状の遺構で、北側は調査区外に至るが、南北６ｍ以上、東西11.5の不整方形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.4ｍを測る。遺構の埋土からは、瓦器椀、瓦器皿、土師器皿、中国磁器片、砥石が出土している。

ＳＧ２（ＳＫ10）

南調査区中央南側で検出した池状の遺構で、南北3.6ｍ、東西3.7ｍの不整円形の平面形を呈する。検出面からの深さは0.6ｍを測る。遺構の埋土からは、土釜と中国磁器片が出土している。




1．暗青灰色粘質土
2．暗青褐灰色粘質土
3．暗褐灰色粘質土
4．淡灰色微砂

図66　ＳＧ２遺構平面断面図

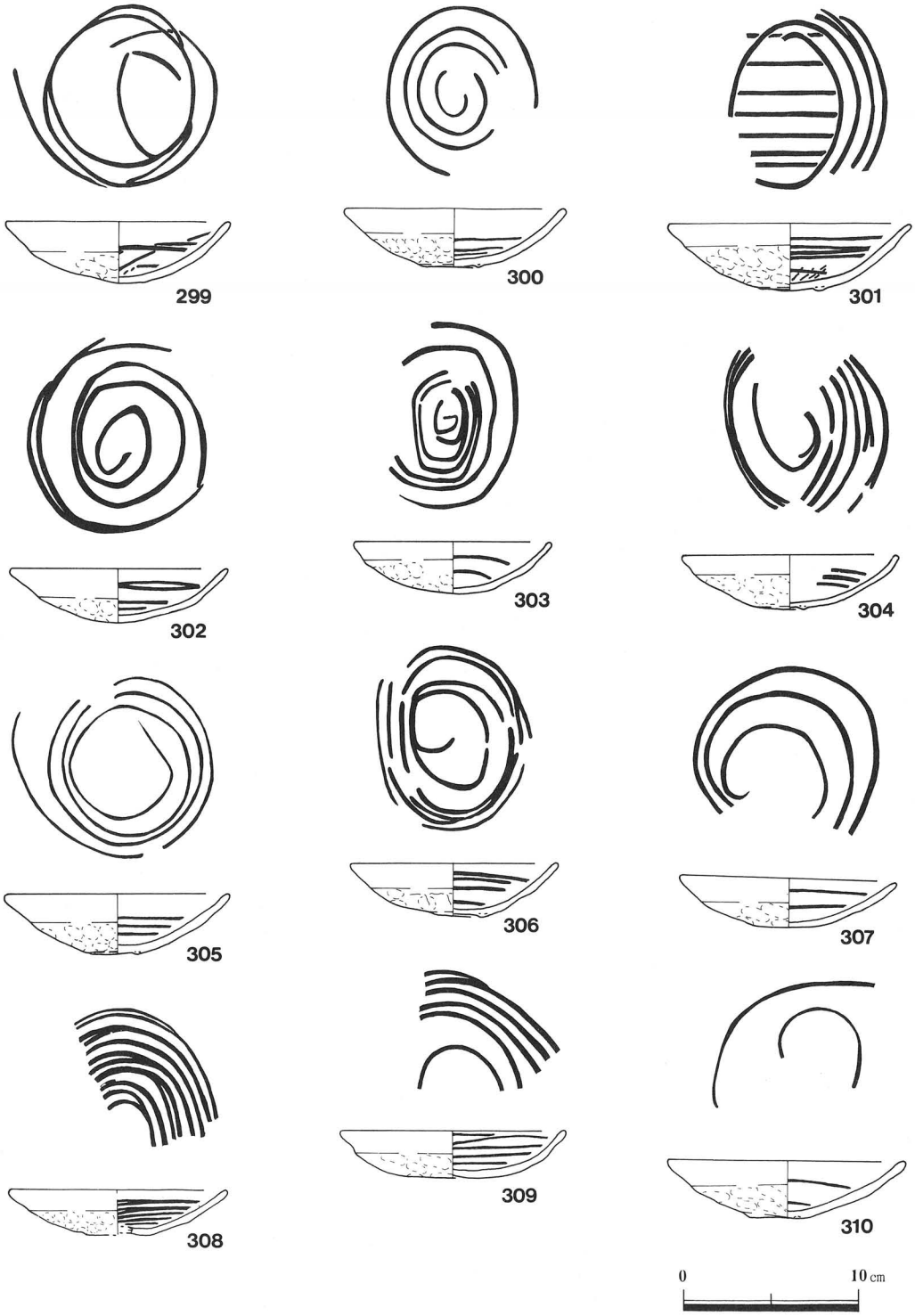



図67　ＳＧ１出土遺物実測図１

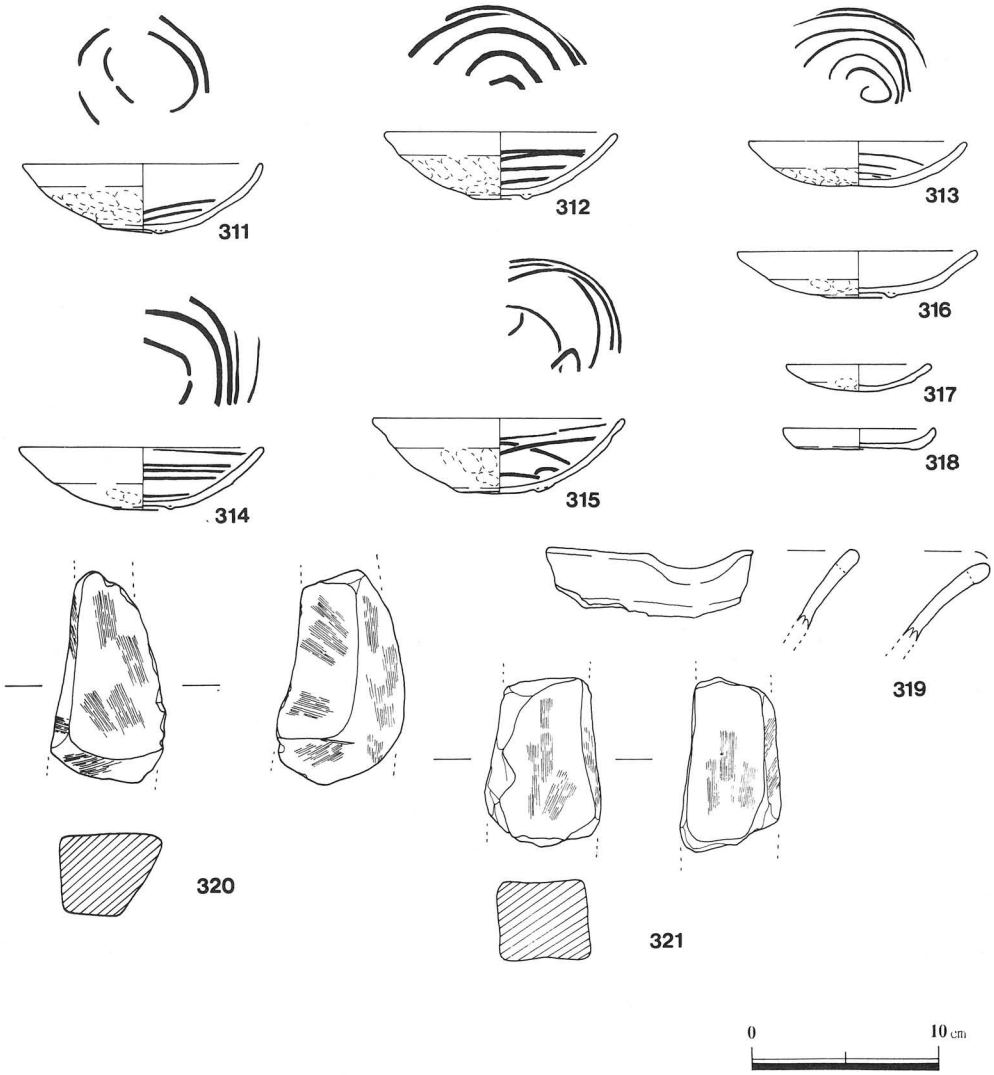



図68　ＳＧ１出土遺物実測図２

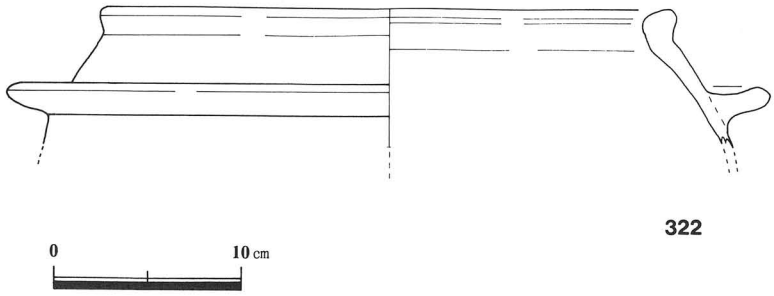



図69　ＳＧ２出土遺物実測図

## 6．道路遺構

### ＳＲ１

北調査区西側の南端と南調査区北拡張部の北端で検出したＳＤ１とＳＤ２によって区画された東西方向の道路で、現在の上之島町北と福万寺南の間の境界線（里界）に一致する。幅約1.8mを測る。

### ＳＲ２

北調査区西側で検出したＳＤ３とＳＤ４によって区画された南北方向の道路で、北側屋敷地の西を区画する。幅は0.6～1.8mを測り、北側が広くなり、南は狭くなってＳＲ３と交わる。

### ＳＲ３

北調査区西側で検出したＳＤ２とＳＤ８によって区画された東西方向の道路で、北側屋敷地の南を区画する。幅は 1.2～ 1.8mを測り、西はＳＲ２と交わって終わる。

### ＳＲ４

南調査区西側で検出したＳＤ19と耕作地と考えられる西側の低地によって区画された南北方向の道路で、南側屋敷地の西を区画する。この道路の延長と思われるものが北調査区のＳＤ９の西に沿って土の違いになってみられ、ＳＲ１と交差するものと考えられる。幅は約1.4mを測る。

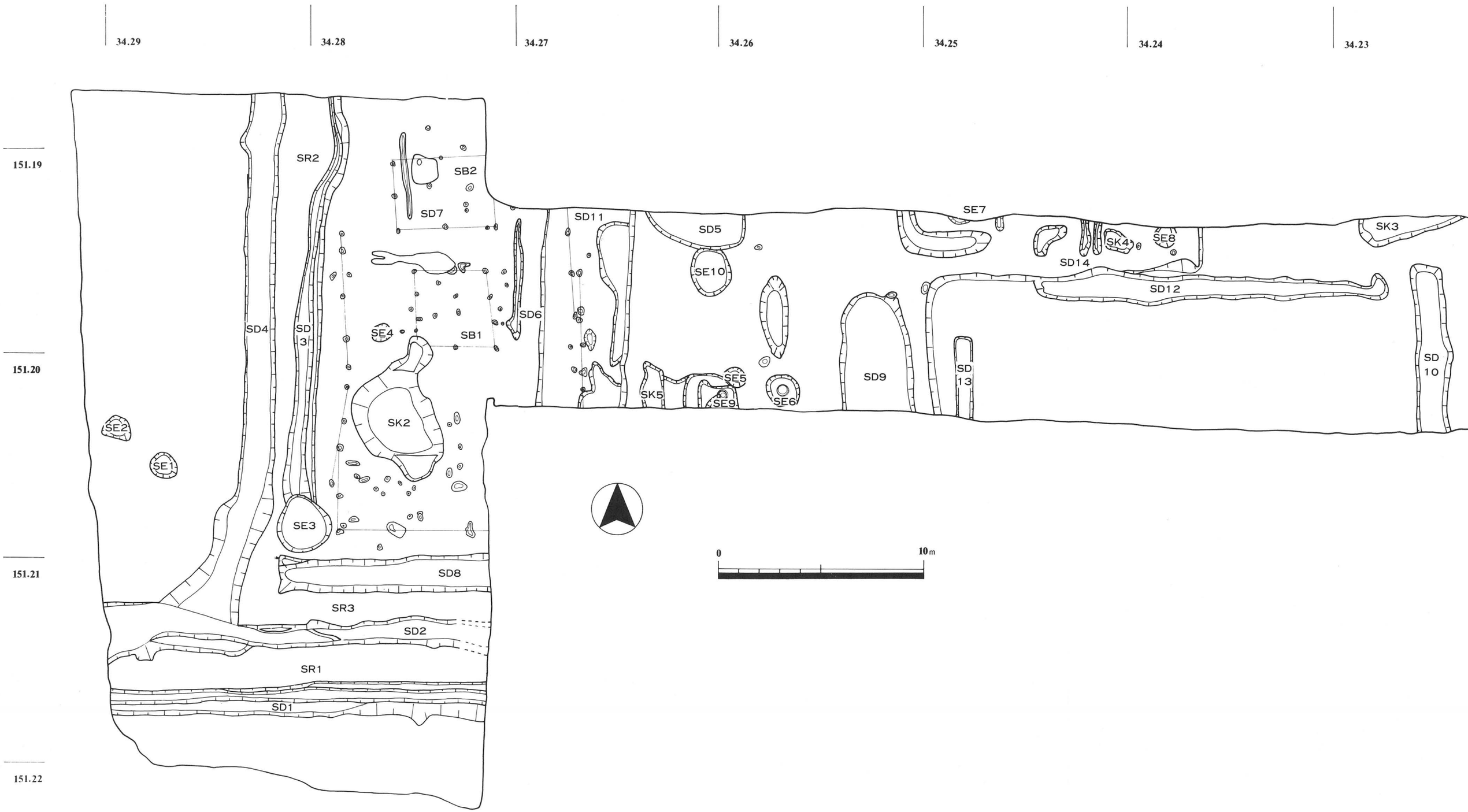



図70　北調査区検出遺構配置図

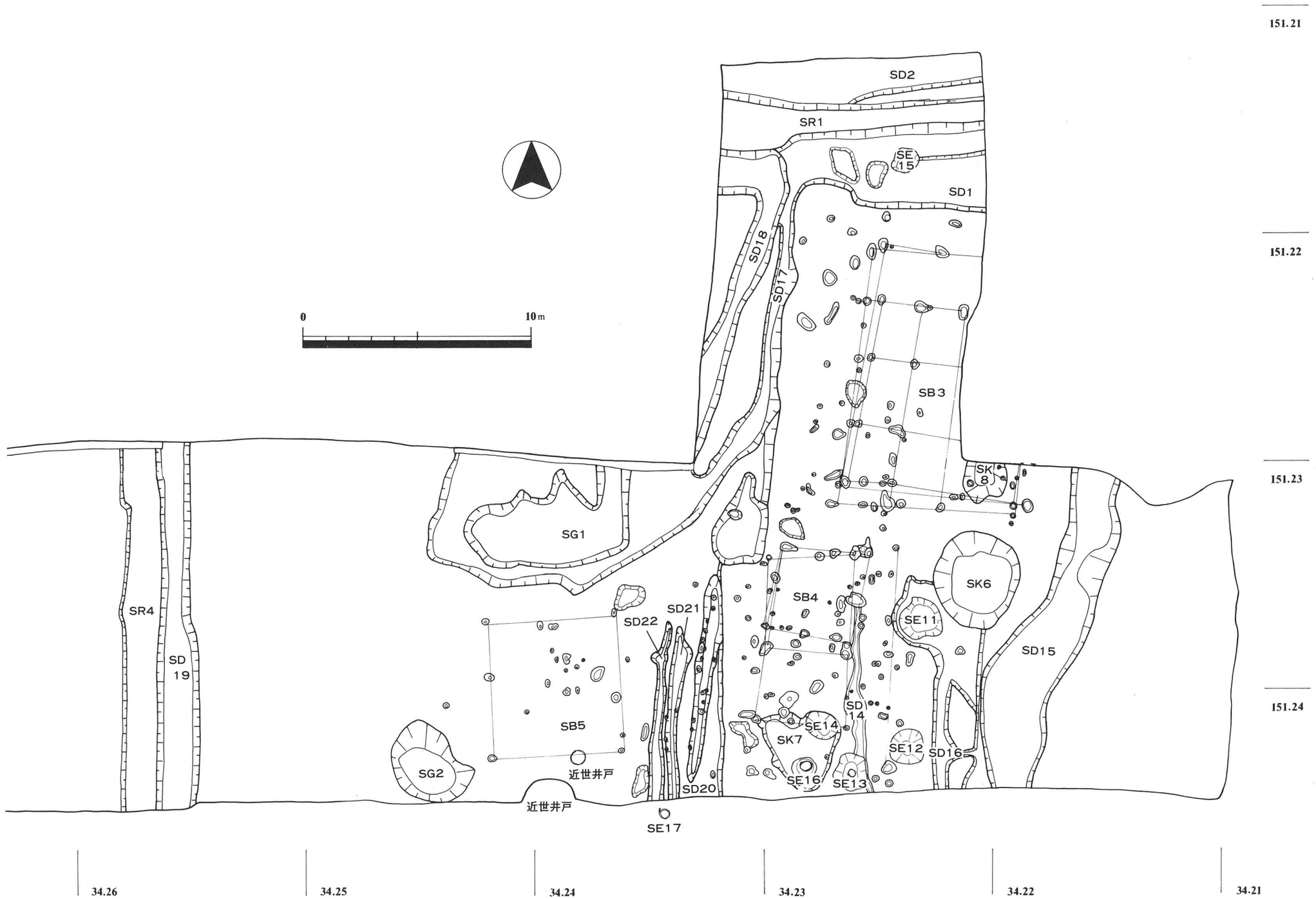



図71　南調査区検出遺構配置図

## Ⅲ　出土遺物

### 1瓦器椀

当遺跡出土の瓦器椀は、その多くが終末期に近いものであり、南河内の瓦器椀の編年に照らすとⅢ－3期～Ⅳ－3期までの瓦器椀が含まれる。器高、高台、見込みの暗文によって4タイプに分類した。

瓦器椀A：器高が高く明瞭な高台が機能し、椀の形態を残すもので、外面の調整は指押さえのみで、へら磨きはすでに見られない。内面の見込みには、やや密な圏線の中に平行暗文が認められる。

瓦器椀B：器高は低く高台は形式的となり退化傾向にある。外面の調整は指押さえで、内面の見込みには、粗雑な圏線の中に平行暗文が見られる。

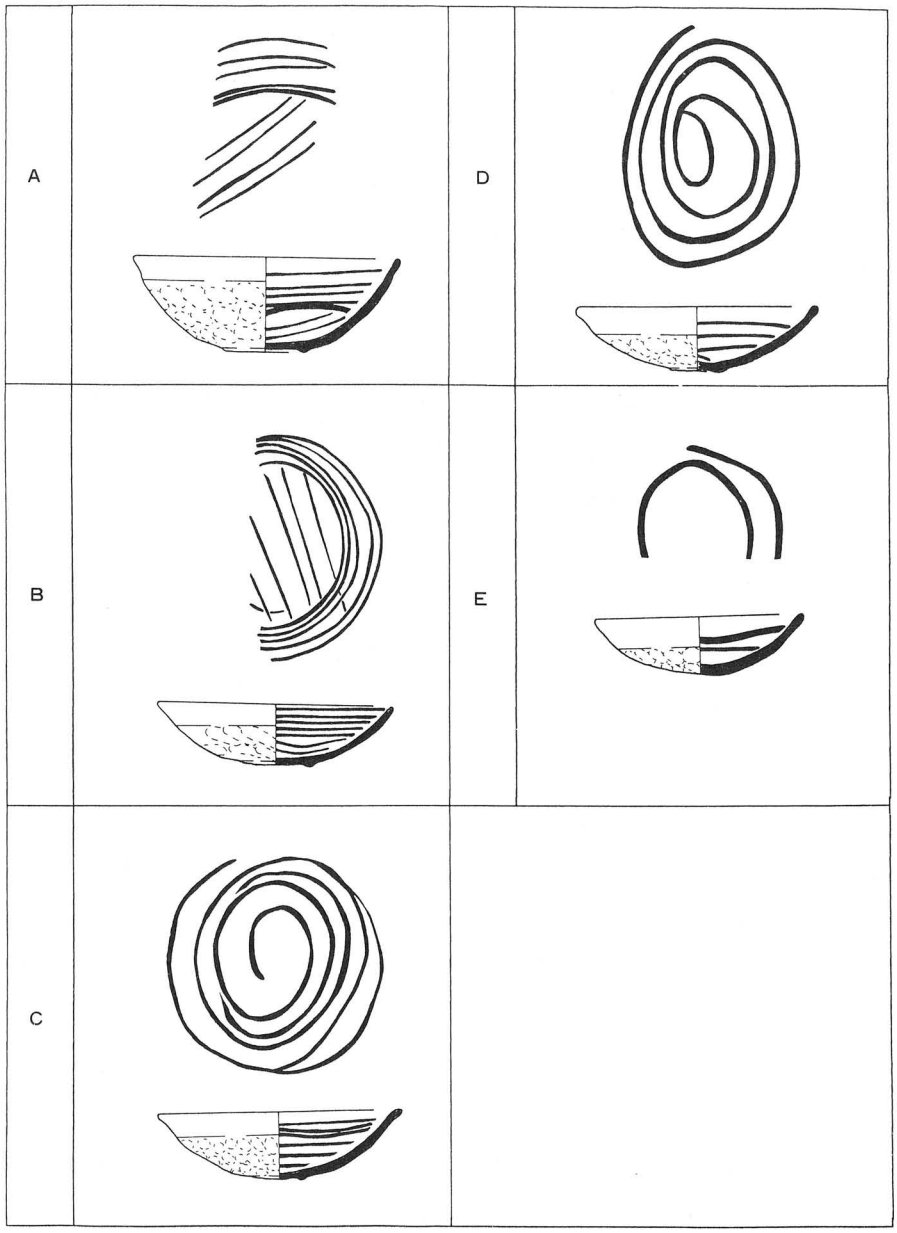
瓦器椀C：器高は低く高台は退化傾向にある。外面の調整は指押さえで、内面の見込みには暗文がなく、渦状の圏線だけとなる。

瓦器椀D：器高は瓦器椀Cよりもさらに低平となり、口径もやや小さい。高台はさらに退化してその機能をなさず完周しないものが多い。外面の調整は指押さえで、内面の見込みは、圏線が退化して渦文になる。

瓦器椀E：器高は低く高台は消滅し、椀の形態をなさない。外面の調整は指押さえで、内面の見込みにはさらに退化した渦文が見られる。

これらは、形式的にA→B→C→D→Eの変遷が考えられるが、当遺跡の遺構での出土状況から共伴例を検討してみると、SE16の井筒内出土のもの（88～90）は、A類（88）とB類（89．90）だけであり、最上層で検出した井戸廃絶後の土器集積（69～87）にはA類B類の他、C類（69．80．85．87）が含まれている。また、SE11はB類（37．41．43．46）とC類（38．40．44）D類（39．42．45）が共伴する。さらにSE16の近接位置に掘削されたと考えられるSE13にはD類（48．50．52．53．54．55）とE類（49．51．56）が共伴する。SE6はE類（3．4）のみである。これに基づいて時期的な遺構の変遷を考えてみると、SE16井筒内→SE16上層→SE11→SE13→SE6の変遷が瓦器の形態変化から伺うことができる。以上のことからみるとSK6はD類（263．267．268）とE類（265．266．269．270）が主体となって共伴することからSE13に並行すると考えられる。他の溝や土坑などの遺構資料は4型式以上にまたがる資料が多く、時期幅があるものと思われるが、層位的な取り上げを行わなかった為に、時期区分を明確にすることができなかった。また、遺跡の廃絶時期に近い為か、総対的にD類、E類に属する瓦器が多く、A類は極めて少ない。

表１瓦器椀形式分類表



## 表２　主要遺構出土瓦器椀形式組成表　（単位％）

| | | | |
|---|---|---|---|
| ＳＥ16 | A 9.1 | B 63.6 | C 27.3 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ＳＥ11 | B 40 | C 30 | D 30 |

| | | |
|---|---|---|
| ＳＥ13 | D 70 | E 30 |

| | | |
|---|---|---|
| ＳＫ６ | D 37.5 | E 62.5 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ＳＤ１ | B 10 | C 20 | D 30 | E 40 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ＳＤ２ | B 12.5 | C 37.5 | D 25 | E 25 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ＳＤ９ | A 17.6 | B 17.6 | C 17.6 | D 41.3 | E 5.9 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ＳＤ15 | B 4.5 | C 4.5 | D 63.6 | E 27.3 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ＳＧ１ | B 5.6 | C 5.6 | D 55.5 | E 33.3 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 遺構総合 | A 4.7 | B 19.6 | C 14.2 | D 37.2 | E 24.3 |

## 2．瓦器皿

径８㎝～９㎝の小皿である。底部は指押さえで口縁部を強く撫でる。見込みの暗文はなく、圏線もＳＤ９の一例（184）を除いて認められない。ＳＥ16（91～98）．ＳＤ９（182～184）．ＳＫ７（275～280）からは、比較的多くの瓦器皿が出土している。

## 3．土師器皿

径10㎝～12㎝の大型の皿と８㎝前後の小皿がある。調整は外面底部に指押さえがみられ、口縁と内面はていねいに撫でている。口縁部は湾曲して立上がり、まるくおさめるものが多い。また、底部は平たく薄いものが多いが、底部中央が盛上がりぎみになるものがＳＥ10（14．16）．ＳＥ11（30）．ＳＥ13（58．60．61）．ＳＤ９（192．189）．ＳＤ11（207）．ＳＤ15（244）．ＳＫ７（291．294．295．297）等の各遺構で若干みられる。

## 4．羽釜

羽釜は、土釜と瓦質の三足釜があり、３タイプに分類した。

羽釜Ａ：「く」の字に外反する口縁部をもつもので、鍔付甕の形状を残す古い形態を示す(22．68．109．110．237．260)。

羽釜Ｂ：口縁端部が肥厚し玉縁状をなすもので、内傾する口縁をもつもの（10．113．115．116．117．273．322）と内湾する口縁をもつもの（112．114．274）がある。

羽釜Ｃ：瓦質の三足釜で口縁は内傾し、端部は面を有する。器高の低い偏平な体部をもつ（21．104．105．107．108．202)。ＳＫ６からは、ミニュチュアの製品（272）が出土している。

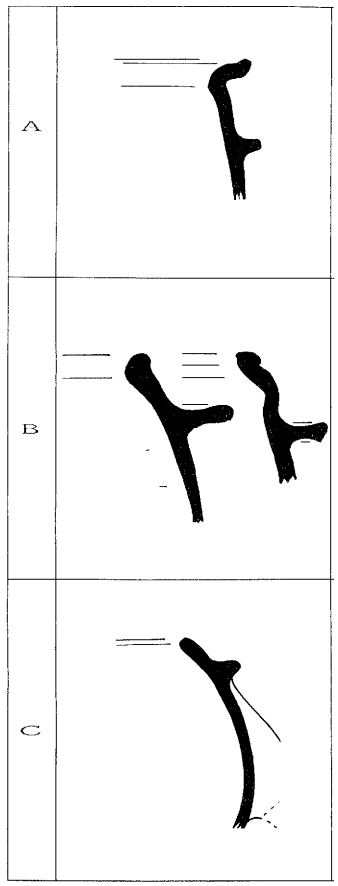



表３　羽釜の形式分類表

## 5．東播系須恵器

兵庫県神戸市の神出、魚住古窯跡群で焼成されたもので、片口鉢、壷、甕がみられる。

片口鉢：口縁部は内湾ぎみに立ち上がり、端部は玉縁状をなす。底部は平たく周縁は円みをもつ。ＳＥ11、ＳＤ９の例（20.203）では、端面が丸みをもち、稜が判然としないがＳＥ16（101.102）の例は他遺構出土例に比し口縁がやや直線的で端面の稜が目立つ。またＳＫ２には、非東播系の瓦質に近い焼成の鉢（261）が出土している。

壷　：ＳＥ６例（506）のみで、口縁部は外反した後垂直な端面をもっておわる。

甕　：ＳＥ16とＳＤ15に見られる（111．235．236）。体部より叩き出した口縁部は大きく外反し、外面に調整痕を残す。端部は面をもつ。

## 6．中国磁器

当遺跡出土の中国磁器には、古いもので12～14世紀頃の時期に比定できるものが認められる。

青白磁：343は反りをもつ青白磁の蓋であり、外面には型造りの花文の浮文がある。淡青色釉は薄く、身受部は露胎である。344は青白磁小壷である。体部外面に蓮弁を削り出し、その上部には列点文を配している。薄めに施釉され、口縁部は露胎である。343の蓋と組み合うものと思われる。345は青白磁の合子である。型造りにより蓮華文を浮き出す。光沢のない淡青色釉は薄く、口縁部は露胎である。

青　磁：346は、外面に薄くつやのない淡灰緑色の釉をほどこされた壷で、肩に２条の沈線を入れた横形の耳を付す。破片のため、耳の数は正確にはわからないが四耳壷であろうと思われる。324～331．334．335．342．347～351．353～356．358．359は、いずれも龍泉窯系青磁碗である。内外面とも無文のもの（329～331．334．347．349．351）、内面に櫛状のもので花文様を施しているもの（353）、内面を２本の沈線によって分割し、その中に飛雲文を施すもの（342）、外面に蓮弁を削り出すもの（328．348．350．355．356．358．359）、見込みに花文様をスタンプするもの（324．327）「福」字をスタンプするもの（325．326）、外面の蓮弁の上に縦櫛目を入れ、さらに内面に花文様を施すもの（354）などが見られる。淡青色または淡緑色を呈する釉が施され、高台部は露胎である。323．339．340は同安窯系青磁皿である。内外面無文のもの（339．340）と内面にいわゆる猫掻き目を有するもの（323）がある。いずれも外面体部下半と底部には施釉されていない。

白　磁：332．333．336．341．351．357は白磁碗、337．338は白磁皿である。やや淡青色を帯びた乳白色の釉調のもの（336）、黄色みを帯びた白色の釉を施すもの（332．333）、そ

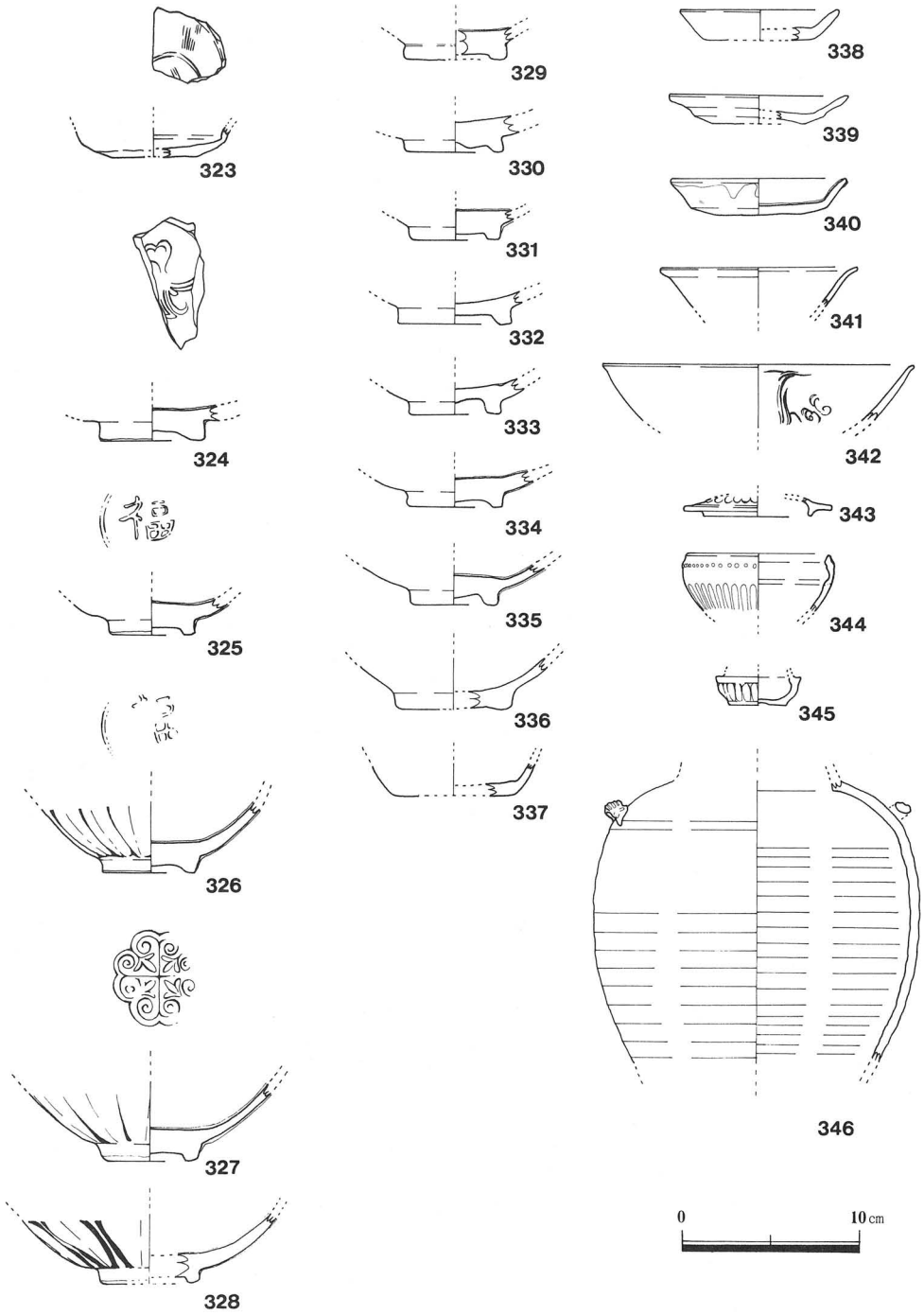



図72　中国磁器実測図 1

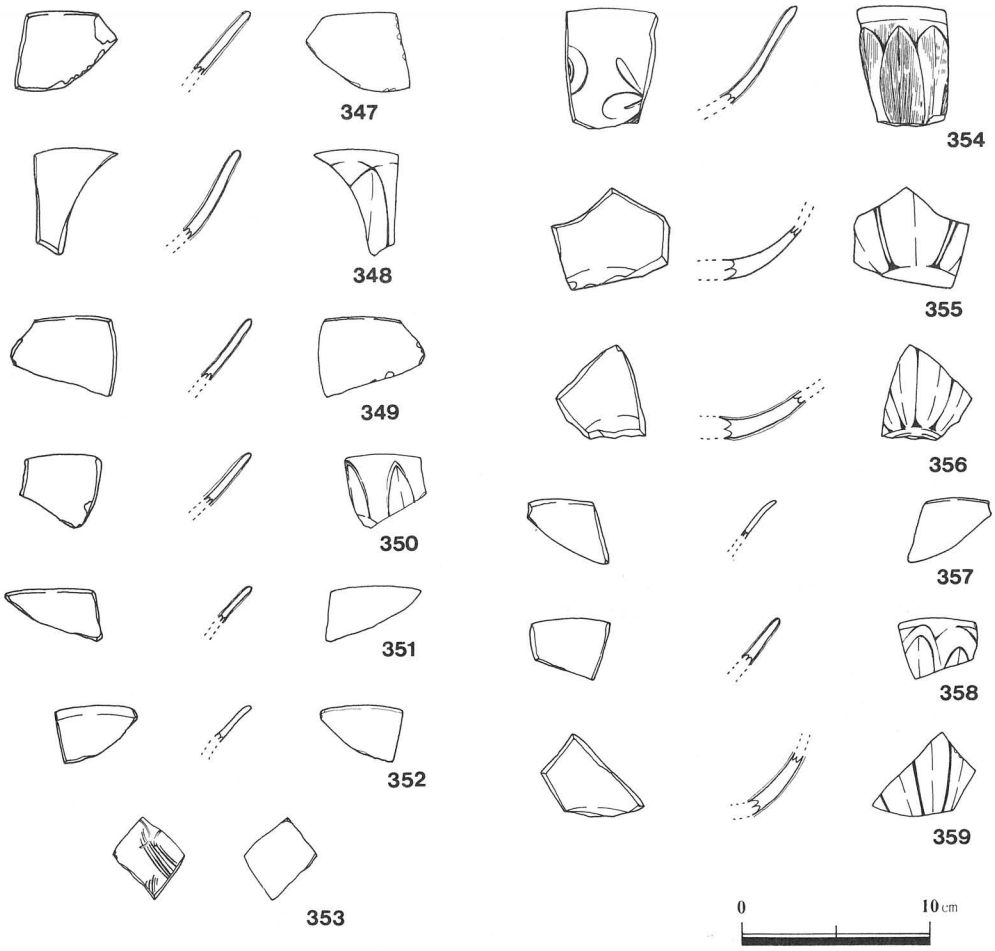



図73　中国磁器実測図 2

して14世紀の白磁の特徴である口縁部を露胎とする「口禿」のもの（338. 341. 351.357）がある。また皿は、底部全体まで釉が施されている。

以上の磁器のうち白磁碗、皿の多くと青白磁の合子（345）壷（344）蓋（343）および薄めに施釉されている青磁碗（330. 342. 353. 355）皿（323. 339）は古相を呈し、12～13世紀頃の時期のものと思われる。

## 7．木製品

木製品は主として溝から出土しているものが多く、井戸と包含層からの出土品もある。下駄、漆器椀、木錘、紡錘車、櫛、用途不明木製品がある。

下駄　：台木に鼻緒の穴を３孔穿つもので、鼻緒の先の穴が中央にあるのが特徴で、左右の区別はない。歯は２枚付し、一木より削り出すもの、差し込み式になっているもの、木釘により接合するものとがある。台木の長さが20～22㎝前後で幅10㎝の大型のものと長さ18㎝以下で幅８㎝の中型のもの、長さ16㎝以下で幅７㎝以下の小型のものとがある。高さは、残存の良いもので、それぞれ3.5㎝、2.5㎝、2.0㎝となる。（369～378）

漆椀　：黒漆の下地に朱漆で文様を描いたもので、三弁の花文を内向きに３枚合せて構成した丸文を配するもの。雷文を施すもの。草花を表すと思われるものがある(360～365)。

木錘　：断面は円形を呈し、中央がくびれ、両端へ逆円錐状に広がる。むしろ編み具と考えら

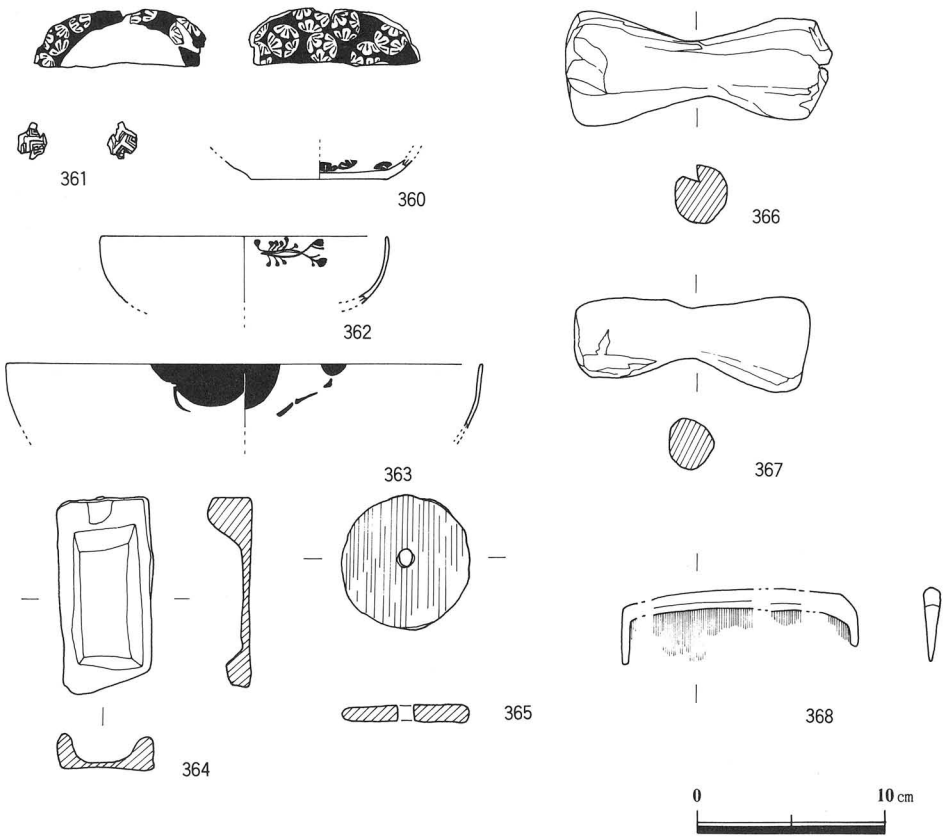



図74　木製品実測図１

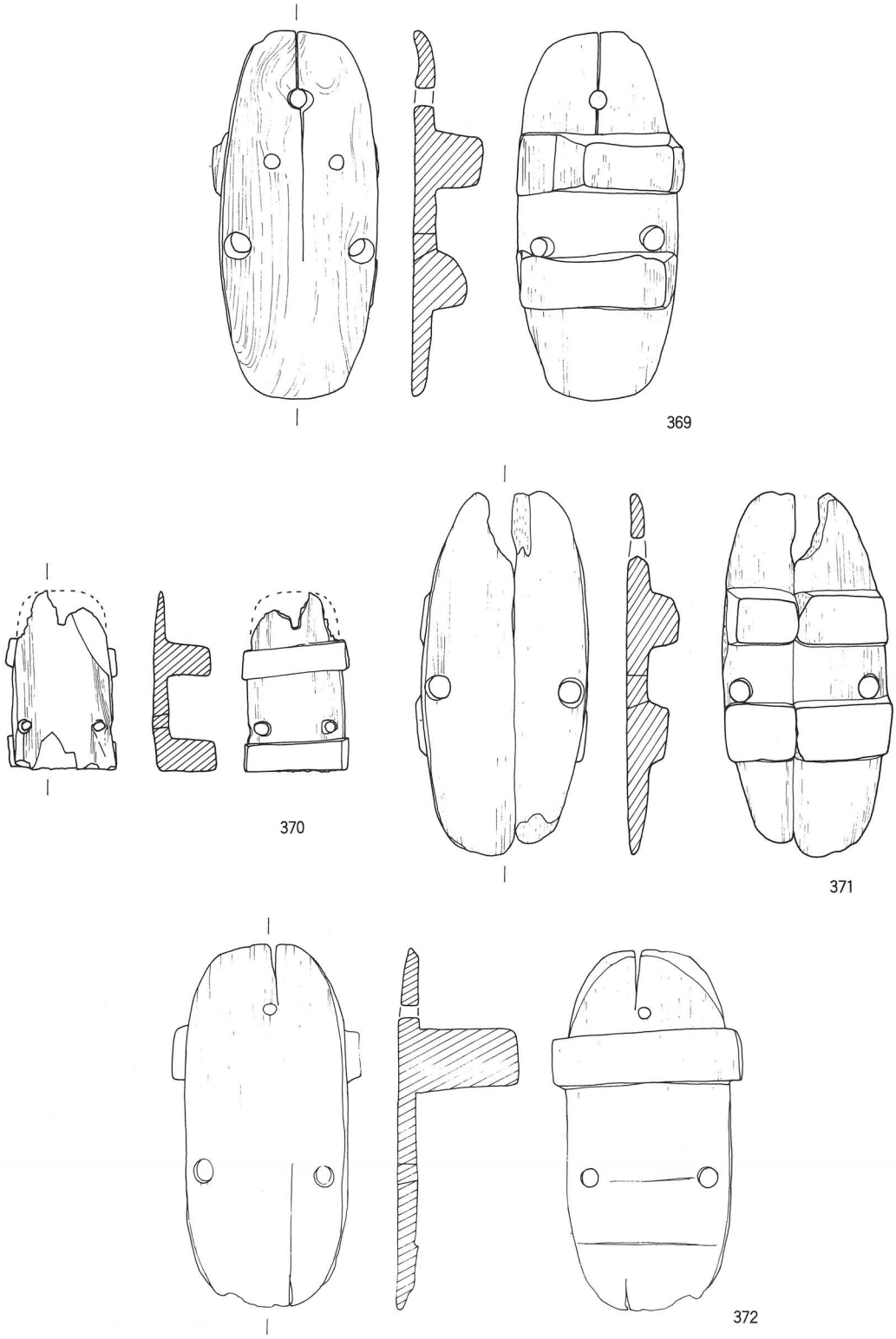



図75　木製品実測図 2

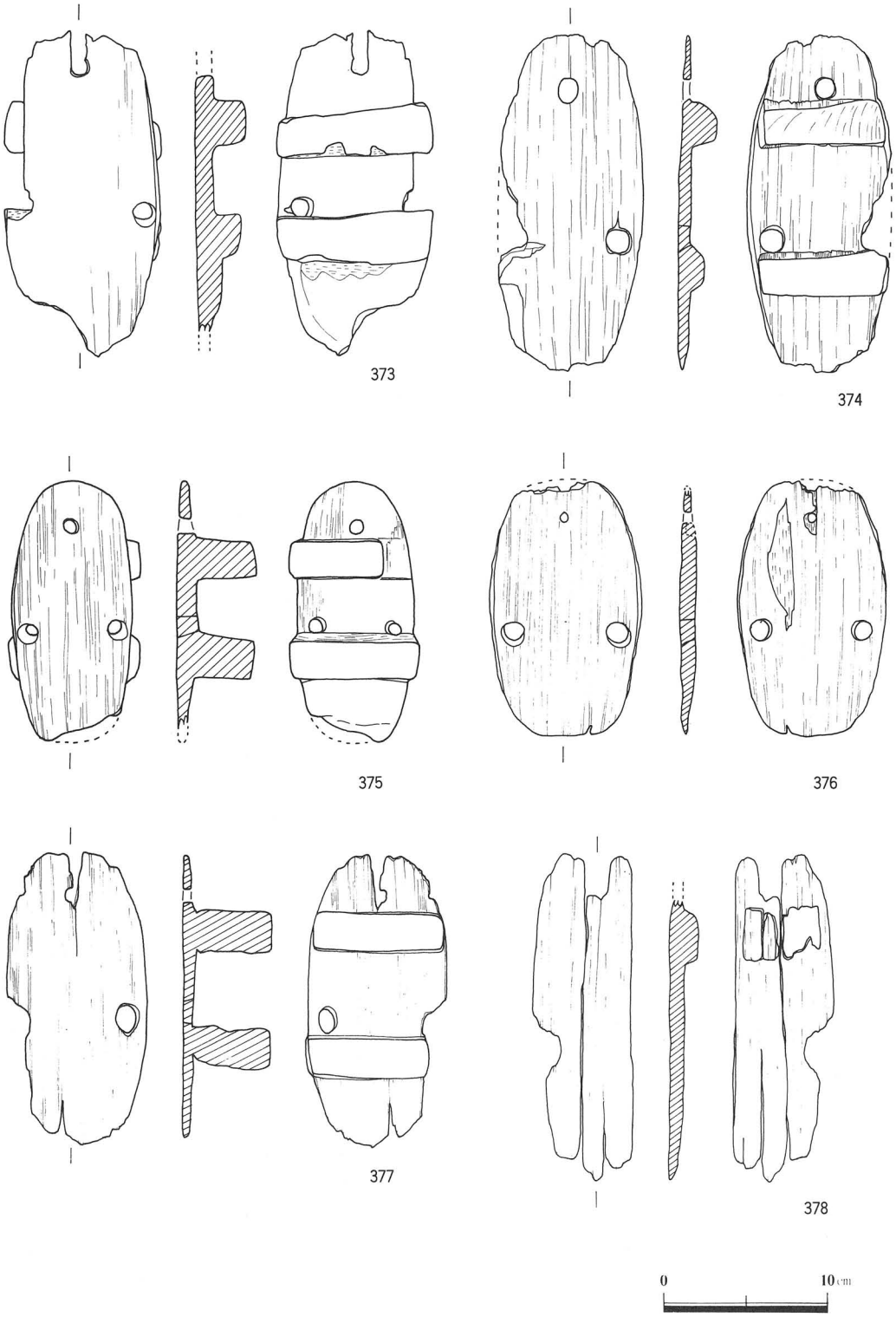



図76　木製品

れる。（366．367）

紡錘車：径７㎝の円盤状に加工された材の中央に８mm程度の穴があけられており、紡錘車として使用されたものであろう。（368）

櫛　　：ＳＥ16より出土したもので、間が欠落するが、両端が残存し１個体分あると思われ、図のように復元できる。断面は、縦長の逆三角を呈するが、背側は円く仕上げている。（378）

## ８．石製品

砥石が殆どであるが、石硯と石鍋が出土している。

石硯　：黒色の粘板岩製の小型のもので、海と陸の差が緩やかである。遺構確認調査実施時に出土した。試掘抗の位置を検討したところ、ＳＤ15に伴っていた可能性が強い。（図３）

石鍋　：暗緑灰色の滑石製のもので、口縁部は不明であるが、平たい円形の底部に上外方に立ち上がる身をもつ。外面には、縦方向に削って成型したノミ跡が顕著に見られる。（137）

砥石　：総て黄白色の流紋岩製で、断面方形を呈し、各面に縦方向の使用痕を残し、中央がくぼむ。

## ９．金属製品

包丁、刀、刀子、鏃、楔、用途不明金具、銅銭などがある。

包丁　：ＳＥ16より出土したもので、身の背側は直線的で面を有する。刃部は弧状をなし、切先は尖る。木製の柄は断面長方形をなし、装着部側が太くなる。（384）

刀　　：直刀の断片であろうと考えられるものが２点出土している。柄に装着する部分は、留孔を有さず先端が尖り差込みになっている。（381.382）

刀子　：背側は直線的で切先は弧状をなし尖がる。いずれも柄との装着部は留孔を有する。（386～388）

鏃　　：先端は四角く尖り、基部は断面円形をなす。柄と装着する茎部は断面

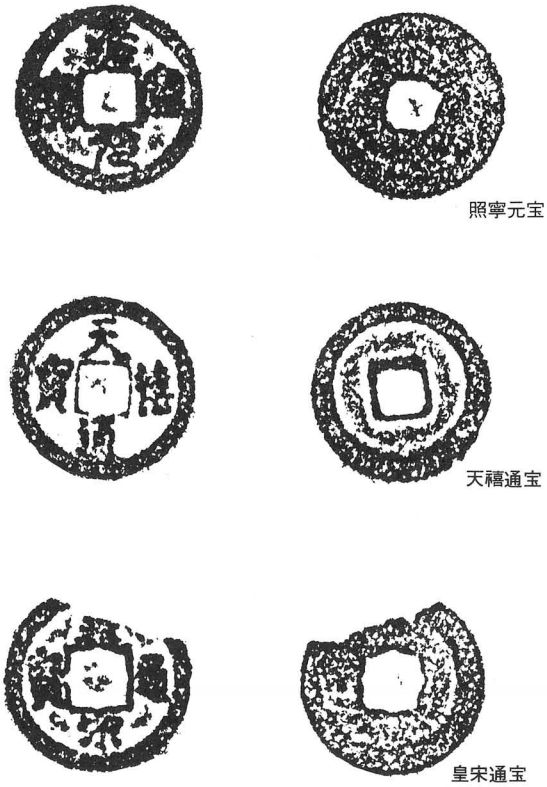



図77　中国銭拓影

方形をなして先端が尖がる。（383）

：断面長方形を呈し、頭は太く、先端は細い。（358）

その他：勾状を呈するものと針状を呈するものがある。（379．380）

銅銭　：いずれも北宋銭で、「天禧通宝」（1017）「熙寧元宝」（1013）「皇宋通宝」（1039）が読取れる。天禧通宝はＳＤ11、他は包含層より出土している。

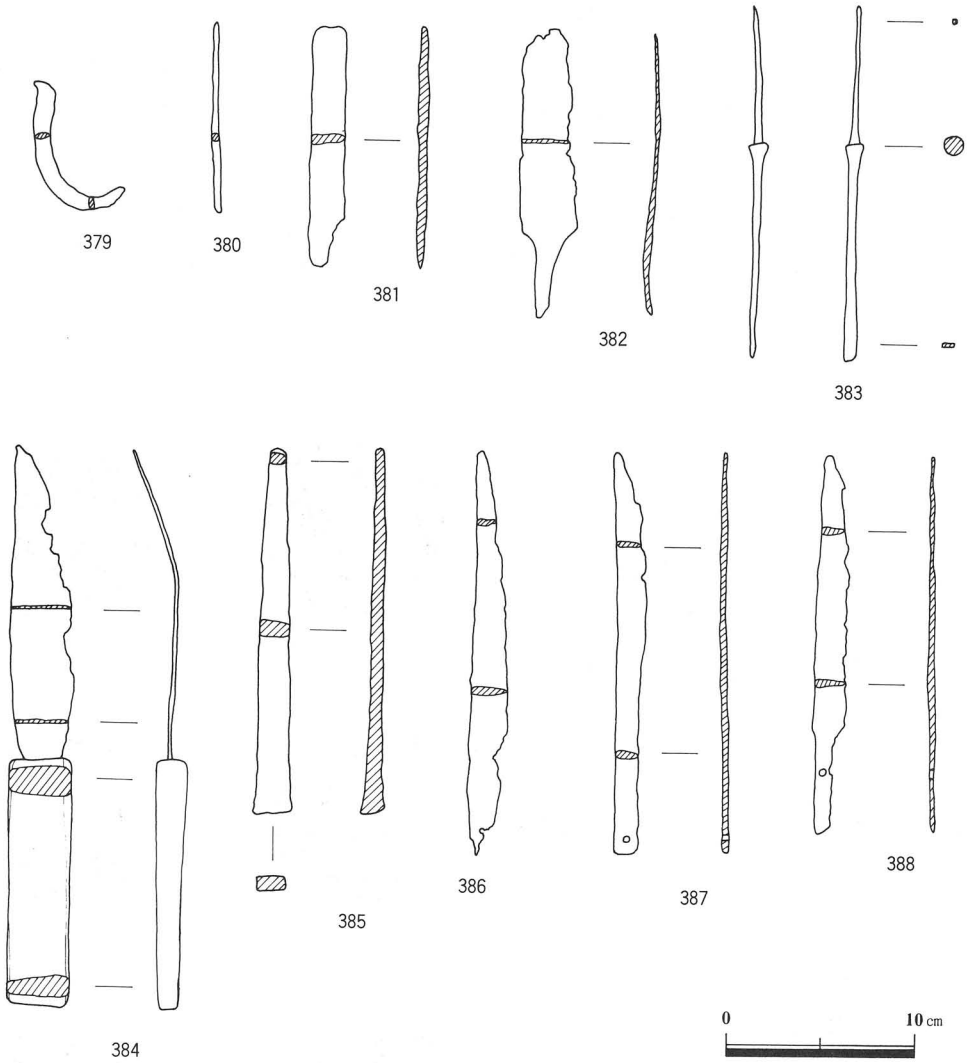



図78　金属製品実測図

## 表4　福万寺遺跡遺構別出土遺物一覧表

| 遺構名 | 瓦器椀 | | | | | 瓦器皿 | 土師皿 | | 羽釜 | | | 東播系 | | 磁器 | | 木製品 | | 石製 | 鉄製品 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | A | B | C | D | E | | 大 | 小 | A | B | C | 鉢 | 他 | 椀 | 他 | 下駄 | 他 | | 刀 | 他 |
| SE3 | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | 1 | |
| SE6 | | | | | 2 | 1 | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | |
| SE8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| SE9 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | |
| SE10 | | 1 | | 1 | 1 | | | 5 | | | | | | 1 | | | 1 | | | |
| SE11 | | 4 | 3 | 3 | | | | 11 | 1 | | 1 | 1 | | | | | | 3 | | |
| SE13 | | | | 7 | 3 | | 1 | 4 | | | | | | | 1 | | | | 1 | 1 |
| SE14 | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| SE16 | 2 | 14 | 6 | | | 8 | | 1 | 2 | 7 | 5 | 2 | 1 | 2 | | | 1 | 1 | | |
| SE17 | | | | 1 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | |
| SD1 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 2 | 1 | 1 | | | | | | 1 | | 1 | 3 | 1 | | |
| SD2 | | 1 | 3 | 2 | 2 | | 1 | 1 | | | | | | | | 1 | | | | |
| SD4 | | | 1 | 1 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | 2 | | |
| SD8 | | | | | | | | 6 | | | | | | | | | | | | |
| SD9 | 3 | 3 | 3 | 7 | 1 | 4 | 4 | 13 | | | 1 | 1 | | | | 2 | | | | |
| SD11 | 1 | 1 | | | 1 | | | 5 | | | | | | | 1 | | | | | |
| SD12 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| SD15 | | 1 | 1 | 14 | 6 | 2 | 1 | 4 | 1 | | | 1 | 2 | | | | | 2 | | |
| SD16 | | 1 | | 1 | 1 | 2 | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| SD18 | | 1 | | 2 | 3 | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| SK2 | 1 | | 1 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| SK3 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | |
| SK6 | | | | 3 | 5 | | | | | 2 | 1 | | | | | | | | | |
| SK7 | | | | | | 6 | 1 | 16 | | | | | | | | | | | | |
| SK8 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | |
| SG1 | | 1 | 1 | 10 | 6 | 1 | | 1 | | | | | | 1 | | | | 2 | | |
| SG2 | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | |

## 表５　遺物観察表１

| 遺物No | 遺構名 | 写真図版 | 器　種 | 残在率 | 口径 | 器高 | 高台径 | 色　調 | 胎　土 | 焼　成 | 技法の特徴 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ＳＥ３ | ＰＬ10 | 土師器皿 | 口縁部一部欠損 | 7.8 | 1.1 | | にぶい灰橙色・橙色 | 0.5～6.0㎜の小石粒 | 良好 | | |
| 2 | ＳＥ３ | ＰＬ10 | 土師器皿 | ½残存 | 8.5 | 1.3 | | 淡灰黄色 | 0.5～1.0㎜の小石粒 | 良好 | | |
| 3 | ＳＥ６ | ＰＬ10 | 瓦器碗 | 口縁部½欠損 | 11.5 | 3.2 | | 暗灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 4 | ＳＥ６ | ＰＬ10 | 瓦器碗 | 完形 | 12.2 | 3.1 | | 黒灰色・灰褐色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 5 | ＳＥ６ | — | 陶器壺 | 口頸部⅓残存 | 13.2 | | | 青緑色 | 0.5～0.3㎜の小石粒 | 良好 | | 施釉 |
| 6 | ＳＥ６ | ＰＬ10 | 瓦器皿 | 口縁部一部欠損 | 8.4 | 1.9 | | 暗灰色 | やや粗 | 窯変あり | | |
| 7 | ＳＥ６ | ＰＬ10 | 砥石 | | | | | 淡灰黄色 | | | | |
| 8 | ＳＥ６ | ＰＬ10 | 曲物 | | 41.2 | | | | | | | |
| 9 | ＳＥ６ | ＰＬ10 | 曲物 | | 38.8 | | | | | | | |
| 10 | ＳＥ９ | ＰＬ11 | 羽釜 | 底部欠損 | 29.0 | | | 橙色・黒褐色 | 0.5～6.0㎜の小石粒 | 良好 | | 外面に煤付着 |
| 11 | ＳＥ10 | ＰＬ11 | 瓦器碗 | ⅓残存 | 12.8 | 3.1 | 3.0 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | 高台は欠落している |
| 12 | ＳＥ10 | ＰＬ11 | 瓦器碗 | ½残存 | 15.0 | 4.2 | 3.4 | 暗灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに平行文 | |
| 13 | ＳＥ10 | ＰＬ11 | 瓦器碗 | ⅓残存 | 13.0 | 2.9 | 4.2 | 暗灰色・灰白色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 14 | ＳＥ10 | ＰＬ12 | 土師器皿 | ½残存 | 8.6 | 1.0 | | 淡灰黄色 | 0.5～3.0㎜の小石粒 | 良好 | | |
| 15 | ＳＥ10 | ＰＬ12 | 土師器皿 | 完形 | 8.0 | 1.1 | | 淡灰橙色・橙色 | 0.5～1.0㎜の小石粒 | 良好 | | |
| 16 | ＳＥ10 | ＰＬ12 | 土師器皿 | ½残存 | 8.0 | 1.2 | | 灰黄橙色 | 0.5～2.0㎜の小石粒 | 良好 | | |
| 17 | ＳＥ10 | ＰＬ12 | 土師器皿 | 口縁部一部欠損 | 7.6 | 1.1 | | 灰黄橙色 | 0.5～1.0㎜の小石粒 | 良好 | | |
| 18 | ＳＥ10 | ＰＬ12 | 土師器皿 | 口縁部⅓欠損 | 8.4 | 1.2 | | 淡灰黄色 | 0.5㎜以下の小石粒 | 良好 | | |
| 19 | ＳＥ10 | ＰＬ11 | 砥石 | | | | | 淡灰黄色 | | | | |
| 20 | ＳＥ11 | — | ねり鉢 | ⅓残存 | 28.8 | 10.1 | | 暗灰色・灰色 | 1.0～4.0㎜の小石粒 | 良好 | | |
| 21 | ＳＥ11 | — | 三足釜 | 口縁部⅓残存 | 22.8 | | | 黒色 | 1.0～5.0㎜の小石粒 | 良好 | | 外・内面に煤付着 |
| 22 | ＳＥ11 | — | 羽釜 | 口縁部¼残存 | 32.4 | | | 暗橙色・暗褐色・黒色 | 0.5～1.0㎜の小石粒 | 良好 | | 内面に煤付着 |
| 23 | ＳＥ11 | ＰＬ14 | 瓦器皿 | ½残存 | 8.2 | 1.3 | | 黒灰色 | やや粗 | 良好 | | |
| 24 | ＳＥ11 | ＰＬ14 | 瓦器皿 | 口縁部一部欠損 | 8.0 | 1.6 | | 黒灰色 | 精良 | 良好 | | |
| 25 | ＳＥ11 | ＰＬ13 | 土師器皿 | 完形 | 8.2 | 1.4 | | 灰黄褐色 | 0.5～1.0㎜の小石粒 | 良好 | | |
| 26 | ＳＥ11 | ＰＬ13 | 土師器皿 | 完形 | 8.2 | 1.1 | | 淡灰橙色 | 0.5～6.0㎜の小石粒 | 良好 | | |

## 表6　遺物観察表2

| 遺物No | 遺構名 | 写真図版 | 器　種 | 残在率 | 口径 | 器高 | 高台径 | 色　調 | 胎　土 | 焼　成 | 技法の特徴 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 27 | SE11 | PL13 | 土師器皿 | 口縁部一部欠損 | 8.0 | 1.3 | | 淡灰橙色 | 0.5～1.0mmの小石粒 | 良好 | | |
| 28 | SE11 | PL13 | 土師器皿 | 完形 | 8.0 | 1.7 | | 淡灰橙色 | 0.5～2.0mmの小石粒 | 良好 | | |
| 29 | SE11 | PL13 | 土師器皿 | 口縁部⅓欠損 | 7.6 | 1.5 | | 淡灰橙色 | 0.5～1.0mmの小石粒 | 良好 | | |
| 30 | SE11 | PL13 | 土師器皿 | ⅓残存 | 7.8 | 1.1 | | 淡黄褐色 | 0.5～1.0mmの小石粒 | 良好 | | |
| 31 | SE11 | PL13 | 土師器皿 | 口縁部½欠損 | 8.1 | 1.2 | | 淡灰橙色 | 0.5～1.0mmの小石粒 | 良好 | | |
| 32 | SE11 | PL13 | 土師器皿 | ½残存 | 8.3 | 1.3 | | 灰黄褐色 | 0.5～1.0mmの小石粒 | 良好 | | |
| 33 | SE11 | PL13 | 土師器皿 | ½残存 | 9.0 | 1.6 | | 淡黄褐色 | 0.5～1.0mmの小石粒 | 良好 | | |
| 34 | SE11 | PL14 | 砥石 | | | | | 淡灰橙色 | | | | |
| 35 | SE11 | PL14 | 砥石 | | | | | 淡灰橙色 | | | | |
| 36 | SE11 | PL14 | 砥石 | | | | | 淡灰黄色 | | | | |
| 37 | SE11 | PL15 | 瓦器碗 | ¼欠損 | 13.9 | 3.7 | 3.7 | 暗灰色・灰白色 | 精良 | | 見込みに平行文 | |
| 38 | SE11 | PL15 | 瓦器碗 | 完形 | 12.8 | 3.7 | 2.5 | 暗灰色・黒灰色・灰白色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 39 | SE11 | PL15 | 瓦器碗 | ¼欠損 | 12.4 | 3.3 | 2.7 | 暗灰色・灰白色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 40 | SE11 | PL14 | 瓦器碗 | ½残存 | 13.8 | 3.6 | 4.4 | 暗灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 41 | SE11 | PL15 | 瓦器碗 | ½残存 | 13.2 | 3.1 | 2.8 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに平行文 | |
| 42 | SE11 | PL15 | 瓦器碗 | ½残存 | 13.4 | 3.1 | 4.2 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | 高台は欠落している |
| 43 | SE11 | PL14 | 瓦器碗 | ⅓残存 | 13.8 | 3.8 | 2.5 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに平行文 | |
| 44 | SE11 | PL15 | 瓦器碗 | ½残存 | 13.3 | 3.6 | 3.0 | 暗灰色・淡灰色 | やや粗 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 45 | SE11 | PL15 | 瓦器碗 | 完形 | 13.1 | 3.4 | 3.4 | 黒灰色 | やや粗 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 46 | SE11 | PL15 | 瓦器碗 | ⅓残存 | 12.0 | 3.6 | 2.8 | 淡黒灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに平行文 | |
| 47 | SE11 | PL15 | 瓦質ねり鉢 | 口縁部⅙残存 | 19.4 | | | 黒灰色 | やや粗 | 良好 | | |
| 48 | SE13 | PL17 | 瓦器碗 | 口縁部½欠損 | 11.8 | 3.2 | 2.8 | 黒灰色・淡灰色 | やや粗 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 49 | SE13 | PL17 | 瓦器碗 | ½残存 | 11.0 | 3.1 | | 黒灰色・淡灰褐色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 50 | SE13 | PL17 | 瓦器碗 | ½残存 | 12.2 | 3.1 | 2.5 | 暗灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 51 | SE13 | － | 瓦器碗 | ⅓残存 | 12.2 | 2.8 | | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに平行文 | 高台なし |

## 表７　遺物観察表３

| 遺物No | 遺構名 | 写真図版 | 器　種 | 残在率 | 口径 | 器高 | 高台径 | 色　調 | 胎　土 | 焼　成 | 技法の特徴 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 52 | ＳＥ13 | ＰＬ17 | 瓦器碗 | 口縁部¼欠損 | 12.0 | 3.1 | 3.1 | 黒灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 53 | ＳＥ13 | ＰＬ16 | 瓦器碗 | 完形 | 12.5 | 3.4 | 2.1 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 54 | ＳＥ13 | ＰＬ17 | 瓦器碗 | 完形 | 12.7 | 3.2 | 2.7 | 暗灰色・灰白色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 55 | ＳＥ13 | ＰＬ17 | 瓦器碗 | 完形 | 12.6 | 3.5 | 2.6 | 黒灰色・暗青灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 56 | ＳＥ13 | ＰＬ16 | 瓦器碗 | ⅙欠損 | 13.0 | 2.7 | | 黒灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 57 | ＳＥ13 | ＰＬ17 | 瓦器碗 | 口縁部⅓残存 | 12.8 | 3.0 | 4.3 | 暗灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 58 | ＳＥ13 | ＰＬ16 | 土師器皿 | ¼残存 | 7.4 | 1.2 | | 橙色 | 0.5～1.0mmの小石粒 | 良好 | | |
| 59 | ＳＥ13 | ＰＬ16 | 土師器皿 | 完形 | 7.9 | 1.3 | | 灰黄橙色 | 0.5～2.0mmの小石粒 | 良好 | | |
| 60 | ＳＥ13 | ＰＬ16 | 土師器皿 | ⅓残存 | 8.2 | 1.2 | | 橙色 | 0.5～1.0mmの小石粒 | 良好 | | |
| 61 | ＳＥ13 | ＰＬ16 | 土師器皿 | 完形 | 8.1 | 1.1 | | 灰黄橙色 | 1.0～6.0mmの小石粒 | 良好 | | |
| 62 | ＳＥ13 | ＰＬ16 | 土師器皿 | 口縁部½欠損 | 12.8 | 2.4 | | 橙色 | 0.5～1.0mmの小石粒 | 良好 | | 底部３ヶ所に方形穿孔 |
| 63 | ＳＥ13 | ＰＬ18 | 曲物 | | 42.8 | | | | | | | |
| 64 | ＳＥ13 | ＰＬ18 | 曲物 | | 41.0 | | | | | | | |
| 65 | ＳＥ13 | ＰＬ18 | 曲物 | | 39.2 | | | | | | | |
| 66 | ＳＥ13 | ＰＬ17 | 曲物 | | 43.2 | | | | | | | |
| 67 | ＳＥ14 | － | 瓦器碗 | ⅓残存 | 12.0 | 2.5 | | 暗灰色・淡灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 68 | ＳＥ14 | － | 羽釜 | 口縁部⅙残存 | 26.6 | | | 暗褐色・黒色 | 0.5～1.0mmの小石粒 | 良好 | | 内面に煤付着 |
| 69 | ＳＥ16上層 | － | 瓦器碗 | ⅓残存 | 12.6 | 3.1 | 3.7 | 黒灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 70 | ＳＥ16上層 | ＰＬ19 | 瓦器碗 | 口縁部½欠損 | 13.8 | 4.3 | 4.7 | 暗灰色・灰白色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに平行文 | |
| 71 | ＳＥ16上層 | － | 瓦器碗 | ⅓残存 | 13.8 | 3.3 | 3.0 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 良好 | 見込みに平行文 | |
| 72 | ＳＥ16上層 | － | 瓦器碗 | ¼残存 | 14.2 | 3.3 | 3.1 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに平行文 | |
| 73 | ＳＥ16上層 | － | 瓦器碗 | ⅓残存 | 14.4 | 3.5 | 4.2 | 灰褐色・灰橙色・灰白色 | 精良 | 良好 | 見込みに平行文 | |
| 74 | ＳＥ16上層 | ＰＬ19 | 瓦器碗 | ½残存 | 14.0 | 4.0 | 4.2 | 黒灰色・灰白色 | やや粗 | 窯変あり | 見込みに平行文 | |
| 75 | ＳＥ16上層 | ＰＬ19 | 瓦器碗 | ½残存 | 13.0 | 3.9 | 2.4 | 暗灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに平行文 | |
| 76 | ＳＥ16上層 | － | 瓦器碗 | ⅓残存 | 13.8 | 3.4 | 5.3 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |

## 表8　遺物観察表4

| 遺物No | 遺構名 | 写真図版 | 器　種 | 残在率 | 口径 | 器高 | 高台径 | 色　調 | 胎　土 | 焼　成 | 技法の特徴 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 77 | SE16上層 | － | 瓦器碗 | ¼残存 | 13.2 | 4.1 | 3.6 | 淡灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに平行文 | |
| 78 | SE16上層 | － | 瓦器碗 | ½残存 | 14.4 | 3.5 | 3.7 | 暗褐色・淡灰赤色・灰白色 | やや粗 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 79 | SE16上層 | － | 瓦器碗 | ¼残存 | 14.6 | 3.7 | 4.2 | 黒灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに平行文 | |
| 80 | SE16上層 | PL19 | 瓦器碗 | ¼残存 | 14.8 | 3.7 | 3.9 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 81 | SE16上層 | － | 瓦器碗 | ¼残存 | 14.0 | 3.3 | 1.6 | 黒灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに平行文 | |
| 82 | SE16上層 | － | 瓦器碗 | 口縁部⅓欠損 | 14.0 | 3.9 | 2.8 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 83 | SE16上層 | PL19 | 瓦器碗 | ¼残存 | 12.2 | 3.1 | 2.8 | 黒灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 84 | SE16上層 | PL19 | 瓦器碗 | ½残存 | 13.8 | 4.0 | 3.2 | 黒灰色 | やや粗 | 窯変あり | 見込みに平行文 | |
| 85 | SE16上層 | － | 瓦器碗 | ¼残存 | 14.6 | 4.1 | 2.0 | 黒灰色・灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 86 | SE16上層 | － | 瓦器碗 | ⅓残存 | 14.6 | 3.8 | 3.0 | 黒灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 87 | SE16上層 | － | 瓦器碗 | ¼残存 | 14.8 | 3.8 | 3.4 | 暗灰色・灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 88 | SE16 | － | 瓦器碗 | ¼残存 | 14.2 | 5.1 | 4.4 | 黒灰色 | やや粗 | 良好 | 見込みに平行文 | |
| 89 | SE16 | PL19 | 瓦器碗 | ½残存 | 12.5 | 3.5 | 3.4 | 黒灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに平行文 | |
| 90 | SE16 | PL19 | 瓦器碗 | 完形 | 13.4 | 3.4 | 3.1 | 黒灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに平行文 | |
| 91 | SE16上層 | PL20 | 瓦器皿 | 口縁部⅓欠損 | 8.9 | 1.8 | | 黒灰色・灰色・灰白色 | 精良 | 良好 | | |
| 92 | SE16 | PL20 | 瓦器皿 | ½残存 | 9.4 | 1.7 | | 黒灰色 | 精良 | 窯変あり | | |
| 93 | SE16上層 | PL20 | 瓦器皿 | ½残存 | 8.4 | 1.5 | | 暗灰色・淡灰色 | 精良 | 窯変あり | | |
| 94 | SE16上層 | PL20 | 瓦器皿 | ⅓残存 | 8.8 | 1.8 | | 黒灰色・灰色 | 精良 | 良好 | | |
| 95 | SE16上層 | PL20 | 瓦器皿 | ½残存 | 8.8 | 1.8 | | 黒灰色 | 精良 | 良好 | | |
| 96 | SE16上層 | PL20 | 瓦器皿 | ½残存 | 7.8 | 1.4 | | 暗灰色 | 精良 | 窯変あり | | |
| 97 | SE16上層 | PL20 | 瓦器皿 | ½残存 | 9.0 | 1.6 | | 黒灰色・灰色 | 精良 | 良好 | | |
| 98 | SE16上層 | PL20 | 瓦器皿 | 口縁部½欠損 | 8.7 | 1.8 | | 暗灰色・淡灰色 | 精良 | 窯変あり | | |
| 99 | SE16 | PL20 | 土師器皿 | 完形 | 7.8 | 1.6 | | 暗灰褐色・灰褐色 | 0.5～1.0mmの小石粒 | 良好 | | |
| 100 | SE16 | － | 瓦質鉢 | ⅙残存 | 21.4 | | | 暗灰色 | 精良 | 良好 | | |
| 101 | SE16 | PL21 | ねり鉢 | ⅓残存 | 31.5 | 11.5 | | 暗灰色 | やや粗 | 良好 | | 東播系 |

## 表9　遺物観察表5

| 遺物No | 遺構名 | 写真図版 | 器　種 | 残在率 | 口径 | 器高 | 高台径 | 色　調 | 胎　土 | 焼　成 | 技法の特徴 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 102 | SE16 | PL21 | 片口ねり鉢 | ½欠損 | 29.6 | 10.4 | | 暗灰色 | やや粗 | 良好 | | 東播系 |
| 103 | SE16 | PL21 | 砥石 | | | | | 灰黄色 | | | | |
| 104 | SE16 | － | 三足釜 | 口縁部⅙残存 | 19.8 | | | 暗灰色 | 精良 | 良好 | | |
| 105 | SE16 | － | 三足釜 | 口縁部⅓残存 | 17.0 | | | 暗褐色・淡灰色 | 精良 | 良好 | | 内面に煤付着 |
| 106 | SE16 | － | 三足釜 | 口縁部¼残存 | 19.8 | | | 暗灰色・暗褐色 | 精良 | 良好 | | |
| 107 | SE16 | PL21 | 三足釜 | ⅓残存 | 28.6 | | | 黒色 | 精良 | 良好 | | 外・内面に煤付着 |
| 108 | SE16 | PL21 | 三足釜 | ⅙残存 | 21.4 | | | 暗灰色 | 精良 | 良好 | | 外面に煤付着 |
| 109 | SE16 | － | 羽釜 | 口縁部⅓残存 | 23.4 | | | 暗褐色 | 0.5～1.0mmの小石粒 | 良好 | | 外面に煤付着 |
| 110 | SE16 | － | 羽釜 | 口縁部⅙残存 | 26.0 | | | 暗褐色 | 0.5～1.0mmの小石粒 | 良好 | | 外・内面に煤付着 |
| 111 | SE16 | － | 須恵器甕 | 口縁部⅓残存 | 36.0 | | | 淡灰色 | 精良 | 良好 | 外面にタタキ(4条/1cm) | |
| 112 | SE16 | － | 羽釜 | 口縁部⅓残存 | 22.7 | | | 暗褐色・黒褐色 | 0.5～1.0mmの小石粒 | 良好 | | |
| 113 | SE16 | － | 羽釜 | 口縁部⅓残存 | 24.8 | | | 黒褐色・赤褐色 | 0.5～2.0mmの小石粒 | 良好 | | 外面に煤付着 |
| 114 | SE16 | － | 羽釜 | 口縁部⅔残存 | 29.0 | | | 赤褐色・暗褐色 | 0.5～2.0mmの小石粒 | 良好 | | |
| 115 | SE16 | － | 羽釜 | 口縁部残存 | 28.0 | | | 淡赤褐色・暗褐色 | 0.5～2.0mmの小石粒 | 良好 | | |
| 116 | SE16 | － | 羽釜 | 口縁部⅙残存 | 29.6 | | | 黒褐色・赤褐色 | 0.5～2.0mmの小石粒 | 良好 | | 外面に煤付着 |
| 117 | SE16 | － | 羽釜 | 口縁部⅙残存 | 32.0 | | | 黄褐色・暗褐色 | 0.5～2.0mmの小石粒 | 良好 | | 外面に煤付着 |
| 118 | SE16 | － | 羽釜 | 口縁部¼残存 | 32.4 | | | 灰褐色・黒褐色 | 0.5～2.0mmの小石粒 | 良好 | | |
| 119 | SE17 | PL23 | 瓦器碗 | 口縁部½欠損 | 12.0 | 3.0 | 2.8 | 暗灰色・淡灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 120 | SE17 | PL23 | 土師器皿 | ½残存 | 8.0 | 1.3 | | 淡灰橙色 | 0.5～2.0mmの小石粒 | 良好 | | |
| 121 | SE17 | PL23 | 土師器皿 | ½残存 | 7.8 | 1.1 | | 淡灰橙色 | 0.5～1.0mmの小石粒 | 良好 | | |
| 122 | SD1 | PL22 | 瓦器碗 | ⅓欠損 | 12.1 | 2.8 | | 黒灰色・暗灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 123 | SD1 | PL22 | 瓦器碗 | ½残存 | 11.2 | 2.5 | | 黒灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 124 | SD1 | PL22 | 瓦器碗 | ¼残存 | 12.8 | 3.3 | 3.4 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 125 | SD1 | PL22 | 瓦器碗 | 口縁部½欠損 | 13.2 | 3.5 | 3.0 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 126 | SD1 | PL22 | 瓦器碗 | 口縁部¼欠損 | 11.4 | 2.9 | 2.1 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 良好 | 見込みに連結輪状文 | |

## 表10　遺物観察表 6

| 遺物No | 遺構名 | 写真図版 | 器　種 | 残在率 | 口径 | 器高 | 高台径 | 色　調 | 胎　土 | 焼　成 | 技法の特徴 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 127 | SD1 | PL22 | 瓦器碗 | ½残存 | 12.0 | 3.0 | | 黒灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 128 | SD1 | PL22 | 瓦器碗 | 口縁部½欠損 | 13.4 | 3.4 | 3.6 | 黒灰色・淡褐色・灰白色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 129 | SD1 | PL22 | 瓦器碗 | ½残存 | 12.1 | 3.0 | | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 130 | SD1 | PL22 | 瓦器碗 | ⅓残存 | 13.0 | 3.0 | 2.0 | 暗灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 131 | SD1 | PL22 | 瓦器碗 | 口縁部¼欠損 | 12.0 | 3.1 | 2.4 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 132 | SD1 | PL22 | 瓦器碗 | ⅓残存 | 10.4 | 2.8 | 2.0 | 黒灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | 高台は欠落している。 |
| 133 | SD1 | PL23 | 瓦器皿 | 完形 | 8.0 | 1.3 | | 黒灰色 | 精良 | 良好 | | |
| 134 | SD1 | PL23 | 瓦器皿 | 完形 | 7.8 | 1.6 | | 黒灰色 | 精良 | 良好 | | |
| 135 | SD1 | PL23 | 土師器皿 | ½残存 | 8.0 | 1.3 | | 淡茶灰色 | 精良 | 良好 | | |
| 136 | SD1 | PL23 | 土師器皿 | 口縁部一部欠損 | 11.6 | 2.0 | | 淡黄褐色 | 0.5mm 前後の小石粒 | 良好 | | |
| 137 | SD1 | － | 滑石製石鍋 | 底部¼残存 | | | | 黒色 | | | | 底径：17.0 |
| 138 | SD2 | PL24 | 瓦器碗 | ½残存 | 13.0 | 3.5 | 2.6 | 黒灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 139 | SD2 | PL24 | 瓦器碗 | ⅓残存 | 10.8 | 2.4 | 3.2 | 灰黒色・灰白色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 140 | SD2 | PL24 | 瓦器碗 | 口縁部⅓欠損 | 11.2 | 2.6 | | 黒灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 141 | SD2 | PL24 | 瓦器碗 | ⅓残存 | 13.8 | 3.7 | 3.4 | 灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 142 | SD2 | PL24 | 瓦器碗 | ½残存 | 12.2 | 2.8 | | 暗灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 143 | SD2 | PL24 | 瓦器碗 | 口縁部½欠損 | 12.7 | 3.2 | 2.5 | 灰橙色・灰黄橙色 | 精良 | 外底部に黒斑あり | 見込みに渦文 | |
| 144 | SD2 | PL24 | 瓦器碗 | 口縁部⅓欠損 | 13.8 | 3.6 | 3.4 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 145 | SD2 | PL24 | 瓦器碗 | 口縁部一部欠損 | 13.3 | 3.8 | 1.4 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 146 | SD2 | PL24 | 土師器皿 | ¼欠損 | 8.0 | 1.3 | | 淡乳灰色 | 0.5～2.0mm の小石粒 | 良好 | | |
| 147 | SD2 | PL24 | 土師器皿 | 完形 | 11.8 | 2.4 | | 淡褐色 | 0.5～1.0mm の小石粒 | 良好 | | |
| 148 | SD4 | PL25 | 瓦器碗 | ½残存 | 11.6 | 3.1 | 2.3 | 灰白色 | やや粗 | 良好 | 見込みに渦文 | 高台は欠落している。 |
| 149 | SD4 | PL25 | 瓦器碗 | 口縁部½欠損 | 12.9 | 3.3 | 2.8 | 灰黄色・灰赤色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 150 | SD4 | PL25 | 土師器皿 | ½残存 | 7.9 | 1.4 | | 淡灰橙色 | 0.5mm 前後の小石粒 | 良好 | | |
| 151 | SD4 | PL25 | 土師器皿 | ½残存 | 12.0 | 1.8 | | にぶい橙色 | 0.5mm 前後の小石粒 | 良好 | | |
| 152 | SD4 | PL25 | 砥石 | | | | | 淡灰橙色 | | | | |

## 表11　遺物観察表７

| 遺物No | 遺構名 | 写真図版 | 器　種 | 残在率 | 口径 | 器高 | 高台径 | 色　調 | 胎　土 | 焼　成 | 技法の特徴 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 153 | ＳＤ４ | ＰＬ25 | 砥石 | | | | | 灰白色 | | | | |
| 154 | ＳＤ８ | ＰＬ26 | 土師器皿 | 完形 | 7.9 | 1.6 | | 淡黄橙色 | 0.5㎜前後の小石粒 | 良好 | | |
| 155 | ＳＤ８ | ＰＬ26 | 土師器皿 | 口縁部¼欠損 | 8.2 | 1.2 | | 灰黄橙色 | 0.5㎜以下の小石粒 | 良好 | | |
| 156 | ＳＤ８ | ＰＬ26 | 土師器皿 | 完形 | 7.5 | 1.4 | | 灰黄橙色 | 0.5㎜以下の小石粒 | 良好 | | |
| 157 | ＳＤ８ | ＰＬ26 | 土師器皿 | 口縁部一部欠損 | 8.3 | 1.6 | | 灰黄橙色 | 0.5㎜以下の小石粒 | 良好 | | |
| 158 | ＳＤ８ | ＰＬ26 | 土師器皿 | 口縁部一部欠損 | 7.9 | 1.3 | | 灰黄橙色 | 0.5㎜前後の小石粒 | 良好 | | |
| 159 | ＳＤ８ | ＰＬ26 | 土師器皿 | 口縁部⅓欠損 | 8.0 | 1.2 | | 灰黄橙色 | 0.5㎜前後の小石粒 | 良好 | | |
| 160 | ＳＤ８ | ＰＬ26 | 土師器皿 | ½残存 | 8.0 | 1.1 | | 淡灰褐色 | 0.5㎜以下の小石粒 | 良好 | | |
| 161 | ＳＤ８ | ＰＬ26 | 土師器皿 | 口縁部½欠損 | 8.3 | 1.2 | | 灰黄橙色 | 0.5㎜以下の小石粒 | 良好 | | |
| 162 | ＳＤ８ | ＰＬ26 | 土師器皿 | 口縁部一部欠損 | 8.2 | 1.3 | | 淡灰黄色 | 0.5㎜前後の小石粒 | 良好 | | |
| 163 | ＳＤ９ | ＰＬ28 | 瓦器碗 | ½残存 | 13.2 | 3.3 | 3.7 | 黒灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 164 | ＳＤ９ | ＰＬ27 | 瓦器碗 | ½残存 | 11.2 | 3.0 | 2.4 | 灰色・黒灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 165 | ＳＤ９ | ＰＬ27 | 瓦器碗 | ½残存 | 11.2 | 3.4 | 1.7 | 暗灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 166 | ＳＤ９ | ＰＬ28 | 瓦器碗 | ½残存 | 14.0 | 3.5 | 2.7 | 灰色・黒灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 167 | ＳＤ９ | ＰＬ27 | 瓦器碗 | ½残存 | 12.4 | 3.2 | 2.2 | 黒灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 168 | ＳＤ９ | ＰＬ27 | 瓦器碗 | ½残存 | 13.8 | 3.7 | 4.0 | 黒灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 169 | ＳＤ９ | ＰＬ27 | 瓦器碗 | ½残存 | 12.2 | 3.1 | 3.4 | 黒灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 170 | ＳＤ９ | ＰＬ27 | 瓦器碗 | 完形 | 12.3 | 3.2 | 2.2 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 171 | ＳＤ９ | ＰＬ28 | 瓦器碗 | 口縁部一部欠損 | 11.1 | 2.8 | | 灰色 | やや粗 | 良好 | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 172 | ＳＤ９ | ＰＬ28 | 瓦器碗 | 一部欠損 | 12.0 | 3.2 | 3.0 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 173 | ＳＤ９ | ＰＬ27 | 瓦器碗 | ½残存 | 13.2 | 3.6 | 2.8 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに平行文 | |
| 174 | ＳＤ９ | ＰＬ27 | 瓦器碗 | 口縁部⅓欠損 | 12.2 | 3.0 | 3.0 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | 高台は欠落している。 |
| 175 | ＳＤ９ | ＰＬ27 | 瓦器碗 | ½残存 | 13.2 | 3.6 | 3.2 | 黒灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 176 | ＳＤ９ | ＰＬ27 | 瓦器碗 | ½残存 | 13.8 | 4.0 | 2.0 | 黒灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに平行文 | |
| 177 | ＳＤ９ | ＰＬ28 | 瓦器碗 | 口縁部½欠損 | 13.9 | 3.7 | 3.0 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに連結輪状文 | |

## 表12　遺物観察表 8

| 遺物No | 遺構名 | 写真図版 | 器　種 | 残在率 | 口径 | 器高 | 高台径 | 色　調 | 胎　土 | 焼　成 | 技法の特徴 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 178 | SD9 | PL28 | 瓦器碗 | 口縁部⅓欠損 | 14.7 | 4.2 | 4.0 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに平行文 | |
| 179 | SD9 | PL28 | 瓦器碗 | 口縁部¼欠損 | 14.4 | 3.4 | 3.4 | 灰白色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 180 | SD9 | PL28 | 瓦器碗 | ½残存 | 14.8 | 4.8 | 3.5 | 灰白色・黒灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに平行文 | |
| 181 | SD9 | PL29 | 瓦器皿 | 口縁部一部欠損 | 8.4 | 1.8 | | 黒灰色・淡灰褐色 | 精良 | 良好 | | |
| 182 | SD9 | PL29 | 瓦器皿 | ½残存 | 8.4 | 1.3 | | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 良好 | | |
| 183 | SD9 | PL29 | 瓦器皿 | ½残存 | 9.0 | 2.0 | | 黒灰色 | 精良 | 良好 | | |
| 184 | SD9 | － | 瓦器皿 | 完形 | 7.8 | 1.5 | | 黒灰色・灰色 | やや粗 | 窯変あり | 見込みに渦文? | |
| 185 | SD9 | PL30 | 土師器皿 | ½残存 | 8.2 | 1.4 | | 淡黄橙色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 186 | SD9 | PL29 | 土師器皿 | 一部欠損 | 7.9 | 1.6 | | 灰黄橙色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 187 | SD9 | PL29 | 土師器皿 | ⅓残存 | 8.0 | 1.1 | | にぶい橙色 | 0.5～1.0mm の小石粒 | 良好 | | |
| 188 | SD9 | PL30 | 土師器皿 | ½残存 | 8.6 | 1.5 | | 淡黄橙色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 189 | SD9 | PL30 | 土師器皿 | ⅓残存 | 12.6 | 1.7 | | 淡橙色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 190 | SD9 | PL30 | 土師器皿 | 口縁部½欠損 | 10.9 | 2.2 | | にぶい橙色 | 0.5～3.0mm の小石粒 | 良好 | | |
| 191 | SD9 | PL29 | 土師器皿 | 口縁部一部欠損 | 8.0 | 1.4 | | 灰黄橙色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 192 | SD9 | PL29 | 土師器皿 | 完形 | 7.5 | 1.3 | | 灰橙色 | 0.5～1.0mm の小石粒 | 良好 | | |
| 193 | SD9 | PL29 | 土師器皿 | ½残存 | 8.6 | 1.5 | | 淡黄橙色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 194 | SD9 | PL30 | 土師器皿 | ½残存 | 8.0 | 1.4 | | 淡黄橙色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 195 | SD9 | PL30 | 土師器皿 | 口縁部一部欠損 | 12.3 | 1.9 | | 灰黄橙色 | 0.5～2.0mm の小石粒 | 良好 | | |
| 196 | SD9 | PL30 | 土師器皿 | ⅓残存 | 12.4 | 2.5 | | 灰黄橙色 | 0.5～2.0mm の小石粒 | 良好 | | |
| 197 | SD9 | PL30 | 土師器皿 | ½残存 | 7.8 | 1.4 | | 灰褐色 | 0.5～2.0mm の小石粒 | 良好 | | |
| 198 | SD9 | PL29 | 土師器皿 | ¼欠損 | 7.8 | 1.4 | | 淡黄橙色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 199 | SD9 | PL29 | 土師器皿 | 完形 | 4.1 | 1.2 | | 灰黄橙色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 200 | SD9 | PL29 | 土師器皿 | 完形 | 8.2 | 1.5 | | 灰黄褐色 | 0.5～1.0mm の小石粒 | 良好 | | |
| 201 | SD9 | PL30 | 土師器皿 | 口縁部⅓欠損 | 8.1 | 1.3 | | 淡灰褐色 | 0.5mm の以下の小石粒 | 良好 | | |
| 202 | SD9 | － | 瓦質三足釜 | 口縁部⅙残存 | 20.0 | | | 黒色・暗褐色 | 精良 | 良好 | | 外面に煤付着 |

## 表13　遺物観察表 9

| 遺物No | 遺構名 | 写真図版 | 器　種 | 残在率 | 口径 | 器高 | 高台径 | 色　調 | 胎　土 | 焼　成 | 技法の特徴 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 203 | SD9 | － | ねり鉢 | 口縁部○・底部残存 | 33.2 | | | 灰色・灰白色 | 0.5～3.0mm の小石粒 | 良好 | | 底径：9.8 東播系 |
| 204 | SD11 | PL31 | 瓦器碗 | ⅓残存 | 12.0 | 2.9 | | 黒色・灰白色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 205 | SD11 | － | 瓦器碗 | ¼残存 | 12.8 | 3.4 | 2.0 | 灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに平行文 | |
| 206 | SD11 | PL31 | 瓦器碗 | ⅓欠損 | 15.3 | 4.6 | 4.0 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに平行文 | |
| 207 | SD11 | PL31 | 土師器皿 | ½残存 | 8.4 | 1.3 | | 淡灰黄色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 208 | SD11 | PL31 | 土師器皿 | 完形 | 7.9 | 1.8 | | 淡灰橙色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 209 | SD11 | PL31 | 土師器皿 | 完形 | 7.9 | 1.8 | | 灰黄橙色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 210 | SD11 | PL31 | 土師器皿 | 完形 | 7.8 | 1.5 | | 灰橙色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 211 | SD11 | PL31 | 土師器皿 | 口縁部½欠損 | 8.6 | 1.3 | | 灰橙色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 212 | SD12 | PL25 | 瓦器皿 | ½残存 | 8.5 | 1.9 | | 灰色・灰白色 | 精良 | 良好 | | |
| 213 | SD15 | PL32 | 瓦器碗 | ½残存 | 11.8 | 3.2 | 2.2 | 暗灰色 | やや粗 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 214 | SD15 | PL32 | 瓦器碗 | 口縁部⅓欠損 | 11.2 | 2.8 | | 暗灰色 | 精良 | 良好 | | 高台なし |
| 215 | SD15 | PL33 | 瓦器碗 | ¼残存 | 10.9 | 2.7 | 2.5 | 暗灰色・灰白色 | やや粗 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 216 | SD15 | PL34 | 瓦器碗 | 一部欠損 | 11.8 | 2.9 | 3.0 | 黒灰色・灰白色 | やや粗 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 217 | SD15 | PL33 | 瓦器碗 | ½残存 | 11.9 | 3.6 | 2.2 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 218 | SD15 | PL32 | 瓦器碗 | 一部欠損 | 12.2 | 3.2 | 2.5 | 暗灰色・灰白色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 219 | SD15 | PL33 | 瓦器碗 | 口縁部一部欠損 | 12.5 | 3.3 | | 明灰色 | やや粗 | 良好 | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 220 | SD15 | PL32 | 瓦器碗 | 口縁部¼欠損 | 12.4 | 3.1 | 2.7 | 暗灰色 | やや粗 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 221 | SD15 | PL33 | 瓦器碗 | 一部欠損 | 12.2 | 3.6 | 2.1 | 黒灰色・暗灰黄色 | やや粗 | 良好 | 見込みに渦文 | つまみ出し高台 |
| 222 | SD15 | PL33 | 瓦器碗 | ⅓残存 | 11.7 | 2.8 | 2.0 | 暗灰色・灰白色 | やや粗 | 窯変あり | | |
| 223 | SD15 | PL32 | 瓦器碗 | 完形 | 12.6 | 3.4 | | 黒灰色・灰白色 | やや粗 | 窯変あり | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 224 | SD15 | PL32 | 瓦器碗 | ⅓残存 | 13.8 | 3.4 | 3.0 | 淡灰黒色・灰白色 | やや粗 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 225 | SD15 | PL33 | 瓦器碗 | ½残存 | 12.0 | 3.5 | 2.0 | 淡灰色・暗灰色 | やや粗 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 226 | SD15 | PL32 | 瓦器碗 | 口縁部一部欠損 | 11.7 | 3.3 | | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 227 | SD15 | PL33 | 瓦器碗 | ½残存 | 11.0 | 2.6 | | 灰黒色・明灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | 高台なし |

## 表14　遺物観察表10

| 遺物No | 遺構名 | 写真図版 | 器　種 | 残在率 | 口径 | 器高 | 高台径 | 色　調 | 胎　土 | 焼　成 | 技法の特徴 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 228 | SD15 | PL32 | 瓦器碗 | 完形 | 12.7 | 3.1 | 2.8 | 暗灰色・明灰色 | やや粗 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 229 | SD15 | PL32 | 瓦器碗 | 口縁部⅓欠損 | 12.7 | 3.3 | 3.0 | 暗灰色 | やや粗 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 230 | SD15 | PL33 | 瓦器碗 | ⅓残存 | 11.4 | 3.0 | 3.2 | 黒灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 231 | SD15 | PL33 | 瓦器碗 | ¼残存 | 11.2 | 3.2 | 2.0 | 灰白色・黒灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 232 | SD15 | PL32 | 瓦器碗 | 口縁部½欠損 | 12.4 | 2.9 | 3.0 | 黒灰色・明灰色 | やや粗 | 窯変あり | 見込みに渦文 | 高台は欠落している。 |
| 233 | SD15 | PL34 | 瓦器碗 | 口縁部一部欠損 | 12.3 | 3.2 | | 黒灰色・灰白色 | やや粗 | 良好 | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 234 | SD15 | PL33 | 瓦器碗 | 口縁部一部欠損 | 13.4 | 3.6 | 2.9 | 黒灰色・灰白色 | やや粗 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 235 | SD15 | － | 瓦質甕 | 口縁部⅙残存 | 18.8 | | | 黒色 | やや粗 | 良好 | 外面タタキ(5条/1cm) | |
| 236 | SD15 | － | 須恵質甕 | 口縁部¼残存 | 26.1 | | | 暗灰色 | 精良 | 良好 | 外面タタキ(3条/1cm) | |
| 237 | SD15 | － | 羽釜 | 口縁部⅙残存 | 26.6 | | | 黒色・暗橙色 | 0.5～1.0mmの小石粒 | 良好 | | 外・内面に煤付着 |
| 238 | SD15 | － | ねり鉢 | 底部残存 | | | | 黒灰色・暗灰色 | 0.5～5.0mmの小石粒 | 良好 | | 底径：10.4 |
| 239 | SD15 | － | 陶質鉢 | 底部¼残存 | | | | 暗赤褐色 | 1.0mm前後の小石粒 | 良好 | | 内面に自然釉付着<br>底径：12.6 |
| 240 | SD15 | PL34 | 土師器皿 | ¼残存 | 9.8 | 2.5 | | 灰橙色 | 0.5mm以下の小石粒 | 良好 | | |
| 241 | SD15 | PL34 | 土師器皿 | 口縁部⅓欠損 | 4.0 | 1.5 | | 淡灰橙色 | 0.5～2.0mmの小石粒 | 良好 | | |
| 242 | SD15 | PL34 | 土師器皿 | ½残存 | 8.3 | 1.6 | | 灰黄橙色 | 1.0mm前後の小石粒 | 良好 | | |
| 243 | SD15 | PL34 | 土師器皿 | 口縁部⅓欠損 | 8.1 | 4.0 | | 淡黄橙色 | 0.5～3.0mmの小石粒 | 良好 | | |
| 244 | SD15 | PL34 | 土師器皿 | ½残存 | 8.2 | 1.3 | | 淡橙色・黒色 | 0.5～1.0mmの小石粒 | 良好 | | 内面に煤付着 |
| 245 | SD15 | PL34 | 瓦器皿 | 完形 | 7.9 | 1.7 | | 黒灰色 | やや粗 | 良好 | | |
| 246 | SD15 | PL34 | 瓦器皿 | 口縁部一部欠損 | 7.6 | 1.5 | | 黒灰色 | やや粗 | 良好 | | |
| 247 | SD15 | PL34 | 砥石 | | | | | 淡灰黄色 | | | | |
| 248 | SD15 | PL34 | 砥石 | | | | | 淡灰橙色・淡灰褐色 | | | | |
| 249 | SD16 | PL35 | 瓦器碗 | 完形 | 12.4 | 3.1 | 3.1 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | 高台は欠落している。 |
| 250 | SD16 | PL35 | 瓦器碗 | ½残存 | 11.6 | 2.8 | | 黒灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 251 | SD16 | PL35 | 瓦器碗 | 完形 | 12.0 | 3.1 | 2.6 | 暗灰色・淡灰色 | やや粗 | 窯変あり | 見込みに平行文 | |
| 252 | SD18 | PL35 | 瓦器碗 | 口縁部⅙欠損 | 11.9 | 3.0 | | 黒灰色・灰白色 | やや粗 | 良好 | 見込みに渦文 | 高台なし |

## 表15　遺物観察表11

| 遺物No | 遺構名 | 写真図版 | 器　種 | 残在率 | 口径 | 器高 | 高台径 | 色　調 | 胎　土 | 焼　成 | 技法の特徴 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 253 | SD18 | PL35 | 瓦器碗 | ½残存 | 11.2 | 3.1 | | 暗灰色 | やや粗 | 窯変あり | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 254 | SD18 | PL35 | 瓦器碗 | ½残存 | 11.7 | 3.2 | | 黒灰色・淡灰褐色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 255 | SD18 | PL35 | 瓦器碗 | ⅓残存 | 12.6 | 2.7 | 1.5 | 暗灰色 | やや粗 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 256 | SD18 | PL35 | 瓦器碗 | ½残存 | 12.0 | 3.1 | 2.5 | 黒灰色・灰白色 | やや粗 | 良好 | 見込みに平行文 | |
| 257 | SD18 | PL35 | 瓦器碗 | ¼残存 | 12.3 | 2.7 | 3.1 | 暗灰色 | やや粗 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 258 | SK2 | PL36 | 瓦器碗 | ¼残存 | 14.4 | 3.7 | 2.7 | 黒灰色・黄褐色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 259 | SK2 | PL36 | 瓦器碗 | ½残存 | 13.7 | 4.1 | 4.0 | 黒灰色・淡灰褐色 | 精良 | 良好 | | 内面に煤付着 |
| 260 | SK2 | － | 羽釜 | 口縁部残存 | 27.2 | | | 黒色 | 0.5㎜前後の小石粒 | 良好 | | 外・内面に煤付着 |
| 261 | SK2 | － | 鉢 | 口縁部⅓残存 | 39.0 | | | 暗褐色 | 0.5～1.0㎜の小石粒 | 良好 | | 内面に煤付着 |
| 262 | SK3 | PL36 | 土師器皿 | ⅓残存 | 9.6 | 2.4 | | 淡黄橙色 | 0.5㎜以下の小石粒 | 良好 | | |
| 263 | SK6 | － | 瓦器碗 | ½残存 | 12.4 | 2.7 | 3.0 | 淡灰色・黒灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 264 | SK6 | － | 瓦器碗 | ½残存 | 12.6 | 3.0 | | 黒灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 265 | SK6 | － | 瓦器碗 | ⅓残存 | 10.6 | 2.7 | | 暗灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 266 | SK6 | － | 瓦器碗 | ½残存 | 10.2 | 2.5 | | 淡灰黒色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 267 | SK6 | － | 瓦器碗 | ¼残存 | 12.2 | 3.0 | 2.4 | 黒灰色・灰白色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 268 | SK6 | － | 瓦器碗 | ¼残存 | 11.8 | 2.9 | 2.8 | 黒灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 269 | SK6 | PL36 | 瓦器碗 | 口縁部一部欠損 | 10.8 | 2.7 | | 黒灰色・淡灰黄色 | やや粗 | 良好 | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 270 | SK6 | － | 瓦器碗 | ⅓残存 | 11.6 | 3.7 | | 黒灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 271 | SK6 | － | 土師器皿 | ⅓残存 | 7.8 | 1.1 | | にぶい黄橙色 | 0.5㎜前後の小石粒 | 良好 | | |
| 272 | SK6 | PL36 | 小型三足釜 | ¼残存 | | | | 黒色 | 精良 | 良好 | | 外面にうるし付着 |
| 273 | SK6 | － | 羽釜 | 口縁部⅓残存 | 28.2 | | | 黒色・暗橙色・暗灰褐色 | 0.5～2.0㎜の小石粒 | 良好 | | 外面に煤付着 |
| 274 | SK6 | － | 羽釜 | 口縁部⅓残存 | 32.4 | | | 黒色・淡灰橙色 | 0.5～2.0㎜の小石粒 | 良好 | | 外面に煤付着 |
| 275 | SK7 | PL37 | 瓦器皿 | 完形 | 7.8 | 1.2 | | 暗灰色 | 精良 | 窯変あり | | |
| 276 | SK7 | PL37 | 瓦器皿 | 完形 | 8.3 | 1.6 | | 黒灰色 | 精良 | 窯変あり | | |
| 277 | SK7 | PL37 | 瓦器皿 | 口縁部一部欠損 | 8.6 | 1.4 | | 黒灰色 | 精良 | 窯変あり | | |

## 表16　遺物観察表12

| 遺物No | 遺構名 | 写真図版 | 器　種 | 残在率 | 口径 | 器高 | 高台径 | 色　調 | 胎　土 | 焼　成 | 技法の特徴 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 278 | SK7 | PL37 | 瓦器皿 | 完形 | 7.8 | 1.4 | | 暗灰色 | やや粗 | 良好 | | |
| 279 | SK7 | PL38 | 瓦器皿 | 完形 | 7.3 | 1.4 | | 暗灰色 | 精良 | 良好 | | |
| 280 | SK7 | PL38 | 瓦器皿 | 完形 | 7.8 | 1.5 | | 暗灰色 | 精良 | 窯変あり | | |
| 281 | SK7 | PL38 | 土師器皿 | 完形 | 7.2 | 1.4 | | 淡灰橙色 | 0.5～1.0mm の小石粒 | 良好 | | |
| 282 | SK7 | PL38 | 土師器皿 | ½残存 | 8.6 | 1.1 | | 淡灰褐色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 283 | SK7 | PL38 | 土師器皿 | ½残存 | 8.2 | 1.5 | | 暗灰赤色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 284 | SK7 | PL37 | 土師器皿 | 口縁部¼欠損 | 8.2 | 1.4 | | 灰橙色・淡灰褐色 | 0.5～2.0mm の小石粒 | 良好 | | |
| 285 | SK7 | PL37 | 土師器皿 | ½残存 | 8.2 | 1.4 | | 淡灰褐色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 286 | SK7 | PL38 | 土師器皿 | 完形 | 8.2 | 1.1 | | 淡灰褐色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 287 | SK7 | PL38 | 土師器皿 | 完形 | 8.0 | 1.6 | | 淡灰褐色 | 0.5～5.0mm の小石粒 | 良好 | | |
| 288 | SK7 | PL37 | 土師器皿 | 口縁部一部欠損 | 7.8 | 1.5 | | 淡灰褐色・灰赤橙色 | 0.5～1.0mm の小石粒 | 良好 | | |
| 289 | SK7 | PL37 | 土師器皿 | ½残存 | 8.0 | 1.3 | | 淡灰褐色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 290 | SK7 | PL38 | 土師器皿 | 完形 | 8.0 | 1.3 | | 淡灰橙色・淡灰褐色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 291 | SK7 | PL37 | 土師器皿 | ⅓残存 | 8.2 | 1.9 | | 淡灰橙色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 292 | SK7 | PL38 | 土師器皿 | ⅓残存 | 12.4 | 2.1 | | 淡灰褐色・灰黄橙色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 293 | SK7 | PL38 | 土師器皿 | ½残存 | 8.6 | 1.0 | | 暗灰橙色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 294 | SK7 | PL37 | 土師器皿 | ½残存 | 8.6 | 1.1 | | 灰褐色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 295 | SK7 | PL37 | 土師器皿 | ½残存 | 8.4 | 1.1 | | 淡灰褐色 | 0.5～2.0mm の小石粒 | 良好 | | |
| 296 | SK7 | PL38 | 土師器皿 | 口縁部¼欠損 | 7.6 | 1.6 | | 灰橙色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 297 | SK7 | PL37 | 土師器皿 | 完形 | 7.9 | 1.2 | | 淡灰橙色 | 0.5～1.0mm の小石粒 | 良好 | | |
| 298 | SK8 | PL36 | 土師器皿 | 一部欠損 | 8.0 | 1.4 | | 橙色 | 0.5mm 以下の小石粒 | 良好 | | |
| 299 | SG1 | PL40 | 瓦器碗 | 一部欠損 | 12.5 | 3.5 | 3.0 | 灰白色・黒灰色 | やや粗 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 300 | SG1 | PL40 | 瓦器碗 | 完形 | 12.3 | 3.4 | 3.1 | 暗灰色・灰白色 | やや粗 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 301 | SG1 | PL39 | 瓦器碗 | 口縁部一部欠損 | 13.6 | 3.8 | 3.5 | 黒灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに平行文 | |
| 302 | SG1 | PL39 | 瓦器碗 | 完形 | 12.1 | 3.1 | | 暗灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | 高台なし |

## 表17　遺物観察表13

| 遺物No | 遺構名 | 写真図版 | 器　種 | 残在率 | 口径 | 器高 | 高台径 | 色　調 | 胎　土 | 焼　成 | 技法の特徴 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 303 | SG1 | PL39 | 瓦器碗 | 口縁部⅓欠損 | 13.0 | 3.9 | | 黒灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 304 | SG1 | － | 瓦器碗 | 口縁部⅓欠損 | 12.2 | 3.1 | 1.8 | 淡灰黒色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 305 | SG1 | PL40 | 瓦器碗 | 口縁部¼欠損 | 12.6 | 3.4 | 2.8 | 灰白色・淡灰橙色 | やや粗 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 306 | SG1 | PL39 | 瓦器碗 | 完形 | 11.6 | 3.0 | 2.5 | 黒灰色 | やや粗 | 窯変あり | 見込みに渦文 | |
| 307 | SG1 | PL39 | 瓦器碗 | 口縁部½欠損 | 12.1 | 2.9 | | 黒灰色 | やや粗 | 良好 | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 308 | SG1 | PL39 | 瓦器碗 | ½残存 | 12.2 | 2.6 | | 淡灰色・黒灰色 | やや粗 | 良好 | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 309 | SG1 | － | 瓦器碗 | ⅓残存 | 12.6 | 2.7 | | 黒灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 310 | SG1 | PL39 | 瓦器碗 | ⅓欠損 | 13.2 | 3.3 | 3.0 | 黒灰色・灰白色 | やや粗 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 311 | SG1 | － | 瓦器碗 | 口縁部一部欠損 | 12.6 | 3.6 | 2.8 | 暗灰色・灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 312 | SG1 | PL39 | 瓦器碗 | ⅓残存 | 12.2 | 3.5 | 2.8 | 黒灰色 | やや粗 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 313 | SG1 | － | 瓦器碗 | ¼残存 | 11.4 | 2.4 | | 暗灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | 高台なし |
| 314 | SG1 | － | 瓦器碗 | ¼残存 | 12.8 | 3.3 | 3.0 | 黒灰色 | 精良 | 良好 | 見込みに渦文 | |
| 315 | SG1 | － | 瓦器碗 | ¼残存 | 13.2 | 4.0 | 4.3 | 黒灰色 | 精良 | 窯変あり | 見込みに連結輪状文？ | |
| 316 | SG1 | PL40 | 瓦器碗 | ¼残存 | 12.6 | 2.5 | 3.4 | 灰色 | やや粗 | 良好 | 内面ナデ調整 | |
| 317 | SG1 | PL40 | 瓦器皿 | 完形 | 7.5 | 1.5 | | 淡灰褐色 | やや粗 | 良好 | | |
| 318 | SG1 | PL40 | 土師器皿 | ½残存 | 8.0 | 1.1 | | 淡灰褐色 | 0.5～2.0㎜の小石粒 | 良好 | | |
| 319 | SG1 | － | 須恵質片口鉢 | 口縁部一部残存 | | | | 灰色 | やや粗 | 良好 | | |
| 320 | SG1 | PL40 | 砥石 | | | | | 淡灰橙色 | | | | |
| 321 | SG1 | PL40 | 砥石 | | | | | 淡灰黄色 | | | | |
| 322 | SG2 | － | 羽釜 | 口縁部¼残存 | 29.6 | | | 黒色・暗褐色 | 0.5～4.0㎜の小石粒 | 良好 | 外面に煤付着 | |
| 323 | J9 包含層 | PL41 | 青磁小皿 | 底部¼残存 | | | | 淡灰青色 | 精良 | 良好 | 内面底部に猫掻き目。 | 底径：5.0 同安窯Ⅰ－1類 |
| 324 | M4 包含層 | PL43 | 青磁碗 | 底部½残存 | | | 5.6 | 淡青緑色 | 精良 | 良好 | 見込みに荷花文 | 龍泉窯Ⅰ－5類 |
| 325 | C7～D8 | PL43 | 青磁碗 | 底部残存 | | | 4.4 | 青緑色 | 精良 | 良好 | 見込みに「福」字 | 龍泉窯Ⅰ－5類 |
| 326 | D16 包含層 | PL43 | 青磁碗 | 底部残存 | | | 5.1 | 青緑色 | 精良 | 良好 | 外面に蓮弁文、見込みに「福」字 | 龍泉窯Ⅰ－5類 |

## 表18　遺物観察表14

| 遺物No | 遺構名 | 写真図版 | 器　種 | 残在率 | 口径 | 器高 | 高台径 | 色　調 | 胎　土 | 焼　成 | 技法の特徴 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 327 | D12・13 包含層 | PL43 | 青磁碗 | 底部残存 | | | 4.9 | 灰緑色 | 精良 | 良好 | 外面に蓮弁文、見込みに印花文 | 龍泉窯Ⅰ－5類 |
| 328 | 包含層 | － | 青磁碗 | 底部½残存 | | | 5.0 | 淡青緑色 | 精良 | 良好 | 外面に蓮弁文 | 龍泉窯Ⅰ－5類 |
| 329 | D16 包含層 | PL42 | 青磁碗 | 底部½残存 | | | 5.4 | 灰緑色 | 精良 | 良好 | | 龍泉窯Ⅰ－1類 |
| 330 | K7 包含層 | PL42 | 青磁碗 | 底部⅔残存 | | | 5.4 | 灰緑色 | 精良 | 良好 | | 龍泉窯Ⅰ－1類 |
| 331 | J9 包含層 | PL42 | 青磁碗 | 底部残存 | | | 4.8 | 灰緑色 | 精良 | 良好 | | 龍泉窯Ⅰ－1類 |
| 332 | D12・13 包 | PL42 | 白磁碗 | 底部½残存 | | | 6.4 | 淡灰緑色 | 精良 | 良好 | | Ⅱ－1類 |
| 333 | SK9 | PL42 | 白磁碗 | 底部⅔残存 | | | 5.0 | 淡灰緑色 | 精良 | 良好 | | Ⅱ－2類 |
| 334 | A 包含層 | PL42 | 青磁碗 | 底部½残存 | | | 5.2 | 灰緑色 | 精良 | 良好 | | 龍泉窯Ⅰ－1類 |
| 335 | J9 包含層 | PL42 | 青磁碗 | 底部残存 | | | 4.7 | 灰緑色 | 精良 | 良好 | | 龍泉窯Ⅰ－5類 |
| 336 | B16 包 | PL42 | 白磁碗 | 底部½残存 | | | 5.8 | 乳白色 | 精良 | 良好 | | Ⅰ類 |
| 337 | G6 包含層 | PL41 | 白磁小皿 | 良部¼残存 | | | | 淡灰緑色 | 精良 | 良好 | | 底径：6.4 Ⅸ－1　類 |
| 338 | K10 包含層 | PL41 | 白磁小皿 | 口縁部¼残存 | 8.8 | | | 淡灰緑色 | 精良 | 良好 | 口禿 | 底径：5.6 Ⅸ－1類 |
| 339 | SD11 | PL41 | 青磁小皿 | ⅓残存 | 10.2 | 1.6 | | 淡緑灰色 | 精良 | 良好 | 外面は口縁部のみ施釉 | 底径：5.0 同安窯Ⅰ－1類 |
| 340 | J11 包含層 | PL41 | 青磁小皿 | ¼残存 | 9.8 | 2.0 | | 灰緑色 | 精良 | 良好 | 外面は口縁部のみ施釉 | 底部：4.8 同安窯Ⅰ－1類 |
| 341 | 包含層 | PL42 | 白磁碗 | 口縁部¼残存 | 11.0 | | | 淡青灰色 | 精良 | 良好 | 口禿 | Ⅸ類 |
| 342 | SE10 | PL42 | 青磁碗 | 口縁部一部残存 | 17.6 | | | 灰緑色 | 精良 | 良好 | 内面に飛雲文 | 龍泉窯Ⅰ－4類 |
| 343 | K7 包含層 | PL41 | 青白磁小壺蓋 | 口縁部⅓残存 | 6.0 | | | 淡青色 | 精良 | 良好 | 外面に蓮弁文 | |
| 344 | K6 包含層 | － | 青白磁小壺 | 口縁部破片 | 4.8 | | | 淡灰青色 | 精良 | 良好 | 外面に列点文・蓮弁文 | |
| 345 | SE13 | PL41 | 青白磁合子 | ⅓残存 | | | | 淡青色 | 精良 | 良好 | 外面に蓮弁文 | 底径：3.2 |
| 346 | H3包 | PL41 | 青磁四耳壺 | ⅓残存 | | | | 淡灰緑色 | 精良 | 良好 | | |
| 347 | SE16 上層 | PL42 | 青磁碗 | 口縁部破片 | | | | 灰青灰色 | 精良 | 良好 | | 龍泉窯Ⅰ－1類 |
| 348 | C15 包含層 | PL42 | 青磁碗 | 口縁部破片 | | | | 灰緑色 | 精良 | 良好 | 外面に花弁文 | 龍泉窯Ⅰ－1類 |
| 349 | D16 包含層 | PL42 | 青磁碗 | 口縁部破片 | | | | 淡灰青色 | 精良 | 良好 | | 龍泉窯Ⅰ－5類 |
| 350 | G14 包含層 | PL42 | 青磁碗 | 口縁部破片 | | | | 淡灰緑色 | 精良 | 良好 | 外面に花弁文 | 龍泉窯Ⅰ－5類 |

## 表19　遺物観察表15

| 遺物No | 遺構名 | 写真図版 | 器　種 | 残在率 | 口径 | 器高 | 高台径 | 色　調 | 胎　土 | 焼　成 | 技法の特徴 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 351 | SE16 上層 | PL42 | 青磁碗 | 口縁部破片 | | | | 淡青灰色 | 精良 | 良好 | | 龍泉窯Ⅰ－1類 |
| 352 | K7包 | PL42 | 白磁碗 | 口縁部破片 | | | | 乳白色 | 精良 | 良好 | 口禿 | Ⅸ類 |
| 353 | SK10 | PL41 | 青磁碗 | 破片 | | | | 淡灰青色 | 精良 | 良好 | 内面に荷花文 | 龍泉窯Ⅰ－3類 |
| 354 | 包含層 | PL41 | 青磁碗 | 口縁部破片 | | | | 灰青色 | 精良 | 良好 | 外面に鎬蓮弁文、内面に荷花文 | 龍泉窯Ⅰ－6類 |
| 355 | 包含層 | PL42 | 青磁碗 | 底部破片 | | | | 淡灰緑色 | 精良 | 良好 | 外面に花弁文 | 龍泉窯Ⅰ－5類 |
| 356 | SD1 | PL42 | 青磁碗 | 底部破片 | | | | 青灰色 | 精良 | 良好 | 外面に花弁文 | 龍泉窯Ⅰ－5類 |
| 357 | G15包 | PL42 | 白磁碗 | 口縁部破片 | | | | 灰白色 | 精良 | 良好 | 口禿 | Ⅸ類 |
| 358 | K11・12包 | PL42 | 青磁碗 | 口縁部破片 | | | | 淡灰青色 | 精良 | 良好 | 外面に花弁文 | 龍泉窯Ⅰ－5類 |
| 359 | D17 包含層 | PL42 | 青磁碗 | 底部破片 | | | | 濃灰緑色 | 精良 | 良好 | 外面に花弁文 | 龍泉窯Ⅰ－5類 |

## 木製品

| 遺物 No | 遺構名 | 写真図版 | 種類 | 部位 | 遺物 No | 遺構名 | 写真図版 | 種類 | 部位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 360 | SD1 | PL44 | 漆器椀 | 椀底部 | 370 | K11 包含層 | PL46 | 下駄 | 鍾部欠損 |
| 361 | SP1 | PL44 | 漆器 | 断片 | 371 | C16 包含層 | PL46 | 下駄 | ほぼ完存 |
| 362 | SD1 | | 漆器椀 | 口縁部 | 372 | SD2 | PL46 | 下駄 | 後部歯欠損 |
| 363 | SD9 | | 漆器椀 | 口縁部 | 373 | K9 包含層 | PL45 | 下駄 | 縁部欠損 |
| 364 | SD1 | | 用途不明 | | 374 | SD9 | PL45 | 下駄 | 縁部欠損 |
| 365 | G6 包含層 | | 紡錘車 | 軸部欠損 | 375 | SD1 | PL45 | 下駄 | ほぼ完存 |
| 366 | SE10 | | 木鍾 | 部分欠損 | 376 | SD16 | PL47 | 下駄 | 歯部欠損 |
| 367 | SD15 | | 木鍾 | 部分欠損 | 377 | K9 包含層 | PL47 | 下駄 | 縁部欠損 |
| 368 | SE16 | PL44 | 櫛 | 部分欠損 | 378 | SE9 | PL47 | 下駄 | 断片 |
| 369 | SD1 | PL45 | 下駄 | ほぼ完存 | | | | | |

## 鉄製品

| 遺物 No | 遺構名 | 写真図版 | 種類 | 備考 | 遺物 No | 遺構名 | 図版番号 | 種類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 379 | K6 包含層 | PL49 | 用途不明 | 長6.9 | 384 | SE13 | PL48 | 包丁 | 長29.7 |
| 380 | SE13 | PL49 | 用途不明 | 長10.1 | 385 | K13 包含層 | PL49 | 楔 | 長19.4 |
| 381 | SP136 | PL49 | 刀 | 現在12.8 | 386 | SE8 | PL49 | 刀子 | 長12.2留孔 |
| 382 | J14 包含層 | PL49 | 刀 | 現在15.4 | 387 | SD18 | PL49 | 刀子 | 長21.6留孔 |
| 383 | J14 包含層 | PL49 | 鏃 | 長18.9 | 388 | SE3 | PL49 | 刀子 | 長19.9留孔 |

# 第4章　ま　と　め

福万寺遺跡で検出した中世の建物、井戸、土坑、溝などの遺構は２つの屋敷跡を構成するもので、これらの屋敷地は溝及び道路状遺構で区画され、調査区の南東側と北西側に位置している。またＳＤ１とＳＤ２によって区画される道路遺構ＳＲ１は、現在の福万寺町南と上の島町北の境にある里道の直下にあり、そこは同時に河内群条里と高安群条里との条里制の上での群界に一致している。

この二つの屋敷地は、道路状遺構ＳＲ１を挟んで互い違いに向かい合っている。南北幅は不明であるが、北の屋敷地は東西30ｍを測り、南側の屋敷地は、東西40ｍを測る。北側の屋敷地は、建物２棟以上、西側に柵列、南側に堀状遺構、東側に井戸などを備える。屋敷地の南側にある土坑は炊事施設かと思われる。屋敷地の西側と東側の低地部分は耕作地であったと考えられる。南の屋敷地は、敷地の北東側に庭園と思われる池状遺構、その西側、南東側、南側にその池を取り囲むように３棟の建物がある。特に西側の礎盤をもつ大型建物はこの屋敷地の中心的な建物の一つであると考えられる。この建物群の南東側には井戸が集中している。またこの屋敷地西側の低地も耕作地であったと思われる。

これらの遺構の時期は、瓦器椀の編年によると古相を呈するＡ類の瓦器椀が尾上氏編年のⅢ－２期、白石編年のⅢ－１型式とされているものに近く、当麻寺曼荼羅堂出土資料の中で寛元元年（1243）の仏壇製作時のものとされる瓦器椀に比定されている。最も退化したＥ類の瓦器椀が尾上編年のⅣ－３ないし４期に比定され、狭山遺跡のＳＤ7781の瓦堆積より1408年初鋳の永楽通宝を伴って出土しているものに類似している。またこの型式の瓦器は西ノ辻遺跡で元徳２年（1330）の紀年木簡と共伴することより、14世紀中葉～後半の時期巾が考えられている。このことから当遺跡の存続期間は13世紀前半を上限とし14世紀後半～15世紀前半を下限とする。ことができる。このことは、中国磁器においても12．13世紀に盛行する同安窯系青磁が極めて少なく、青花白磁を含まない点においてもこの事実を物語っている。また青白磁の合子、小壺は12世紀代の経塚に伴例が古くより知られていたが最近草戸千軒遺跡では、それが出土する時期が当遺跡の例と同じ14世紀代に集中するという事実が述べられてる。さらに中国磁器全体としては、口禿の白磁ⅢⅨ類を含むが龍泉窯系青磁椀Ⅲ類が見当らない点で、至治三年（1323）以後の14世紀前半に沈没したと想定されている新安海底遺物より古相のものが多数を占めることを指摘することが出来る。また、陶器においては、ほとんどが東播系で備前焼を全く含まない点は当遺跡の下限を15世紀以後に下げることを難しくしている。

先述したとおり玉櫛荘の初見は11世紀初めであり、それが、この付近における条里遺構出現の時期に一致しているらしいことが最近の調査成果より明らかになりつつある。この荘園は、

この付近に存在する御野県主神社の存在や三野郷という地名、さらに14世紀に美野勅旨田の記載が見られる事よりこの付近が10世紀まで若江、渋川郡に本拠をもっていた美努氏によって開発されたであろうことは創造に難くない。そして11世紀初頭玉櫛荘の記載が認められるが、その後玉櫛の荘は摂関家として15世紀以降まで存続していたらしいことが文献によって明らかにされている。

当遺跡の遺構と関連する時期の史料は極めて少ないが、弘安四年（1281）に玉櫛庄住人吉弘と八幡神人が恩地新田のことから争いになったことが「勘仲記」に記されており、当遺跡の屋敷地が存在した当時の玉櫛荘に居住していた人々の様子を伺うことのできる史料として注目すべきである。彼らは後に「悪党」と呼ばれるような本所に従わない在地領主または武士化した有力名主層のひとりであったに違いない。かれら行動範囲は広く、街道の通行を押さえ、商業上の交易権や新田の開発をめぐって寺社勢力を背景として活動を行っていた同様の神人達と利害をめぐって対立していたことが考えられる。それではこの当時の玉櫛荘の状況が本調査で検出した遺構遺物にどのように反映されているかを次に推測してみたい。

中世の畿内における荘園の特色のひとつは均等名荘園であるとされている。例えば一乗院領池田庄丸帳によれば、田畠屋敷より構成される名が、田畠２町前後の均等名によって成り立っており、屋敷地は一反程度であったことを述べられている。当遺跡の屋敷地の存在状況は、よくこの事柄に当て嵌まり、付近の調査によって南北に同時期の屋敷跡の存在を想定し難いことを考えれば、資料が少ないので想像の域を出ないが福万寺と上之島との境に位置する里道の南北に一町ごとに一反～二反の屋敷地が存在すると想定すれば、その東西に一町、南北に二～三町程度の田畠がそれに伴っているのではないかと思われる。このような屋敷地と耕作地の存在形態が明らかになれば、中世の玉櫛荘における荘園の経営形態を復元することが出来るかも知れない。いずれにせよ散村的な屋敷地の存在形態は、一定の領域内に屋敷地が集合する近世以後の村落形態とは全く様相が異なっており、郷村制成立以前の屋敷地の存在形態の一例を示しているものと思われる。そしてこの屋敷地に居住していた住人は、言うまでもなく「百姓」とよばれた中小の名主層であったことは想像に難くない。彼らは、直接農業経営に携わりながらも、畿内の先進文化を身につけた武士的側面を持った人達であったことを掘状の施設や園池と思われるものをもつ屋敷地の遺構と中国磁器や刀や刀子など金属製品、宋銭、木製品、硯等の内容豊かな出土遺物がものがたっているように思われる。

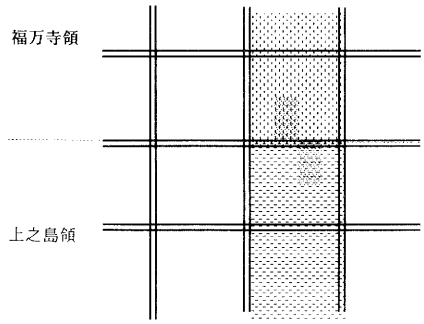


図79　福万寺遺跡屋敷地田畠復元図

なお中世の遺構面より上層に被っている厚い砂の堆積層は、後世にこの付近が大規模な水害にあったことを示

## 表５　福万寺遺跡関係年表

| 西暦 | 年号 | 事　　象 | 出　　典 |
|---|---|---|---|
| 917 | 延喜17 | 美努常真若江郡三条竹村里の田を信貴山領として施入 | 信貴山資材宝物帳 |
| 936 | 承平６ | 美努忠貞渋川郡三条利苅里の田を信貴山に施入 | 信貴山資材宝物帳 |
| 997 | 長徳３ | 若江郡美努公忠等が美努兼倫を検非遣使庁に訴える | 北山抄裏文書 |
| 1015 | 長和４ | 河内郡玉串荘から牧地の件で辛島荘と争い公験を求め訴え、若江郡司源訪が玉櫛荘下司となる。 | 小右記 |
| 13世紀前半 | | 屋敷跡ＳＥ16など古相の遺構使用される。 | |
| 1281 | 弘安４ | 玉櫛荘住人吉弘恩智新田をめぐって喧嘩に及び神人則安を射たことで八幡神人訴訟す。 | 勧仲記 |
| 1282 | 弘安５ | 玉櫛庄住民吉弘日吉神人と称し本所に従わず。 | 勘仲記 |
| 1314 | 正和３ | 尊治親王令旨案七条院御領美野勅旨田を四辻宮親王家に返還する。 | 東寺百合文書 |
| 1352～55 | 文和年中 | 佐々木盛綱８世の孫佐々木二郎盛恵の居城福万寺城があったという伝承。 | 大阪府全誌 |
| 1383 | 永徳３ | 相国寺領玉櫛荘が摂政家に寄進される。 | 後鑑 |
| 14世紀後半～15世紀前半 | | 屋敷跡廃絶する。 | |
| 1468 | 応仁２ | 平等院領河内国玉櫛荘内定田盛田諸闕所公事銭等を武家の下知に任せる旨の院宣が出される。 | 安本文消息類 |
| 1533 | 天文２ | 洪水で大和川植松堤切れる。 | 林文書 |
| 1534 | 天文３ | 玉櫛衆が木沢長政、法華衆と合戦 | 私心記 |
| 1544 | 天文13 | 畿内洪水、摂津河内被害甚し | 皇年代略記 |
| 1560 | 永禄３ | 三好長慶、畠山高政の兵を河内玉櫛で破る。 | 細川両家記 |
| 1563 | 永禄６ | 河内国で水害おこり人民一万六千余死す。 | 江源武鏡 |
| 1576 | 天正４ | 石山合戦に玉櫛荘より加勢する。 | 石山合戦文書 |

しているが、16世紀以後には大和川の氾濫や河内国の洪水の記事が散見される。このことから、当遺跡の廃絶以後はこの付近が土砂の堆積により天井川と化した玉櫛川の氾濫原となり、荒れ地となっていた可能性が強い。ここに再び条里水田が復元されるのは、やはり18世紀初頭の大和川付け替え以後まで待たなければならないであろう。おそらくこの間に戦乱や洪水によって玉櫛荘は衰退し、史上から姿を消すことを余儀なくされたのではないだろうか。

参考文献


棚橋利光　『八尾の条里制』八尾市史紀要　1976

安田元久　『日本荘園史概説』1957

沢井浩三編『八尾市史史料編』八尾市教育委員会　1960

森田康夫編『八尾市編年史古代中世編』八尾市図書館　1980

井上政雄編『大阪府全史』

白石太一郎「いわゆる瓦器に関する二三の問題」『古代学研究54号』1969

尾上実『挟山遺跡・軽里遺跡発掘調査概要』大阪府教育委員会1978

尾上実「南河内の瓦器椀」『古文化論叢』1983

森島康雄「西ノ辻周辺における中世土器の編年」『神並・西ノ辻・鬼虎川遺跡発堀調査整理概要Ⅳ』大阪府教育委員会　1989

鄭良漠「新安発見の陶磁器の種類と諸問題」『新安海底引揚げ文物』1983

西谷正「新安海底発見の木簡について」『九州文化史研究所紀要第30号』1985

丹治康明「東播系須恵器について」『中近世土器の基礎研究』中世土器研究会　1985

間壁忠彦「備前焼の編年と分布」『島根県立博物館調査報告』第３冊　1982

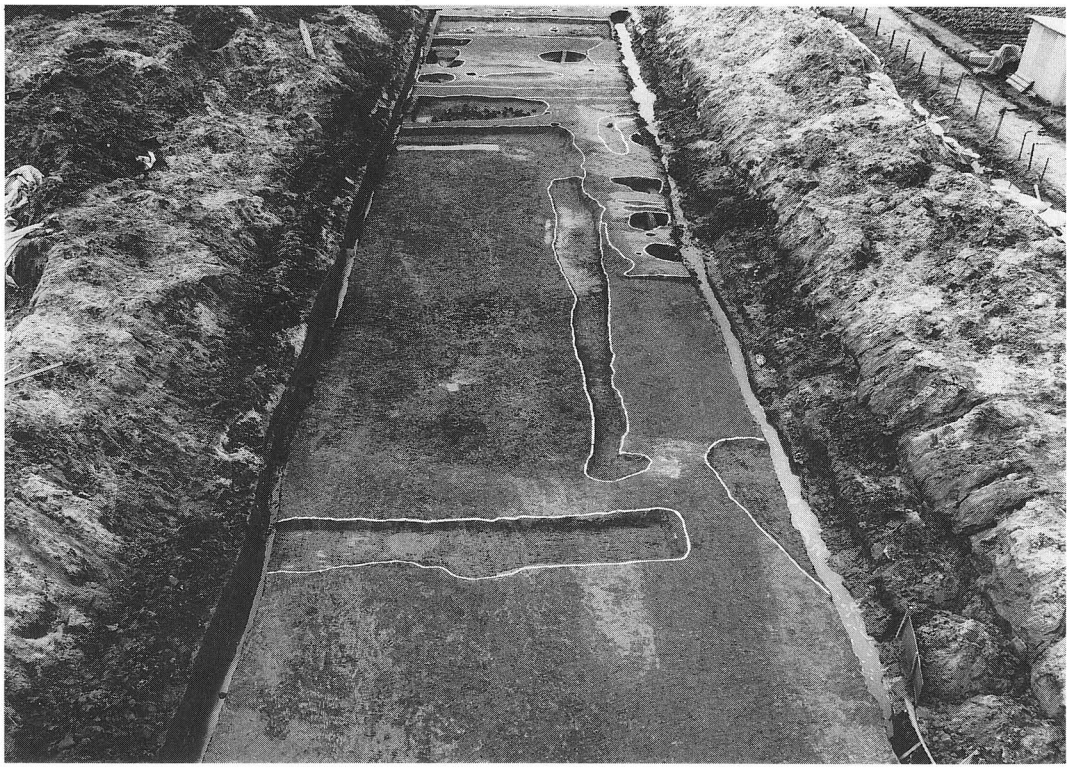
佐藤昭嗣「大上裕士「草戸千軒出土の青白磁合子、小壷について」『考古学雑誌75巻１号』1989


## 後　　記


福万寺遺跡を調査してから早くも７年の歳月か経過した。当初遺跡の存在さえ予想し得なかった為に充分な調査期間も取れない無理な調査であったがよくこれだけの成果が挙げることができたものだと今更ながらに思う次第である。これも調査の実施に尽力していただいた作業員、調査補助員諸氏と当時の教育委員会施設課の皆さん、側面から御援助下さった大阪府教育委員会の大野薫氏の多大な御協力の賜物であると信ずる。なおそれにも拘わらず７年も報告書の刊行を遅らせたことは、一重に筆者の怠慢によるものであり、この歳月の経過の間に忘却してしまった多くの事柄を思うと、調査終了後すぐ整理作業に専念できたならばもっと充実した内容の報告ができていただろうと後悔している次第である。なお中国磁器については奈良女子大学の坪之内徹氏の御教示を得、編年表の作成に当たっては樟蔭東短期大学の森田康夫氏、八尾市歴史民俗資料館の小谷利明氏に助力していただいたことを記しておく。

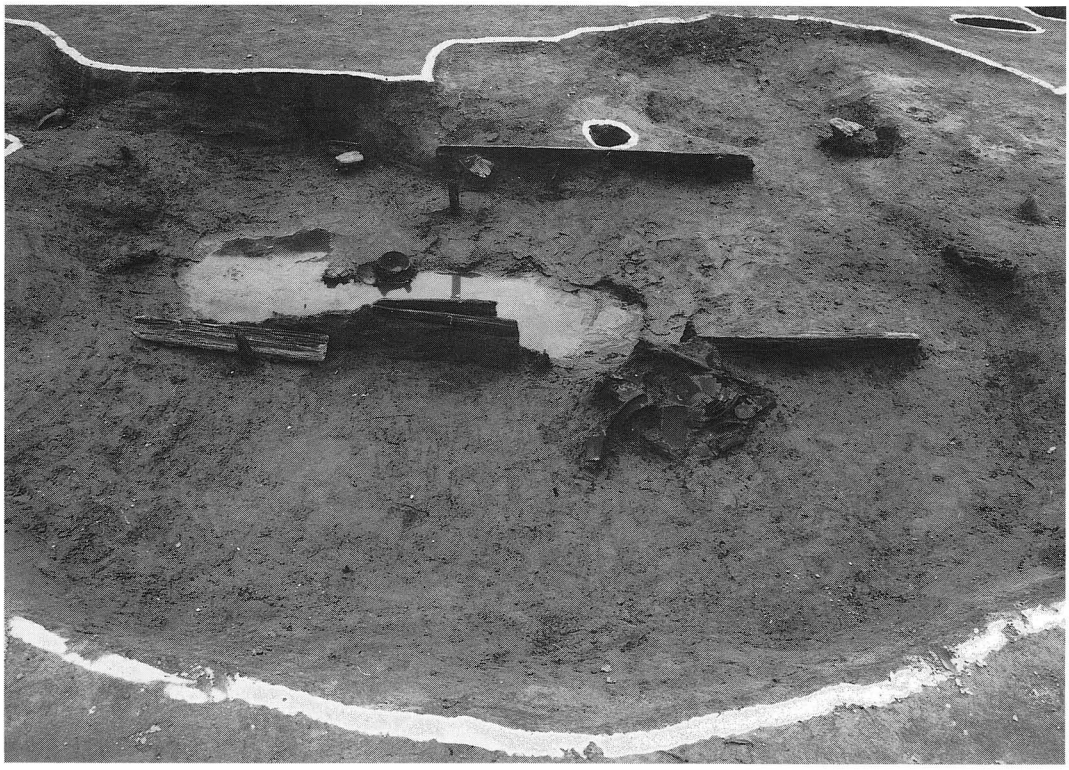
# 図　　版

北調査区西側全景



北調査区東側全景

北調査区建物（ＳＢ１．ＳＢ２）



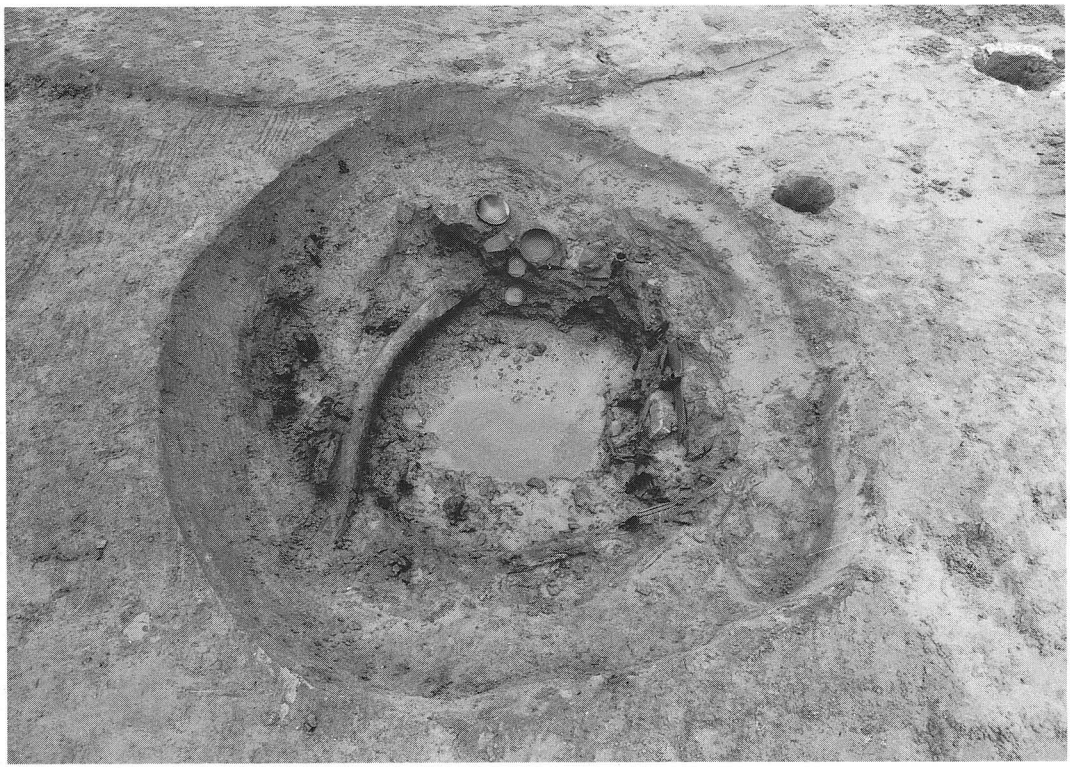
北調査区土坑（ＳＫ２）

北調査区井戸（ＳＥ５）

北調査区井戸（ＳＥ６）

図版四

北調査区井戸（ＳＥ９）



北調査区井戸（ＳＥ10）

南調査区全景

南調査区建物（ＳＢ３．４）

図版六

南調査区井戸（ＳＥ11）

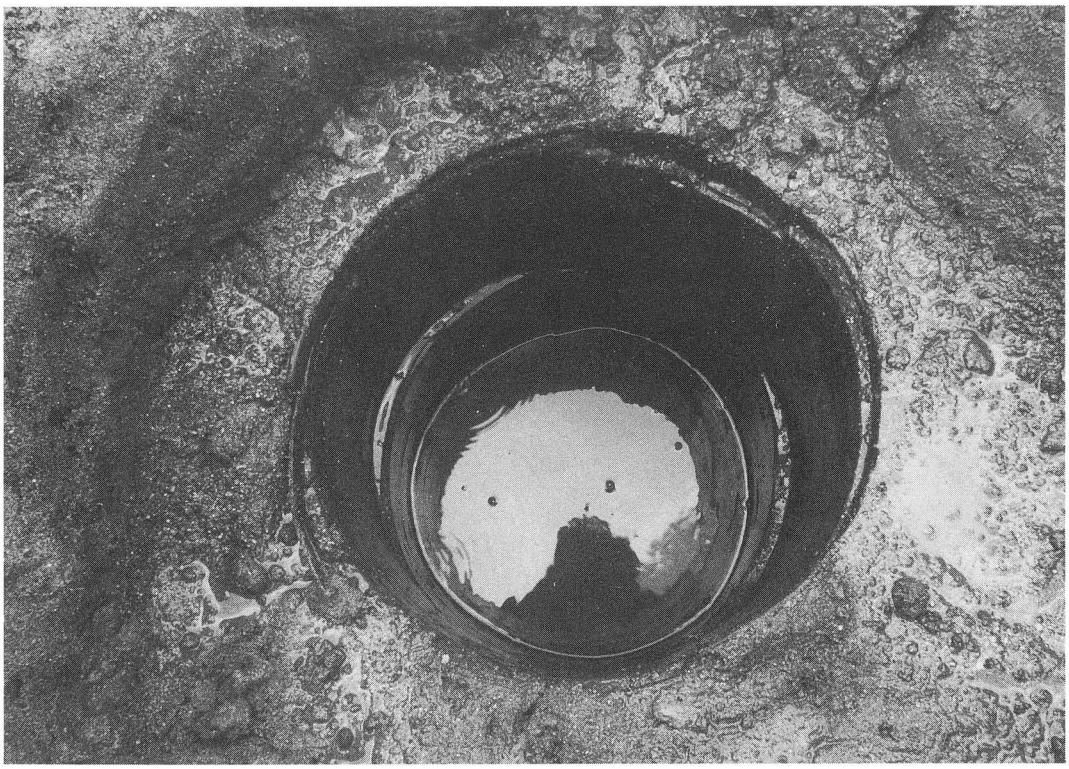
南調査区井戸（ＳＥ12）

南調査区井戸（ＳＥ13）

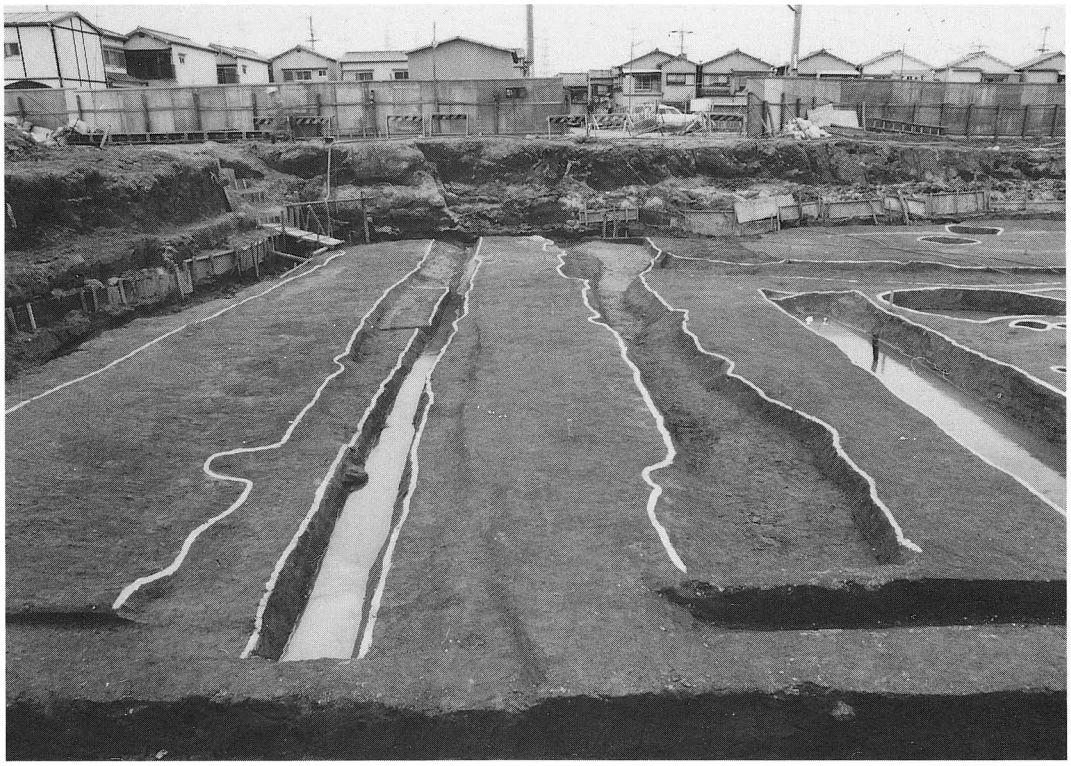
南調査区井戸（ＳＥ13井筒内）

図版八

南調査区井戸（ＳＥ16）

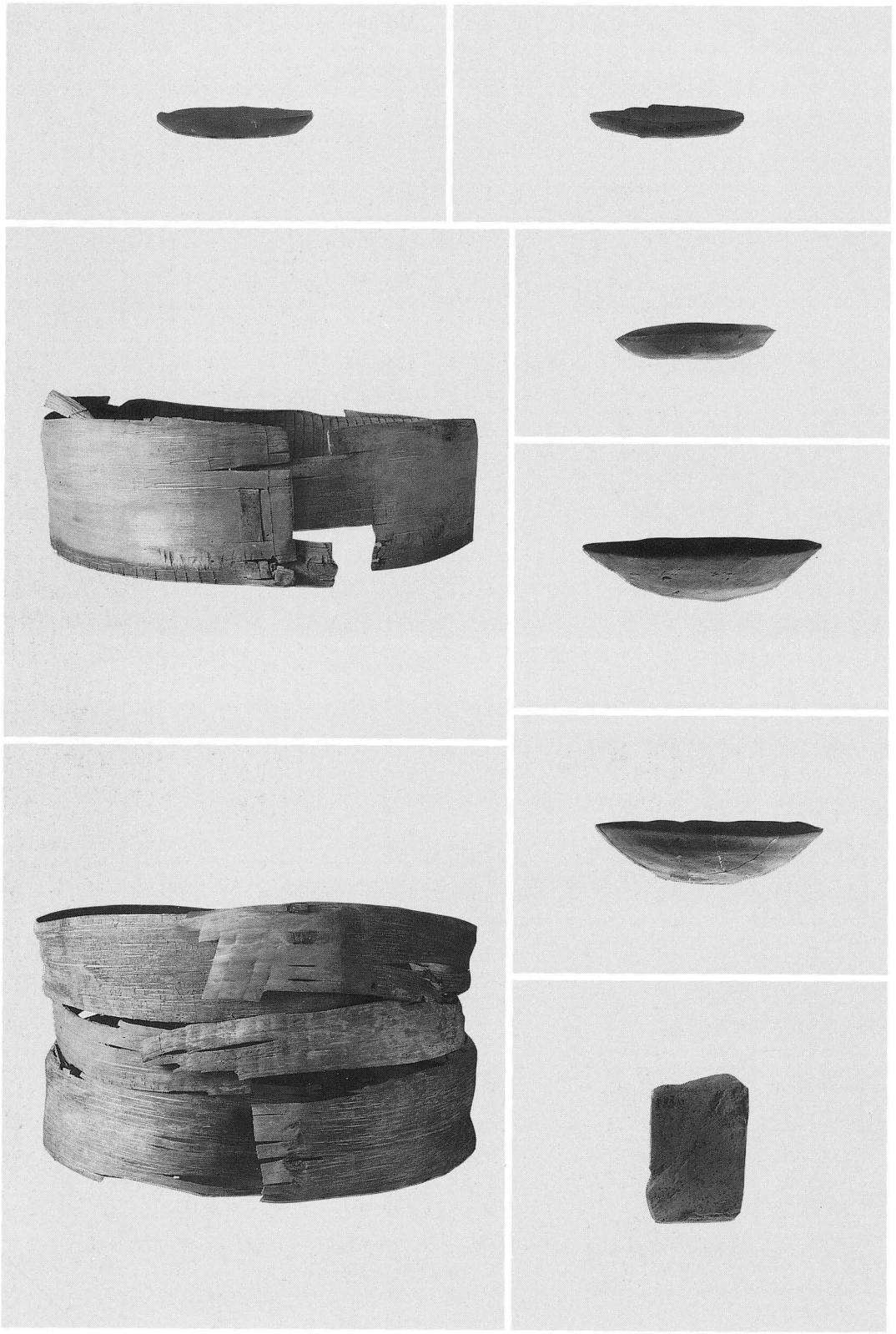


南調査区井戸（ＳＥ16井筒内）

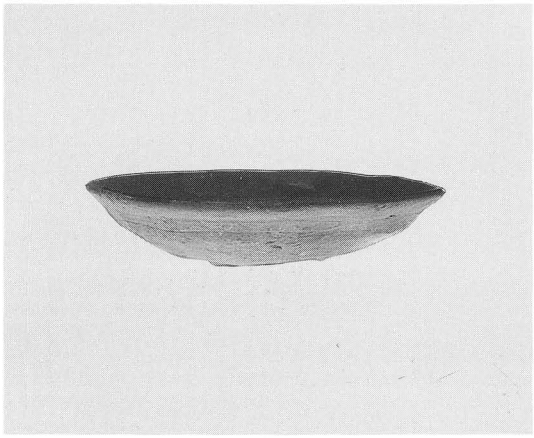


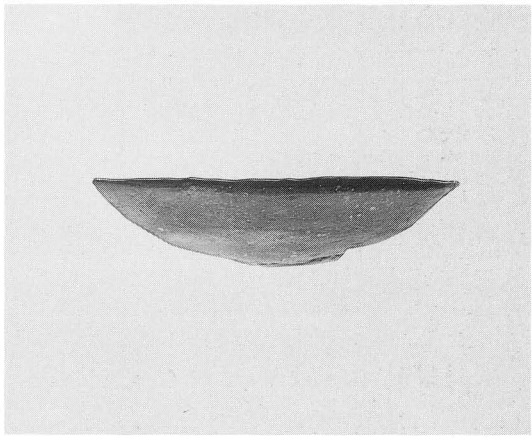
北調査区里道（ＳＲ１）

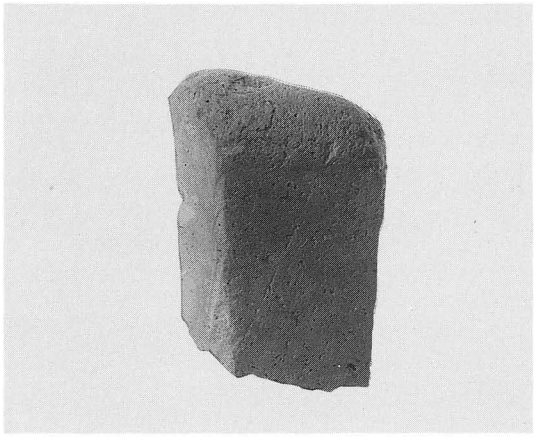
南調査区里道（ＳＲ１）

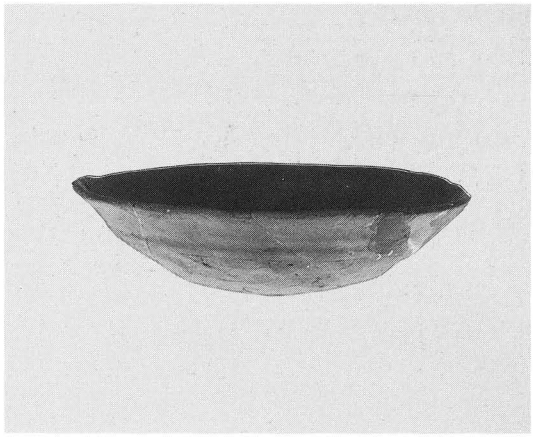


ＳＥ３瓦器皿・ＳＥ６瓦器皿、瓦器椀、砥石、曲物

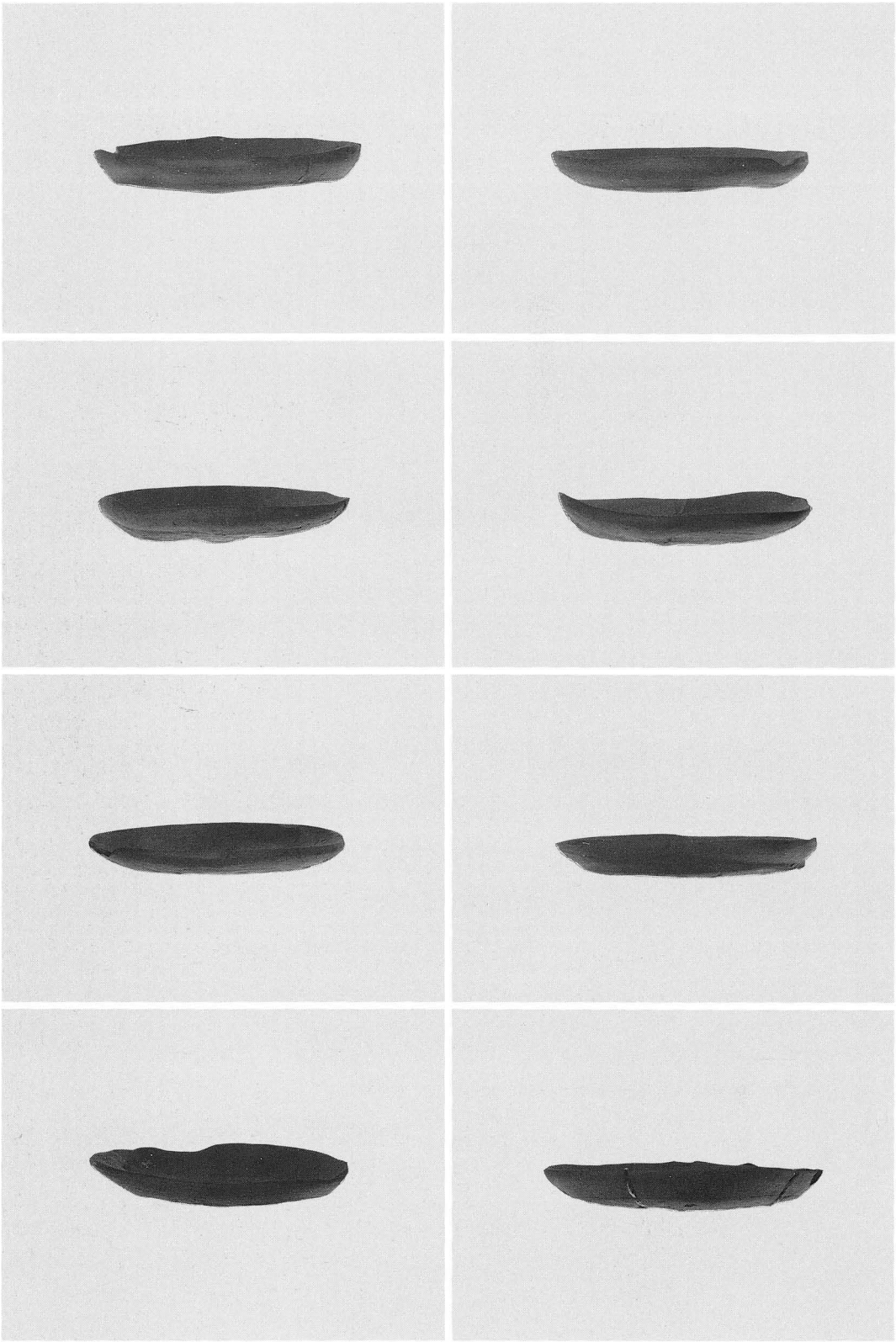




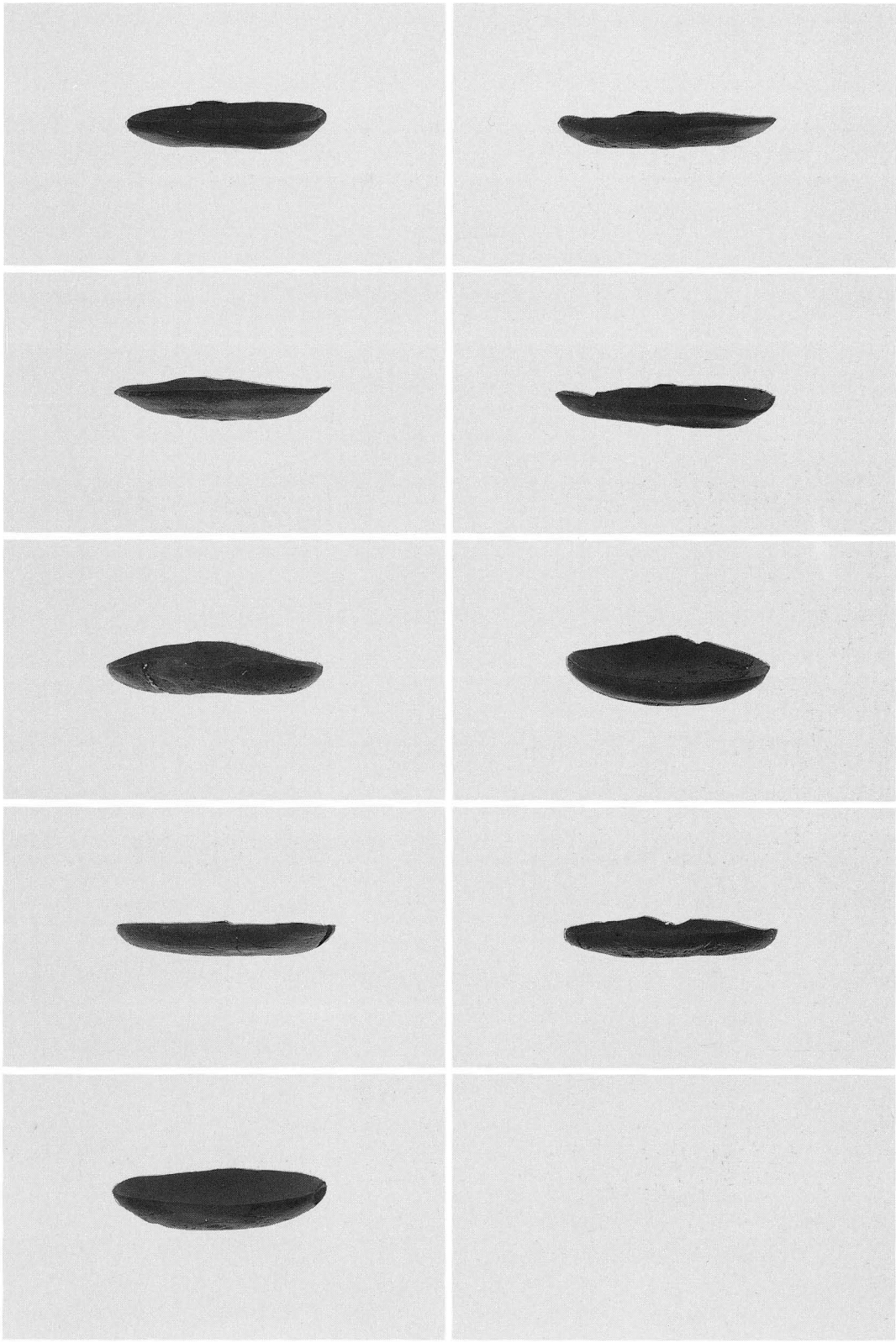




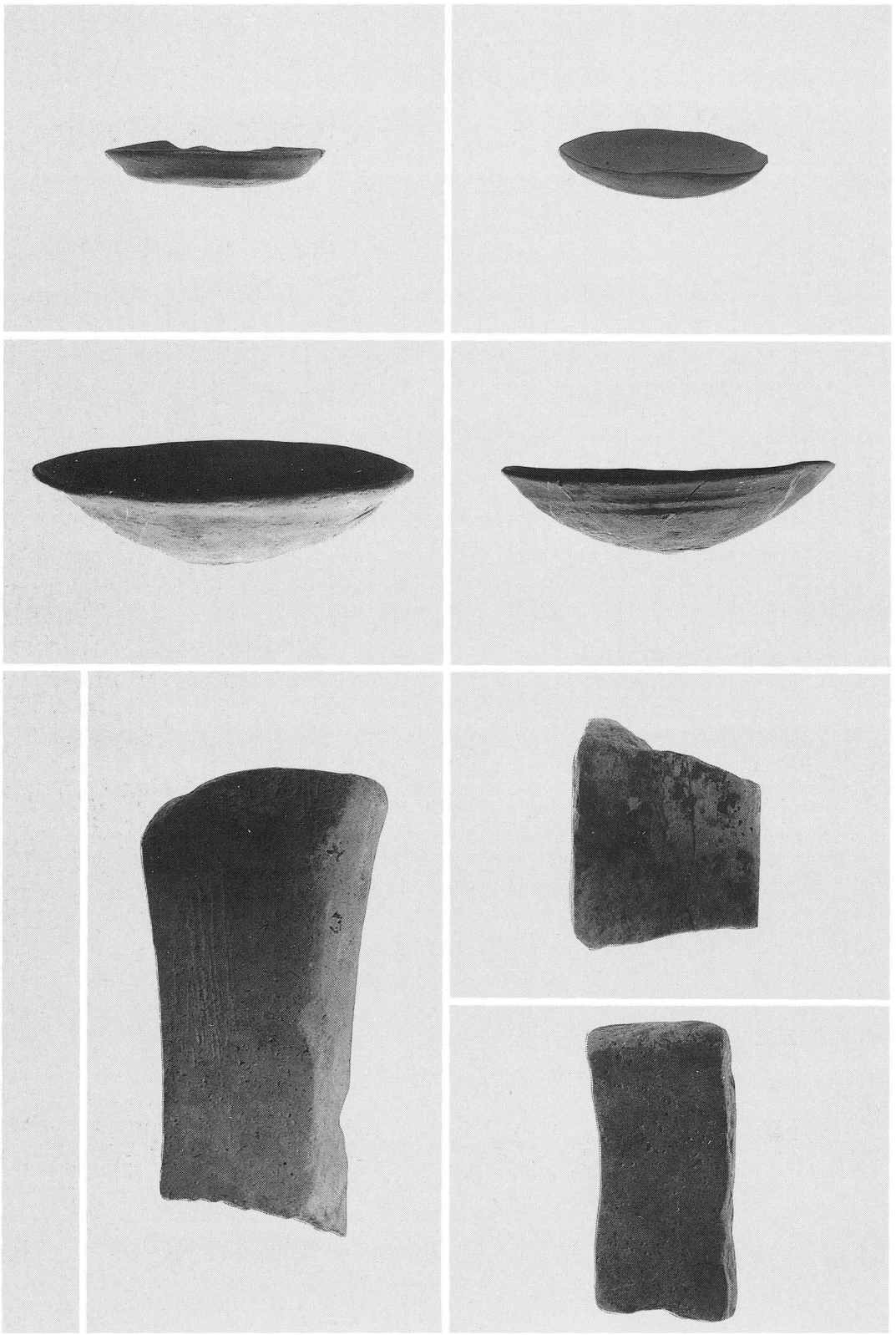
ＳＥ９羽釜・ＳＥ10瓦器椀、砥石



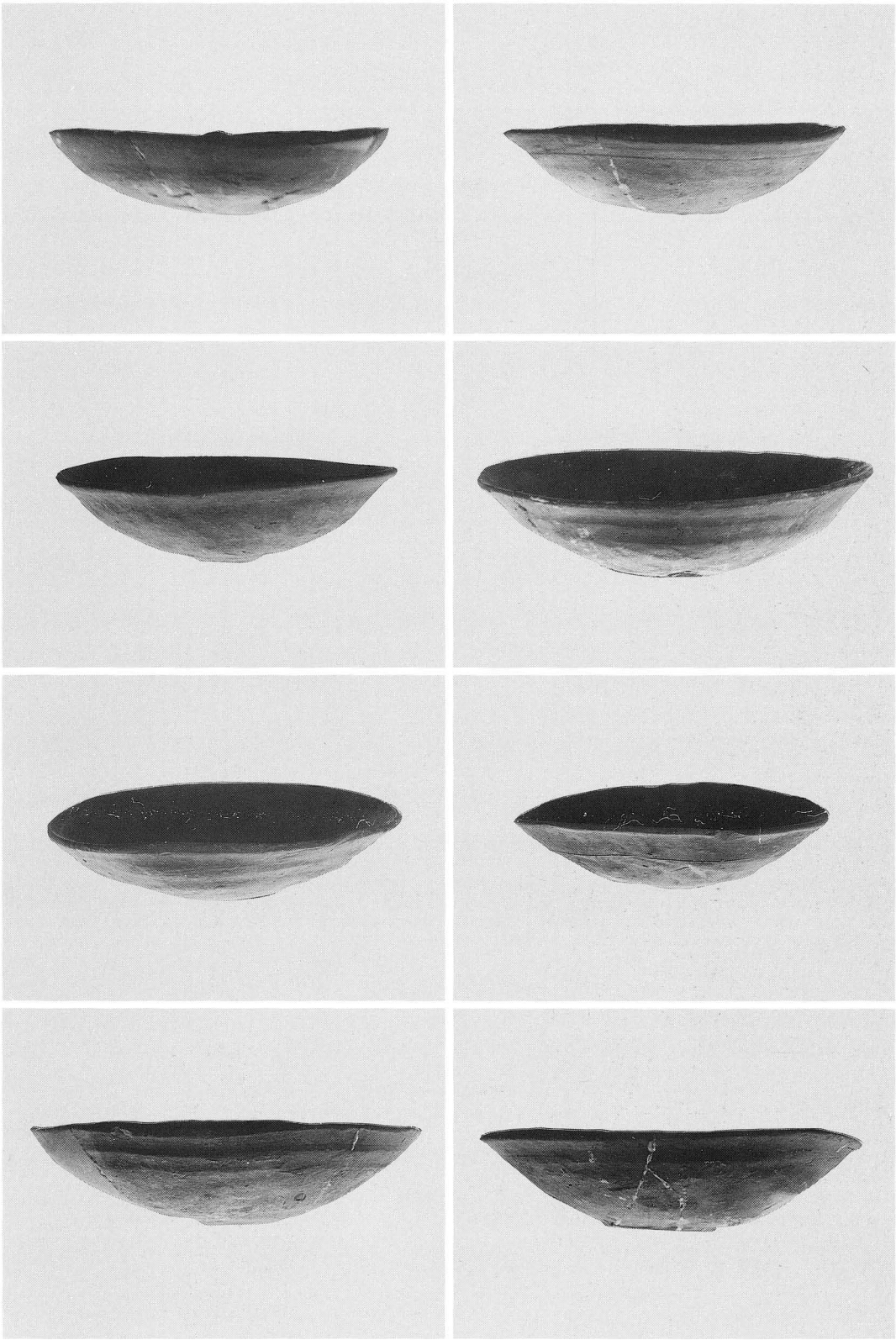
ＳＥ10土師器皿



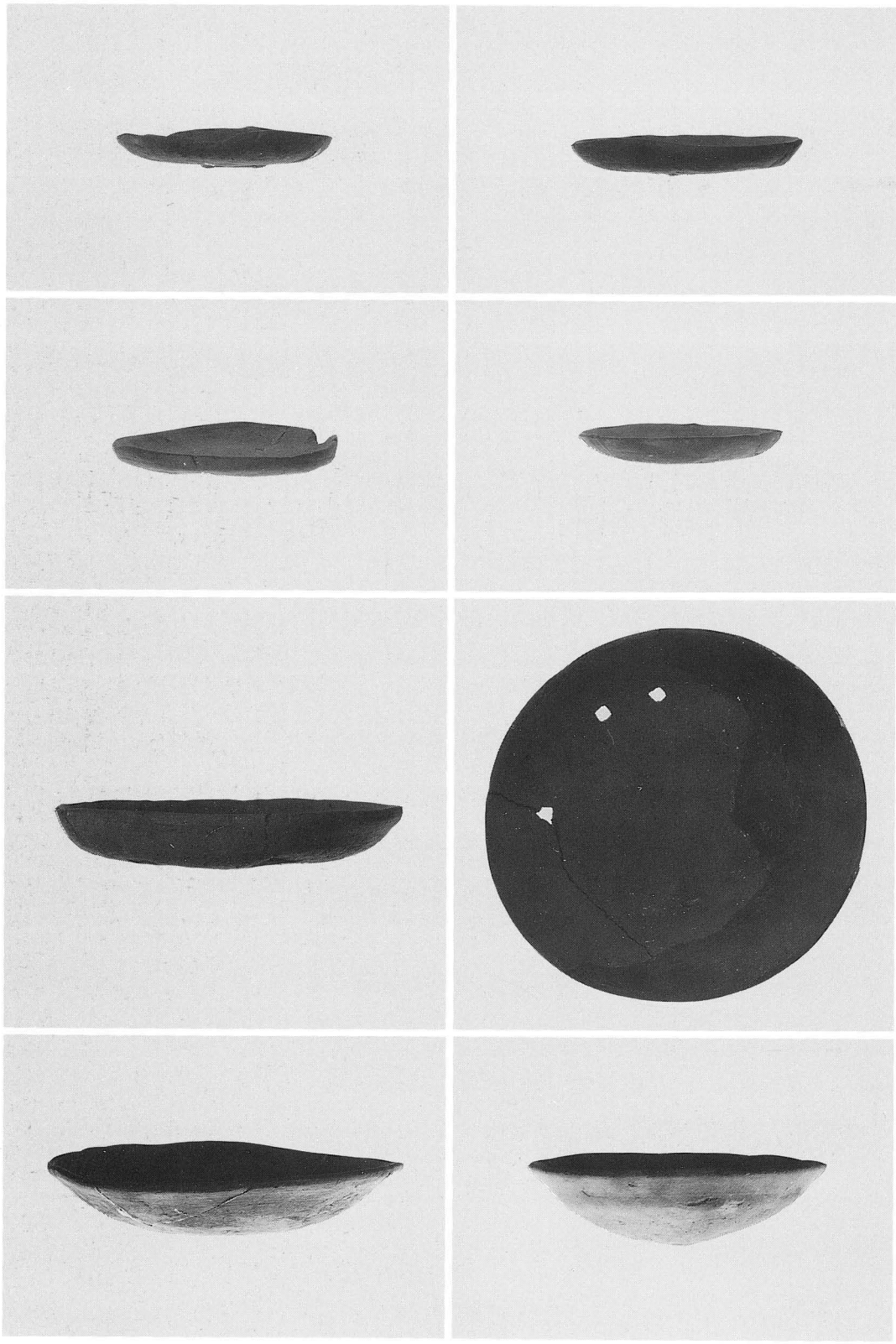
ＳＥ11土師器皿



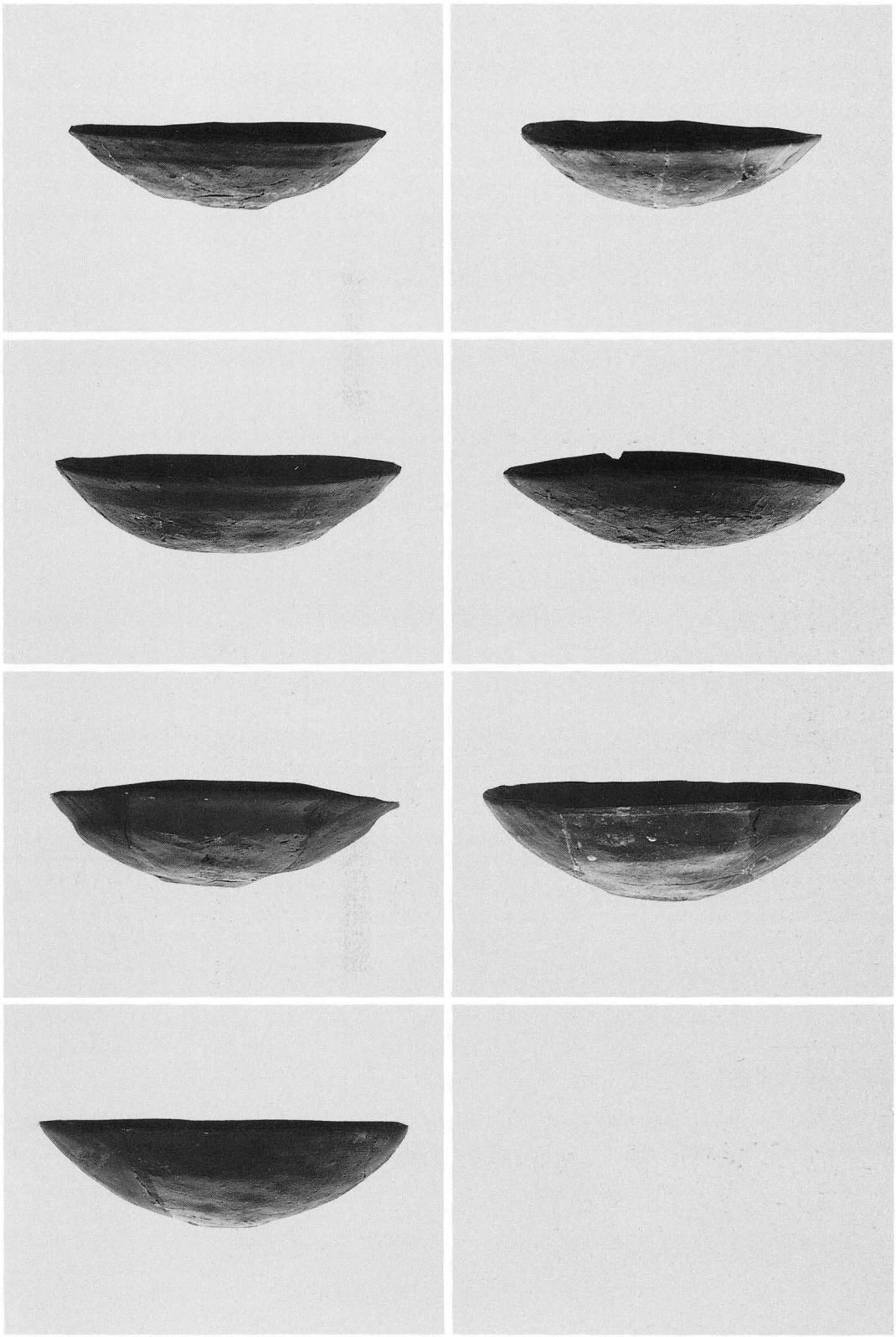
ＳＥ11瓦器皿、瓦器椀、砥石



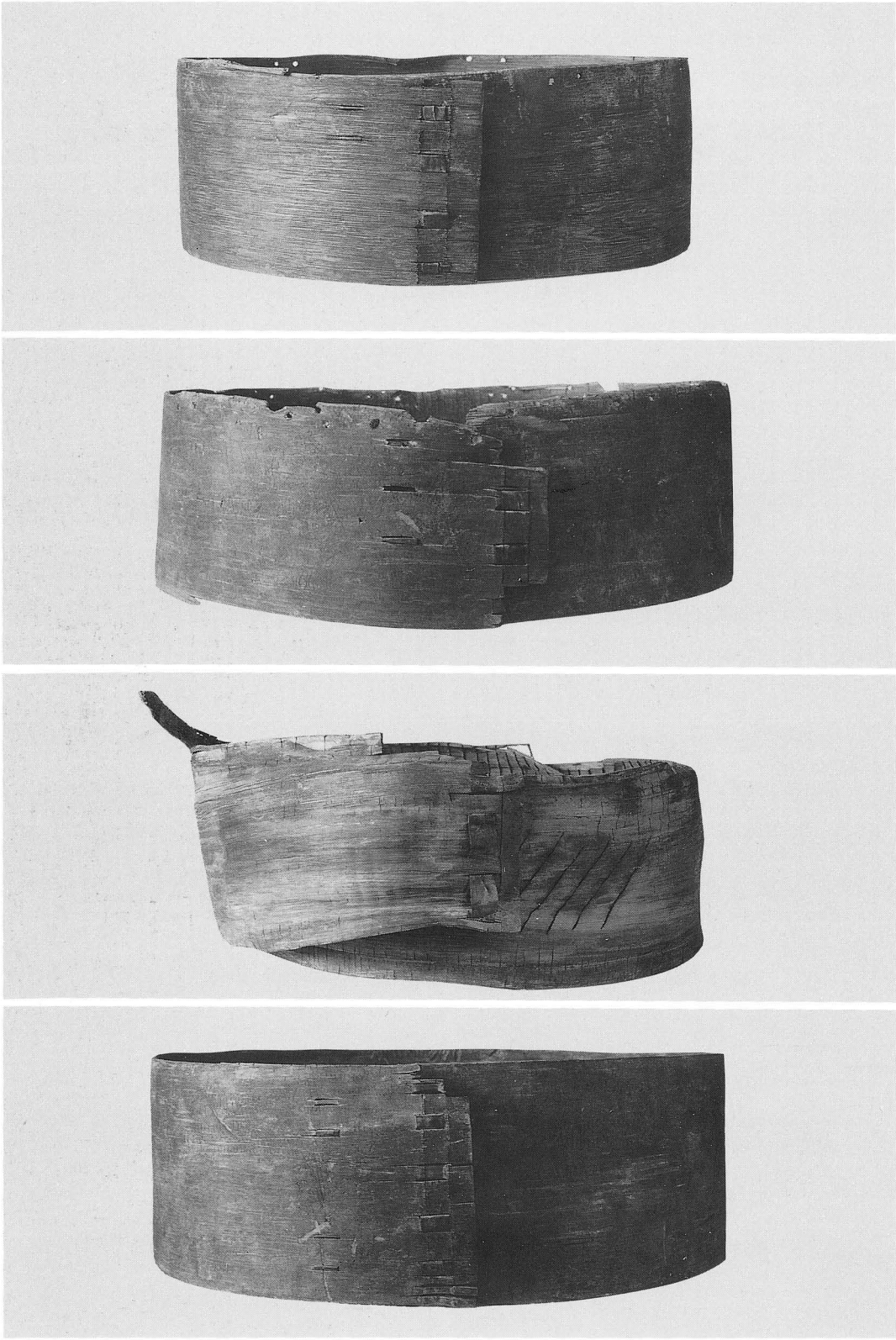
ＳＥ11瓦器椀



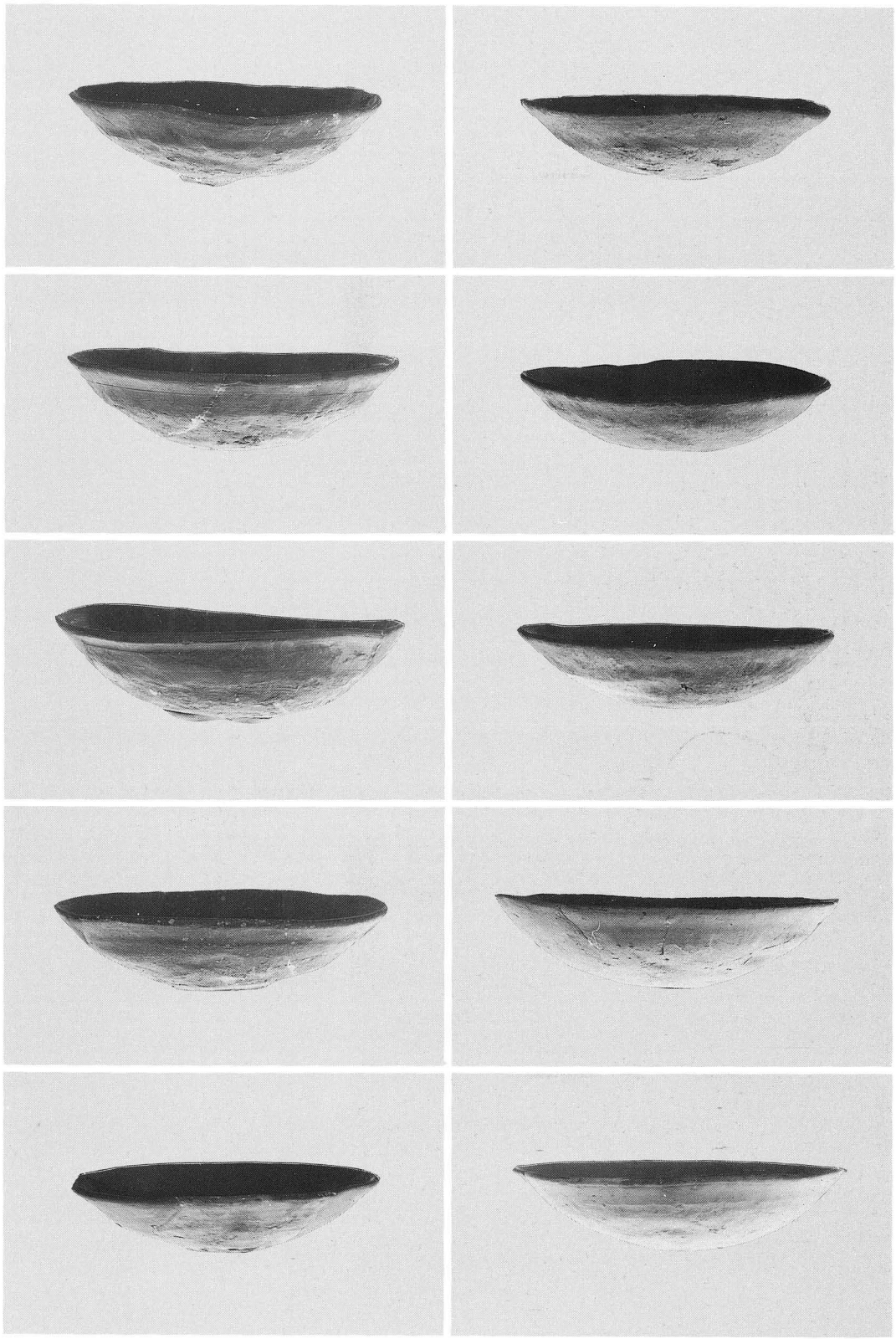
ＳＥ13土師器皿、瓦器椀



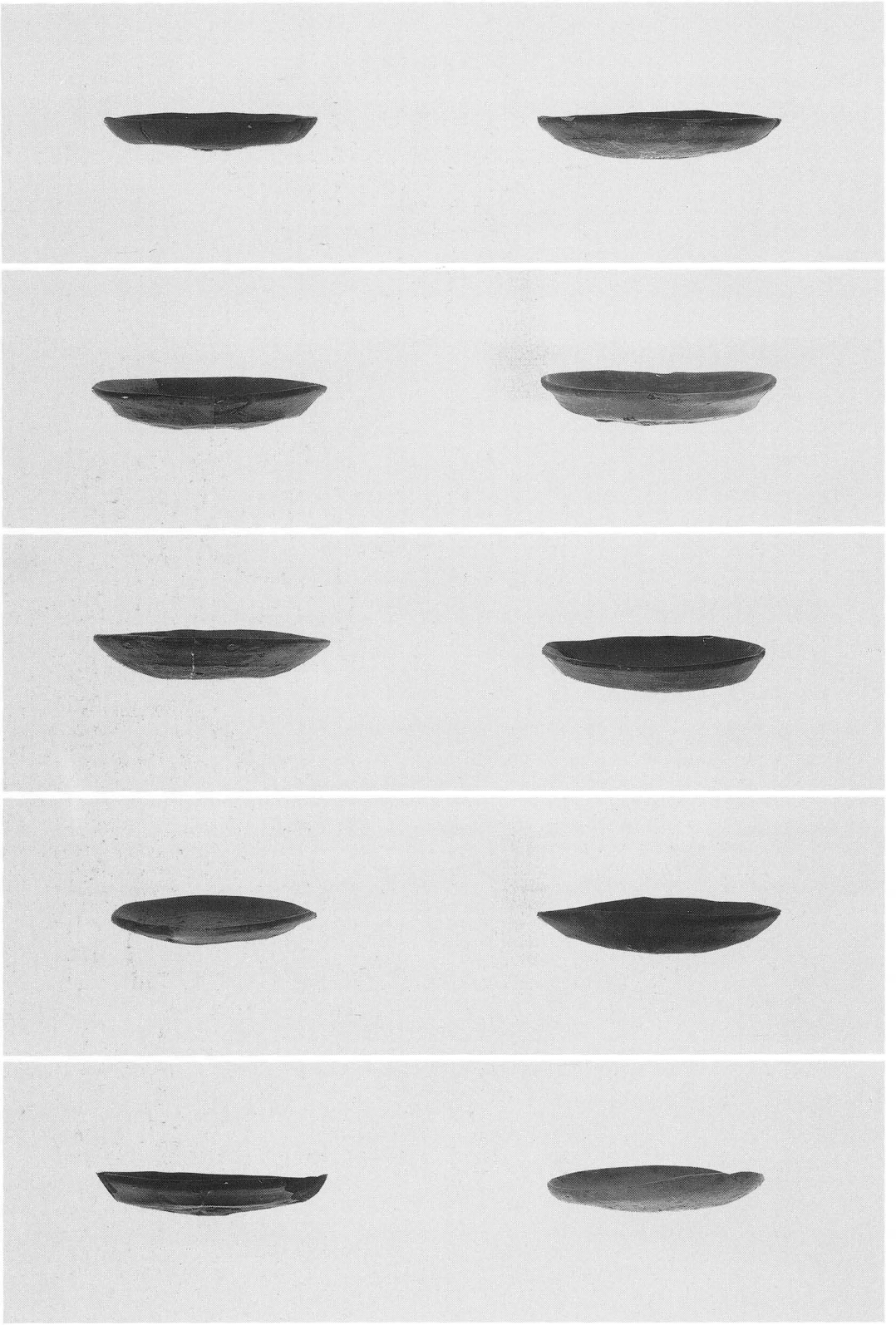
ＳＥ13瓦器椀



ＳＥ13曲物

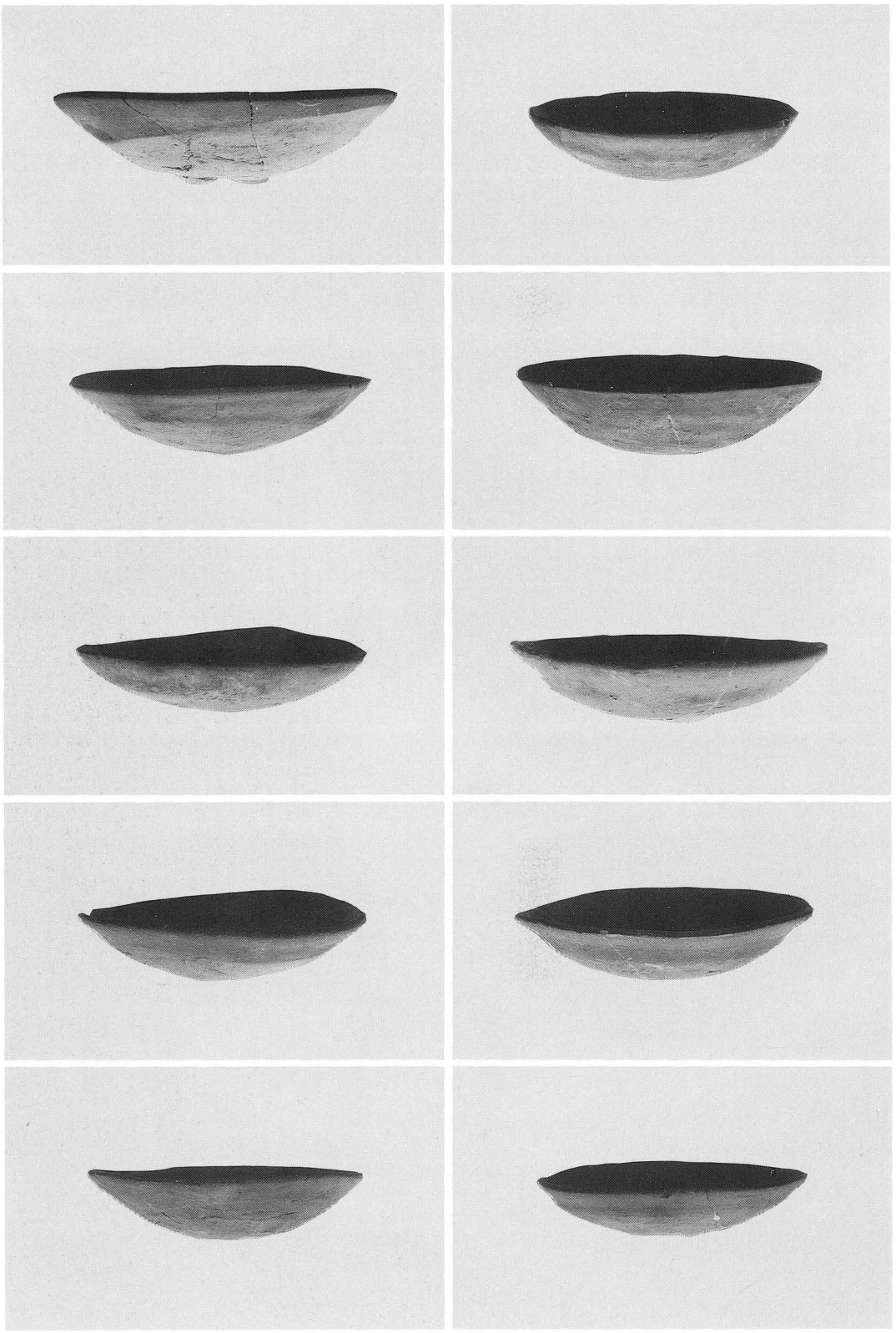


ＳＥ16瓦器椀

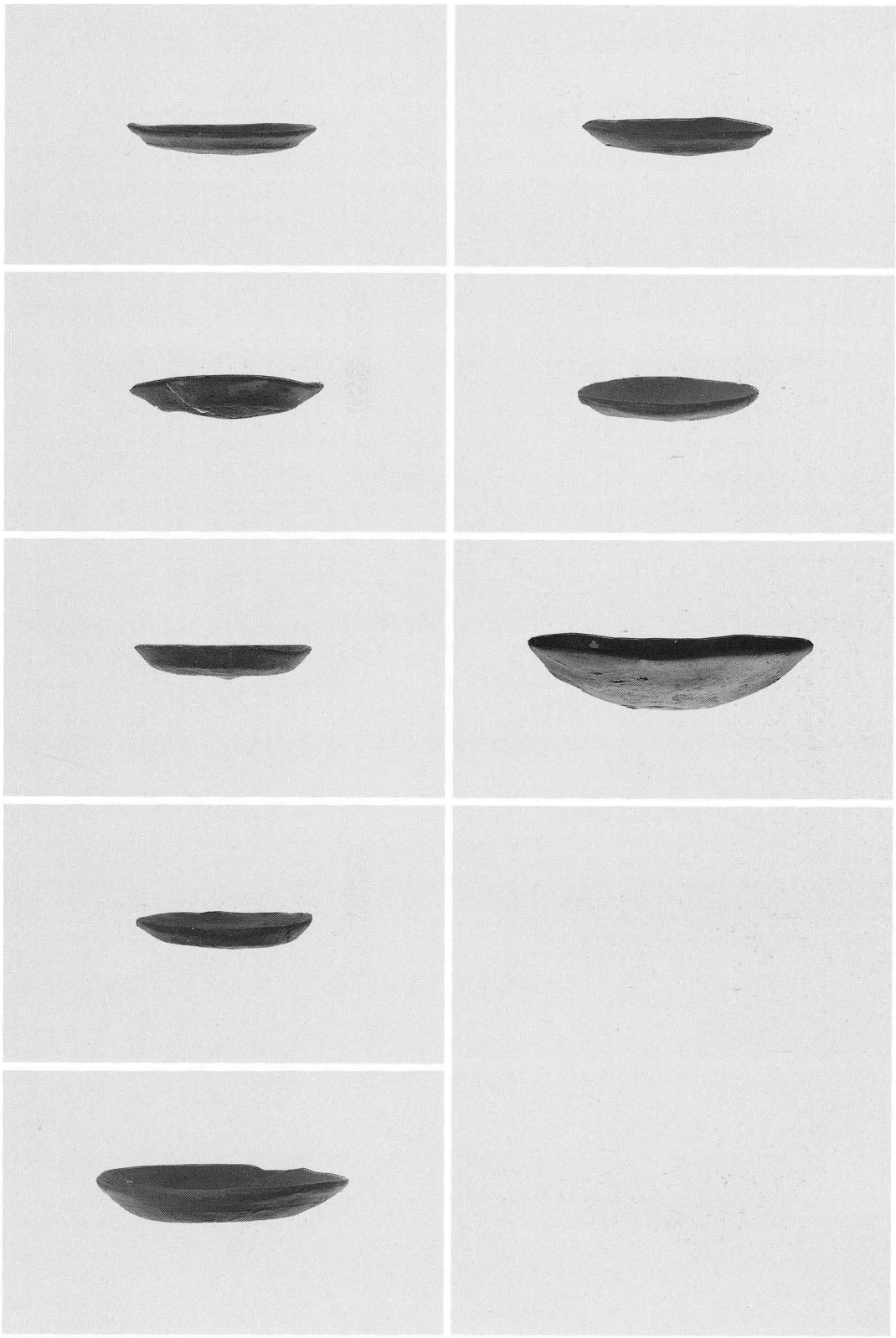


ＳＥ８瓦器皿・ＳＥ16瓦器皿、土師器皿

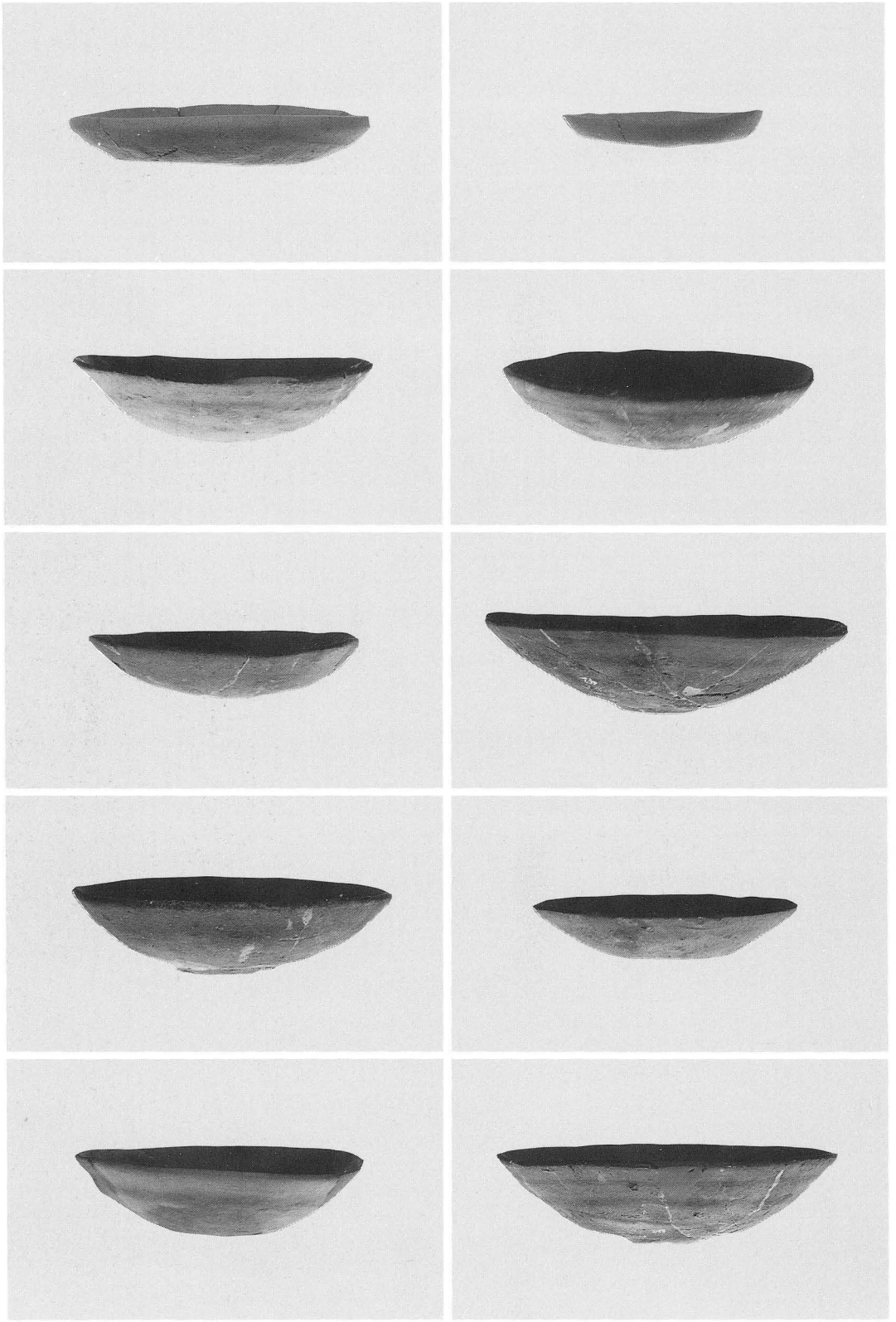
ＳＥ16片口鉢、砥石、三足釜



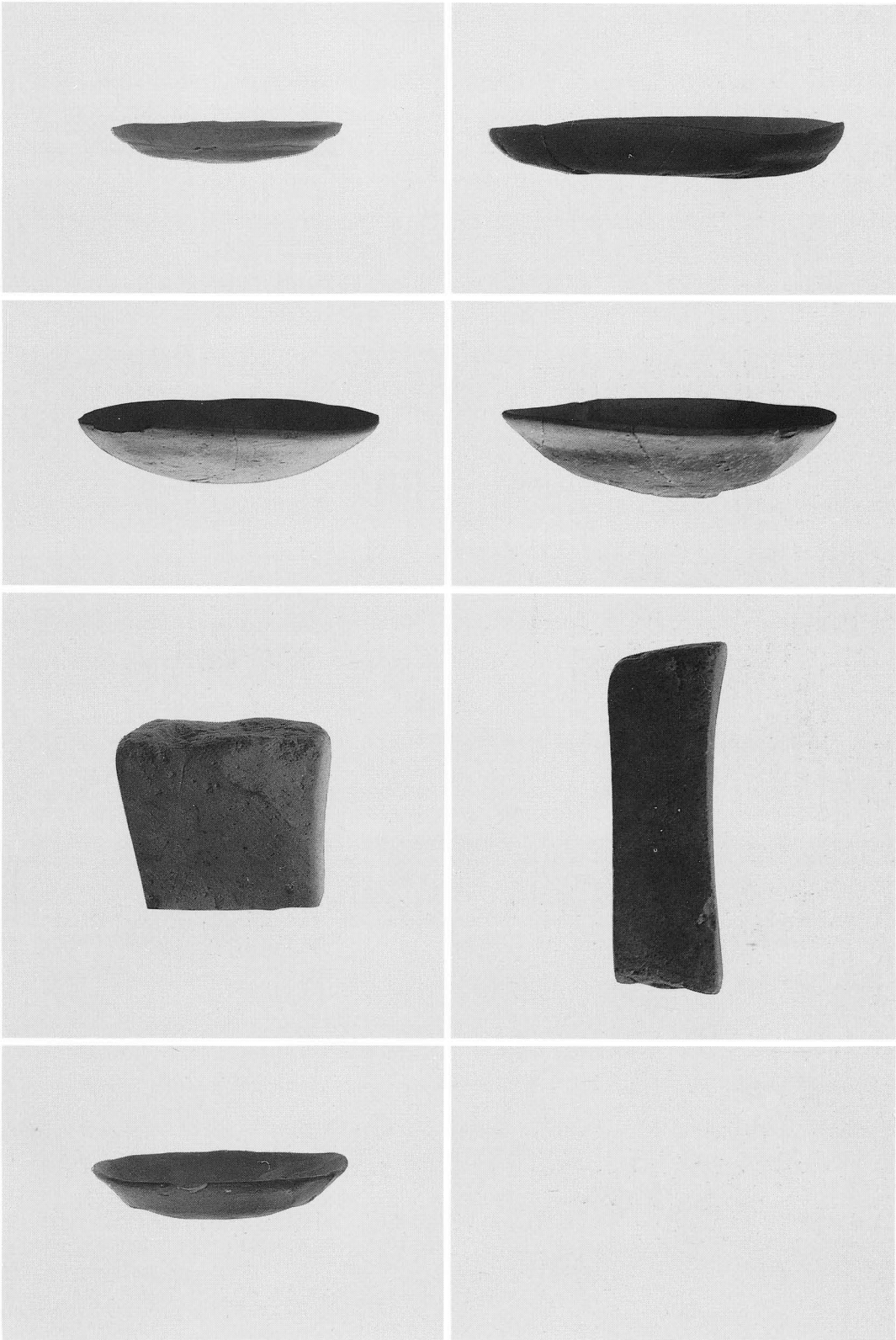
ＳＤ１瓦器椀



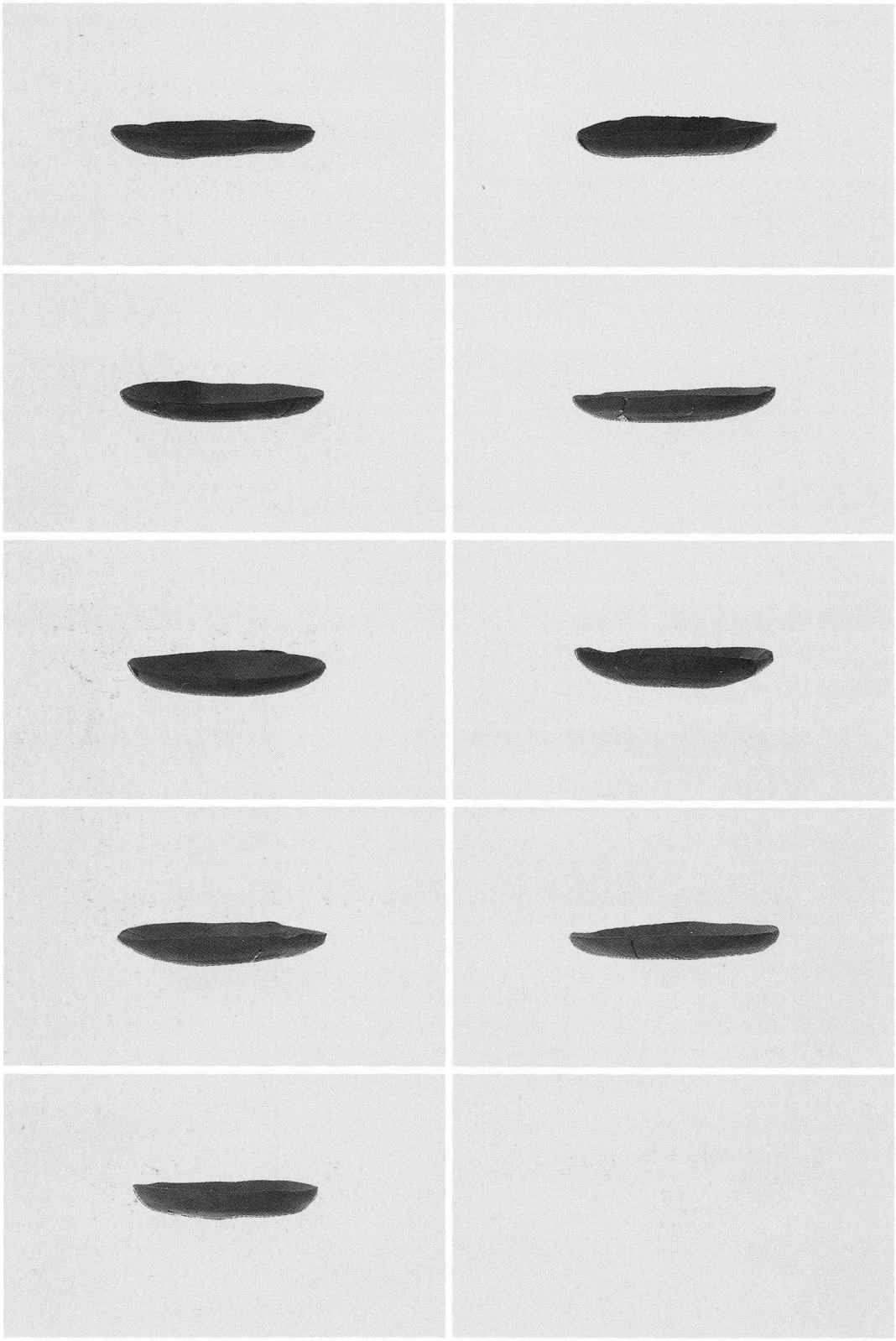
ＳＤ１瓦器皿、土師器皿・ＳＥ17土師器皿、瓦器椀



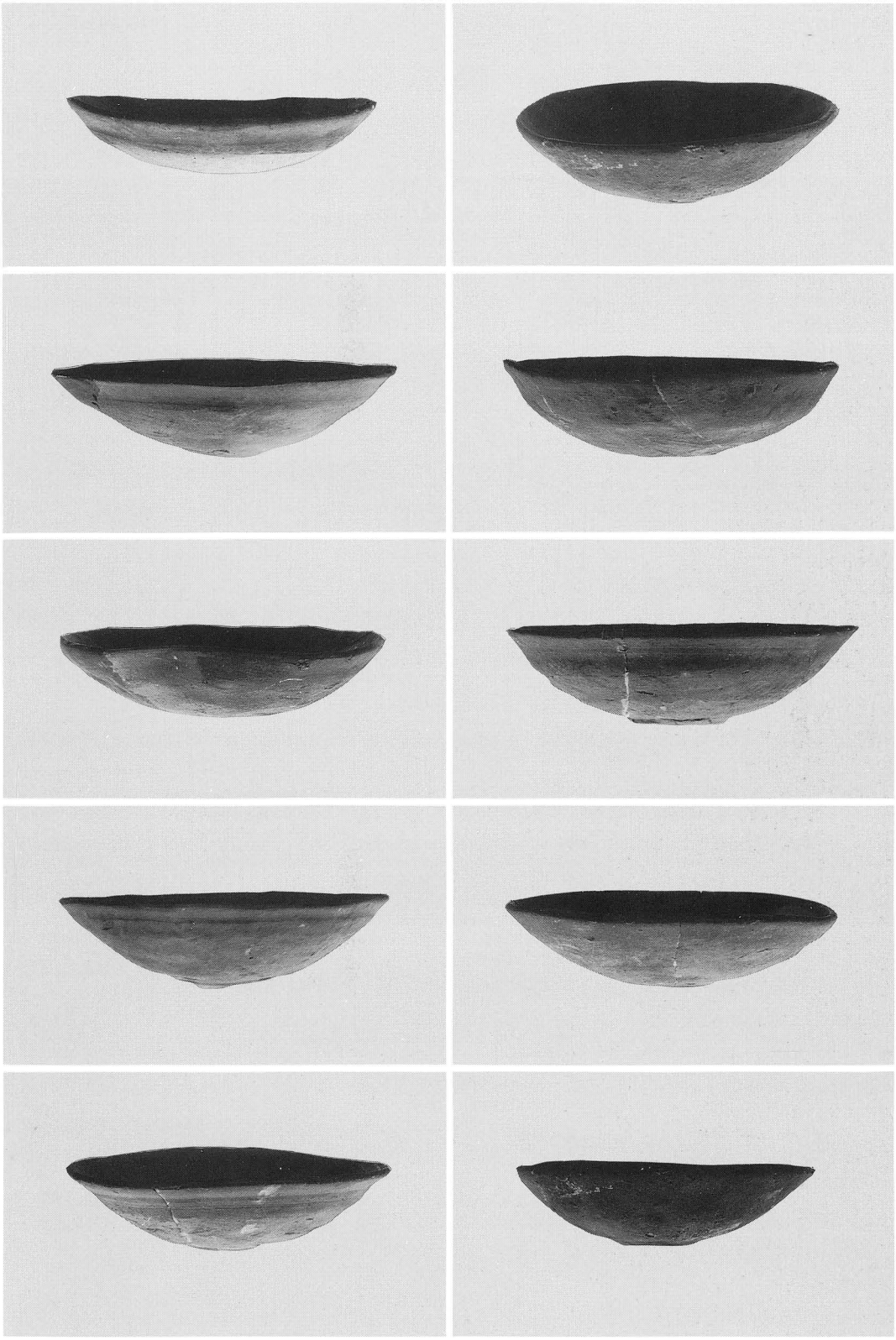
ＳＤ２土師器皿、瓦器椀



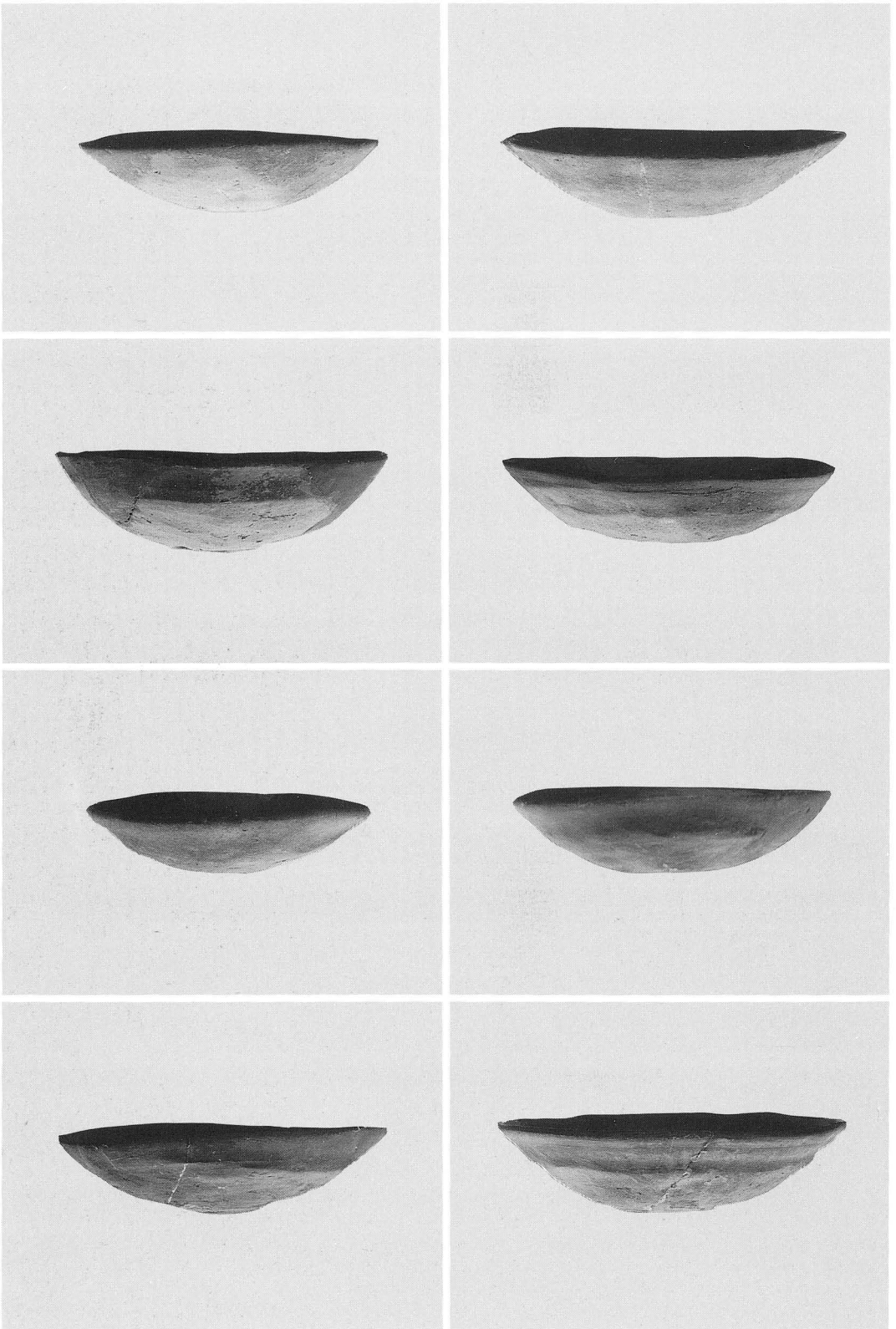
ＳＤ４土師器皿、瓦器椀、砥石・ＳＤ12瓦器椀



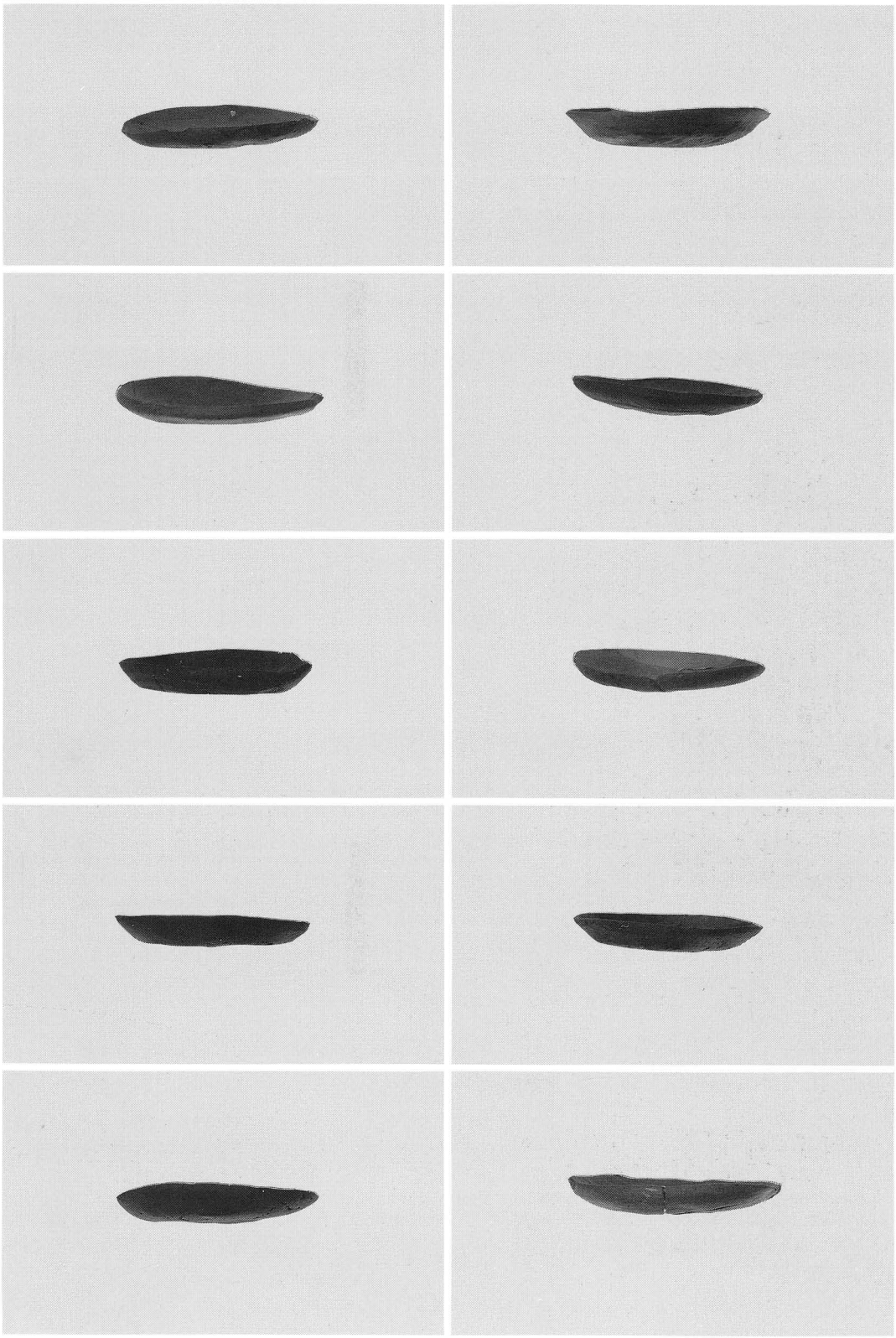
ＳＤ８土師器皿



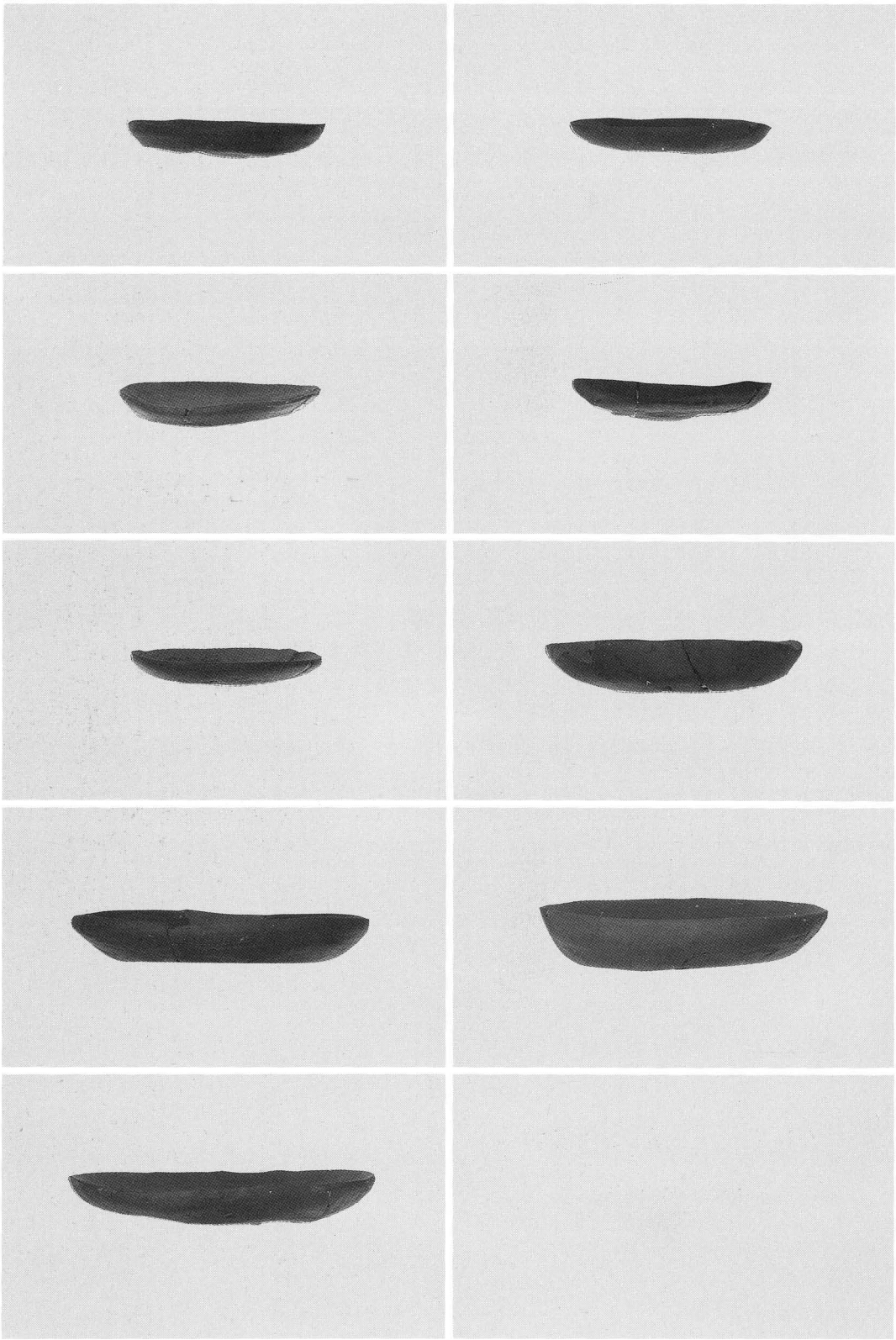
ＳＤ９瓦器椀



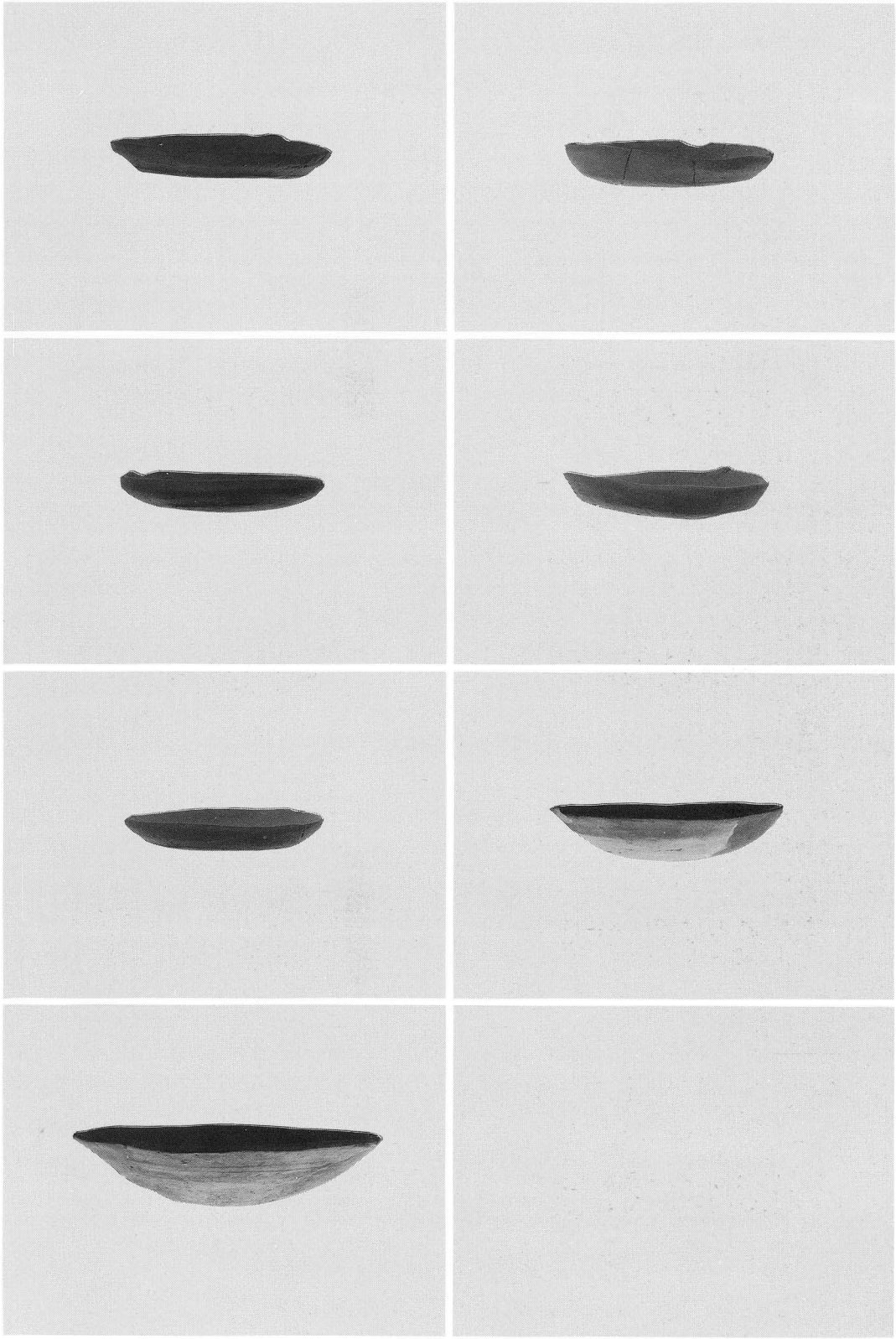
ＳＤ９瓦器椀



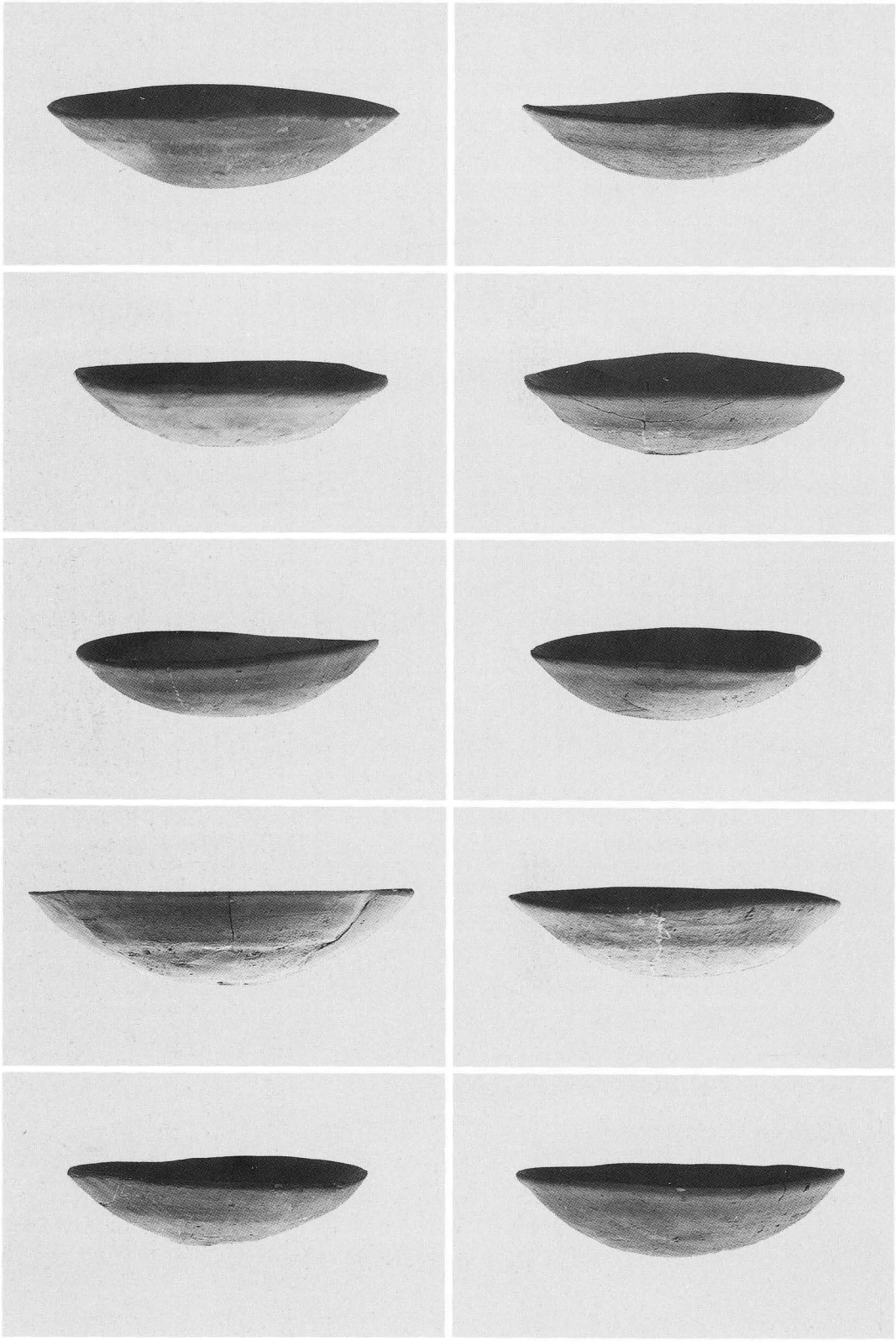
ＳＤ９瓦器椀、土師器皿



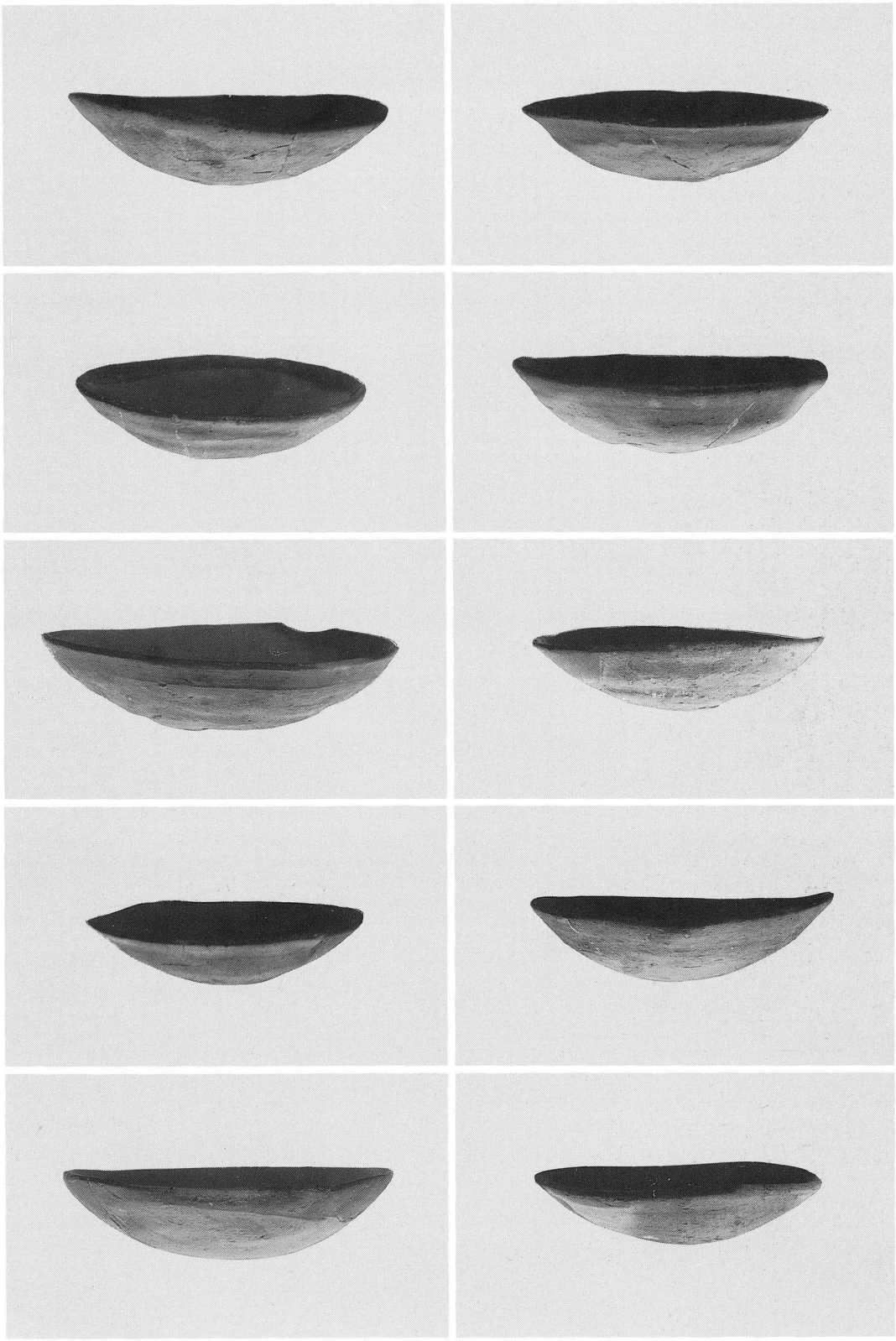
ＳＤ９土師器皿



ＳＤ11土師器皿、瓦器椀

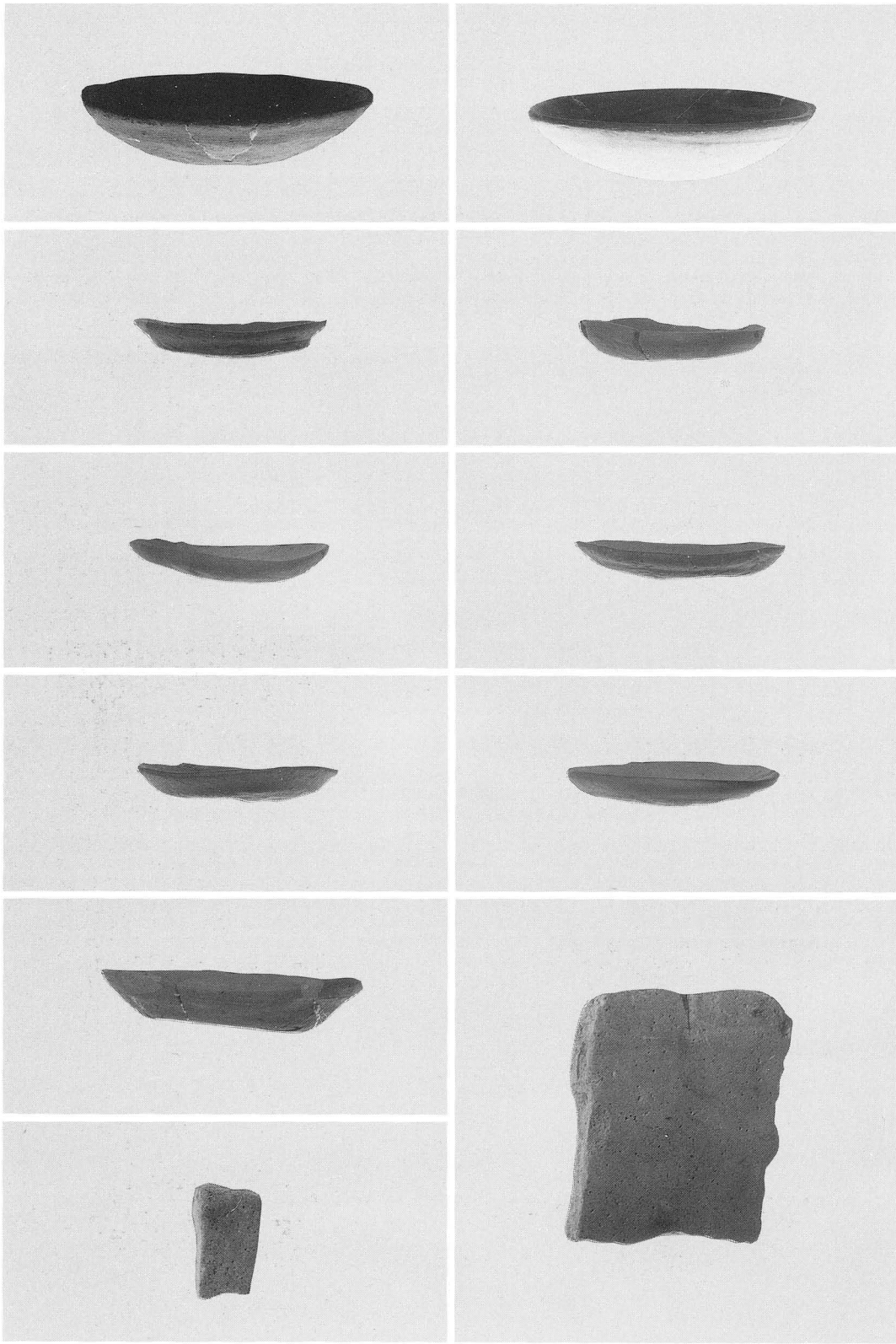


ＳＤ15瓦器椀

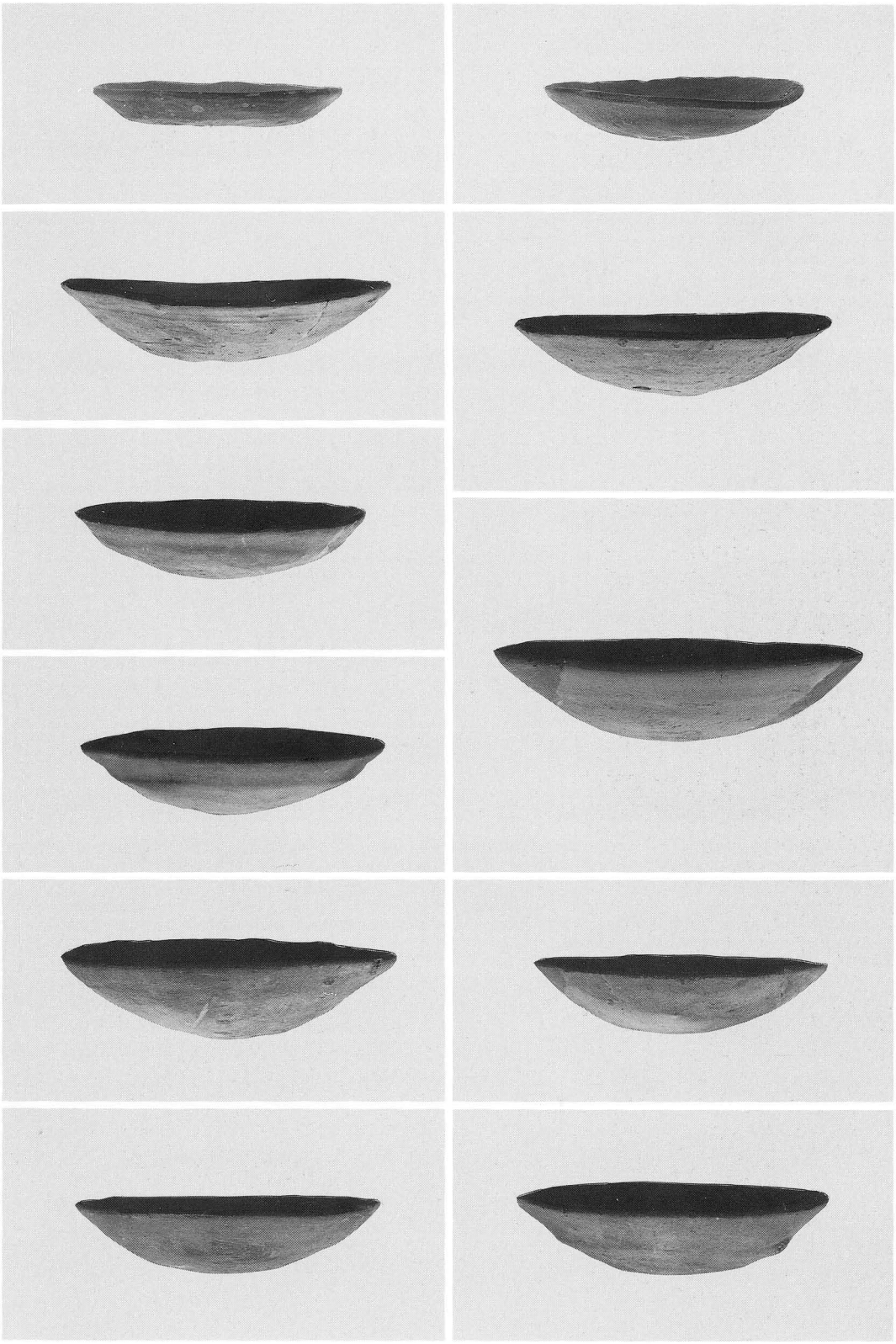


ＳＤ15瓦器椀

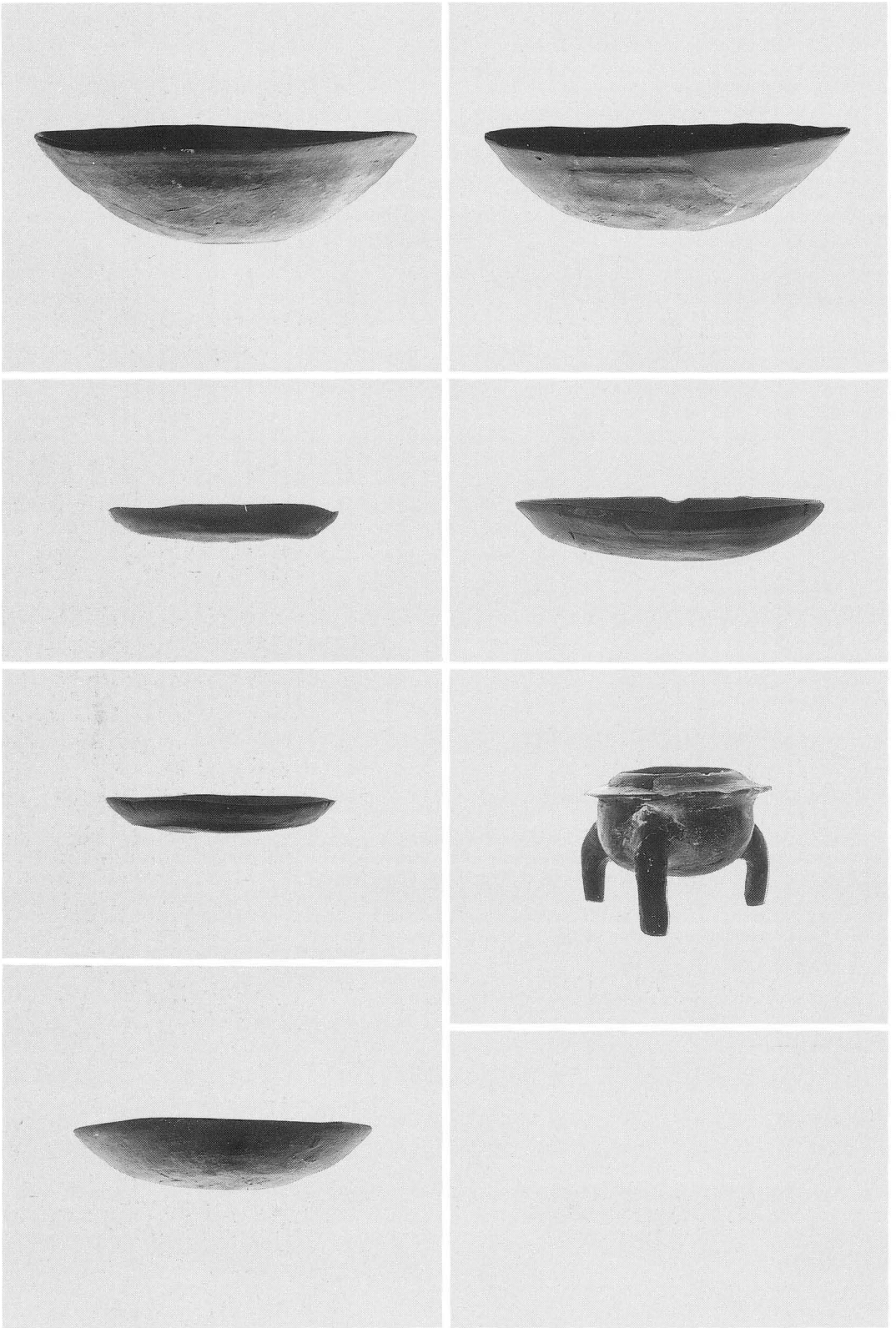
図版三四



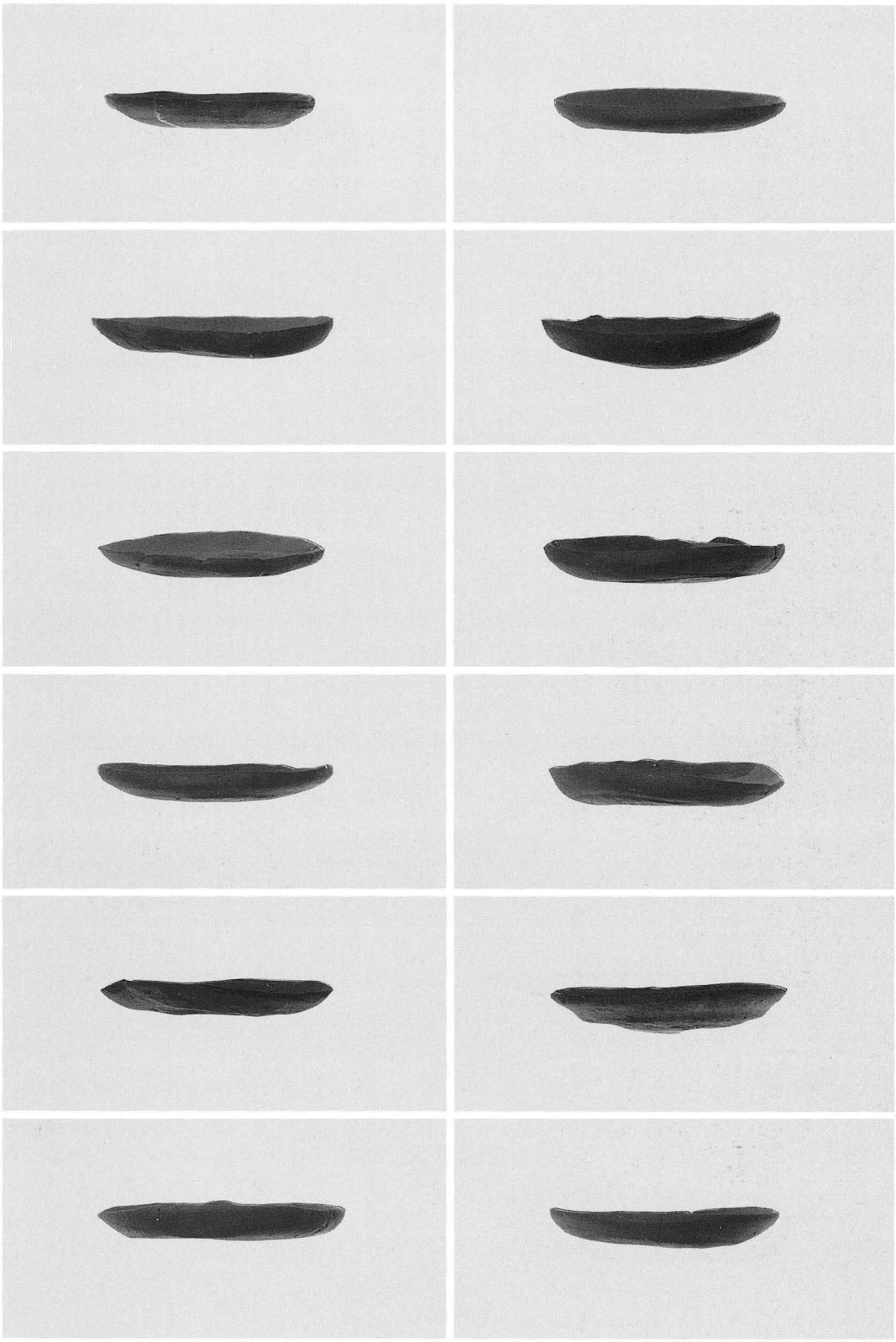
ＳＤ15瓦器椀、土師器皿、砥石



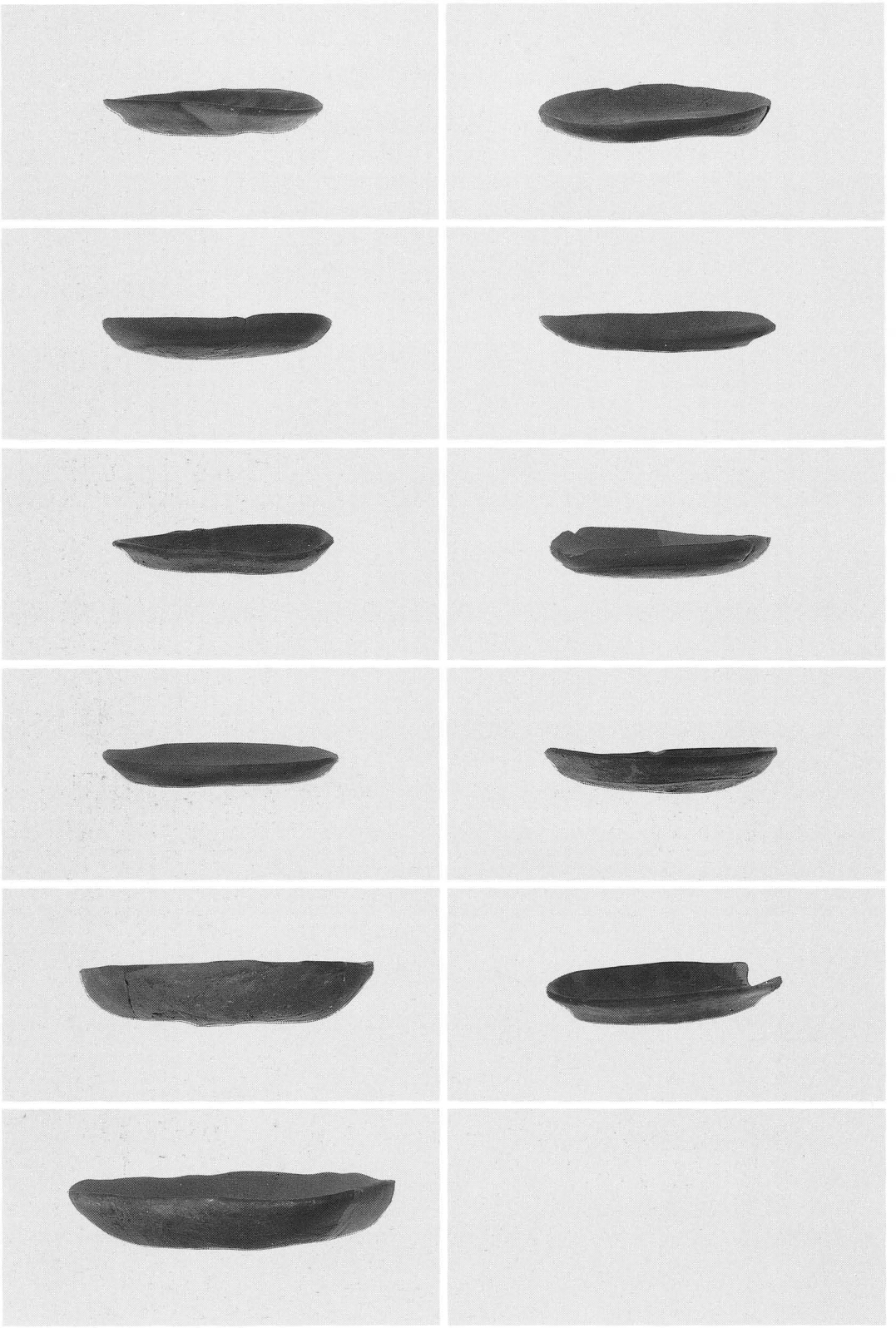
ＳＤ16土師器皿、瓦器椀・ＳＤ18瓦器椀



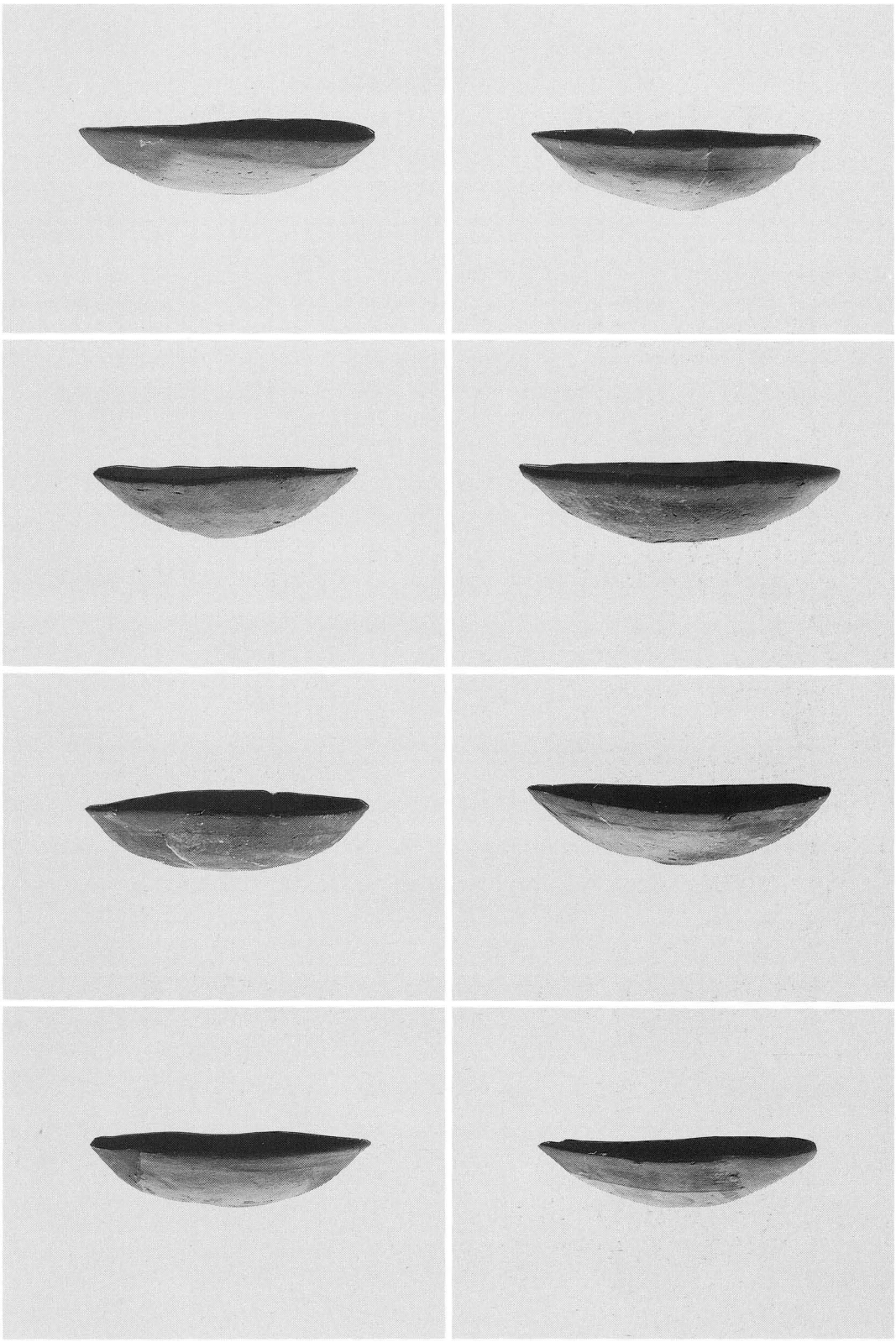
ＳＫ２瓦器椀・ＳＫ３土師器皿・ＳＫ８土師器皿、瓦器椀、ミニチュア足釜・ＳＫ８土師器皿



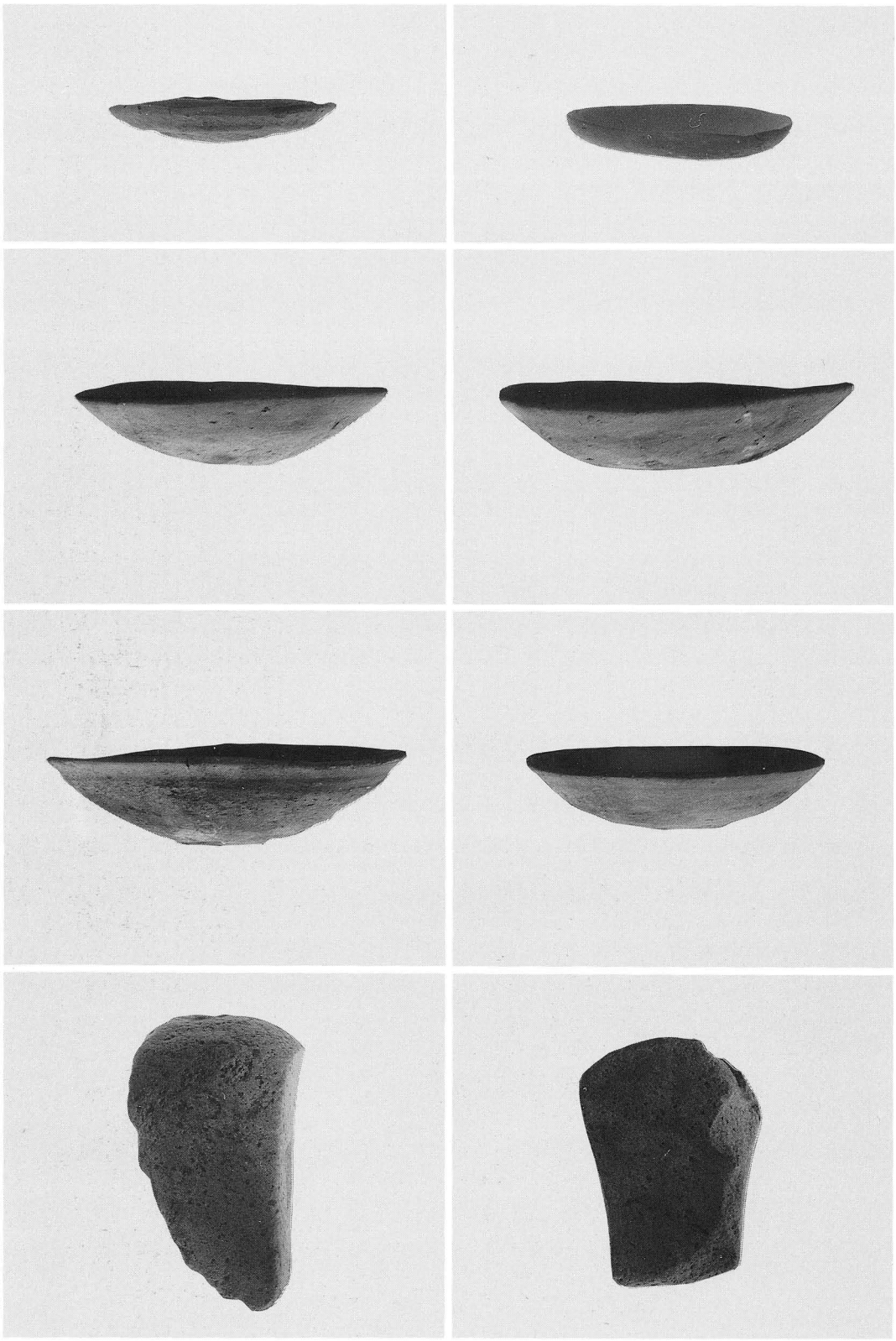
ＳＫ７瓦器椀、土師器皿



ＳＫ７土師器皿

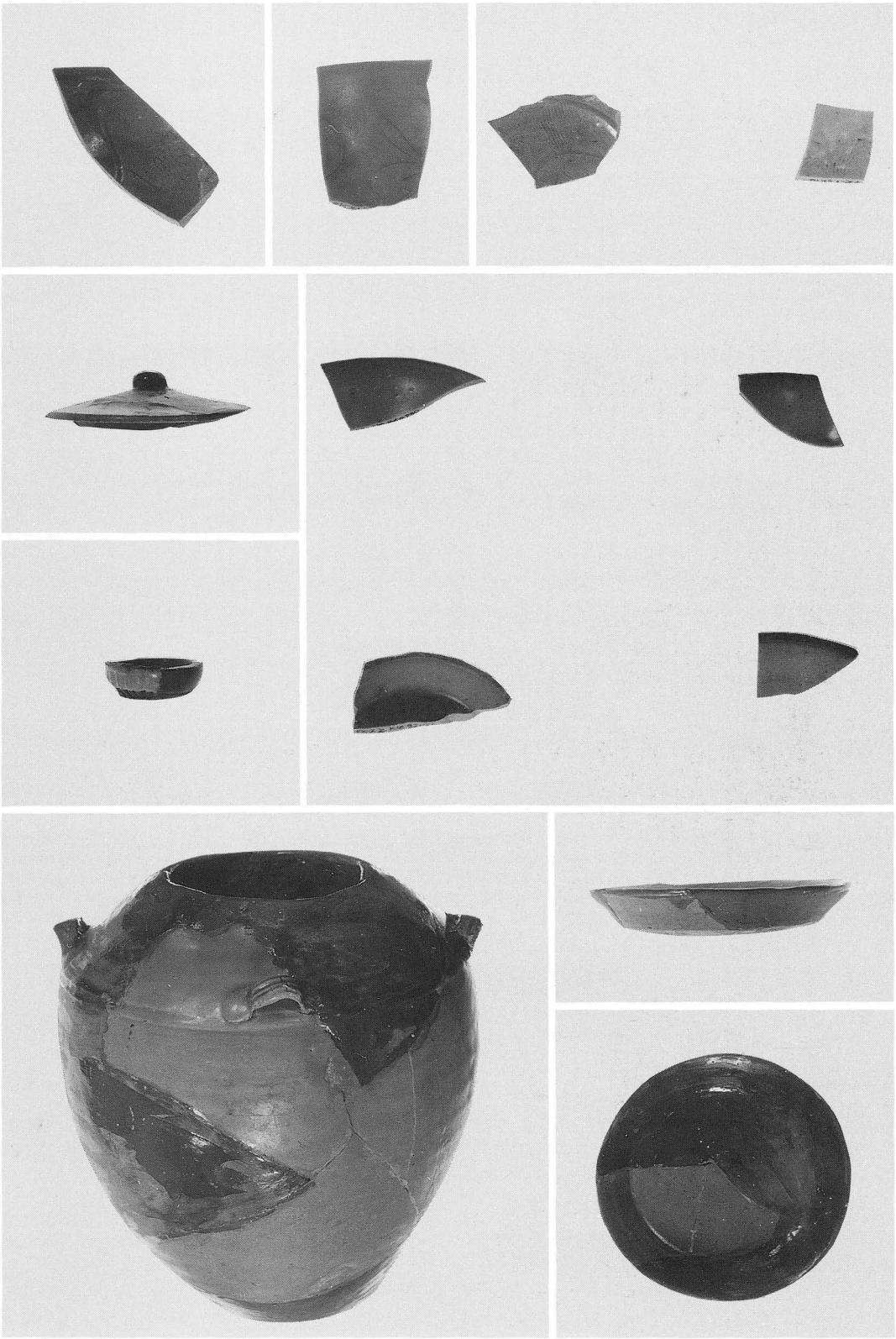


ＳＧ１瓦器椀



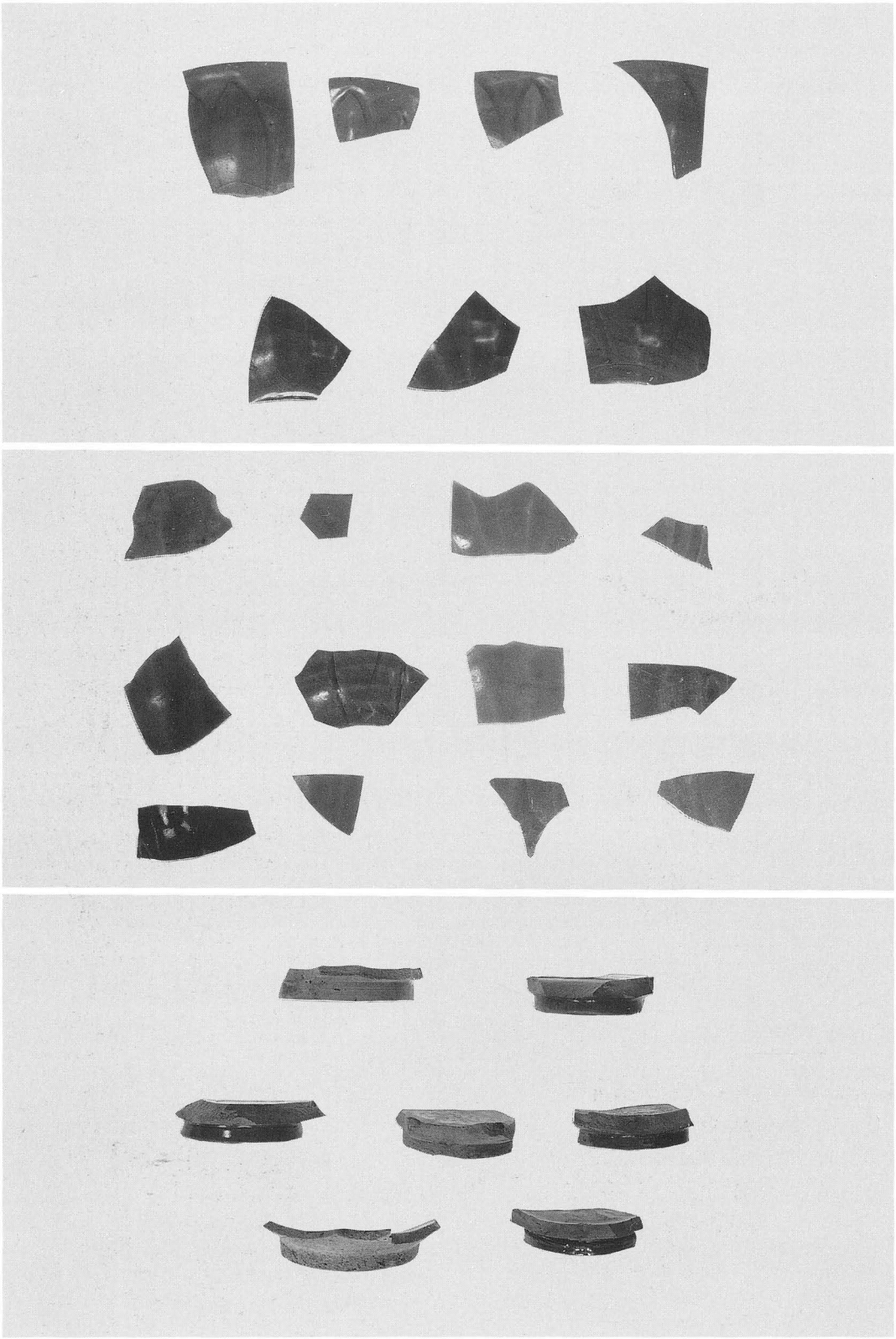
図版40　ＳＧ１土師器皿、瓦器椀、砥石

図版四一

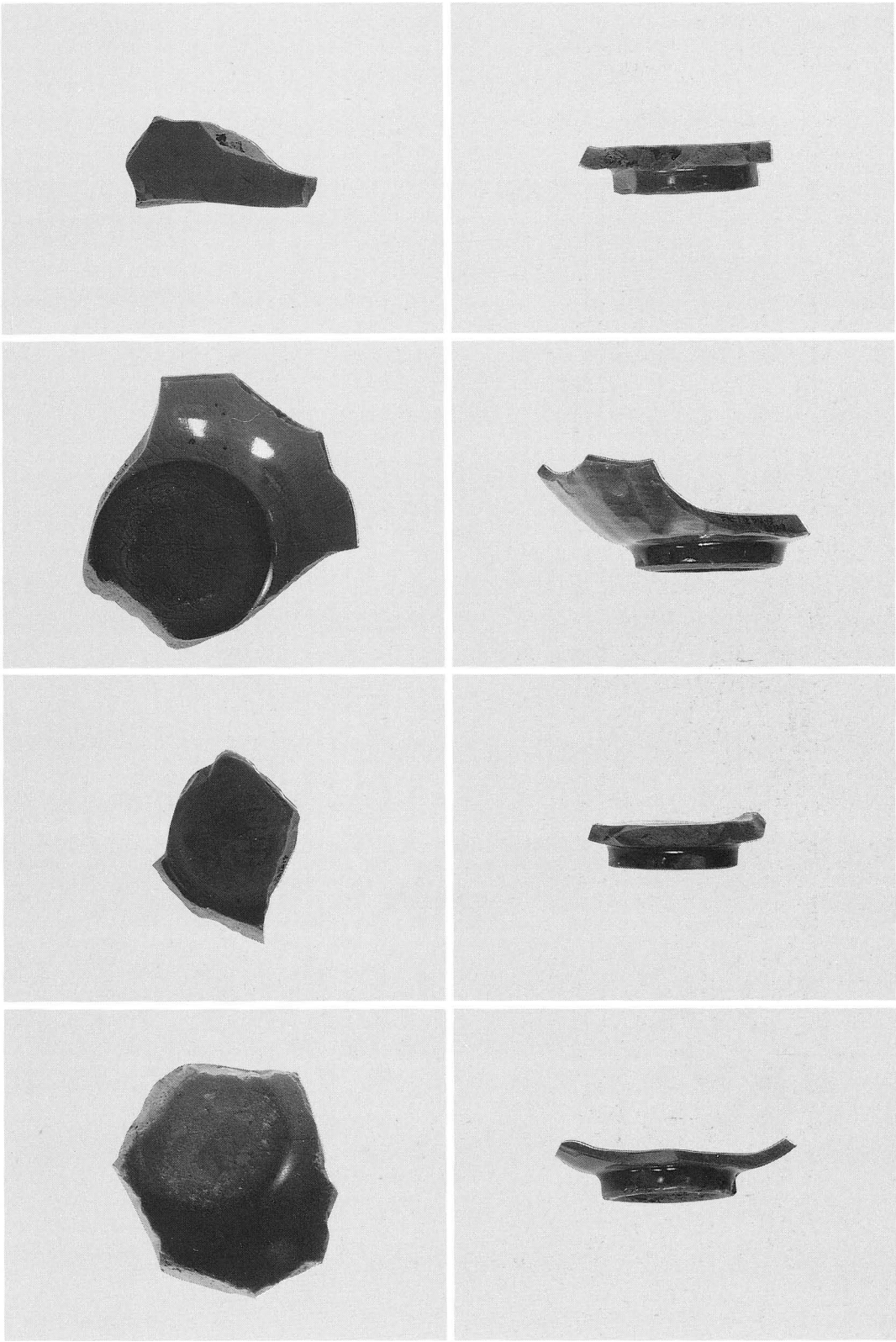


中国磁器

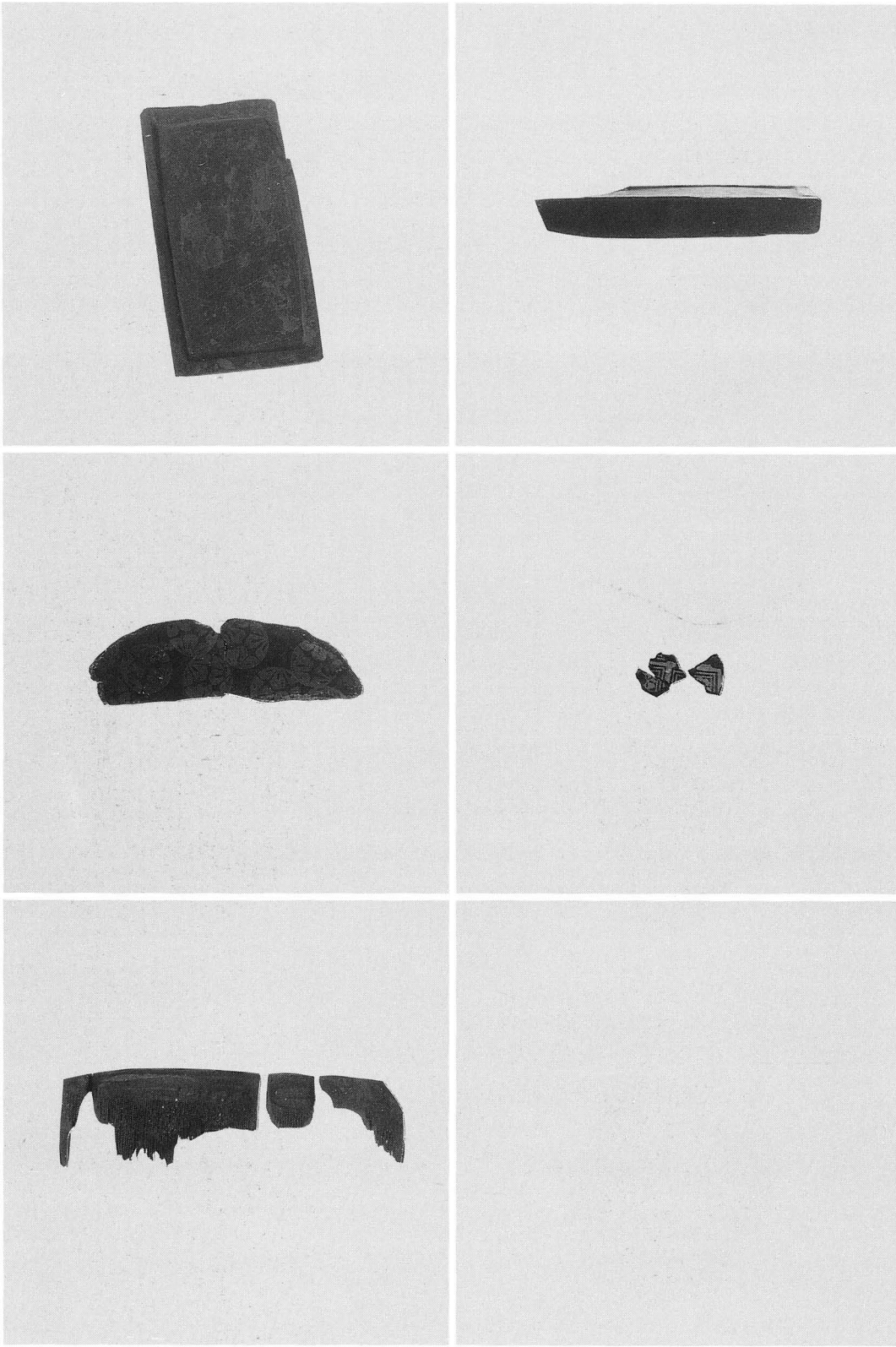
図版四二



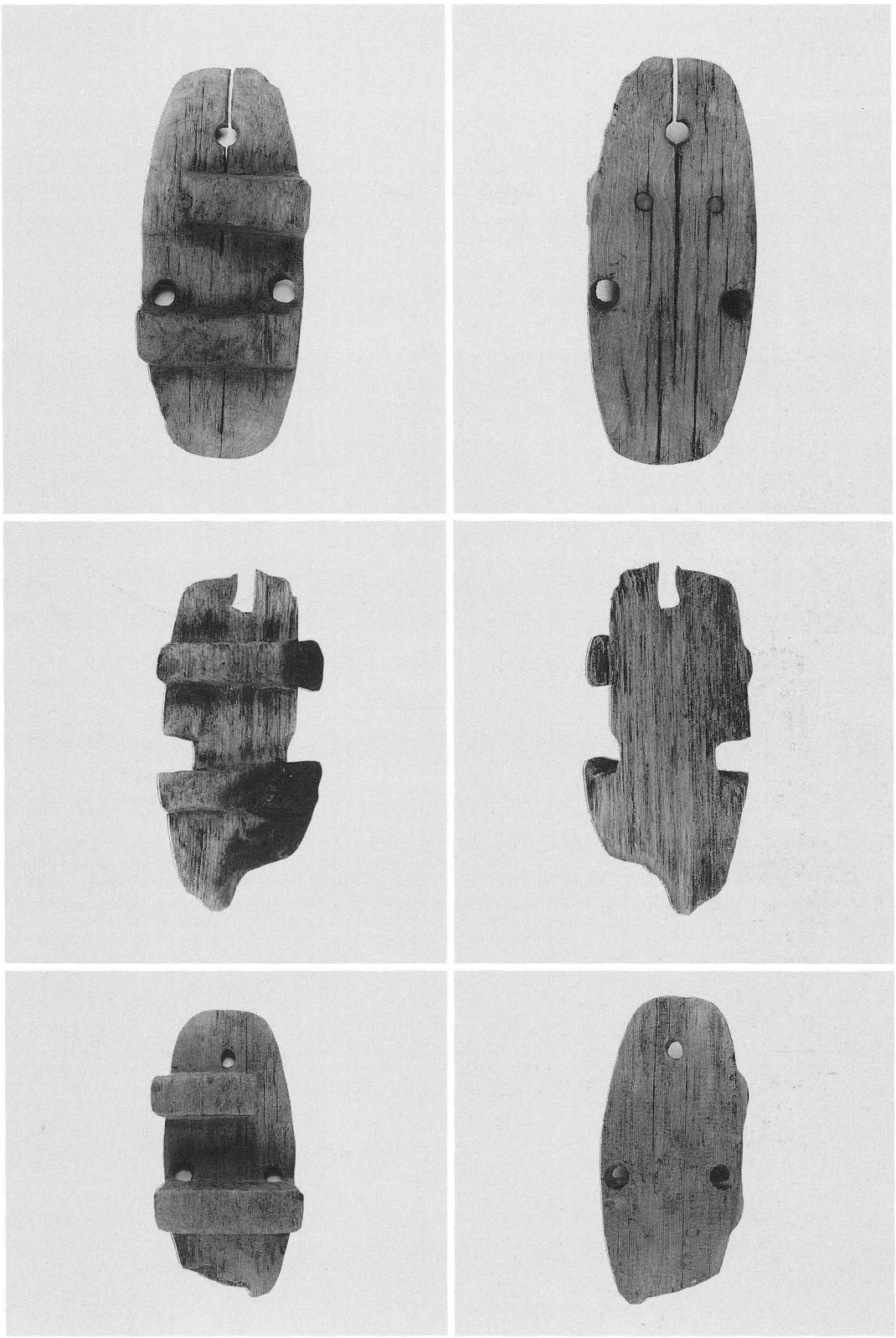
中国磁器



中国磁器

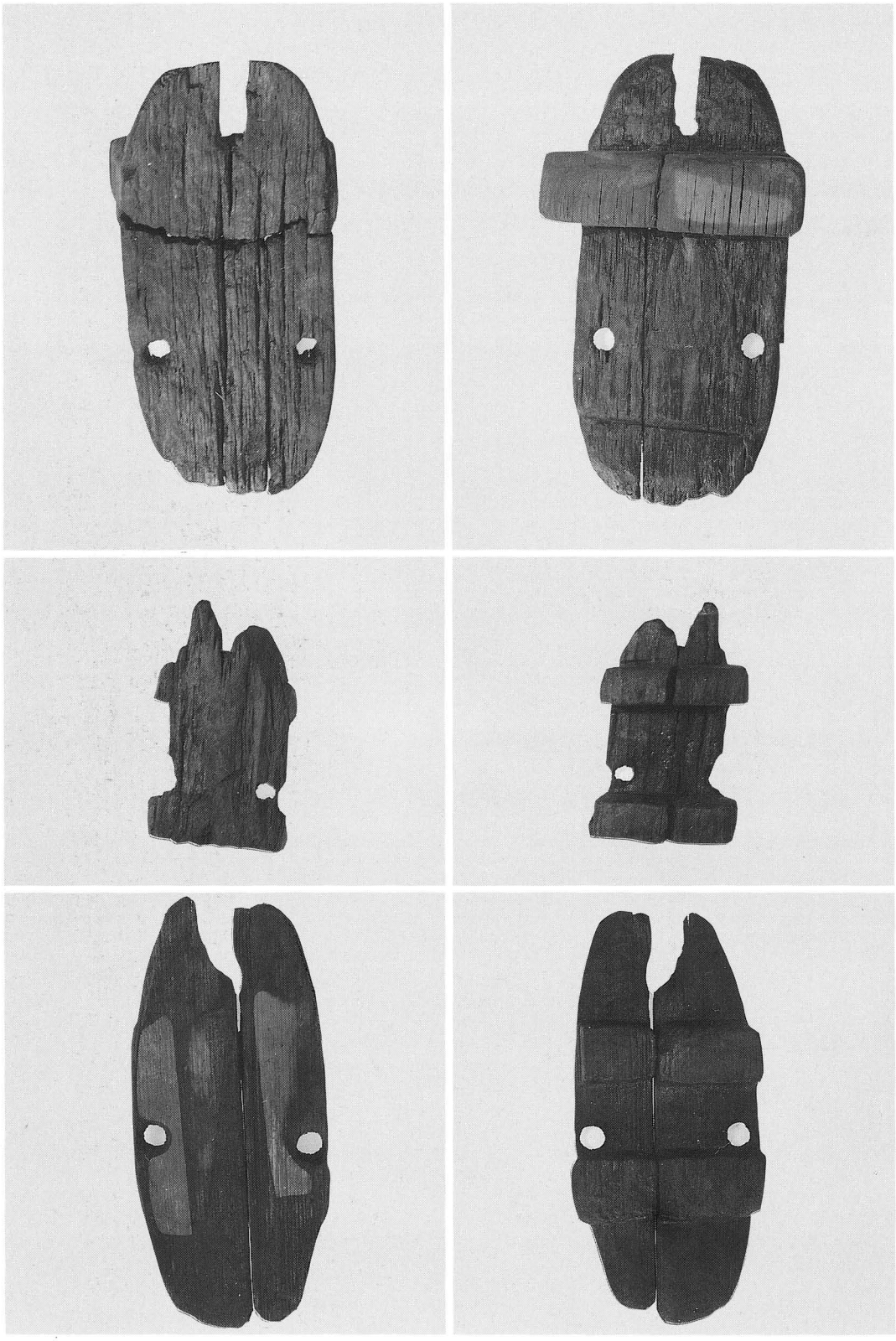


硯、漆器、櫛

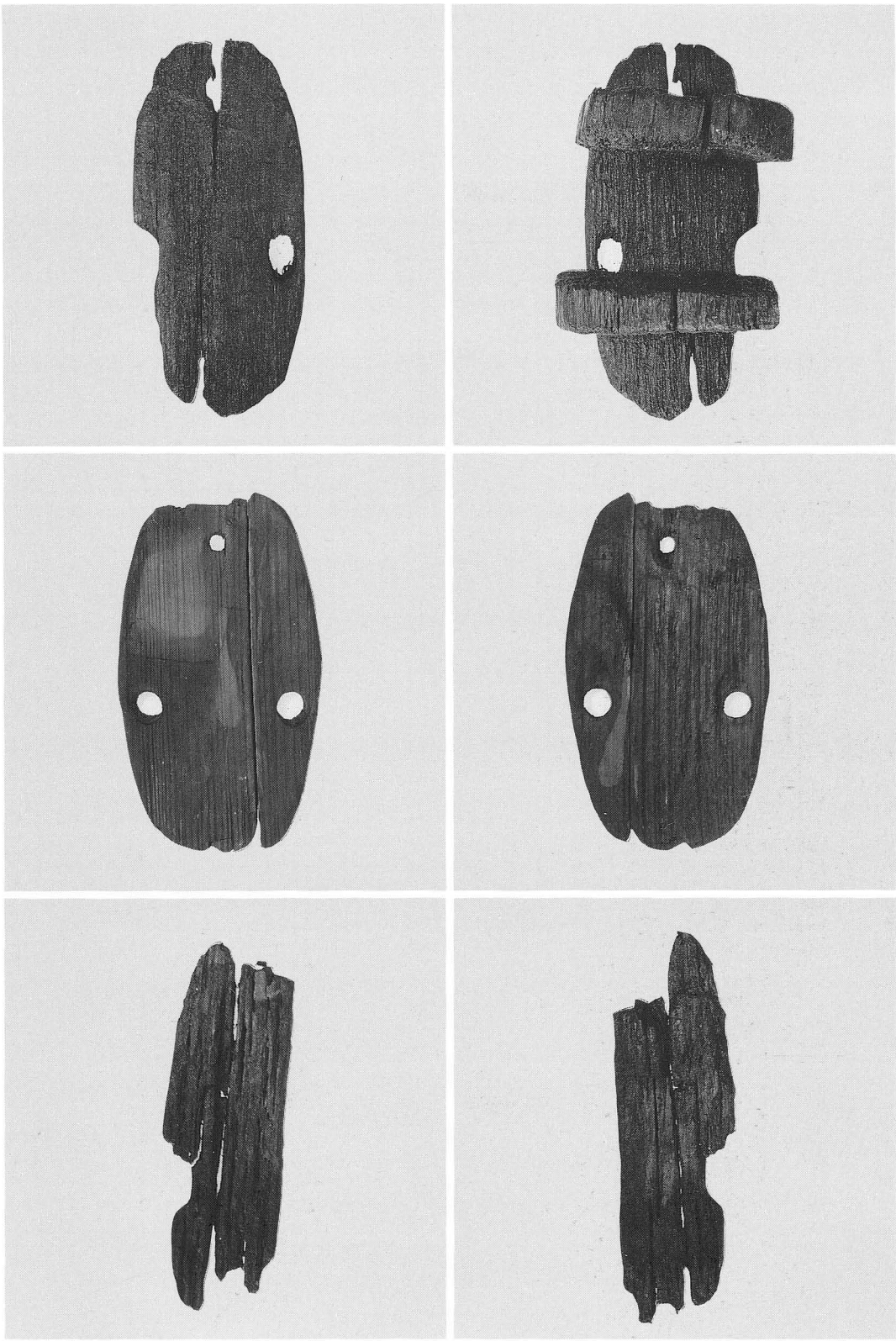


下駄

図版四六

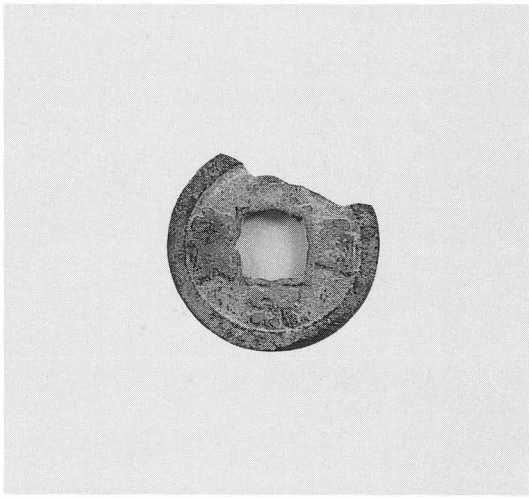


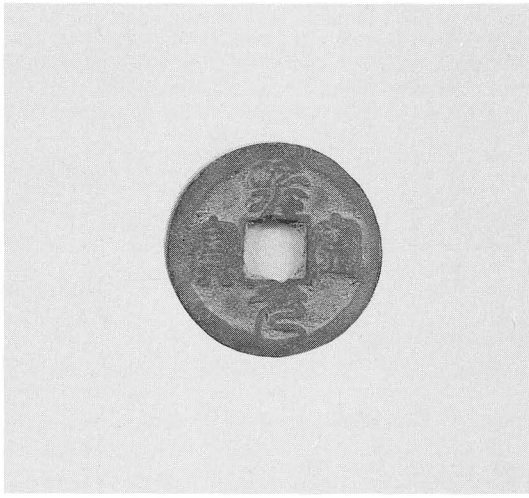
下駄



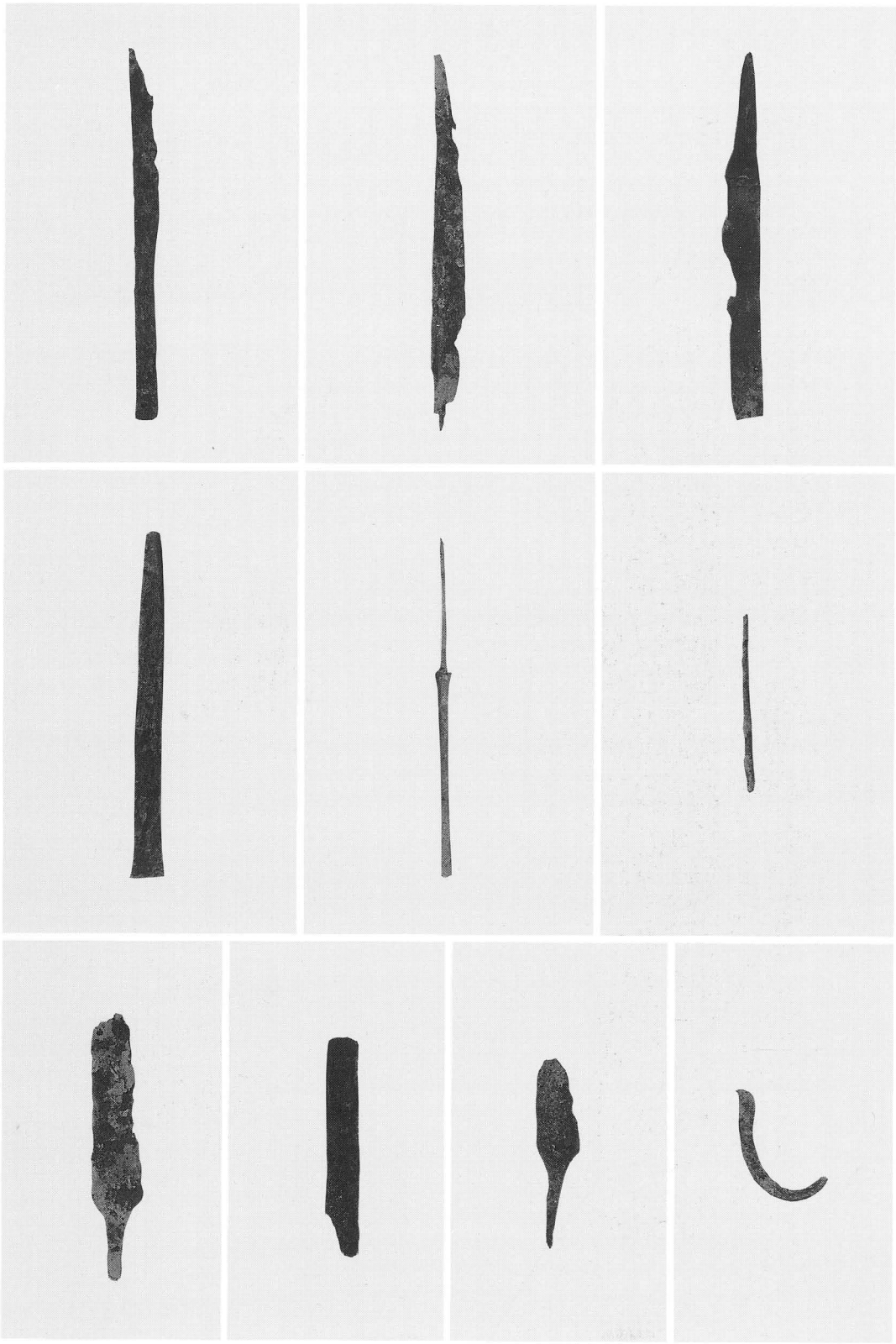
下駄

図版四八





宋銭、包丁



金属製品

(財)八尾市文化財調査研究会報告 24

# 福　万　寺　遺　跡

—上之島町北3丁目22—1の調査—

発　行　　平成2年6月
編　集　　財団法人 八尾市文化財調査研究会
〒581 大阪府八尾市清水町1丁目2番1号
TEL (0729)94—4700
印　刷　　近畿印刷センター
〒582 大阪府柏原市本郷5丁目6番25号
TEL (0729)72—5918

表　紙　レザック66　〈260 kg〉
本　文　書籍用紙　〈70 kg〉
図　版　マットアート　〈135 kg〉

042